

2023-2024

# 総合検査案内



《基本的な考え方》

弊社は、活動理念として「医科学の研究と応用を通して、人々の命を守り、社会に貢献すること」「医療業務に携わる人達を支援することにより、社会に貢献すること」を掲げ、企業活動の礎としております。私たちは、この2つの大きな目標を実践し果たし得る為、日夜研鑽し、努力を積み重ねて、ご信頼をいただいております。

検体検査・健康検査の事業を行うにあたり、高い信頼性と迅速なデータ提供を確保するために、検査を受ける方（以下「被検者」という）やその他の方々の個人情報を取得いたします。弊社は、これら個人情報が慎重に取り扱われるべきものと、深く認識いたしております。

弊社は、個人情報の重要性の認識に立ち、その適正な取扱いを確保するため、下記の行動指針を制定し、個人情報保護に関する法令・政令・条例・指針・ガイドライン及びその他の規範を遵守することを誓います。



株式会社保健科学西日本  
代表取締役 久川 聡

《行動指針》

●基本原則

- ・弊社は、適切な安全管理措置を講ずることによって、各事業において個人情報を保護管理いたします。
- ・個人情報保護に関する法令・政令・条例・指針・ガイドライン及びその他の規範を遵守します。さらには弊社個人情報保護基本規程（個人情報保護マネジメントシステム）に基づいて個人情報を保護いたします。

●情報取得・利用の原則

- ・個々のお客様及び従業員と締結する契約には個人情報取扱いに関する事項を規定し、適切な方法での個人情報取得・利用を実施いたします。
- ・各事業において取得する個人情報は、その事業の実施に必要な範囲のものいたします。
- ・各事業の受託に際し取得する個人情報は、受託した事業の実施目的以外には利用いたしません。
- ・医療機関等の要請、社内精度管理等により、医療の向上を目的とする検査結果の活用をさせていただく場合がありますが、個人を特定できるような形での情報開示は行いません。

●情報提供・開示の原則

- ・弊社では一部の検査を委託しております。この時、委託先へ提供する個人情報は検体検査の実施に必要な最小限の個人情報といたします。
- ・検体検査・健康検査の検査結果は、医師の総合的診断における重要な判断情報の一部であり、衛生検査所が直接被検者本人又はその代理人等に、情報提供又は開示等を行うことはいたしません。（弊社に郵送健診を直接申込みの方からのお問い合わせについてはこの限りではありません。）

●安全管理の原則

- ・個人情報の漏えい、滅失又はき損の防止及び是正のため、個人情報保護管理者の設置をはじめ内部における責任体制を確立し、必要かつ適切な保護措置を講じます。
- ・個人情報の適切な保護が確保できるよう、教育研修の実施等を通じて、個人情報取扱者の個人情報に対する保護意識を啓発してまいります。
- ・弊社業務の委託に際して個人情報を預託する場合には、委託先において個人情報保護の措置が確保されるよう、委託契約を締結します。委託契約には、委託元と委託先の責任の所在を明確にすると共に、定期的に再委託先の個人情報保護措置レベルの監査を実施いたします。

●継続的改善の原則

- ・内部監査、及び当社の代表者による見直しの機会を通じて、個人情報保護体制を継続的に改善し、常に最良の状態を維持します。

個人情報保護管理者 山崎 隆士

■お問い合わせ窓口

<p>本個人情報保護方針に関するご質問・ご意見 個人情報の開示・訂正・削除の要求並びに弊社への苦情・要望等</p>	<p>認定個人情報保護団体の名称 及び 苦情の解決の申し出先</p>
<p>株式会社保健科学西日本 管理部 総務課 〒612-8486 京都府京都市伏見区羽束師古川町 328 番地 Tel : 075-933-6060 (Fax:075-933-6078) お問い合わせ対応時間 9:00 ~ 18:00 (月曜～土曜、祝日及びび年末年始は除く) URL <a href="http://www.hk-wj.co.jp">http://www.hk-wj.co.jp</a> Mail <a href="mailto:repre@hk-wj.co.jp">repre@hk-wj.co.jp</a></p>	<p>一般財団法人日本情報経済社会推進協会 個人情報保護苦情相談室 Tel (フリーダイヤル) : 0120-700-779 0120-116-213</p>

■ ご利用の手引き … Ⅰ～Ⅹ  
 ■ 索引 …… XIII～XXIV

123-124

## 生化学

蛋白関連検査 ……	1	有機酸 ……	12
糖関連検査/脂質関連検査 ……	3	電解質・金属 ……	13
蛋白・含窒素成分関連検査 ……	6	産医学関連 ……	17
色素 ……	7	ビタミン関連検査 ……	18
酵素 ……	8	特殊分析検査 ……	19
アミンザイム ……	11	クリアランステスト ……	22

## 生化学的検査

1  
 24

## 内分泌学

下垂体関連検査 ……	25	性腺関連検査 ……	33
甲状腺関連検査 ……	27	胎盤機能検査 ……	35
副甲状腺関連検査 ……	27	糖尿病関連自己抗体検査 ……	36
膵・消化管関連検査 ……	28	その他 ……	36
副腎髄質関連検査 ……	28	心臓関連検査 ……	38
副腎皮質関連検査 ……	31		

## 内分泌学的検査

25  
 38

## 内分泌負荷・糖負荷

内分泌負荷試験 ……	39
糖負荷試験 ……	40

## 内分泌負荷試験・糖負荷試験

39  
 40

## 腫瘍マーカー

胎児性蛋白 ……	41
糖鎖抗原 ……	41
腫瘍関連抗原 ……	43

## 腫瘍マーカー

41  
 48

## 免疫学

免疫血液学的検査 ……	49	自己抗体検査 ……	63
感染症血清反応 ……	51	肝・腎関連自己抗体検査 ……	68
抗原検査 ……	57	糖尿病関連自己抗体検査 ……	68
尿素呼気試験 ……	61	免疫グロブリン ……	69
リウマトイド因子・RA 関連検査 ……	62	補体関連物質 ……	69
甲状腺関連自己抗体検査 ……	63	血漿蛋白免疫学的検査 ……	70

## 免疫学的検査

49  
 74

## アレルギー

アレルギー関連検査 ……	75
IgEシグナルアレルゲン(疾患別セット) ……	76

## アレルギー

75  
 78

## ウイルス

B型肝炎ウイルス関連検査 ……	79	ウイルス中和抗体検査(NT) ……	86
A型肝炎ウイルス関連検査 ……	80	ウイルス抗体検査(FA) ……	89
C型肝炎ウイルス関連検査 ……	81	ウイルス抗体検査(EIA) ……	89
レトロウイルス検査 ……	82	ウイルス分離・同定 ……	91
ウイルス抗体検査(CF) ……	84	抗原検査 ……	92
ウイルス抗体検査(HI) ……	85		

## ウイルス

79  
 94

## 血液学

血液形態・機能検査 ……	95
凝固系一般検査 ……	98
凝固因子関連検査 ……	98
凝固・線溶系検査 ……	100
血小板機能検査 ……	102

## 血液学的検査

95  
 102

## 薬物

抗てんかん剤 ……	103	解熱鎮痛剤消炎剤 ……	107
精神神経用剤 ……	104	抗悪性腫瘍剤 ……	107
抗炎症・リウマチ剤 ……	105	抗生物質 ……	107
強心剤 ……	105	免疫抑制剤 ……	108
抗不整脈剤 ……	105	その他 ……	108

## 薬物検査

103  
 110

## 一般

尿中一般物質定性・半定量検査 ……	111	精液一般検査 ……	115
尿中特殊物質定性定量検査 ……	111	髄液一般検査 ……	115
尿沈渣顕微鏡検査 ……	113	その他の穿刺液・採取液検査 ……	117
糞便検査 ……	113		

## 一般検査

111  
 120

## 染色体・遺伝子/ 細胞性免疫・ HLA 検査

先天性疾患 染色体検査 ……	121	HLA・移植関連検査 ……	127
血液疾患 染色体検査 ……	122	細胞機能検査 ……	128
細胞表面マーカー ……	123	癌関連遺伝子検査 ……	129
細胞表面マーカーセット検査 ……	126	薬剤関連遺伝子検査 ……	132

## 染色体・遺伝子/ 細胞性免疫・HLA 検査

121  
 132

## 微生物学

塗抹鏡検 ……	133	薬剤感受性検査 ……	137
培養検査 ……	133	抗酸菌検査 ……	138
目的菌検査 ……	134	衛生(検便検査)/環境検査 ……	140
真菌培養 ……	136	薬剤感受性検査/保健科学西日本薬剤セット内容 ……	141
原虫・アメーバ ……	136	微生物・輸送培地・輸送容器一覧 ……	142
免疫学的細菌検査 ……	136	感染症法における感染症の分類 ……	148

## 微生物学的検査

133  
 151

## 病理学

細胞診検査 ……	152
病理組織検査 ……	154
腫瘍関連免疫組織検査 ……	156

## 病理学的検査

152  
 156

## その他・研究検査

その他特殊検査 ……	157
自己抗体 ……	160
感染症遺伝子検査 ……	162

## その他・研究検査

157  
 162

# ご利用の手引き

## 検査の依頼方法

●当社専用の依頼書、検体容器及び検体ラベルをご使用下さい。

### 総合依頼書A-1の記入例

**(必須)** カルテNo.をご記入ください。

**(必須)** 患者氏名をカタカナでご記入ください。

**(必須)** 医師名をカタカナでご記入ください。

FAX報告の場合はFAXにマークしてください。

院内セットをご依頼する場合がございます。ご利用の際は担当営業までご相談ください。

**(必須)** 年齢をご記入ください。

入院・外来のいずれかをマークしてください。

**(必須)** 性別をマークしてください。

採取日時をご記入ください。

診療科目は、該当するものをマークし、該当しない場合は( )内にご記入ください。

依頼書に記載されていない項目については、必ず項目コードと項目名をセットでご記入ください。

必要に応じて畜尿量、時間、身長、体重をご記入ください。

**(必須)** 依頼項目のマーク欄に  でマークしてください。取消の場合は  で抹消してください。

### 【依頼書記入に関する注意事項】

※複写となっておりますので、下敷きを敷いて、ボールペンで強くお書き下さい。

※カナ氏名欄は誤読しやすい文字がありますので、明確に分かる様にご記入下さい。

『ア、マ、ヤ、セ』、『カ、サ』、『ク、ワ』、『コ、ゴ』、『シ、ツ、フ』、『シ、ミ』、『ス、ヌ』、『チ、テ』

※依頼時の注意点につきましては、各検査項目該当ページの備考欄に赤色の文字で記しておりますのでご確認ください。

例) eGFR creat (項目コード: 7887) についての特記事項

血清クレアチニン (項目コード: 1041) との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。

なお、年齢が18才未満の場合、クレアチニンの依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「不能」とご報告させていただきます。

※依頼書1枚目をご依頼元控えとし、検体受領書とさせていただきます。

※当社では「遺伝学的検査受託に関する倫理指針 (一般社団法人日本衛生検査所協会)」その他関連する倫理指針に基づき、受託を行っております。倫理指針対象の遺伝学的検査をご依頼の際には「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。

## 取引の申込方法

- 最寄りの集配センター、又は本社営業部へご連絡下さい。
- 担当者がお伺いし、ご依頼の詳細についてご説明、ご相談申し上げます。  
(裏表紙の集配センター一覧をご参照下さい)

## 料金請求とお支払い方法

- 原則として検査料金はヶ月分をまとめてご請求申し上げます。
- 請求書の検査項目名は当社請求略号によって記載されますのでご了承下さい。
- お支払いの方法は契約にしたがってお支払いいただきます。
- 銀行振込の場合は振込金受取書をもちまして領収書に代えさせていただきますのでご了承下さい。

## お問い合わせ

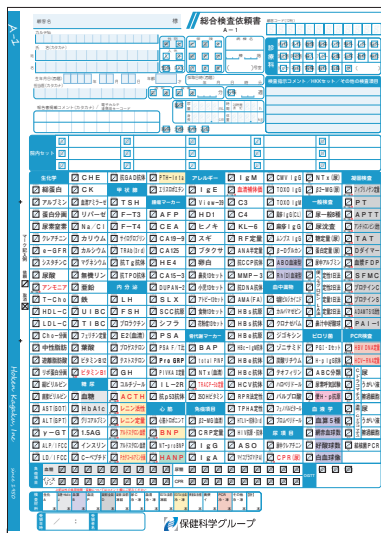
検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘等につきましては最寄りの集配センター又はインフォメーションサービス(本社) TEL (075) 933-6060 へお問い合わせ下さい。  
月～土曜日 9:00～18:00(祝日を除く)

## 検査の依頼方法

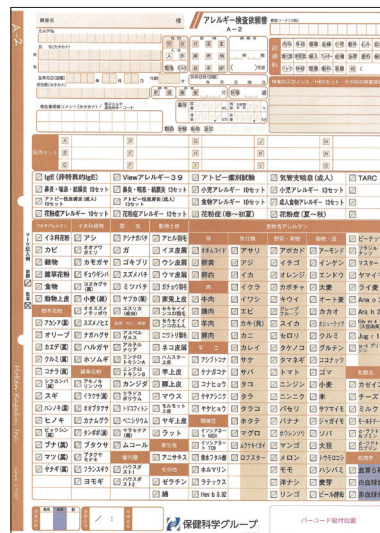
- 当社専用の依頼書、検体容器及び検体ラベルをご使用下さい。

## 検体ラベル

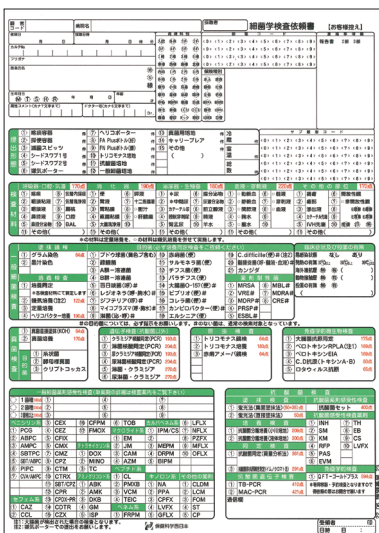
- 検体ラベルには貴院名、患者名、採取日、性別、年齢、材料、依頼項目依頼施設名、医師名、緊急連絡先などをご記入下さい。



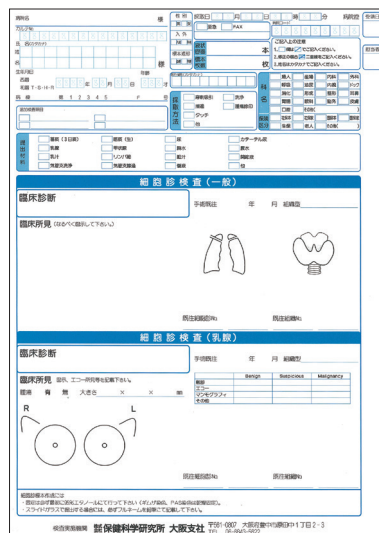
1. 検査依頼書 (1)  
生化学、免疫、血液学検査等の総合依頼書



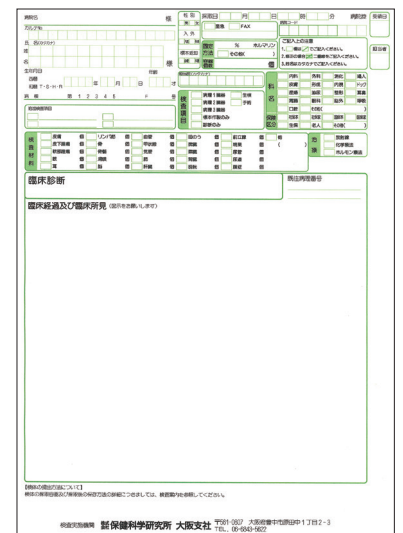
2. 検査依頼書 (2)  
アレルギー検査用



3. 検査依頼書 (3)  
一般細菌、抗酸菌検査用



4. 細胞診検査依頼書  
細胞診検査専用



5. 病理組織検査依頼書  
病理組織検査専用

# ご利用の手引き

## 検体必要量

- 検体必要量は、原則として再検査に応じられるように設定してあります。検体量不足にならないようご注意ください。
- 血清又は血漿を検査材料とする項目の単独での依頼では、基礎必要量として本文各項目欄記載量に 0.2mL 程度を加算して下さい。

## 容器

- ご依頼項目によって所定の容器をご使用下さい。
- 本文各項目欄・頁下説明欄及び巻末の容器一覧をご参照下さい。

## 採取・保存方法

- 保存方法により測定値が変動する項目がありますので本文各項目欄、頁下説明欄をご参照下さい。
- 原則として 24 時間以内の保存方法を記入してありますので、採取当日にご提出下さいますようお願いいたします。なお、長期間保存される場合の保存方法につきましては営業担当にお問い合わせ下さい。

## 検査項目名称

- 既に日本語化しているドイツ語はそのままとし、それ以外のはアメリカ英語読みに従いました。但し、CA19-9 等略号が通例化しているものは、略号をもって検査項目名称といたしました。
- 検査依頼書及び検査報告書においての検査項目名称は文字スペースに限りがある関係で略語等を使用させていただく場合がありますので、ご了承下さい。

## 検査方法・参考文献

- 検査方法につきましては本文各項目欄及び巻末の検査方法概略を、参考文献につきましては巻末の測定法参考文献一覧をご参照下さい。

## 平均搬送時間

貴院から \_\_\_\_\_ までの平均搬送時間は約 \_\_\_\_\_ 時間です。  
貴院から当社保健科学西日本までの平均搬送時間は約 \_\_\_\_\_ 時間です。  
当社保健科学西日本から最終委託先までの平均搬送時間は次の通りです。

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| * Q、V           | : 1 時間以内    |
| * t、v           | : 3 時間以内    |
| * A、ア、イ、1、4、6、C | : 24 時間以内   |
| * 5、7、B、E、S     | : 30 時間以内   |
| * 8、9           | : 2 ~ 3 日以内 |

## 検体受領方法

貴院への集配は、\_\_\_\_\_ 曜日、\_\_\_\_\_ 時頃に  
\_\_\_\_\_ へお伺いします。

## 所要日数

原則的には検体をお預かりした翌日を起算日とし、報告書をお手元にお届けするまでの日数です（日曜・祭日は含まず）。依頼項目の組み合わせにより、所要日数の長い項目に準ずることがありますのでご了承下さい。  
再検査の場合及び一部地域では、更に若干の日数を要することがありますのでご了承下さい。

## 再検査

当社再検査基準に基づき再検査をいたします。  
検体量が必要量に満たずに再検査ができない場合はその旨ご報告いたします。

## 結果のご報告

原則として当社集配員が報告書を直接お届けいたします。  
至急のご指示のある場合は検査終了しだい電話又はファクシミリでご報告いたします。  
コンピューター端末へのオンライン送信をご要望の場合は当社営業担当にご相談下さい。

## 報告書

報告書は検査の種類により適合した報告書によりご報告いたします。

## 検体の保管

- 検査実施後の検体は、当社規定により一定期間保管させていただきます。（下記参照）  
この期間中に追加検査もお受けいたします。但し、検査項目によっては再検査、追加検査ができない場合があります。  
血清：3 週間、便：2 日間  
血液：5 日間、凝固・尿・穿刺液：1 週間
- 保管期間を過ぎた検体は、当社で処分させていただきます。
- 検査済み検体の返却を希望される場合は、すみやかに返却いたします。又、医療機関以外又は医師個人から学術研究等の目的で検査済み検体の提供を求められたとしても、第三者への提供は行いません。
- プール化及び匿名化が可能なものについては、個人情報保護法その他関係法規及びガイドラインに従い検査精度維持、向上等のために使用することがあります。

## 検査実施施設及び最終委託先

検査実施施設及び最終委託先につきましては本文各項目備考欄及び報告書に下記の記号で表示してあります。

無印 保健科学西日本

略号	委託先名称
* A	保健科学総合研究所
* ア	保健科学 第2ラボラトリー
* イ	保健科学 第3ラボラトリー
* P	保健科学 東日本総合ラボラトリー
* l	LSI メディエンス
* 4	エスアールエル
* 5	北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所
* 6	組織科学研究所
* 7	常盤特殊分析センター
* 8	Quest Diagnostics Clinical Laboratories, Inc
* 9	Mayo Medical Laboratories
* C	カスタムメディカル研究所
* E	ビー・エム・エル
* F	積水メディカル SMCL 阿見ラボラトリー
* Q	ファルコバイオシステムズ
* S	シノテスト サイエンス・ラボ
* T	アミンファーマ研究所
* V	京都工場保健会
* t	滋賀医科大学臨床検査医学講座
* v	パソテック

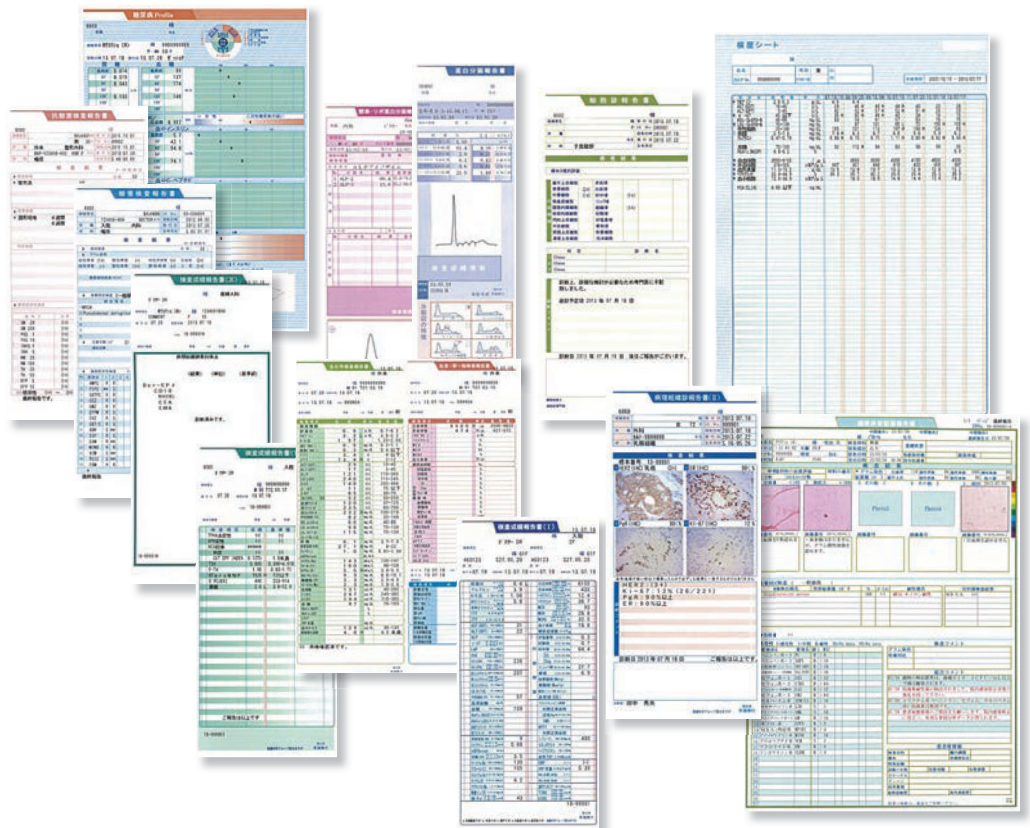
※「再委託」に該当しない検査項目のうち、一部の検査を当社ラボ、保健科学グループ拠点ラボ及び協力他社ラボにて検査実施の上、ご報告しております。これらは報告書に明示いたします。

記号	地域拠点ラボ
* a	保健科学 京都ラボラトリー
* b	保健科学 京都南ラボラトリー
* c	保健科学 神戸ラボラトリー
* d	保健科学 大阪南ラボラトリー
* ハ	保健科学 大阪ラボラトリー
* ヒ	保健科学 仙台ラボラトリー
* フ	保健科学 札幌ラボラトリー
* ヘ	保健科学 新潟ラボラトリー
* ホ	株式会社 HSN

## 検査報告書

### 報告書種類

1. 検査成績報告書 (I)
2. 検査成績報告書 (II)
3. 検査成績報告書 (V)
4. 検査成績報告書 (X)
5. 蛋白分画報告書
6. アイソザイム報告書
7. アレルギープロファイル報告書
8. 汎用プロファイル報告書
9. 負荷プロファイル報告書
10. C型肝炎プロファイル報告書
11. 胃がんリスク層別化検査報告書
12. 骨塩定量報告書
13. 細菌検査報告書
14. 抗酸菌検査報告書
15. 細菌検査画像報告書
16. 病理組織検査報告書
17. 病理組織診報告書 (II)
18. 細胞診報告書
19. 検査履歴報告書



# ご利用の手引き

## 保険点数について

### 【検体検査料】

- 検体検査料は「検体検査判断料」と「検体検査実施料」に分かれています。実施料につきましては、各項目欄をご参照下さい。
- 包括算定の検査につきましては実施料を青色で表示しました。判断料につきましては、各項目欄に略号で表示いたしました（下表参照）。又、特定薬剤治療管理料は※印で表示いたしました。本文109頁をご参照下さい。

検体検査判断料	
尿・便	尿・糞便等検査判断料 …… 34点
遺伝子	遺伝子関連・染色体検査判断料 …… 100点
血液	血液学的検査判断料 …… 125点
生化Ⅰ	生化学的検査（Ⅰ）判断料 …… 144点
生化Ⅱ	生化学的検査（Ⅱ）判断料 …… 144点
免疫	免疫学的検査判断料 …… 144点
微生物	微生物学的検査判断料 …… 150点
病理診断・判断料	
病理	組織診断料 …… 450点
	細胞診断料 …… 200点
	病理判断料 …… 150点

### 【注意事項】

- 注1. 検体検査判断料は該当する検体検査の種類、回数に依らず各々月1回に限り算定できるものとする。
- 注2. 上記1.の規定に係らず、尿中一般物質定性半定量検査の所定点数を算定した場合にあっては、当該検査については、尿・糞便等検査判断料は算定しない。

### 負荷試験等

負荷試験等の点数につきましては本文22頁及び39・40頁をご参照下さい。  
なお負荷試験等の点数は「検体検査料」ではございませんので、判断料の別途算定はできません。

### 輸血に関する検査

輸血に関する検査につきましては本文49・50頁をご参照下さい。  
なお輸血に関する検査の点数は「検体検査料」ではございませんので、判断料の別途算定はできません。

## ■生化学的検査Ⅰ（血液化学検査）

- 総ビリルビン、直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン、総蛋白、アルブミン、尿素窒素、クレアチニン、尿酸、アルカリホスファターゼ(ALP)、コリンエステラーゼ(ChE)、γ-グルタミルトランスフェラーゼ(γ-GT)、中性脂肪、ナトリウム及びクロール、カリウム、カルシウム、マグネシウム、クレアチン、グルコース、乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)、アミラーゼ、ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)、クレアチンキナーゼ(CK)、アルドラーゼ、遊離コレステロール、鉄(Fe)、血中ケトン体・糖・クロール検査(試験紙法・アンブル法・固定化酵素電極によるもの)、不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)、総鉄結合能(TIBC)(比色法)
- リン脂質
- HDL-コレステロール、無機リン及びリン酸、総コレステロール、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)
- LDL-コレステロール、蛋白分画
- 銅(Cu)
- リパーゼ
- イオン化カルシウム
- マンガン(Mn)

項目数	実施料
5項目以上 7項目以下	93
8項目又は 9項目	99
10項目以上	106

## ■内分泌学的検査

- 成長ホルモン(GH)、卵巣刺激ホルモン(FSH)、C-ペプチド(CPR)、黄体形成ホルモン(LH)
- アルドステロン、テストステロン
- 遊離サイロキシニン(FT4)、遊離トリヨードサイロニン(FT3)、コルチゾール、サイロキシニン結合グロブリン(TBG)
- 抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗 GAD 抗体)
- 脳性Na利尿ペプチド(BNP)
- サイログロブリン
- サイロキシニン結合能(TBC)、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)、ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)
- カルシトニン
- ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量
- 腺グルカゴン
- プロゲステロン
- Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)、酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)
- 骨型アルカリホスファターゼ(BAP)
- 低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)
- オステオカルシン(OC)
- 遊離テストステロン
- インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P I NP)
- Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)(尿)
- セクレチン、低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量、Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)、Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(P I NP)
- サイクリック AMP(cAMP)、副甲状腺ホルモン(PTH)、カテコールアミン分画
- デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S)
- エストロゲン半定量、エストロゲン定量、副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP)
- エストラジオール(E2)
- デオキシビリジノリン(DPD)(尿)
- 副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)
- 副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)、カテコールアミン
- エリスロポエチン
- 17-ケトステロイド分画(17-KS分画)、抗ⅠA-2抗体、プレグナンジオール
- メタネフリン
- ソマトメジンC
- 心房性Na利尿ペプチド(ANP)、メタネフリン・ノルメタネフリン分画
- 利尿ホルモン(ADH)
- プレグナントリオール
- ノルメタネフリン
- インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)

項目数	実施料
3項目以上 5項目以下	410
6項目又は 7項目	623
8項目以上	900



## ■腫瘍マーカー

<ul style="list-style-type: none"> <li>●癌胎児性抗原(CEA)</li> <li>●α-フェトプロテイン(AFP)、組織ポリペプチド抗原(TPA)、扁平上皮癌関連抗原(SCC 抗原)</li> <li>●DUPAN-2、NCC-ST-439、CA15-3</li> <li>●エラスターゼ 1</li> <li>●前立腺特異抗原(PSA)、CA19-9</li> <li>●PIVKA-II 半定量、PIVKA-II 定量</li> <li>●CA72-4、SPan-1、シアリルTn抗原(STN)、神経特異エノラーゼ(NSE)</li> <li>●CA125</li> <li>●塩基性フェトプロテイン(BFP)、CA50</li> <li>●核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)、核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿)</li> <li>●シアリル Lex-i 抗原(SLX)</li> <li>●遊離型PSA比(PSA F/T比)</li> <li>●サイトケラチン 8・18(尿)</li> <li>●抗p53抗体</li> <li>●BCA225</li> <li>●サイトケラチン19フラグメント(シフラ)</li> <li>●シアリルLex抗原(CSLEX)</li> <li>●I型コラーゲン-C-テロペプチド(I CTP)</li> <li>●ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)</li> <li>●CA54/61、癌関連ガラクトース転移酵素(GAT)</li> <li>●CA602、α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)</li> <li>●γ-セミノプロテイン(γ-Sm)</li> <li>●癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液)、癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液)</li> <li>●HER2蛋白</li> <li>●可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)</li> </ul>
--

項目数	実施料
2項目	230
3項目	290
4項目以上	396

## ■肝炎ウイルス関連検査

<ul style="list-style-type: none"> <li>●HBs抗原、HBs抗体</li> <li>●HBe抗原、HBe抗体</li> <li>●HCV抗体定性・定量、HCVコア蛋白</li> <li>●HBc抗体半定量・定量</li> <li>●HCVコア抗体</li> <li>●HA-IgM 抗体、HA 抗体、HBc-IgM 抗体</li> <li>●HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性、HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量</li> <li>●HE-IgA抗体定性</li> <li>●HCV血清群別判定</li> <li>●HBVコア関連抗原(HBcrAg)</li> <li>●デルタ肝炎ウイルス抗体</li> <li>●HCV特異抗体価、HBVジェノタイプ判定</li> </ul>
---

項目数	実施料
3項目	290
4項目	360
5項目以上	425

## ■自己抗体検査

<ul style="list-style-type: none"> <li>●抗サイログロブリン抗体、抗 RNP 抗体定性、抗 RNP 抗体半定量、抗 RNP 抗体定量、抗Jo-1抗体定性、抗Jo-1抗体半定量、抗Jo-1抗体定量</li> <li>●抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体</li> <li>●抗Sm抗体定性、抗Sm抗体半定量、抗Sm抗体定量</li> <li>●抗SS-B/La抗体定性、抗SS-B/La抗体半定量、抗SS-B/La抗体定量、C1q結合免疫複合体</li> <li>●抗Scl-70抗体定性、抗Scl-70抗体半定量、抗Scl-70抗体定量</li> <li>●抗SS-A/Ro抗体定性、抗SS-A/Ro抗体半定量、抗SS-A/Ro抗体定量</li> <li>●抗RNAポリメラーゼIII抗体</li> <li>●抗ARS抗体</li> <li>●抗MDA5抗体、抗TIF1-γ抗体、抗Mi-2抗体</li> </ul>
--

項目数	実施料
2 項目	320
3 項目以上	490

## ■出血・凝固検査

<ul style="list-style-type: none"> <li>●Dダイマー定性</li> <li>●プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)、Dダイマー半定量</li> <li>●von Willebrand因子(VWF)活性</li> <li>●Dダイマー</li> <li>●α<sub>2</sub>-マクログロブリン</li> <li>●凝固因子インヒビター</li> <li>●von Willebrand 因子(VWF)抗原</li> <li>●プラスミン・プラスミンインヒビター複合体(PIC)、プロテインS抗原</li> <li>●プロテインS活性</li> <li>●β-トロンボグロブリン(β-TG)</li> <li>●血小板第4因子(PF4)</li> <li>●トロンピン・アンチトロンピン複合体(TAT)</li> <li>●トロンボモジュリン</li> <li>●凝固因子(第II因子、第V因子、第VII因子、第VIII因子、第IX因子、第X因子、第XI因子、第XII因子、第XIII因子)</li> <li>●フィブリンモノマー複合体</li> <li>●プロテインC抗原</li> <li>●tPA・PAI-1複合体</li> <li>●プロテインC活性</li> </ul>
--

項目数	実施料
3 項目又は 4 項目	530
5 項目以上	722

# ご利用の手引き

## 緊急異常値報告対象項目と基準について

下記の検査項目につきましては当社緊急異常値報告基準に基づき、測定後すみやかに電話又はファクシミリでご報告いたします。

主要参考文献 川崎医科大学検査診断学 臨床病理 vol.31 臨時号

対象項目	基準	
<b>生化学的検査</b>		
ナトリウム(血清)	110 以下、170 以上(mEq/L)	
カリウム(血清)*1 *4	2.5 以下、7.0 以上(mEq/L)	
カルシウム(血清)*2	6.0 以下、13.0 以上(mg/dL)	
クレアチニン(血清)*2	8.00 以上(mg/dL)	
浸透圧(血清)	255 以下、330 以上 (mOsm/kgH <sub>2</sub> O)	
尿素窒素(血清)*2	80 以上(mg/dL)	
AST	500 以上(U/L)	
ALT	500 以上(U/L)	
LD/IFCC	1,000 以上(U/L)	
アミラーゼ(血清)	500 以上(U/L)	
CK	1,000 以上(U/L)	
血糖(グルコース)	50 以下、500 以上(mg/dL)	
アンモニア	320 以上(μg/dL)	
<b>一 般</b>		
尿糖定性*5	(2+)以上(但し、小児の場合のみ報告)	
尿ケトン体定性*5	陽性の場合(但し、小児の場合のみ報告)	
<b>血液学</b>		
白血球数	1,500 以下、20,000 以上(/μL)	
赤血球数	200以下、600 以上(× 10 <sup>4</sup> /μL)	
ヘモグロビン(血色素量)	5.0 以下、20.0 以上(g/dL)	
血小板数	3.0以下、100.0 以上(× 10 <sup>4</sup> /μL)	
白血球像	Blastoid cell (+)	
PT	INR	4.00 以上
	活性	12.0 以下(%)
	時間	40.0 以上(秒)
APTT	60.0 以上(秒)	
フィブリノゲン	100 以下(mg/dL)	
血漿FDP	60.0 以上(μg/mL)	
Dダイマー	40.0 以上(μg/mL)	
<b>免疫血液学検査</b>		
直接クームス試験*3	(+)	

対象項目	基準
<b>微生物学的検査</b>	
塗抹鏡検、培養、免疫学的検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>血液・髄液・穿刺液など無菌的部位由来の検体からの菌検出時</li> <li>1~3類感染症原因菌及び、感染対策として重要且つ緊急性が高い菌種などの検出時</li> </ul>
抗酸菌検査	抗酸菌塗抹鏡検及び、抗酸菌分離培養で陽性結核菌群同定時
結核菌DNA [PCR] (TB-PCR)	(+)
<b>薬物検査</b>	
フェノバルビタール	60 以上(μg/mL)
フェニトイン	30 以上(μg/mL)
カルバマゼピン	15 以上(μg/mL)
プリミドン	15 以上(μg/mL)
バルプロ酸	150 以上(μg/mL)
エトサキシミド	120 以上(μg/mL)
炭酸リチウム	2.00 以上(mEq/L)
サルチル酸	300 以上(μg/mL)
ジゴキシン	2.5 以上(ng/mL)
プロカインアミド	16 以上(μg/mL)
リドカイン	6.0 以上(μg/mL)
メトトレキサート	1.0 以上(μmol/L)
バンコマイシン	60.0 以上(μg/mL)
テイコプラニン	60 以上(μg/mL)
テオフィリン	25 以上(μg/mL)

- \* 1 血清での提出の検体に限る
- \* 2 透析検体は除外
- \* 3 新生児のみ
- \* 4 透析前検体の高値は除外
- \* 5 小児の場合及び緊急報告のご要望がある場合にさせていただきますので、ご依頼時には依頼書に生年月日又は年齢と緊急報告のご要望の旨をご記載下さい。

## 検査方法の略号

<b>BCP改良法</b>	ブロムクレゾールパープル改良法 Bromcresol Purple	<b>LAMP法</b>	ループ介在等温増幅法 Loop-Mediated Isothermal Amplification
<b>BLEIA法</b>	生物化学発光免疫測定法 Bioluminescent Enzyme Immunoassay	<b>LA法</b>	ラテックス凝集比濁法 Latex Agglutination Immunoassay
<b>CF法</b>	補体結合反応 Complement Fixation Test	<b>LC-MS/MS法</b>	液体クロマトグラフィータンデム質量分析法 Liquid Chromatography - Tandem Mass Spectrometry
<b>CLEIA法</b>	化学発光酵素免疫測定法 Chemiluminescent Enzyme Immunoassay	<b>LIA法</b>	ラインプロット法 Line Immunoassay
<b>CLIA法</b>	化学発光免疫測定法 Chemiluminescent Immunoassay	<b>LPPIA法</b>	ラテックス近赤外免疫比濁法 Latex Photometric Immunoassay
<b>ECLIA法</b>	電気化学発光免疫測定法 Electro Chemi Luminescence Immunoassay	<b>MO法</b>	二重免疫拡散法 Micro Ouchterlony
<b>EIA法</b>	酵素免疫測定法 Enzyme Immunoassay	<b>NT法</b>	中和反応 Neutralization Test
<b>ELISPOT法</b>	Enzyme - Linked ImmunoSpot	<b>PA法</b>	粒子凝集法 Particle Agglutination Test
<b>EMIT法</b>	多元酵素免疫測定法 Enzyme Multiplied Immunoassay Technique	<b>※PCR法</b>	ポリメラーゼ連鎖反応 Polymerase Chain Reaction
<b>FA法</b>	蛍光抗体法 Fluorescent Antibody Method	<b>PHA法</b>	受身赤血球凝集反応 Passive Hemagglutination Test
<b>FEIA法</b>	蛍光酵素免疫測定法 Fluorescence Enzymes Immunoassay	<b>RPLA法</b>	逆受身ラテックス凝集反応法 Reversed Passive Latex Agglutination Test
<b>FISH法</b>	蛍光 insitu ハイブリダイゼーション法 Fluorescent In Situ Hybridization	<b>RT-PCR法</b>	逆転写ポリメラーゼ連鎖反応 Reverse Transcription Polymerase Chain Reaction
<b>FPIA法</b>	蛍光偏光免疫測定法 Fluorescence Polarization Immunoassay	<b>SDA法</b>	Strand Displacement Amplification
<b>GC法</b>	ガスクロマトグラフィー法 Gas Chromatography	<b>TIA法</b>	免疫比濁法 Turbidimetric Immunoassay
<b>GC/MS法</b>	ガスクロマト質量分析計法 Gas Chromatography / Mass Spectrometer	<b>UV法</b>	紫外吸光度分析法 Ultraviolet Absorption Spectrophotometry
<b>HA法</b>	赤血球凝集反応 Hemagglutination Test	<b>WB法</b>	ウエスタンプロット法 Western Blot Method
<b>HEIA法</b>	ホモジニアスエンザイムイムノアッセイ Homogeneous Enzyme Immunoassay	<b>比濁法</b>	Turbidimetry
<b>HI法</b>	赤血球凝集抑制反応 Hemagglutination Inhibition Test	<b>比濁法：ネフェロメトリー法</b>	Nephelometry
<b>HPLC法</b>	高速液体クロマトグラフィー法 High Performance Liquid Chromatography	<b>フローサイトメトリー法</b>	Flow Cytometry
<b>イオン電極法</b>	Ion Electrode Method	<b>ラテックス凝集免疫比濁法</b>	Latex Agglutination Turbidimetric Immunoassay
<b>免疫クロマトグラフィー法</b>	Immunochemistry	<b>リアルタイムPCR法</b>	Real Time Polymerase Chain Reaction
<b>金コロイド法</b>	Gold Colloid Method	<b>蛍光光度法</b>	Fluorometry
<b>酵素法</b>	Enzymatic Method	<b>原子吸光法</b>	Atomic Absorption Method
<b>電気泳動法</b>	Electrophoresis	<b>MALDI-TOF-MS</b>	マトリックス支援レーザー脱離イオン飛行時間型質量分析法 Matrix-Assisted Laser Desorption / Ionization Time-of-Flight Mass Spectrometry
<b>ハイブリッドキャプチャー法</b>	Hybrid Capture Method	<b>IFE法</b>	免疫固定法 Immunofixation Electrophoresis
<b>比色法</b>	Colorimetry	<b>MBP-QP法</b>	Mutation-Biased PCR and Quenching Probe
<b>IFA法</b>	間接蛍光抗体法 Indirect Fluorescent Antibody Technique	<b>PCR-rSSO法</b>	PCR-Reverse Sequence Specific Oligonucleotide

※ PCR法はエフ・ホフマン・ラ・ロシュ社のライセンスに基づいて実施しております。

## 基準値

正常参考値及び判定基準値は、当社では基準値で表示しております。基準値欄の略号及び単位は次の通りです。

略号	M	Male：男性	桁記号	k	kilo： 10 <sup>3</sup>	単位記号	AU	Arbitrary Unit	Eq	Equivalent	Osm	osmol
	F	Female：女性		d	deci： 10 <sup>-1</sup>		B.U	Bethesda Unit	g	gram	ppm	parts per million
	RBC	Red blood cell：赤血球		m	milli： 10 <sup>-3</sup>		BCE	Bone Collagen Equivalent	HPF	High-Power Field	S.I.	Stimulation Index
	d	day：日		μ	micro： 10 <sup>-6</sup>		CAI	Corrected Absorbance Index	IU	International Unit	U	unit
	h	hour：時間		n	nano： 10 <sup>-9</sup>		CFU	Colony Forming Unit	L	Liter	%	percent
	min	minute：分		p	pico： 10 <sup>-12</sup>		cpm	count per minute	M	mol/L	%	permill
			f	femto： 10 <sup>-15</sup>	EIU	Enzyme Immunounits	mol	mole				

# ご利用の手引き

## 本文の検査項目欄の記載例

本文では、検体必要量、容器・保存方法、検査方法、基準値・単位、所要日数、検体検査実施料・判断料等検査のご依頼にあたってご注意いただきたい事項を表記しています。

下記の例をご参照の上、正確な検体の管理にご協力下さい。

項目コード 統-コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
<b>蛋白関連検査</b>								
1001 3A010	総蛋白 (TP)	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (21日)	Biuret 法	6.7~8.3 g/dL	1 2	11 生化I	蛋白分画、総蛋白及びアルブミンを同時に測定した場合は、主たるもの2つを算定する。
3282 5C065	β <sub>2</sub> -マイクログロブリン (β <sub>2</sub> -MG)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	2.0 以下 mg/L	2 3	107 免疫	PH5.5以上を確認し、提出して下さい。
3283 5C065		尿 1.0	C-3 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	289 以下 μg/L	2 3	107 免疫	

容器記号：A1(普通試験管：分離剤入り)に採取し、遠心操作後、そのままご提出下さい。(但し、採血当日のご提出が不可能な場合、容器記号：G(凍結用ポリ試験管)に移しての保存をお願いします)

主として健常人の検体より設定しており、異常検体の動向を全て反映するものではなく目安として下さい。

項目コード 統-コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
<b>凝固系一般検査</b>								
2012 2B030	プロトロンビン時間 (PT)	血漿 0.3	D-1 ↓ G 凍結	Quick 変法	PT INR 値 0.88~1.17 PT 活性 66.0~127.6 % PT 時間 9.4~12.2 秒※1	1 3	18 血液	緊急 トロンボテストと同時算定不可

容器記号：D(凝固検査用試験管)に血液を採取し、遠心操作後、血漿を容器記号：G(凍結用ポリ試験管)に移して凍結しご提出下さい。なお、検査材料の移し替えが不可欠な場合、『採取容器→提出容器』で表記しております。

赤の表示は検体取扱上の注意事項を表します。

青の表示は保険取扱上の留意事項を表します。

### 【マーク一覧】

受付・報告関連	緊急異常値報告対象	緊急	緊急異常値の報告範囲(ご利用の手引きVI参照)が設定されております。この範囲を超えた場合には、測定後すみやかに電話またはファクシミリでご報告いたします。
	予約検査	予約検査	検体採取前に、最寄の営業所へご連絡下さい。
	曜日指定	曜日指定	受託可能日をご確認の上、ご依頼下さい。
	倫理指针对象検査項目	倫理指针对象	ヒト遺伝子倫理指针对象項目です。ご依頼に当たっては、先天性疾患染色体分析依頼書によってご依頼下さい。
検体の取扱い	常温	常温	15~25℃で保存してご提出して下さい。
	冷蔵	冷蔵	2~8℃で保存してご提出して下さい。なお、数日以上に渡って保存される場合は、凍結して保存していただくようお願いします。凍結不可の材料につきましては、その旨、記載いたします。
	凍結	凍結	凍結(-18℃以下)で保存してご提出して下さい。なお、凍結保存指定の検査項目につきましては、原則として単独検体での出検をお願いいたします。
	遮光	遮光	直射日光または蛍光灯等を避け、遮光保存して下さい。
	保温	保温	孵卵器等で保温(35~39℃)して下さい。

## 検体採取に当たっての注意事項

### RIA・RA・RRA等・アイソトープを用いる測定項目

- シンチグラフィ等でinvivoに投与したアイソトープが残存すると異常値発生の原因となることがありますのでご注意ください。

### 血液

#### 【採血時間について】

- 採血は安静空腹時肘静脈採血を原則とします。
- 食事や運動が異常値発生の原因となることがありますのでご注意ください。

#### 【採血量等について】

- 採血量は必要血清量の3～4倍、必要血漿量の2～3倍を目安にして下さい。
- 採血量が厳密に決められている採血容器は、検査結果に影響を及ぼすために、必ず規定量を守って下さい。
- 翼状針を用いる場合、必要に応じてダミーの採血管に少量の血液を採取し正確な採血量を確保して下さい。

#### 【溶血を避けるための注意事項】

- 採血時に溶血を避けるために、無理な圧力や泡立ちを避けて下さい。特に、シリンジ採血の場合、内筒を強く引きすぎると無理な圧力を避け、また、針とシリンジがしっかりと接続されていることを確認し気泡の混入などを避けるなど、注意願います。
- 転倒混和の際、血液を泡立てないようにして下さい。
- 真空採血管の場合、採血量が規定量よりも少ない場合は、容器内部が陰圧状態のままとなり、溶血の原因となります。陰圧を解除して下さい。
- シリンジ採血の場合、各採血管の間でのコンタミネーションや血液の注入量などに注意の上、注射針を外し採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入して下さい。

#### 【採血後の注意】

- 抗凝固剤・凝固促進剤入り採血容器に採血された場合は、採血後すみやかに、泡立てないように緩やかに転倒混和させて下さい。

#### 【血清・血漿分離の際の注意事項】

- 血清は、採血後常温で凝固させ、凝固完了後遠心分離して下さい。
- 特に指定がない場合は1,200～1,700Gで5～10分遠心分離して下さい。

遠心力換算一覧表

半径(cm)	1,200G	1,500G	1,700G
	回転数	回転数	回転数
6	4,200	1,700	5,000
8	3,700	4,100	4,400
10	3,300	3,700	3,900
11	3,100	3,500	3,700
12	3,000	3,300	3,600
13	2,900	3,200	3,400
14	2,800	3,100	3,300
15	2,700	3,000	3,200
16	2,600	2,900	3,100
19	2,400	2,700	2,800
20	2,300	2,600	2,800

#### 【遠心力の計算式】

回転数とローター半径より遠心力を求める場合

$$RCF(Xg) = 11.18 \times (N/1000)^2 \times R$$

遠心力とローター半径より回転数を求める場合

$$N(rpm) = 299 \times \sqrt{RCF/R}$$

RCF：遠心力(×g)

R：ローター半径(cm)

N：毎分回転数(rpm)

#### 【その他】

- 凍結する場合は破損のおそれがありますので、ガラス容器は避けて下さい。
- 採血の手法等に関しては、日本臨床検査標準協議会(JCCLS)の標準採血法ガイドライン(GP4-A3)を参考して下さい。

### 尿

- 尿による検査は部分尿・早朝尿・時間指定蓄尿・24時間蓄尿等がありますので本文各項目欄をご参照下さい。
- 24時間蓄尿の注意事項
  1. 冷暗所にて蓄尿終了後、尿量を確認し必要量を検体容器に移し提出して下さい。
  2. 防腐・安定化などの目的で添加薬剤を必要とすることがありますので本文各項目欄をご参照下さい。
  3. 必ず依頼書に尿量を記入して下さい。
- 酸性蓄尿の注意事項
  1. 検査項目により、防腐・安定化などの目的で蓄尿時に尿の酸性化を必要とすることがあります。
  2. 酸性化した尿検体ではデータに影響がある検査項目もありますので、本文各項目欄をご参照下さい。
  3. 規定量の6N塩酸を予め蓄尿容器に入れて蓄尿して下さい。(添加する詳細な規定量や注意事項は本文各項目欄をご参照下さい。)

# ご利用の手引き

## 採血と保存に関する参考資料

### ○採血管の順序

複数の採血管に採血する場合、各採血管の間でおこる内容物によるコンタミネーションによる検査結果への影響を防ぐ為に以下の手順が推奨されています。

但し、確実なエビデンスが得られているものは少ないため、個々の状況に応じて検査項目の優先度などを考慮して順序を変更することは許容されています。

#### 1) 真空管採血の場合

- ①凝固検査用採血管
- ②赤沈用採血管
- ③血清用採血管
- ④ヘパリン入り採血管
- ⑤EDTA 入り採血管
- ⑥解糖阻害剤入り採血管
- ⑦その他

又は

- ①血清用採血管
- ②凝固検査用採血管
- ③赤沈用採血管
- ④ヘパリン入り採血管
- ⑤EDTA 入り採血管
- ⑥解糖阻害剤入り採血管
- ⑦その他

#### 2) シリンジ採血の場合（分注の順序）

- ①凝固検査用採血管
- ②赤沈用採血管
- ③ヘパリン入り採血管
- ④EDTA 入り採血管
- ⑤解糖阻害剤入り採血管
- ⑥血清用採血管
- ⑦その他

参考文献：標準採血法ガイドライン 2011年

### ○溶血の検査成績に及ぼす影響

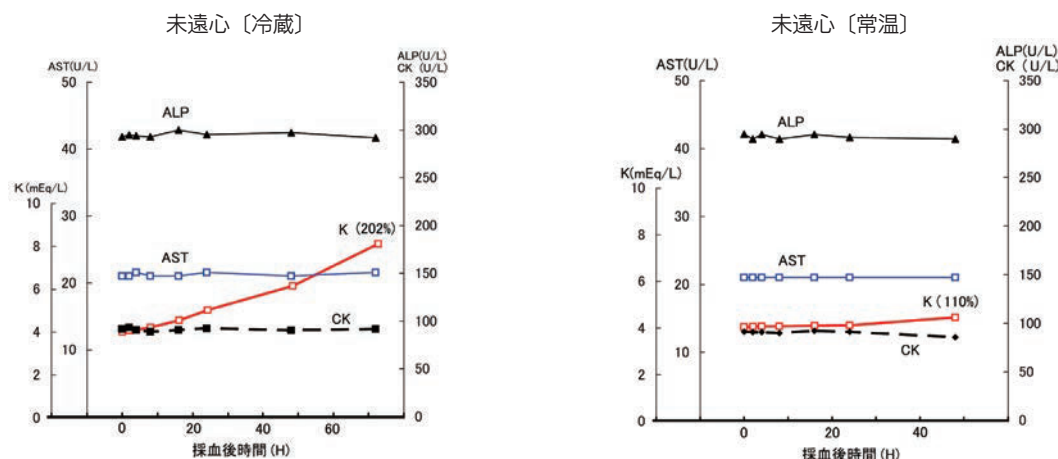
健康人の血清ヘモグロビン (Hb) 濃度は 1mg/dL 以下とされ、肉眼的に血清中に溶血を検出できるのは、Hb30 ~ 50mg/dL 以上です。血液の 35 ~ 50% は赤血球からなり、各種の生化学成分は、その血球と血漿とにおける含有比から次の 3 種類に分けられます。(カッコ内は血球：血漿含有比)

- 1) 血球中と血漿中にほぼ同濃度に存在するもの  
グルコース (血糖)、尿素、重炭酸塩、無機リン、総コレステロール
- 2) 血球中濃度が血漿中濃度より高いもの  
カリウム (23 倍)、LD (200 倍)、AST (80 倍)、ALT (15 倍)
- 3) 血球中濃度が血漿中より低いもの  
ナトリウム (0.1 倍)、クロール (0.5 倍)、カルシウム (0.1 倍)、LAP (0.2 倍)、ALP (0.2 倍)  
コレステロールエステル (0)、CK (0)

参考文献：臨床検査法提要 改訂第 31 版

### ○未遠心分離検体の経時変化

未遠心分離の検体は、保存条件 (冷蔵又は常温) により著しくデータに影響が出る場合があります。





# 索引 (50音)

## ア

	頁	保険点数	保険区分
亜鉛 (Zn)	15	136	D007-37
悪性リンパ腫解析検査 (MLA) CD45ゲーティング	126	1940	D005-15
亜硝酸塩 (尿)	111	(26)	D000
アスコルビン酸→ビタミンC	18	305	D007-60
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ→AST	8	17	D007-03
アスピリン→サリチル酸	105	※	B001-02
アスペノン→アプリンジン	106	※	B001-02
アスペルギルス抗原	57	157	D012-29
アスペルギルスIgG抗体	53	-	
アセタゾラミド	103	※	B001-02
アセチルコリン受容体抗体→抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗AChR抗体)	66	798	D014-43
アセトアミノフェン	107	185	D007-47
アセトン体→ケトン体 (アセトン体) 定性 (尿)	111	(26)	D000
アセリオ→アセトアミノフェン	107	185	D007-47
アデノ (ウイルス抗体)	84・86	79	D012-11
アデノシンデアミナーゼ (ADA)	10	32	D007-12
アトピー鑑別試験	75	194	D015-21
アトピー性皮膚炎 (成人) 【IgE特異的アレルギー疾患別セット】	76	76 頁参照	
アドレナリン→カテコールアミン分画	28	165	D008-33
アフィニトール→エベロリムス	108	※	B001-02
アプリンジン	106	※	B001-02
アポリポ蛋白	5	※	D007-10 イ
アミオダロン	106	※	B001-02
アミカシン	107	※	B001-02
アミカマイシン→アミカシン	107	※	B001-02
アミサリン→プロカインアミド	105	※	B001-02
アミノ酸分析	20	1141	
アミラーゼ (AMY)	9	11	D007-01
アミラーゼアイソザイム (AMYアイソザイム)	12	48	D007-15
アミロイドA蛋白→血清アミロイドA蛋白	70	47	D015-06
アラニンアミノトランスフェラーゼ→ALT	8	17	D007-03
アルカリホスファターゼ染色 (ALP)	97	97 頁参照	D005-06
アルカリホスファターゼアイソザイム→ALPアイソザイム	11	48	D007-15
アルカリホスファターゼ→ALP/IFCC	8	11	D007-01
アルギニンバソプレシン→AVP	26	230	D008-47
アルドステロン	32	125	D008-16
アルドステロン / レニン活性比 (PAC/PRA比)	32	-	
アルドステロン / レニン定量比 (PAC/ARC比)	32	-	
アルドラーゼ (ALD)	9	11	D007-01
アルブミン (血清)	1	11	D007-01
アルブミン・グロブリン比→A/G比	1	-	
アルブミン定量 (尿)→尿中アルブミン定量	112	99	D001-08
アルベカシン	107	※	B001-02
アルミニウム (Al)	15	112	D007-29
アレピアチン→フェニトイン	103	※	B001-02
アレルギー→IgEシングル・マルチアレルゲン	75	110	D015-13
アンカロン→アミオダロン	106	※	B001-02
アンジオテンシン I 転換酵素 (ACE)	10	140	D007-38
アンチトロンピン活性 (AT-III)	100	70	D006-10
アンチプラスミン (プラスミンインヒビター)	100	128	D006-15
アンモニア (NH <sub>3</sub> )	7	50	D007-16

## イ

	頁	保険点数	保険区分
イオン化カルシウム	13	26	D007-07
イーケプラ→レベチラセタム	104	※	B001-02
胃がんリスク層別化検査 (ABC分類)	55	-	
胃癌HER2遺伝子 (FISH)	155	2700	N005-01
イマチニブ	107	※	B001-02
インスリン (IRI)	28	103	D008-10
インスリン抗体→抗インスリン抗体	68	110	D014-06
インターロイキン2受容体 (IL-2R)	46	438	D009-29
インデラル→プロプラノロール	106	-	

インフルエンザ (ウイルス抗体)	84・85	79	D012-11
インプロメン→プロムペリドール	104	※	B001-02

## ウ

	頁	保険点数	保険区分
運動率 (精液)	115	70	D004-04
ウイルス同定	91	-	
ウイルス分離	91	-	
ウロビリノーゲン定性	111	(26)	D000
ウロポルフィリン定量 (尿)	112	105	D001-10

## エ

	頁	保険点数	保険区分
衛生検査 (検便検査)	140	-	
エオジン細胞鏡検→鼻汁中、喀痰中好酸球	118	15	D005-03
エクセグラン→ゾニサミド	104	※	B001-02
エコー (ウイルス抗体)	85・87・88	79	D012-11
エステラーゼ染色	97	97 頁参照	D005-06
エストラジオール (血清) (E <sub>2</sub> )	33	172	D008-36
エストロゲンレセプター	154	720	N002-01
エタノール	18	108	D007-27
エチオコロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008-40
エトスクシミド	103	※	B001-02
エピレオプチマル→エトスクシミド	103	※	B001-02
エベロリムス	108	※	B001-02
エラスターゼ 1	43	123	D009-08
エリスロポエチン	37	209	D008-39
エルシニア培養	134	134 頁参照	
エルタシン→ゲンタマイシン	107	※	B001-02
塩基性フェトプロテイン→BFP	41	150	D009-16
塩酸ピルジカイニド	105	※	B001-02
エンテロ (ウイルス抗体)	88	-	
エンドトキシン	56	236	D012-50

## オ

	頁	保険点数	保険区分
黄体形成ホルモン (LH)	26	108	D008-13
オステオカルシン (BGP)	37	157	D008-28
オスポロット→スルチアム	103	※	B001-02
オーム病クラミジア抗体	52	79	D012-11
オリゴクローナルバンド [等電点電気泳動法]	115	522	D004-11
オリベス→リドカイン	106	※	B001-02

## カ

	頁	保険点数	保険区分
喀痰中好酸球 (エオジン細胞鏡検)	118	15	D005-03
下垂体後葉負荷試験	39	39 頁参照	D0287-02
下垂体前葉負荷試験	39	39 頁参照	D0287-01
ガストリン放出ペプチド前駆体→Pro GRP	44	175	D009-22
活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	98	29	D006-07
カテコールアミン分画	28	165	D008-33
カドミウム (Cd)	15	-	
ガバペン→ガバペンチン	104	※	B001-02
ガバペンチン	104	※	B001-02
花粉症【IgE特異的アレルギー疾患別セット】	76	76 頁参照	
可溶性インターロイキン2レセプター→インターロイキン2受容体	46	438	D009-29
可溶性フィブリンモノマー複合体 (SFMC)	100	93	D006-12
カリウム (K)	13	11	D007-01
カリウム (髄液)	116	11	D007-01
顆粒球エラスターゼ (子宮頸管粘液)	119	119	D004-08
カルシウム (Ca)	13	11	D007-01
カルシウムイオン→イオン化カルシウム	13	26	D007-07
カルシトニン	27	133	D008-20
カルニチン	19	190	D007-23
カルバマゼピン	103	※	B001-02
カロナール→アセトアミノフェン	107	185	D007-44



肝細胞増殖因子(HGF)	2	227	D007-50
カンジダ・マンナン抗原	57	134	D012-21
関節液結晶(ピロリン酸 Ca、尿酸 Na)	118	-	
間接クームス試験	49	47	D011-02 口
癌胎児性抗原→CEA	41	99	D009-02
癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腔分泌液)	119	204	D015-22
カンピロバクター培養	135	135 頁参照	
寒冷凝集反応	52	11	D014-01

キ	頁	保険点数	保険区分
奇形精子率	115	70	D004-04
キシロカイン→リドカイン	106	※	B001-02
キニジン	106	※	B001-02
巨核細胞数(穿刺液)	118	-	

ク	頁	保険点数	保険区分
グアナーゼ(GU)	10	35	D007-12
空中浮遊菌検査(環境検査)	140	-	
クームス試験(間接)	49	47	D011-02 口
クームス試験(直接)	49	34	D011-02 イ
クームス定量試験	49	-	
グラセプター→タクロリムス	108	※	B001-02
クラミジア・トラコマチスDNA [PCR]	59	193	D023-02
クラミジア・トラコマチス核酸増幅→クラミジア・トラコマチスDNA [PCR]、(SDA)	59	193	D023-02
クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体	53	200	D012-40
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgA抗体	52	75	D012-10
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgG抗体	52	70	D012-09
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgM抗体	52	152	D012-27
クリオグロブリン定性	70	42	D015-05
グリコアルブミン(GA)	3	55	D007-17
グリコヘモグロビン→HbA1c	3	49	D005-09
クリプトコッカス抗原定性	57	174	D012-35
グリベック→イマチニブ	107	※	B001-02
グルカゴン(IRG)	28	150	D008-25
グルカゴン負荷試験	40	40 頁参照	D288-02
グルコース→血糖(グルコース)	3	11	D007-01
クレアチニン	6	11	D007-01
クレアチンクリアランス	22	-	
クレアチン	6	11	D007-01
クレアチンキナーゼ→CK	9	11	D007-01
クレアチンキナーゼ(CK)アイソザイム→CKアイソザイム	12	55	D007-17
クロール(Cl)	13	(11)	D007-01
クロール(髄液)	116	11	D007-01
クロストリジオイデス・ディフィシル(嫌気培養)	134	134 頁参照	
クロストリジオイデス・ディフィシル抗原(トキシンA・B)	136	80	D012-12
クロスマッチ→交差適合試験	49	30+ 47	
クロナゼパム	103	※	B001-02
クロバザム	104	※	B001-02
グロブリン反応→ノンネアペルト反応	116	62	D004-03
グロブリン反応→パンディ反応	116	62	D004-03
クロム(Cr)	16	-	

ケ	頁	保険点数	保険区分
血液・穿刺液(培養検査)	133	220	D018-03
血液型(ABO)→ABO血液型	49	24	D011-01
血液型(Rh(D))→Rh(D)血液型	49	24	D011-01
血液浸透圧→浸透圧(血清)	96	15	D005-03
血液像→白血球像	95	15	D005-03
結核菌DNA [PCR] (TB-PCR)	58	410	D023-13
結核菌Nested PCR(髄液)・(胸水)	162	-	
結核菌群抗原定性	139	291	D012-53
結核菌特異的インターフェロン-γ産生(T-SPOT.TB)(QFTプラス)	58	594	D015-30
血色素量→ヘモグロビン	95	21	D005-05

結晶証明→関節液結晶	118	-	
血漿FDP→フィブリン・フィブリノゲン分解産物	100	80	D006-11
血小板関連IgG(PA-IgG)	50	193	D011-06
血小板抗体→抗血小板抗体	49	261	D011-08
血小板数(PLT)	95	21	D005-05
血小板第4因子(PF4)	102	178	D006-26
血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体→HIT抗体	50	390	D011-10
血清アミロイドA蛋白(SAA)	70	47	D015-06
血清インジウム	159	-	
血清鉄→鉄(Fe)血清	14	11	D007-01
血清補体価(CH <sub>50</sub> )	69	38	D015-04
結石分析	20	120	D010-02
血中微生物→フィラリア・マラリア原虫	96	40	D005-07
血沈→赤血球沈降速度	96	(9)	D005-01
血糖(グルコース)	3	11	D007-01
ケトン体(アセトン体)定性(尿)	111	(26)	D000
ケトン体分画	12	59	D007-19
嫌気培養	133	133 頁参照	
ゲンタシン→ゲンタマイシン	107	※	B001-02
ゲンタマイシン	107	※	B001-02
検便検査→(衛生検査)	140	-	

コ	頁	保険点数	保険区分
抗AChR抗体→抗アセチルコリンレセプター抗体	66	822	D014-41
抗BP180抗体(抗BP180NC16a抗体)	67	270	D014-33
抗CCP抗体定量(抗シトルリン化ペプチド抗体)	62	198	D014-24
抗CL-β <sub>2</sub> GP1抗体→抗カルジオリピン-β <sub>2</sub> -グリコプロテイン1複合体抗体	66	223	D014-27
抗DNA抗体定量	64	163	D014-17
抗ds-DNA-IgM抗体	64	-	
抗ds-DNA-IgG抗体定量	64	163	D014-17
抗Dsg1抗体→抗デスモグレイン1抗体	67	300	D014-37
抗Dsg3抗体→抗デスモグレイン3抗体	67	270	D014-33
抗GAD抗体(抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体)	68	134	D008-21
抗GBM抗体→抗糸球体基底膜抗体	67	262	D014-32
抗IA-2抗体	68	213	D008-43
抗Jo-1抗体定量	65	140	D014-09
抗LKM1抗体	68	215	D014-25
抗MuSK抗体→抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	66	1000	D014-45
抗p53抗体	46	163	D009-19
抗RNAポリメラーゼIII抗体	64	170	D014-18
抗RNP抗体定量	64	144	D014-11
抗Scl-70抗体定量	65	157	D014-14
抗Sm抗体定量	65	151	D014-12
抗SS-A/Ro抗体定量	65	161	D014-16
抗SS-B/La抗体定量	65	158	D014-15
抗ss-DNA-IgM抗体	64	-	
抗ss-DNA-IgG抗体定量	64	163	D014-17
抗Tg抗体→抗サイログロブリン抗体	63	140	D014-09
抗TPO抗体→抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	63	142	D014-10
抗アクアポリン4抗体	66	1000	D014-45
抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	66	798	D014-43
抗胃壁細胞抗体	68	-	
抗インスリン抗体	68	110	D014-06
抗核抗体半定量(ANA)	63	102	D014-05
抗ガラクトース欠損IgG抗体(CA・RF)	62	114	D014-07
抗カルジオリピン-β <sub>2</sub> -グリコプロテイン1複合体抗体(抗CL-β <sub>2</sub> GP1抗体)	66	223	D014-27
抗カルジオリピンIgG抗体	66	226	D014-28
抗カルジオリピンIgM抗体	66	226	D014-28
高感度HCVコア蛋白→HCVコア抗原	81	105	D013-05
高感度PSAタンデム	43	124	D009-09
高感度PSAタンデムF/T比	43	150	D009-16
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体)	66	1000	D014-45
抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体→抗GAD抗体	68	134	D008-21
抗血小板抗体	49	261	D011-08
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	63	142	D014-10

# 索引 (50音)

抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体→PR3-ANCA	67	259	D014-31
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体→MPO-ANCA	67	258	D014-30
口腔・気道・呼吸器からの検体(培養検査)	133	170	D018-01
抗サイログロブリン抗体(抗Tg抗体)	63	140	D014-09
交差適合試験	49	30+47	
抗酸菌同定(質量分析法)	139	361	D021
抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(集菌塗抹)	138	50+加算35	D017-01
抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(直接塗抹)	138	50	D017-01
抗酸菌塗抹鏡検 チールネルゼン染色	138	64	D017-03
抗酸菌分離培養検査1	138	300	D020-01
抗酸菌分離培養検査2	138	209	D020-02
抗酸菌薬剤感受性検査	139	400	D022
好酸球数	96	17	D005-04
抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	67	262	D014-32
抗シトルリン化ペプチド抗体→抗CCP抗体定量	62	198	D014-24
甲状腺刺激ホルモン(TSH)	26	101	D008-09
甲状腺負荷試験	39	39頁参照	D287-03
抗ストレプトリジンO定量(ASO)	51	15	D012-01
抗精子不動化抗体	67	-	
抗セントロメア抗体(ELISA)	64	174	D014-19
抗デスモグレイン1抗体(抗Dsg1抗体)	67	300	D014-37
抗デスモグレイン3抗体(抗Dsg3抗体)	67	270	D014-33
抗皮膚抗体	67	-	
抗平滑筋抗体	68	-	
抗ミトコンドリアM2抗体(AMA-M2)	68	189	D014-21
抗ミトコンドリア抗体(AMA)(FA)	68	181	D014-20
抗ミュラー管ホルモン(AMH)	34	-	
抗ランゲルハンス島細胞抗体(ICA)	160	-	
抗利尿ホルモン(ADH)→AVP	26	235	D008-49
コカール→アセトアミノフェン	107	185	D007-46
コクサッキーA群・B群(ウイルス抗体)	84・87	79	D012-11
骨型アルカリホスファターゼ→BAP	11	161	D008-30
骨髄像	96	788	D005-14
コプロポルフィリン定性(尿)	111	-	
コプロポルフィリン定量(血液)→赤血球コプロポルフィリン	7	210	D007-50
コプロポルフィリン定量(尿)	112	131	D001-14
コリンエステラーゼ(ChE)	8	11	D007-01
コルチゾール	31	124	D008-15
コレステロール→総コレステロール(T-Cho)	3	17	D007-03
コレステロール分画	3	57	D007-18
コレラ菌	134	134頁参照	

## サ

	頁	保険点数	保険区分
細菌顕微鏡検査	133	64	D017-03
細菌培養検査→培養検査	133	133頁参照	
細菌薬剤感受性検査→薬剤感受性検査	137	137頁参照	
サイクリックAMP(c-AMP)	36	170	D008-35
サイトケラチン19フラグメント→シフラ	43	158	D009-17
サイトメガロ(ウイルス抗体)(CMV)	84	79	D012-11
サイトメガロ(CMV)IgG抗体	90	206	D012-42
サイトメガロ(CMV)IgM抗体	90	206	D012-42
サイトメガロウイルスpp65抗原定性(C10,C11)	92	366	D012-54
細胞種類(髄液)	116	62	D004-03
細胞種類(穿刺液)	117	-	
細胞診検査(婦人科材料)	152	150	N004-01
細胞診検査(その他一般材料)	152	190	N004-02
細胞数(髄液)	116	62	D004-03
細胞数(穿刺液)	117	-	
サイロキシン(T <sub>d</sub> )	27	108	D008-12
サイロキシン結合グロブリン(TBG)	27	130	D008-17
サイログロブリン(Tg)	27	131	D008-18
サーティカン→エペロリムス	108	※	B001-02
サリチル酸	105	※	B001-02
サルソニン→サリチル酸	105	※	B001-02
サルモネラ	134	134頁参照	

サルモネラ(検便検査)	140	-	
ザロンチン→エトスクシミド	103	※	B001-02
三塩化(トリクロル)酢酸(TCA)	17	-	
酸化LDL	158	-	
サンディミュン→シクロスポリン	108	※	B001-02
サンリズム→塩酸ピルジカイニド	105	※	B001-02

## シ

	頁	保険点数	保険区分
シアリルLe <sup>x</sup> 抗原→CSLEX	42	160	D009-18
シアリルLe <sup>x</sup> -i抗原→SLX	42	144	D009-14
シアリルTn抗原(STN)	42	146	D009-15
シアル化糖鎖抗原KL-6→KL-6	22	111	D007-28
ジアゼパム	104	※	B001-02
ジアパックス→ジアゼパム	104	※	B001-02
ジェノタイプHCV-RNA-PCR	81	-	
子宮頸管粘液→顆粒球エラスターゼ	119	119	D004-08
シクロスポリン	108	※	B001-02
ジゴキシン	105	※	B001-02
ジゴキシン→ジゴキシン	105	※	B001-02
真菌培養・同定	136	136頁参照	
シスタチンC	6	115	D007-30
ジソピラン→ジソピラミド	106	※	B001-02
ジソピラミド	106	※	B001-02
ジフテリア菌	134	134頁参照	
シフラ(CYFRA21-1)(サイトケラチン19フラグメント)	43	158	D009-17
シベノール→シベンゾリン	105	※	B001-02
シベンゾリン	105	※	B001-02
脂肪酸4分画	19	405	D010-07
酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ→TRACP-5b定量	45	156	D008-27
消化管からの検体(培養検査)	133	190	D018-02
小児アレルギー【IgE特異的アレルギー疾患別セット】	76	76頁参照	
常用負荷試験	40	40頁参照	D288-01
食物アレルギー【IgE特異的アレルギー疾患別セット】	76	76頁参照	
心筋トロポニンT(TnT)	2	112	D007-29
神経特異エノラーゼ→NSE	44	142	D009-12
心室筋ミオシン軽鎖I	2	184	D007-45
浸透圧(血清)	96	15	D005-03
浸透圧(尿)	112	16	D001-03

## ス

	頁	保険点数	保険区分
膵アミラーゼ(P-AMY)	9	48	D007-14
髄液一般検査	116	116頁参照	
水銀(Hg)	16	-	
膵グルカゴン	28	150	D008-25
推算GFR→eGFR	22	-	
水痘・帯状ヘルペス(ウイルス抗体)	84	79	D012-11
水痘・帯状ヘルペス(VZV)抗原	92	227	D012-48
水痘・帯状ヘルペス(VZV)IgG抗体	90	206	D012-42
水痘・帯状ヘルペス(VZV)IgM抗体	90	206	D012-42
膵ホスホリパーゼA <sub>2</sub> (PLA <sub>2</sub> )	11	204	D007-49
髄膜炎菌	135	135頁参照	
スルチアム	103	※	B001-02
スロービッド→テオフィリン	108	※	B001-02

セ	頁	保険点数	保険区分
精液一般検査	115	70	D004-04
精子不動化抗体	67	-	
精子数→精子濃度	115	70	D004-04
精子濃度	115	70	D004-04
精子量	115	70	D004-04
性腺負荷試験	39	39 頁参照	D287-06
成長ホルモン(GH)	25	108	D008-13
赤痢(衛生検査)	140	140 頁参照	
赤痢アメーバ	136	136 頁参照	
赤血球コプロポルフィリン	7	210	D007-50
赤血球数(RBC)	95	21	D005-05
赤血球像	95	-	
赤血球沈降速度(ESR)	96	(9)	D005-01
セルシン→ジアゼパム	104	※	B001-02
セルセプト→ミコフェノール酸	108	※	B001-02
セルプラスミン(CP)	1	90	D015-09
セレナミン→ジアゼパム	104	※	B001-02
セレンカR→パルプロ酸	103	※	B001-02
セレネース→ハロペリドール	104	※	B001-02
セロトニン	36	-	
線維素分解産物(血漿FDP)→フィブリン・フィブリノゲン分解産物	100	80	D006-11
線維素分解産物(尿中FDP)	112	72	D001-07
潜血反応(尿)	111	(26)	D000
全血比重(GB)	96	-	
全脂質構成脂肪酸分画	20	405	D010-07
前立腺特異抗原→PSA、高感度PSAタンデム	43	124	D009-09

ソ	頁	保険点数	保険区分
総コレステロール(T-Chol)	3	17	D007-03
総塩化物(TTC)	17	-	
総脂質(TL)	4	-	
総胆汁酸(TBA)	5	47	D007-13
総蛋白(TP)	1	11	D007-01
総鉄結合能(TIBC)(直接比色法/ニトロソPSAP法(計算法))	14	11	D007-01
総ビリルビン(T-Bil)	7	11	D007-01
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比→BTR	20	283	D010-05
総ホモシステイン	20	279	D010-04 イ
組織ポリペプチド抗原→TPA	44	110	D009-05
ゾニサミド	104	※	B001-02
その他の部位からの検体(培養検査)	133	170	D018-05
ソマトメジンC(IGF-1)	25	212	D008-42

タ	頁	保険点数	保険区分
ダイアモックス→アセタゾラミド	103	※	B001-02
胎児性ヘモグロビン→ヘモグロビンF	158	60	D005-11
大腸癌HER2遺伝子〔FISH〕	155	2700	N005-01
大腸菌抗原同定	136	175	D012-36
大腸菌ペロトキシン	136	194	D023-2-03
耐糖能精密検査	40	40 頁参照	D288-02
第Ⅱ因子	98	223	D006-30
第Ⅴ因子	98	223	D006-30
第ⅤⅡ因子	98	223	D006-30
第ⅤⅢ因子	98	223	D006-30
第ⅤⅢ因子インヒビター(第Ⅷ因子-INH)	100	144	D006-20
第ⅠⅩ因子	99	223	D006-30
第ⅠⅩ因子インヒビター(第Ⅸ因子-INH)	100	144	D006-20
第Ⅹ因子	99	223	D006-30
第ⅩⅠ因子	99	223	D006-30
第ⅩⅡ因子	99	223	D006-30
第ⅩⅢ因子	99	223	D006-30
タクロリムス	108	※	B001-02

タゴシッド→テイコプラニン	108	※	B001-02
炭酸リチウム	104	※	B001-02
胆汁酸→総胆汁酸(TBA)	5	47	D007-13
単純ヘルペス(HSV)IgG抗体	90	206	D012-42
単純ヘルペス(HSV)IgM抗体	90	206	D012-42
単純ヘルペスウイルス(HSV)抗原	92	180	D012-37
単純ヘルペス抗体(ウイルス抗体)	84・86	79	D012-11
蛋白→総蛋白(TP)	1	11	D007-01
蛋白定性(尿)	111	(26)	D000
蛋白定量クレアチニン換算値(尿蛋白/クレアチニン比)	111	7	
蛋白定量(尿)	111	7	D001-01
蛋白定量(髄液)	116	11	D007-01
蛋白定量(穿刺液)	118	11	D007-01
蛋白分画	1	18	D007-04
タンボコール→フレカイニド	106	※	B001-02

チ	頁	保険点数	保険区分
チアミン→ビタミンB <sub>1</sub>	18	239	D007-53
腫・リコナス/マイコプラズマジェニタリウム 同時測定DNA(PCR)(初尿)	60	350	D023-10
腫・リコナス/マイコプラズマジェニタリウム 同時測定DNA(PCR)(陰嚢塗抹物及び子宮頸部脱落細胞)	60	350	D023-10
チフス菌	134	134 頁参照	
チミジンキナーゼ活性(TK活性)	96	233	D005-12
チルミール→メキシレチン	106	※	B001-02
チルミン→テオフィリン	108	※	B001-02
中性脂肪(TG)	4	11	D007-01
虫体検出	114	23	D003-03
虫卵→虫卵(集卵)(浮遊・沈殿)	113	15	D003-01
虫卵→虫卵(塗抹)	113	20	D003-02
虫卵(集卵)(沈殿法)	113	15	D003-01
虫卵(集卵)(浮遊法)	113	15	D003-01
虫卵(塗抹)	113	20	D003-02
直接クームス試験	49	34	D011-02 イ
直接ビリルビン(D-Bil)	7	11	D007-01
沈渣(穿刺液)	117	-	
沈渣(尿)→尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)	113	(27)	D002
沈渣(尿)染色した場合→尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)(染色した場合)	113	(27+9)	D002

ツ	頁	保険点数	保険区分
ツツガ虫(Gilliam,Kato,Karp)IgG抗体	54	207	D012-43
ツツガ虫(Gilliam,Kato,Karp)IgM抗体	54	207	D012-43

テ	頁	保険点数	保険区分
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	37	154	D008-26
テイコプラニン	108	※	B001-02
デオキシピリジノリン(DPD)	45	191	D008-39
テオドール→テオフィリン	108	※	B001-02
テオフィリン	108	※	B001-02
テオロング→テオフィリン	108	※	B001-02
テグレートール→カルバマゼピン	103	※	B001-02
テストステロン	34	122	D008-14
鉄(Fe)	14	11	D007-01
鉄染色	97	97 頁参照	D005-06
テハイドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	32	169	D008-34
テバケン→パルプロ酸	103	※	B001-02
テヒドロエピアンドロステロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008-43
デルタアミノレブリン酸→δ-アミノレブリン酸	112	112	D001-11
テルバンス→テオフィリン	108	※	B001-02
デルタアミノレブリン酸(産業医学関連)→δ-アミノレブリン酸(産業医学関連)	17	-	
デルタアミノレブリン酸定量→δ-アミノレブリン酸	112	112	D001-11

# 索引 (50音)

ト	頁	保険点数	保険区分
糖→血糖(グルコース)	3	11	D007-01
透析液エンドトキシン	56	-	
透析液細菌検査(生菌数)(環境検査)	140	-	
糖定性(尿)	111	(26)	D000
糖定量(髄液)	116	11	D007-01
糖定量(穿刺液)	118	11	D007-01
糖定量(尿)	112	9	D001-02
銅(Cu)	15	23	D007-05
糖負荷試験	40	40 頁参照	D288
ドーパミン→カテコールアミン分画	28	165	D008-33
ドーパミン総	29	-	
塗抹鏡検→細菌顕微鏡検査	133	64	D017-03
トキソプラズマIgG抗体	53	93	D012-14
トキソプラズマIgM抗体	53	95	D012-15
トコフェロール→ビタミンE	19	-	
トピナ→トピラマート	104	※	B001-02
トピラマート	104	※	B001-02
トブラシン→トブラマイシン	107	※	B001-02
トブラマイシン	107	※	B001-02
トランスサイレチン→プレアルブミン	1	104	D015-12
トランスフェリン(血清)	70	60	D015-07
トリグリセライド→中性脂肪	4	11	D007-01
トリクロル酢酸→三塩化(トリクロル)酢酸	17	-	
トリコスポン・アサヒ抗体	52	847	D012-59
トリコモナス培養	136	136 頁参照	
トリブシン	10	189	D007-47
トリプトファン反応(髄液)	116	62	D004-03
トリメタジオン	103	※	B001-02
トリヨードサイロニン(T <sub>3</sub> )	27	99	D008-07
トロンピン・アンチトロンピン複合体(TAT)	101	176	D006-25
トロンボモジュリン	101	204	D006-28

ナ	頁	保険点数	保険区分
ナイアシン→ニコチン酸	19	-	
内分泌負荷試験	39	39 頁参照	D287
ナトリウム(Na)	13	(11)	D007-01
ナトリウム(髄液)	116	11	D007-01
鉛(Pb)	15	-	

ニ	頁	保険点数	保険区分
ニコチン酸(ナイアシン)	19	-	
ニッケル(Ni)	16	-	
ニトラゼパム	104	※	B001-02
日本脳炎(ウイルス抗体)	84・85	79	D012-11
乳癌HER2遺伝子(FISH)	155	2700	N005-01
乳酸	12	47	D007-13
乳酸脱水素酵素→LD/IFCC	8	11	D007-01
乳酸脱水素酵素アイソザイム→LDアイソザイム	11	48	D007-14
尿酸(UA)	6	11	D007-01
尿酸クリアランス	22	-	
尿素呼気試験(UBT)(クービット)	61	70	D023-2-2
尿素窒素(UN)	6	11	D007-01
尿蛋白/クレアチニン比→蛋白定量クレアチニン換算値	111	7	
尿蛋白免疫電気泳動(免疫固定法によるベンス・ジョーンズ蛋白(BJP)同定)	70	201	D015-22
尿中アルドステロン	32	125	
尿中アルブミン定量	112	99	D001-08
尿中コルチゾール	31	124	D008-15
尿中硫酸抱合型胆汁酸(USBA)	4	57	D007-18
尿中トランスフェリン	113	101	D001-09
尿中メチルイソブチルケトン(尿中MIBK)	159	-	

尿中レジオネラ抗原定性	58	211	D012-45
尿中肺炎球菌莢膜抗原定性→肺炎球菌莢膜抗原定性	58	193	D012-39
尿中FDP→線維素分解産物(尿中FDP)	112	72	D001-07
尿中NMP22定量	46	143	D009-13
尿中IV型コラーゲン	113	184	D001-15
尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)	113	(27)	D002
尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)(染色した場合)	113	(27+9)	D002
尿糖→糖定量(尿)	112	9	D001-02

ネ	頁	保険点数	保険区分
ネオラル→シクロスポリン	108	※	B001-02
ネオペリドール→ハロペリドール	104	※	B001-02
ネルボン→ニトラゼパム	104	※	B001-02

ノ	頁	保険点数	保険区分
脳梗塞リスク評価(A6C)	157	-	
ノルアドレナリン→カテコールアミン分画	28	165	D008-33
ノロウイルス抗原(BLEIA)	92	-	
ノロウイルス抗原定性	92	150	D012-26
ノンネアペルト反応(髄液)	116	62	D004-03

ハ	頁	保険点数	保険区分
肺炎球菌莢膜抗原定性《尿》・《髄液》	58	193	D012-39
肺サーファクタントプロテインA→SP-A	22	130	D007-35
肺サーファクタントプロテインD→SP-D	22	136	D007-37
梅毒血清反応→梅毒定性・半定量	51	51 頁参照	
培養検査	133	133 頁参照	
白血球数(WBC)(血液)	95	21	D005-05
白血球定性(尿)	111	(26)	D000
白血球像	95	15	D005-03
白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング	126	1940	D005-15
パス染色→PAS染色	97	97 頁参照	D005-06
馬尿酸(HA)	17	-	
パニールマンデル酸(VMA)	30	90	D008-04
パニールマンデル酸(VMA)定性(尿)→VMA定性(尿)	111	9	D001-02
ハプトグロビン(型判定含む)・(型判定なし)	7	132	D015-14
ハフトロン→サリチル酸	105	※	B001-02
ハベカシン→アルベカシン	107	※	B001-02
パラインフルエンザ(ウイルス抗体)	85	79	D012-11
パラチフス菌	134	134 頁参照	
バルプロ酸	103	※	B001-02
バレリン→バルプロ酸	103	※	B001-02
ハロステン→ハロペリドール	104	※	B001-02
ハロペリドール	104	※	B001-02
ハロマンズ→ハロペリドール	104	※	B001-02
パンコマイシン	108	※	B001-02
パンディ反応(髄液)	116	62	D004-03
反応(pH)(髄液)→pH(髄液)	116	62	D004-03
反応(pH)(精液)→pH(精液)	115	70	D004-04
反応(pH)(穿刺液)→pH(穿刺液)	117	-	
反応(pH)(尿)→pH(尿)	111	(26)	D000

ヒ	頁	保険点数	保険区分
ヒアルロン酸	12	179	D007-44
鼻炎・喘息・結膜炎【IgE特異的アレルギー疾患別セット】	76	76 頁参照	
比重(穿刺液)	117	-	
比重(髄液)	116	62	D004-03
比重(全血)→全血比重	96	-	
比重(尿)	111	(26)	D000
鼻汁中好酸球(エオジン細胞鏡検)	118	15	D005-03
ビタミンA(レチノール)	18	-	
ビタミンB <sub>1</sub> (チアミン)	18	239	D007-53

ビタミンB <sub>12</sub>	18	140	D007-38
ビタミンB <sub>2</sub> (リボフラビン)	18	242	D007-54
ビタミンB <sub>6</sub>	18	-	
ビタミンC (アスコルビン酸)	18	305	D007-60
ビタミンD→1 $\alpha$ -25-(OH) <sub>2</sub> ビタミンD	19	388	D007-61
ビタミンE (トコフェロール)	19	-	
ビタミンK分画	19	-	
ヒダントール→フェニトイン	103	※	B001-02
ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量 (HCG)	35	134	D008-21
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白→H-FABP定量	2	135	D007-38
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド→HANP	38	221	D008-46
ヒト精巢上体蛋白4 (HE4)	42	200	D009-25
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド→BNP	38	133	D008-20
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント→NT-proBNP	38	136	D008-22
ヒトパピローマウイルスDNA (HPV-DNA)	93	93 頁参照	
ヒトパルボB19IgG抗体	89	-	
ヒトパルボB19IgM抗体	89	206	D012-42
泌尿器・生殖器からの検体 (培養検査)	133	180	D018-04
ピプカII→PIVKA II 定量 (腫瘍マーカー)	44	135	D009-10
ピブリオ (検便検査)	140	-	
ピメノール→ピルメノール	106	※	B001-02
百日咳菌抗体	53	257	D012-51
百日咳菌培養	134	134 頁参照	
表面付着菌検査 (環境検査)	140	-	
病理組織顕微鏡検査	154	154 頁参照	
病理組織電子顕微鏡検査	155	155 頁参照	
ビリルビン (血清)→総ビリルビン、直接ビリルビン	7	11	D007-01
ビリルビン定性 (尿)	111	(26)	D000
ピルジカイニド塩酸塩→塩酸ピルジカイニド	105	※	B001-02
ピルビン酸	12	47	D007-13
ピルメノール	106	※	B001-02
ピレチノール→アセトアミノフェン	107	185	D007-47

**フ**

	頁	保険点数	保険区分
フィブリノゲン定量 (Fib)	98	23	D006-04
フィブリン・フィブリノゲン分解産物 (血漿FDP)	100	80	D006-11
フィラデルフィア染色体→BCR-ABL t(9;22)転座	122	2553+397	D006-05
フィラリア原虫	96	40	D005-07
風疹 (ウイルス抗体) [HI]	85	79	D012-11
風疹IgG抗体 [CLEIA]	90	206	D012-42
風疹IgG抗体 [EIA]	90	206	D012-42
風疹IgG抗体	90	206	D012-42
風疹IgM抗体	90	206	D012-42
フェニトイン	103	※	B001-02
フェノバルール→フェノバルビタール	103	※	B001-02
フェノバルビタール	103	※	B001-02
フェリチン定量	1	105	D007-25
フォン・ウィルブラント因子抗原定量 (V.W因子抗原定量)	99	147	D006-21
フォン・ウィルブラント因子活性 (V.W因子活性)	99	129	D006-16
不規則抗体	49	159	D011-04
副甲状腺負荷試験	39	39 頁参照	D287-05
副甲状腺ホルモン	27	165	D008-33
副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)	27	189	D008-38
副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	26	189	D008-38
副腎皮質負荷試験	39	39 頁参照	D287-05
ブドウ糖 (血糖)→血糖 (グルコース)	3	11	D007-01
不飽和鉄結合能 (UIBC) (ニトロソPSAP法)	14	11	D007-01
プラスミノゲンアクチペーターインヒビター 1 (PAI-1)	101	240	D006-33
プラスミノゲン活性	100	100	D006-13
プラスミノゲン抗原	100	100	D006-13
プラスミンインヒビター→アンチプラスミン	100	128	D006-15
プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 (PIC)	100	154	D006-22
プリミドン	103	※	B001-02
プレアルブミン (トランスサイレチン)	1	104	D015-12
フレカイニド	106	※	B001-02

プレグナンジオール (P <sub>2</sub> )	34	213	D008-43
プレグナントリオール (P <sub>3</sub> )	34	232	D008-48
プロカインアミド	105	※	B001-02
プロカルシトニン定量 (PCT)	56	284	D007-58
プログラフ→タクロリムス	108	※	B001-02
プログステロン	33	147	D008-24
プログステロンレセプター	154	690	N002-02
プロコラーゲン-III-ペプチド (P-III-P)	1	136	D007-37
プロステートヘルスインデックスセット (phiセット)	43	281	D009-27
プロテインC (抗原量)	101	232	D006-31
プロテインC活性	101	234	D006-32
プロテインS (抗原量)	101	158	D006-23
プロテインS (遊離型抗原量)	101	158	D006-23
プロテインS活性	101	163	D006-24
プロトボルフィリン定量 (血中)	8	272	D007-56
プロトロンビン時間 (PT)	98	18	D006-02
プロノン→プロパフェノン	105	※	B001-02
プロパフェノン	105	※	B001-02
プロプラノロール	106	-	
プロムペリドール	104	※	B001-02
プロラクチン (PRL)	26	98	D008-06
糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	61	142	D012-24

**ヘ**

	頁	保険点数	保険区分
ペーハー→pH (精液)	115	70	D004-04
ペーハー→pH (髄液)	116	62	D004-03
ペーハー→pH (穿刺液)	117	-	
ペーハー→pH (尿)	111	(26)	D000
ヘパルス→サリチル酸	105	※	B001-02
ペプシノゲン I・II (PG I・II)	11	-	
ヘブリコール→ヘブリジル	106	※	B001-02
ヘブリジル	106	※	B001-02
ヘマトクリット (Ht)	95	21	D005-05
ヘモグロビン (Hb)	95	21	D005-05
ヘモグロビン (潜血 LA) 定性 (糞便)	114	37	D003-05
ヘモグロビン (潜血 LA) 定量 (糞便)	114	41	D003-07
ヘモグロビン (潜血金コロイド) 定性 (糞便)	114	37	D003-05
ヘモグロビン (潜血金コロイド) 定量 (糞便)	114	41	D003-07
ヘモグロビン・トランスフェリン (Hb・Tf) 定性 (糞便)	114	56	D003-08
ヘモグロビン・トランスフェリン (Hb・Tf) 定量 (糞便)	114	56	D003-08
ヘモグロビンA <sub>1c</sub> →HbA <sub>1c</sub>	3	49	D005-09
ヘモグロビンF	158	60	D005-11
ヘリコバクター・ピロリ感受性検査	137	137 頁参照	
ヘリコバクター・ピロリ抗原 (糞便中)→糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	61	142	D012-24
ヘリコバクター・ピロリ IgG 抗体 (国内株)	55	80	D012-12
ヘリコバクター・ピロリ抗体/国内株	55	80	D012-12
ヘリコバクター・ピロリ培養	135	135 頁参照	
ペルオキシダーゼ染色	97	97 頁参照	D005-06
ベンザリン→ニトラゼパム	104	※	B001-02
ベンスジョーンズ蛋白定性 (尿)	111	9	D001-02
ベンスジョーンズ蛋白同定→尿蛋白免疫電気泳動	71	203	D015-22
扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原)	43	104	D009-04
便潜血	114	114 頁参照	

**ホ**

	頁	保険点数	保険区分
補体蛋白C <sub>3</sub> →C <sub>3</sub>	69	70	D015-08
補体蛋白C <sub>4</sub> →C <sub>4</sub>	69	70	D015-08
ホモシステイン→総ホモシステイン	20	295	D010-05-イ
ホモパニリン酸 (HVA)	29	69	D008-03
ホリゾン→ジアゼパム	104	※	B001-02
ポルフォビリノーゲン定量 (尿)	112	191	D001-17

# 索引 (50音)

マ	頁	保険点数	保険区分
マイクロサテライト不安定性検査 (HNPPC・リン症候群)	131	2100	D004-2 1イ-2
マイクロサテライト不安定性 (MSI) 検査 (CDX)	131	2500	D004-2 1イ-1
マイクロトランスフェリン→尿中トランスフェリン	113	101	D001-09
マイコバクテリウム・アビウム及びイトラセルラ-核酸検出→MAC DNA (PCR)	58	421	D023-14
マイコプラズマ培養	134	134 頁参照	
マイコプラズマ抗体半定量	51	32	D012-04
マイスタン→クロパザム	104	※	B001-02
マグネシウム (Mg)	14	11	D007-01
麻疹 (ウイルス抗体)	86	79	D012-11
麻疹IgG抗体	90	206	D012-42
麻疹IgM抗体	90	206	D012-42
末梢血液一般検査	95	21	D005-05
マトリックスメタロプロテイナーゼ-3→MMP-3	62	116	D014-08
マラリア原虫	96	40	D005-07
マンガン (Mn)	16	27	D007-08
マンデル酸及びフェニルグリオキシン酸総量 (MA及びPGA総量)	17	-	

ミ	頁	保険点数	保険区分
ミオグロビン定量	2	135	D007-36
ミオシン→心室筋ミオシン軽鎖 I	2	184	D007-45
ミクロフィラリア→フィラリア原虫	96	40	D005-07
ミコフェノール酸	108	※	B001-02
ミトコンドリア抗体→抗ミトコンドリア抗体	68	181	D014-20
ミノアレ→トリメタジオン	103	※	B001-02

ム	頁	保険点数	保険区分
無機リン (IP)	14	17	D007-03
無菌試験 (環境検査)	140	-	
ムチン塊形成試験	117	-	
ムンプス (ウイルス抗体)	84・85・86	79	D012-11
ムンプスIgG抗体	90	206	D012-42
ムンプスIgM抗体	90	206	D012-42

メ	頁	保険点数	保険区分
メキシチール→メキシレチン	106	※	B001-02
メキシレチン	106	※	B001-02
メソトレキサート→メトトレキサート	107	※	B001-02
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	30	220	D008-45
メチル馬尿酸 (MHA)	17	-	
メトトレキサート	107	※	B001-02
免疫グロブリン→IgA	69	38	D015-04
免疫グロブリン→IgE	75	100	D015-10
免疫グロブリン→IgG	69	38	D015-04
免疫グロブリン→IgM	69	38	D015-04
免疫抗体法による病理組織顕微鏡検査	152	152 頁参照	
免疫電気泳動 (抗ヒト全血清による定性)	71	170	D015-17
免疫電気泳動 (免疫固定法によるM蛋白同定)	71	218	D015-24
免疫複合体→モノクローナルRF結合免疫複合体	62	194	D014-23

モ	頁	保険点数	保険区分
網赤血球数	96	12	D005-02
モノクローナルRF結合免疫複合体 (mRF -IC)	62	194	D014-23
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	124		

ヤ	頁	保険点数	保険区分
薬剤感受性検査	137	135 頁参照	
薬剤血中濃度	103 ~ 108	109 頁参照	
薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST)	128	128 頁参照	D016-07

ユ	頁	保険点数	保険区分
有核細胞数 (穿刺液)	118	-	
有機モノカルボン酸定量→ピルビン酸	12	47	D007-13
有機モノカルボン酸定量→乳酸	12	47	D007-13
遊離コレステロール (F-Cho)	4	11	D007-01
遊離サイロキシン (F-T <sub>4</sub> )	27	124	D008-15
遊離脂肪酸 (FFA・NEFA)	4	59	D007-19
遊離テストステロン	34	159	D008-29
遊離トリヨードサイロニン (F-T <sub>3</sub> )	27	124	D008-15
遊離βHCG (HCGβサブユニット)	35	132	D008-19
遊離L鎖κ / λ比 (FLC)	70	388	D015-29
ユービット→尿素呼気試験	61	70	D023-2-2
ユニコン→テオフィリン	108	※	B001-02
ユニフィル→テオフィリン	108	※	B001-02

ヨ	頁	保険点数	保険区分
葉酸	18	150	D007-41

ラ	頁	保険点数	保険区分
ラミクタール→ラモトリギン	104	※	B001-02
ラモトリギン	104	※	B001-02
卵巣悪性腫瘍推定値→ROMA	42	-	
卵巣刺激ホルモン (FSH)	26	108	D008-13
ランドセン→クロナゼパム	103	※	B001-02

リ	頁	保険点数	保険区分
リウマトイド因子 (RF) 定性	62	-	
リウマトイド因子 (RF) 定量	62	30	D014-02
リストセチンコファクター→フォン・ウィルブランド因子活性	99	129	D006-16
リスモダン→ジソピラミド	106	※	B001-02
リゾチーム	10	-	
リチウム→炭酸リチウム	104	※	B001-02
リドカイン	106	※	B001-02
リパーゼ	9	24	D007-06
リパルタ反応 (穿刺液)	117	-	
リボ蛋白分画	4	49	D007-15
リボ蛋白リパーゼ (LPL)	9	219	D007-51
リボ蛋白 (a) (LP (a))	5	107	D007-26
リボトロール→クロナゼパム	103	※	B001-02
リボフラビン→ビタミンB <sub>2</sub>	18	242	D007-54
リボプロテイン (a)→リボ蛋白 (a)	5	107	D007-26
リーマス→炭酸リチウム	104	※	B001-02
硫酸キニジン→キニジン	106	※	B001-02
緑膿菌	134	134 頁参照	
燐→無機リン	14	17	D007-03
淋菌核酸増幅→淋菌DNA (PCR)	60	204	D023-03
淋菌 / クラミジア・トラコマチス同時測定DNA (PCR)	60	270	D023-05
淋菌DNA (PCR)	60	204	D023-03
淋菌培養	135	135 頁参照	
リン脂質 (PL)	4	15	D007-02
リンパ球混合培養試験→MLC	127	-	
リンパ球幼若化検査 (Con-Aによるリンパ球幼若化検査)	128	345	D016-07
リンパ球幼若化検査 (PHAによるリンパ球幼若化検査)	128	345	D016-07

ル	頁	保険点数	保険区分
ループスアンチコアグラント(LA)	66	273	D014-35
ルンバルグ反応(穿刺液)	117	-	

レ	頁	保険点数	保険区分
レジオネラ抗原定性→尿中レジオネラ抗原定性	58	211	D012-45
レジオネラ培養	134	134 頁参照	
レチクロ→網赤血球数	96	12	D005-02
レチノール→ビタミンA	18	-	
レチノール結合蛋白(RBP)	18	136	D015-15
レニン活性(PRA)	36	100	D008-08
レニン定量(ARC)	36	105	D008-11
レベチラセタム	104	※	B001-02
レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	4	179	D007-43

ロ	頁	保険点数	保険区分
ロイシンアミノペプチダーゼ→LAP	9	11	D007-01
ロイシンリッチ $\alpha_2$ グリオブリン(LRG)	67	276	D007-57

# 索引 (アルファベット)

A	頁	保険点数	保険区分
ABO血液型	49	24	D011-01
ACE→アンギオテンシンⅠ転換酵素	10	140	D007-38
ACTH→副腎皮質刺激ホルモン	26	189	D008-38
ADA→アデノシンデアミナーゼ	10	32	D007-12
ADAMTS13活性	99	400	D006-34
ADAMTS13インヒビター定量	99	1000	D006-35
ADH→AVP	26	235	D008-49
AFP→α-フェトプロテイン	41	101	D009-03
AFP-L3%→α-フェトプロテインレクチン分画	41	190	D009-23
A/G比	1	-	
Al→アルミニウム	15	112	D007-29
ALD→アルドラーゼ	9	11	D007-01
ALP/IFCC (アルカリホスファターゼ)	8	11	D007-01
ALPアイソザイム	11	48	D007-15
ALP染色→アルカリホスファターゼ染色	97	97頁参照	D005-06
ALT (アラニンアミノトランスフェラーゼ) (GPT)	8	17	D007-03
AMA→抗ミトコンドリア抗体	68	181	D014-20
AMA-M2→抗ミトコンドリアM2抗体	68	189	D014-21
AMH→抗ミュラー管ホルモン	34	-	
AML1-ETO t(8;21)転座→RUNX1-RUNX1T1 (AML1-MTG8) t(8;21)転座	122	2553+397	D006-5
AMY→アミラーゼ	9	11	D007-01
AMYアイソザイム→アミラーゼアイソザイム	12	48	D007-15
ANA→抗核抗体半定量	63	102	D014-05
Angelman症候群(15番染色体D15S10)→15染色体(アンジェルマン症候群)	121	2553+397	D006-5
APTT→活性化部分トロンボプラスチン時間	98	29	D006-07
ARC→レニン定量	36	105	D008-11
ASO→抗ストレプトリジンO定量	51	15	D012-01
AST (アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ) (GOT)	8	17	D007-03
AT-III→アンチトロンピン活性	100	70	D006-10
ATLA→HTLV-I抗体(第3世代)	82	163	D012-31
ATLA→HTLV-I抗体(ラインプロット法・LIA法)	82	425	D012-56
AVP (アルギニンバソプレシン)	26	235	D008-49
A6C→脳梗塞リスク評価	157	-	

B	頁	保険点数	保険区分
B型肝炎ウイルスコア関連抗原 (HBcrAg)	80	259	D013-12
B群連鎖球菌 (GBS) 培養	135	135頁参照	
B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgG, IgA, IgM, IgD, K, L	123	157	D016-01
BAP (骨型アルカリホスファターゼ)	11	161	D008-30
BCA225	42	158	D009-17
BCR-ABL1 t(9;22)転座(フィラデルフィア染色体)	122	2553+397	D006-05
BFP (塩基性フェトプロテイン)	41	150	D009-16
BGP→オステオカルシン	37	157	D008-28
B-J蛋白定性→パンスジョーンズ蛋白定性(尿)	111		
B-J蛋白同定→尿蛋白免疫電気泳動	71	203	D015-22
BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	38	133	D008-20
BTR (総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比)	20	283	D010-05

C	頁	保険点数	保険区分
C反応性蛋白 (CRP) 定性	70	16	D015-01
C反応性蛋白 (CRP) 定量	70	16	D015-01
C-ペプチド	28	108	D008-13
Ca→カルシウム	13	11	D007-01
c-AMP→サイクリックAMP	36	170	D008-35
CA15-3	41	115	D009-06
CA19-9	41	124	D009-09
CA72-4	42	146	D009-15
CA125	41	140	D009-11
CA・RF→抗ガラクトース欠損IgG抗体定量	62	114	D014-07
C-ANCA→PR3-ANCA	67	259	D014-31
CCR4タンパク (FCM)	126	10000	D006-10

CCR4蛋白 (IHC)	154	10000	N002-05
Cd→カドミウム	15	-	
CD45ゲーティング	126	1940	D005-15
CEA (癌胎児性抗原)	41	99	D009-02
CH <sub>50</sub> →血清補体価	69	38	D015-04
ChE→コリンエステラーゼ	8	11	D007-01
CK (クレアチンキナーゼ)	9	11	D007-01
CKアイソザイム	12	55	D007-17
CK-MB	9	90	D007-22
CKS1B 1q21 増幅	122	2553+397	D006-5
Cl→クロール	13	(11)	D007-01
Cl→クロール(髄液)	116	11	D007-01
CMV (C10, C11)→サイトメガロウイルスpp65抗原定性 (C10, C11)	92	366	D012-54
CMV→サイトメガロ (ウイルス抗体)	84	79	D012-11
CMV→サイトメガロIgG抗体	90	206	D012-42
CMV→サイトメガロIgM抗体	90	206	D012-42
Con-Aによるリンパ球幼若化検査	128	345	D016-07
CP→セルロプラスミン	1	90	D015-09
CPR→C-ペプチド	28	108	D008-13
Cr→クロム	16	-	
CRP定性→C反応性蛋白定性	70	16	D015-01
CRP定量→C反応性蛋白定量	70	16	D015-01
CSLEX (シアリルLe <sup>x</sup> 抗原)	42	160	D009-18
Cu→銅	15	23	D007-05
CYFRA21-1→シフラ	43	158	D009-17
C1インアクチベーター活性	101	260	D015-25
C1q	69	-	
C <sub>3</sub> (β <sub>1</sub> C/β <sub>1</sub> Aグロブリン)	69	70	D015-08
C <sub>4</sub> (β <sub>1</sub> Eグロブリン)	69	70	D015-08

D	頁	保険点数	保険区分
Dダイマー	100	130	D006-17
D-Bil→直接ビリルビン	7	11	D007-01
DHEA-S→デハイドロエピアンドロステロンサルフェート	32	169	D008-34
DLST→薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST)	128	128頁参照	D016-07
DOC→11-デオキシコルチコステロン	31	-	
DPD→デオキシピリジノリン	45	191	D008-39
DUPAN-2	41	118	D009-07
D13S319 del(13)長腕欠失	122	2553+397	D006-5

E	頁	保険点数	保険区分
EBウイルス (ウイルス抗体)	89	206	D012-40
EBウイルス (ウイルス抗体)	89	79	D012-11
EGFR遺伝子変異解析 [リアルタイムPCR法]	130	2500	D004-21イ
EGFR遺伝子変異解析《血漿》	129	2100	D006-12
EGFRタンパク	156	690	N002-04
eGFRcreat	22	-	
eGFRcys	22	-	
EHEC O157 (検便検査)	140	-	
ESBL (基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ)産生菌	135	135頁参照	
ESR→赤血球沈降速度	96	(9)	D005-01
E <sub>2</sub> →エストロジオール(血清)	33	172	D008-36

F	頁	保険点数	保険区分
F-Cho→遊離コレステロール	4	11	D007-01
FDP→フィブリン・フィブリノゲン分解産物(血漿FDP)	100	80	D006-11
FDP→線維素分解産物(尿中FDP)	112	72	D001-07
Fe→鉄	14	11	D007-01
FFA→遊離脂肪酸	4	59	D007-19
Fib→フィブリノゲン定量	98	23	D006-04
FLC→遊離L鎖κ/λ比	70	388	D015-29
FSH→卵巣刺激ホルモン	26	108	D008-13
F-T <sub>3</sub> →遊離トリヨードサイロニン	27	124	D008-15



F-T <sub>4</sub> →遊離サイロキシン	27	124	D008-15
FTA-ABS試験 定性	51	134	D012-21
FTA-ABS試験 半定量	51	134	D012-21

**G**

	頁	保険点数	保険区分
GA→グリコアルブミン	3	55	D007-17
GB→全血比重	96	-	
G-band法(血液疾患)	122	2553+397	D006-5
G-band法(先天性疾患)	121	2553+397	D006-5
GBM→抗糸球体基底膜抗体	67	262	D014-32
GBS→B群連鎖球菌(GBS)培養	135	135 頁参照	
GH→成長ホルモン	25	108	D008-13
GOT→AST	8	17	D007-03
GPT→ALT	8	17	D007-03
GU→グアナーゼ	10	35	D007-12

**H**

	頁	保険点数	保険区分
HA→馬尿酸	17	-	
HA-IgG抗体	80	146	D013-08
HA-IgM抗体	80	146	D013-08
HANP(ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	38	221	D008-46
Hb→ヘモグロビン	95	21	D005-05
HbA <sub>1c</sub>	3	49	D005-09
HbF→ヘモグロビンF	158	60	D005-11
HBs抗原定性	79	29	D013-01
HBs抗原	79	88	D013-03
HBs抗体定性	79	32	D013-02
HBs抗体	79	88	D013-03
HBc抗体	79	133	D013-06
HBc-IgM抗体	79	146	D013-08
HBcrAg→B型肝炎ウイルスコア関連抗原	80	259	D013-12
HBe抗原	79	101	D013-04
HBe抗体	79	101	D013-04
HBVゲノタイプ(判定)	80	340	D013-14
HBV-DNA定量(リアルタイムPCR法)	80	263	D023-04
HCG→ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量	35	134	D008-21
HCGβサブユニット→遊離βHCG	35	132	D008-19
HCV群別	81	221	D013-11
HCVコア抗原	81	105	D013-05
HCV抗体	81	105	D013-05
HCV-RNA定量(リアルタイムPCR法)	81	424	D023-15
HDL-コレステロール(HDL-C)	3	17	D007-03
HDL-C→HDL-コレステロール	3	17	D007-03
HER2/neuタンパク(病理組織)	156	690	N002-03
HER2/neuタンパク(大腸癌)	156	690	N002-03
HE4→ヒト精巣上体蛋白4	42	200	D009-25
H-FABP定量(ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	2	135	D007-38
Hg→水銀	16	-	
HGF→肝細胞増殖因子	2	227	D007-50
HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	50	390	D011-10
HIV-1RNA定量(リアルタイムPCR法)	83	520	D023-17
HIV-1/2特異抗体	83	660	D012-58
HIV抗原・抗体	83	112	D012-19
HLA-A(DNAタイピング)	127	-	
HLA-A,B(血清対応型タイピング)	127	-	
HLA-B(DNAタイピング)	127	-	
HLA-C(DNAタイピング)	127	-	
HLA-DPB1(DNAタイピング)	127	-	
HLA-DQB1(DNAタイピング)	127	-	
HLA-DR(血清対応型タイピング)	127	-	
HLA-DRB1(DNAタイピング)	127	-	
HP抗体国内株→ヘリコバクター・ピロリ抗体/国内株	55	80	D012-12
HPV→ヒトパピローマウイルス	93	93 頁参照	
HPV-DNA検出(高リスク)	93		

HPV-DNA簡易ジェノタイプ(16型、18型その他ハイリスクグループ)	93	352	D023-11
HPV-DNAジェノタイプ(ハイリスク13種)	93	2000	D023-22
HPV-DNA型別	93	-	
HSV→単純ヘルペス(ウイルス抗体)	84・86	79	D012-11
HSV→単純ヘルペスIgG抗体	90	206	D012-42
HSV→単純ヘルペスIgM抗体	90	206	D012-42
HSV→単純ヘルペスウイルス(HSV)抗原	92	180	D012-37
Ht→ヘマトクリット	95	21	D005-05
HTLV-I抗体(第3世代)(ATLA)	82	163	D012-31
HTLV-I抗体 半定量	82	85	D012-13
HTLV-I抗体(ATLV)(ラインプロット法・LIA法)	82	425	D012-56
HVA→ホモバニリン酸	29	69	D008-03

**I**

	頁	保険点数	保険区分
ICA→抗ランゲルハンス島細胞抗体	160		
IEP→免疫電気泳動(抗ヒト血清による定性)	70	170	D015-17
IEP→免疫電気泳動(免疫固定法によるM蛋白固定法)	70	218	D015-24
IgA	69	38	D015-04
IgE(非特異的IgE)	75	100	D015-10
IgEシングルアレルゲン	75	110	D015-13
IgE特異的アレルゲン(疾患別セット)・10アレルゲンセット	76	1100	D015-13
IgE特異的アレルゲン(疾患別セット)・13アレルゲンセット	76	1430	D015-13
IgEマルチアレルゲン	75	110	D015-13
IGF-1→ソマトメジンC	25	212	D008-42
IgG	69	38	D015-04
IgG型リウマトイド因子(IgG-RF)	62	198	D014-24
IgG-RF→IgG型リウマトイド因子	62	198	D014-24
IgG2	69	239	D014-29
IgG4	69	377	D014-39
IgM	69	38	D015-04
IGH-CCND1 t(11;14)転座	122	2553+397	D006-5
IGH/MYC t(8;14)転座	122	2553+397	D006-5
IGH-FGFR3 t(4;14)転座	122	2553+397	D006-5
IGH-MAF t(14;16)転座	122	2553+397	D006-5
IL-2R→インターロイキン2受容体	46	438	D009-29
IP→無機リン	14	17	D007-03
IRG→グルカゴン	28	150	D008-25
IRI→インスリン	28	103	D008-10

**K**

	頁	保険点数	保険区分
K→カリウム	13	11	D007-01
K→カリウム(髄液)	116	11	D007-01
KL-6	22	111	D007-28

**L**

	頁	保険点数	保険区分
L型脂肪酸結合蛋白→L-FABP	113	210	D001-19
L-ドーパ	29	-	
LA→ループスアンチコアグラント	66	273	D014-35
LAP(ロイシンアミノペプチダーゼ)	9	11	D007-01
LD/IFCC(乳酸脱水素酵素)	8	11	D007-01
LDアイソザイム	11	48	D007-14
LDL-C→LDL-コレステロール	3	18	D007-04
LDL-コレステロール(LDL-C)	3	18	D007-04
L-FABP	113	210	D001-19
LH→黄体形成ホルモン	26	108	D008-13
LP(a)→リポ蛋白(a)	5	107	D007-25
LPL→リポ蛋白リパーゼ	9	219	D007-51
LRG→ロイシンリッチα <sub>2</sub> グリオプロテイン	67	276	D007-57
LST→薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	128	128 頁参照	D016-07

# 索引 (アルファベット)

M	頁	保険点数	保険区分
M2BPGi (MAC2 結合蛋白糖鎖修飾異性体)	20	194	D007-48
MA→マンデル酸及びフェニルグリオキシン酸総量	17	-	
MAC DNA (PCR) (マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセラー核酸検出)	58	421	D023-14
MAC抗体	52	116	D012-17
MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体→M2BPGi	20	194	D007-48
MBL (メタロβ-ラクタマーゼ)産生菌	135	135 頁参照	
MDRP (多剤耐性緑膿菌)	135	135 頁参照	
Mg→マグネシウム	14	11	D007-01
MHA→メチル馬尿酸	17	-	
MLC (リンパ球混合培養試験)	127	-	
MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	62	116	D014-08
Mn→マンガン	16	27	D007-08
MPO-ANCA (P-ANCA) (抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	67	258	D014-30
mRF-IC→モノクローナルRF結合免疫複合体	62	194	D014-23
MRSA	134	134 頁参照	

N	頁	保険点数	保険区分
N-メチルホルムアミド	17	-	
Na→ナトリウム	13	(11)	D007-01
Na→ナトリウム(髄液)	116	11	D004-01
NAG	112	41	D001-05
NCC-ST-439	41	115	D009-06
NEFA→遊離脂肪酸	4	59	D007-19
NH <sub>3</sub> →アンモニア	7	50	D007-16
Ni→ニッケル	16	-	
NK細胞活性	128	-	
NMP22定量→尿中NMP22定量	46	143	D009-13
non-HDL-コレステロール (non-HDL-C)	3	-	
NSE (神経特異エノラーゼ)	44	142	D009-12
NT-proBNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	38	136	D008-22
NTx (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド)	45	156	D008-27

O	頁	保険点数	保険区分
O-157	134	134 頁参照	

P	頁	保険点数	保険区分
P型アミラーゼ→膵アミラーゼ (P-AMY)	9	48	D007-14
P <sub>2</sub> →プレグナンジオール	34	213	D008-43
P <sub>3</sub> →プレグナントリオール	34	232	D008-48
P-III-P→プロコラーゲン-III-ペプチド	1	136	D007-37
PAC/PRA比→アルドステロン/レニン活性比	32	-	
PAC/PRC比→アルドステロン/レニン定量比	32	-	
PAI-1→プラスミノゲンアクチベーターインヒビター1	101	247	D006-33
PA-IgG→血小板関連IgG	50	193	D011-06
P-AMY→膵アミラーゼ	9	48	D007-14
P-ANCA→MPO-ANCA (P-ANCA) (抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	67	258	D014-30
PAS染色	97	97 頁参照	D005-06
Pb→鉛	15	-	
PCT→プロカルシトニン定量	56	284	D007-58
PF→蛋白分画	1	18	D007-04
PF4→血小板第4因子	102	178	D006-26
PFD (PABA 排出率) (膵機能)	22	100	D289-01
PG I・II→ペプシノゲン I・II	11	-	
pH (髄液)	116	62	D004-03
pH (精液)	115	70	D004-04
pH (穿刺液)	117	-	
pH (尿)	111	(26)	D000
PHAによるリンパ球幼若化検査	128	345	D016-07
phiセット→プロステートヘルスインデックスセット	43	281	D009-27

PIC→プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	100	154	D006-22
PIVKA II 定量 (腫瘍マーカー)	44	135	D009-10
PL→リン脂質	4	15	D007-02
PLA <sub>2</sub> →膵ホスホリパーゼA <sub>2</sub>	11	204	D007-49
PLT→血小板数	95	21	D005-05
PML-RARA t (15;17) 転座	122	2553+397	D006-5
PR3-ANCA (C-ANCA) (抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体)	67	259	D014-31
PRA→レニン活性	36	100	D008-08
Prader-Willi症候群 (15番染色体 SNRPN)	121	2553+397	D006-5
PRL→プロラクチン	26	98	D008-06
Pro GRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	44	175	D009-22
PRSP	135	135 頁参照	
PSA (前立腺特異抗原)	43	124	D009-09
PSA-ACT	43	124	D009-09
PT→プロトロンビン時間	98	18	D006-02
PTH-Intact→副甲状腺ホルモン	27	165	D008-33
PTHrP→副甲状腺ホルモン関連蛋白	27	189	D008-38
p53 17p13 欠失→TP53 del(17) 短腕欠失	122	2553+397	D006-5

Q	頁	保険点数	保険区分
QFTプラス→結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	58	594	D015-30

R	頁	保険点数	保険区分
RAS/BRAF 変異解析	130	4000	D004-2注工
RBC→赤血球数	95	21	D005-05
RBP→レチノール結合蛋白	18	136	D015-15
RF定性(リウマトイド因子)→リウマトイド因子定性	62	-	
RF定量(リウマトイド因子)→リウマトイド因子定量	62	30	D014-02
Rh(D)血液型	49	24	D011-01
Rh-Hr式血液型	49	156	D011-03
RLP-C→レムナント様リポ蛋白コレステロール	4	179	D007-43
ROMA (卵巣悪性腫瘍推定値)	42	-	
RPR (梅毒) 定性	51	15	D012-01
RPR (梅毒) 半定量	51	34	D012-05
RS (ウイルス抗体)	84・86	79	D012-11
RUNX1-RUNX1T1 (AML1-MTG8) t(8;21) 転座	122	2553+397	D006-5

S	頁	保険点数	保険区分
SAA→血清アミロイドA蛋白	70	47	D015-06
SCC抗原→扁平上皮癌関連抗原	43	104	D009-04
SFMC→可溶性フィブリンモノマー複合体	100	93	D006-12
Single color 顕微鏡によるリン/癌腫マーカー染色→モノクローナル抗体によるリン/癌腫マーカーの自動顕微鏡	124		
SLX (シアリルLe <sup>x</sup> -i抗原)	42	144	D009-14
Span-1	42	144	D009-14
SP-A (肺サーファクタント蛋白 A)	22	130	D007-35
SP-D (肺サーファクタント蛋白 D)	22	136	D007-37
STN→シアリルTn抗原	42	146	D009-15

T	頁	保険点数	保険区分
T <sub>3</sub> →トリヨードサイロニン	27	99	D008-07
T <sub>4</sub> →サイロキシン	27	108	D008-12
TARC (Th2ケモカイン)	75	184	D015-19
TAT→トロンビン・アンチトロンビン複合体	101	176	D006-25
TBA→総胆汁酸	5	47	D007-13
TBG→サイロキシン結合グロブリン	27	130	D008-17
T-Bil→総ビリルビン	7	11	D007-01
TB-PCR→結核菌DNA (PCR)	58	410	D023-13
TB-インターフェロン-γ→結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	58	594	D015-30
TCA→三塩化(トリクロル)酢酸	17	-	
T-Chol→総コレステロール	3	17	D007-03
Tf→トランスフェリン	70	60	D015-07

TG→中性脂肪	4	11	D007-01
Tg→サイログロブリン	27	131	D008-18
Th2ケモカイン→TARC	75	184	D015-19
TIBC→総鉄結合能(直接比色法/ニトロソPSAP法(計算法))	14	11	D007-01
TK活性→チミジンキナーゼ活性	96	233	D005-12
TL→総脂質	4	-	
TM→トロンボモジュリン	101	204	D006-28
TnT→心筋トロポニンT	2	112	D007-29
total PINP(I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	11	164	D008-32
TP→総蛋白	1	11	D007-01
TPA(組織ポリペプチド抗原)	44	110	D009-05
TP抗体(梅毒定性)	51	32	D012-04
TP抗体(梅毒半定量)	51	53	D012-06
TP53 del(17)短腕欠失	122	2553+397	D006-5
TRAb(第3世代)→TSHレセプター抗体(第3世代)	63	220	D014-26
TRACP-5b定量(酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ)	45	156	D008-27
TSAAb(TSH刺激性レセプター抗体)	63	340	D014-38
TSH→甲状腺刺激ホルモン	26	101	D008-09
TSH刺激性レセプター抗体→TSAAb	63	340	D014-38
TSHレセプター抗体(第3世代)	63	220	D014-26
T-SPOT.TB→結核菌特異的インターフェロン- $\gamma$ 産生能	58	594	D015-30
TTC→総三塩化物	17	-	
Two-color 解析によるリンパ球表面マーカー検査	125	125 頁参照	D016-02
T細胞サブセット(CD4, CD8)	123	185	D016-02
T細胞・B細胞百分率(CD3,CD19)	123	198	D016-03

**U** 頁 保険点数 保険区分

UA→尿酸	6	11	D007-01
UBT→尿素呼吸試験	61	70	D023-2-2
ucOC→低カルボキシル化オステオカルシン	37	154	D008-26
UGT1A1 遺伝子多型解析	132	2004	D006-7
UIBC→不飽和鉄結合能	14	11	D007-01
UN→尿素窒素	6	11	D007-01
USBA→尿中硫酸抱合型胆汁酸	4	57	D007-18

**V** 頁 保険点数 保険区分

Viewアレルギー39	75	1430	D015-13
VMA→バニールマンデル酸	30	90	D008-04
VMA 定性(尿)	111	9	D001-02
v.Willebrand 因子活性	99	129	D006-16
v.Willebrand 因子抗原定量	99	147	D006-21
VRE(バンコマイシン耐性腸球菌)	135	135 頁参照	
VZV→水痘・帯状ヘルペス(ウイルス抗体)	84・90	79	D012-11
VZV→水痘・帯状ヘルペス(VZV) 抗原	92	227	D012-48
VZV→水痘・帯状ヘルペスIgG抗体	90	206	D012-42
VZV→水痘・帯状ヘルペスIgM抗体	90	206	D012-42

**W** 頁 保険点数 保険区分

WBC→白血球数	95	21	D005-05
Whole-PTH	27	165	D008-33

**Y** 頁 保険点数 保険区分

Y染色体微小欠失(AZF欠失)	157		
-----------------	-----	--	--

**Z** 頁 保険点数 保険区分

Zn→亜鉛	15	144	D007-39
-------	----	-----	---------

**$\alpha$**  頁 保険点数 保険区分

$\alpha$ -フェトプロテイン(AFP)	41	101	D009-03
$\alpha$ -フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)	41	190	D009-23
$\alpha$ FP→ $\alpha$ -フェトプロテイン	41	101	D009-03
$\alpha_1$ -アシドグリコプロテイン→ $\alpha_1$ -酸性糖蛋白	44	-	
$\alpha_1$ -アンチトリプシン	71	80	D006-11
$\alpha_1$ -マイクログロブリン( $\alpha_1$ -MG)	2	132	D015-14
$\alpha_1$ -酸性糖蛋白( $\alpha_1$ -AGP)	44	-	
$\alpha_1$ -AGP→ $\alpha_1$ -酸性糖蛋白	44	-	
$\alpha_2$ -プラスミンインヒビター→アンチプラスミン	100	131	D006-15
$\alpha_2$ -プラスミンインヒビター・プラスミン複合体PIC→プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	100	154	D006-22
$\alpha_2$ -PIC→プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	100	154	D006-22

**$\beta$**  頁 保険点数 保険区分

$\beta$ -トロンボグロブリン( $\beta$ -TG)	102	176	D006-25
$\beta$ -リポ蛋白( $\beta$ -LP)	4	-	
$\beta$ -D-グルカン→(1→3)- $\beta$ -D-グルカン	56	201	D012-41
$\beta$ -LP→ $\beta$ -リポ蛋白	4	-	
$\beta$ -TG→ $\beta$ -トロンボグロブリン	102	176	D006-25
$\beta_1$ C/ $\beta_1$ Aグロブリン→ $C_3$	69	70	D015-08
$\beta_1$ Eグロブリン→ $C_4$	69	70	D015-08
$\beta_2$ -マイクログロブリン( $\beta_2$ -MG)	2	101	D015-11

**$\gamma$**  頁 保険点数 保険区分

$\gamma$ -GT( $\gamma$ -グルタミルトランスペプチダーゼ)	8	11	D007-01
$\gamma$ -セミノプロテイン→ $\gamma$ -Sm	44	194	D009-24
$\gamma$ -Sm( $\gamma$ -セミノプロテイン)	44	194	D009-24

**$\delta$**  頁 保険点数 保険区分

$\delta$ -アミノレブリン酸( $\delta$ -ALA)(産業医学関連)	17	-	
$\delta$ -アミノレブリン酸( $\delta$ -ALA)	112	109	D001-11
$\delta$ -ALA→ $\delta$ -アミノレブリン酸(産業医学関連)	17	-	
$\delta$ -ALA→ $\delta$ -アミノレブリン酸	112	109	D001-11

**数字** 頁 保険点数 保険区分

(1→3)- $\beta$ -D-グルカン	56	201	D012-41
I CTP(I型コラーゲンCテロペプチド)	45	170	
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド→NTx	45	156	D008-27
I型コラーゲンCテロペプチド→I CTP	45	170	
I型プロコラーゲン-N-プロペプチド→total PINP	11	164	D008-32
1 $\alpha$ -25-(OH) $_2$ ビタミンD(1,25-ジヒドロキシビタミンD3)	19	388	D007-61
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5-AG)	3	80	D007-21
1,5-AG→1,5-アンヒドロ-D-グルシトール	3	80	D007-21
2,5-ヘキササンジオン(2,5-HD)	17	-	
IV型コラーゲン	1	135	D007-38
IV型コラーゲン7S	1	148	D007-40
5-ヒドロキシインドール酢酸(5-HIAA)	29	95	D008-05
5-HIAA→5-ヒドロキシインドール酢酸	29	95	D008-05
11-ケトアンドロステロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008-40
11-ケトエチオコロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008-40
11-ヒドロキシコルチコステロイド	31	60	D008-02
11-ヒドロキシアンドロステロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008-40
11-ヒドロキシエチオコロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008-40
11-OHCS→11-ヒドロキシコルチコステロイド	31	60	D008-02
15染色体(ブラダーウイリ症候群)、(アンジェルマン症候群)	121	2553+397	D006-5
17-ケトステロイド分画(17-KS分画)	31	213	D008-40
22染色体(22q11欠失)	121	2553+397	D006-5
25OH ビタミンD(ECLIA)	19	117	D007-31

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 蛋白関連検査

1001 3A010	総蛋白 (TP) (1001) 3A010-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (21日)	Biuret法	6.7~8.3 g/dL	1 2	11 生化I	
1012 3A015	アルブミン (1077) 3A015-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (21日)	BCP 改良法	3.8~5.3 g/dL	1 2	11 生化I	蛋白分画、総蛋白及びアルブミンを同時に測定した場合は、主たるもの2つを算定する。
1011 3A020	蛋白分画 (1003) 3A020-0000-023-232	血清 0.5	A1-1 冷蔵	セルロースアセテート膜 電気泳動法	A/G 1.36~2.26 Alb 57.5~69.2 α <sub>1</sub> 2.0~3.3 α <sub>2</sub> 5.9~9.7 β 8.0~12.2 γ 11.1~22.0 %	2 4	18 生化I	
1013 3A016	A/G比 (1002) 3A016-0000-023-919	血清 0.5	A1-1 冷蔵	BCP 改良法/ Biuret法	1.20~2.00	1 2		
3285 5C095	フェリチン定量 (1197) 5C095-0000-023-062	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (21日)	ラテックス凝集 比濁法	M 13~277 F 5~152 ng/mL	1 2	105 生化I	
4082 5C010	プレアルブミン (トランスサイレチン) (4139) 5C010-0000-023-061	血清 0.5	A1-1 冷蔵	TIA法	22.0~40.0 mg/dL	2 4	104 免疫	
3272 5C045	セルロプラスミン (CP) (1175) 5C045-0000-023-063	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ネフェロメトリー法	21~37 mg/dL	3 5	90 免疫	*4
3232 5C130	プロコラーゲン-III- ペプチド (P-III-P) (4059) 5C130-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IRMA法	0.3~0.8 U/mL	4 6	136 生化I	カットオフ値(肝に繊維化のみ られる疾患): 6.95 ng/mL *1
3099 5C135	IV型コラーゲン7S (4413) 5C135-0000-023-052	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLEIA法	4.4 以下 ng/mL	3 6	148 生化I	IV型コラーゲン又はIV型コ ラーゲン7SはP-III-P又 は、M2BPGiと併せて行っ た場合には、主たるもの のみ算定する。 *ア
3097 5C134	IV型コラーゲン (4582) 5C134-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	150 以下 ng/mL	4 8	135 生化I	*4

下記の「生化学的検査」「免疫学的検査」等において、多項目を同時に依頼の場合、各グループの必要量算出式に基づいた血清量をおよその目安としてご提出下さい。

グループ 1 / 必要量算出式 = [0.4 + (0.05 × 依頼項目数)] mL : 依頼項目数 ≥ 2				
1001 総蛋白	1111 遊離コレステロール	1015 LAP	1043 ナトリウム	4002 CRP 定量
1012 アルブミン	1030 中性脂肪	5144 LD/IFCC	1046 クロール	4001 抗streptリジンO価
1013 A/G比	1031 磷脂質	1021 コリンエステラーゼ	1044 カリウム	4000 RF 定性
1039 尿素窒素	1032 遊離脂肪酸	1016 γ-GT	1045 カルシウム	4003 RF 定量
1041 クレアチニン	1029 β-リポ蛋白	1019 アルドラーゼ	1047 マグネシウム	
1042 クレアチン	1026 総ビリルビン	1018 CK	1048 無機燐	
1040 尿酸	1027 直接ビリルビン	1024 アミラーゼ	1051 銅	
1009 総コレステロール	1007 AST	1073 リパーゼ	1049 鉄	
1191 LDL コレステロール	1008 ALT	3165 グリコアルブミン	1100 UIBC(ニトロソPSAP 法)	
1070 HDL コレステロール	5143 ALP/IFCC	1176 1,5-AG	3292 CRP 定性	

# 生化学的検査

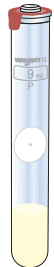
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 蛋白関連検査

3516 4Z315	肝細胞増殖因子 (HGF) (1318) 4Z315-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 ↓ G-1 凍結	EIA法	0.39 以下 ng/mL	3 9	227 生化I	肝炎にて劇症化が疑われる 場合又は劇症肝炎の経過観 察に用いた場合のみ算定す る。 *1
3271 5C015	α1-マイクログロブリン (α1-MG) (1193) (1194) 5C015-0000-023-062 5C015-0000-001-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	12.7~27.3 mg/L	2 4	132 免疫	*A
3273 5C015		尿 1.0	C-3 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	11.0 以下 mg/L	2 4	132 免疫	*A
3282 5C065	β2-マイクログロブリン (β2-MG) (1195) (1196) 5C065-0000-023-062 5C065-0000-001-062	血清 0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	2.0 以下 mg/L	2 3	101 免疫	PH5.5以上を確認し、提出 して下さい。
3283 5C065		尿 1.0	C-3 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	289 以下 μg/L	2 3	101 免疫	
3286 5C090	ミオグロビン定量 (1169) (1174) 5C090-0000-023-051 5C090-0000-001-052	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	85 以下 ng/mL	2 3	135 生化I	H-FABPと同時算定不可 *A
3287 5C090		尿 8.0	ア 冷蔵	CLEIA法	2.0 未満 ng/mL	3 4	135 生化I	*E
7559 5C091	H-FABP 定量 (ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白) (1712) 5C091-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	6.2 以下 ng/mL	2 3	135 生化I	急性心筋梗塞の診断に用い た場合のみ算定する。ミオ グロビンと同時算定不可。 *A
3011 5C092	心室筋ミオシン軽鎖 I (1114) 5C092-0000-023-023	血清 0.4	A1-1 ↓ G-1 凍結	EIA法	2.5 以下 ng/mL	3 6	184 生化I	1日につき1回のみ算定す る *1
3928 5C093	心筋トロポニン T (TnT) (1198) 5C093-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	ECLIA法	0.014 以下 ng/mL	2 3	112 生化I	急性心筋梗塞診断のカット オフ値: 0.100ng/mL

生化学

**A1-1**  
血清分離  
冷蔵保存




**C-3**  
蓄尿又は部分尿  
必要量提出、冷蔵保存  
(尿量記載の必要なし)



**G-1**  
血清分離  
(必ず凍結保存)  
ポリ試験管使用



**ア**  
採尿した尿を入れ  
よく混和させ、  
冷蔵保存  
(凍結不可)



安定化剤

実施料について(生化I)

一回に採取した血液を用いて  
青色で表記されている検査を  
5項目以上行った場合

- 5項目以上7項目以下の場合  
1. 生化I 93点
- 8項目又は9項目の場合  
2. 生化I 99点
- 10項目以上の場合  
3. 生化I 106点

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 糖関連検査

1075 3D010	血糖 (グルコース) (1055) 3D010-0000-022-272	血漿 1.0	J 冷蔵	酵素法	空腹時 70~109 mg/dL	1 2	11 生化I	緊急
3165 3D055	グリコアルブミン (GA) (1502) 3D055-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (5日)	酵素法	11.0~16.0 %	1 2	55 生化I	HbA1c、グリコアルブミン、1,5-AGのうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。但し、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下剤の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。
1176 3D085	1,5-アンヒドロ-D- グルシトール (1,5-AG) (1316) 3D085-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (21日)	酵素法	14.0 以上 μg/mL	2 4	80 生化I	
0087 3D046	HbA1c (NGSP) (2131) 3D046-0000-019-271	全血 2.0	J 冷蔵	酵素法	4.6~6.2 %	1 2	49 血液	HbA1c(NGSP) HPLCの項目コードは(0086)です。 HbFの項目コードは3252です。 HbA1の項目コードは3253です。 凍結不可

## 脂質関連検査

1009 3F050	総コレステロール (T-Chol) (1010) 3F050-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	130~219 mg/dL	1 2	17 生化I	
1191 3F077	LDL-コレステロール (LDL-C) (1115) 3F077-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	70~139 表1参照 mg/dL	1 2	18 生化I	HDLコレステロール、総コレステロール及びLDLコレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つに限り算定する。
1070 3F070	HDL-コレステロール (HDL-C) (1013) 3F070-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	M 40~86 F 40~96 表1参照 mg/dL	1 2	17 生化I	
9740	non-HDL-コレステロール (non-HDL-C) (1695) 3F069-0000-023-919	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素法・計算法	なし 表1 mg/dL	1 2		
0147 3F150	コレステロール分画 (1596) 3F150-0000-023-233	血清 0.2	A1-2 冷蔵	アガロース電気泳動法	HDL 17.1~42.4 LDL 51.0~76.7 VLDL 1.3~18.6 %	2 4	57 生化I	凍結不可

(表1) 動脈硬化性疾患予防のためのスクリーニングにおける脂質異常症診断基準(空腹時採血\*)

LDLコレステロール	140 mg/dL 以上	高LDLコレステロール血症
	120~139 mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40 mg/dL 未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセリド	150 mg/dL 以上	高トリグリセリド血症
non-HDLコレステロール	170 mg/dL 以上	高non-HDLコレステロール血症
	150~169 mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症**

\* 10時間以上の絶食を「空腹時」とする。但し、水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。

\*\* スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の必要性を考慮する。

(動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017年度版より)

- LDL-CはFriedewald式(TC - HDL-C - TG/5)または直接法で求める。
- TGが400 mg/dL以上や食後採血の場合はnon-HDL-C(TC - HDL-C)かLDL-C直接法を使用する。但しスクリーニング時に高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30 mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。

(表2) 新生児・乳児におけるUSBA検査結果の見方

(胆道閉鎖症の早期発見のためのガイドラインより)

55.00 μmol/g・CRE 以下	正 常	黄疸の遷延、白色便などの肝・胆道系疾患の臨床症状がある場合、念のため経過観察を実施して下さい。
55.00 μmol/g・CRE 超		
但し、尿中クレアチニンが2.5 mg/dL 未満の場合はUSBA実測値のみで判定する。USBA実測値：5.00 μmol/L 以下	再検査 精 査	肝・胆道系疾患が疑われます。

注) USBAは、胆道閉鎖症だけでなく他の肝疾患(新生児肝炎など)でも高値を示します。

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 脂質関連検査

— 3F126	尿中硫酸抱合型胆汁酸 (USBA) (1945) 3F126-0000-001-271	尿 5.0 ※1	C-3 冷蔵	酵素法	成人 クレアチニン補正值 8.00 μmol/g・CRE以下 新生児・乳児 表2参照 実測値 5.00 μmol/l以下 クレアチニン補正值 55.00 μmol/g・CRE以下	5 7	57 生化I	肝胆道疾患の診断の目的で 実施した場合、コレステロー ル分画に準じて算定する。 胆汁酸と同時算定不可。 *Q
3934 3F078	レムナント様リポ蛋白 コレステロール (RLP-C) (1097) 3F078-0000-023-271	血清 0.5	A1-2 冷蔵	酵素法	7.5 以下 mg/dL 糖尿病、冠動脈疾患等の 既往歴がある場合は、5.2 mg/dL 以上がハイリスク 域といわれています。	2 4	179 生化I	凍結不可 3カ月に1回のみ算定できる。
1111 3F065	遊離コレステロール (F-Cho) (1012) 3F065-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素法	31～64  mg/dL	2 4	11 生化I	
1030 3F015	中性脂肪 (TG) (1016) 3F015-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法 (遊離グリセロール 消去法)	35～149  表1参照 mg/dL	1 2	11 生化I	
1033 3F010	総脂質 (TL) (1017) 3F010-0000-023-919	血清 0.5	A1-1 冷蔵	計算法	380～800  mg/dL	1 2		
1031 3F025	リン脂質 (PL) (1018) 3F025-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (5日)	酵素法	150～250  mg/dL	1 2	15 生化I	
1032 3F035	遊離脂肪酸 (FFA) (NEFA) (1019) 3F035-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素法	空腹時 0.14～0.85  mEq/L	1 2	59 生化I	溶血不可
1029 3F130	β-リポ蛋白 (β-LP) (1015) 3F130-0000-023-292	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (21日)	比濁法	170～500  mg/dL	1 2		
0146 3F135	リポ蛋白分画 (1065) 3F135-0000-023-233	血清 0.2	A1-2 冷蔵	アガロース 電気泳動法	M α 26.9～50.5 Pre β 7.9～23.8 β 35.3～55.5 origin 0.0～4.7 F α 32.6～52.5 Pre β 6.6～20.8 β 33.6～52.0 origin 0.0～4.4 %	2 4	49 生化I	凍結不可  *I

※1 新生児肝胆道疾患スクリーニングとしての採尿時期は、生後3週間前後です。なお、採尿にあたっては、できるだけ大便が混入しないようにして下さい。

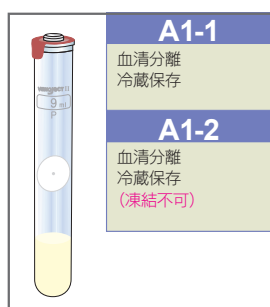
	<b>A1-1</b> 血清分離 冷蔵保存  <b>A1-2</b> 血清分離 冷蔵保存 (凍結不可)		<b>C-3</b> 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (尿量記載の必要なし)		<b>J</b> 血液2mLを入れ 静かに約10回ほど 転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)  フツナトリウム
--	--	---	--	---	--

実施料について(生化I)	
一回に採取した血液を用いて 青色で表記されている検査を 5項目以上行った場合	
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化I 93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化I 99点
3.	10項目以上の場合 生化I 106点

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
脂質関連検査								
1141 3F180	アポリポ蛋白 A-I (1176) 3F180-0000-023-061	血清 0.3	A1-2 冷蔵	TIA法	M 119~155 F 126~165 mg/dL	2 3	※ 生化 I	凍結不可 アポリポ蛋白は、AI、AII、B、CII、CIII及びEのうち、測定した項目数に応じて、以下の所定点数を算定する。 イ 1項目の場合31 ロ 2項目の場合62 ハ 3項目以上の場合94 *A
1142 3F185	アポリポ蛋白 A-II (1177) 3F185-0000-023-061	血清 0.3	A1-2 冷蔵	TIA法	M 25.9~35.7 F 24.6~33.3 mg/dL	2 3		
1143 3F190	アポリポ蛋白 B (1178) 3F190-0000-023-061	血清 0.3	A1-2 冷蔵	TIA法	M 73~109 F 66~101 mg/dL	2 3		
1144 3F195	アポリポ蛋白 C-II (1179) 3F195-0000-023-061	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA法	M 1.8~4.6 F 1.5~3.8 mg/dL	2 4		
1145 3F200	アポリポ蛋白 C-III (1180) 3F200-0000-023-061	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA法	M 5.8~10.0 F 5.4~9.0 mg/dL	2 4		
1146 3F205	アポリポ蛋白 E (1181) 3F205-0000-023-061	血清 0.3	A1-2 冷蔵	TIA法	M 2.7~4.3 F 2.8~4.6 mg/dL	2 3		
3929 3F156	リポ蛋白 (a) (LP(a)) (4378) 3F156-0000-023-061	血清 0.3	A1-2 冷蔵	TIA法	(参考値) 30.0 以下 mg/dL	2 3		
3241 3F110	総胆汁酸 (TBA) (1165) 3F110-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素法	10.0 以下 μmol/L	1 2	47 生化 I ※1	

※1 肝胆道疾患の診断の目的で尿中硫酸抱合型胆汁酸測定を酵素法により実施した場合は、コレステロール分画に準じて算定する。但し、胆汁酸を同時に測定した場合には、いずれか一方の所定点数のみを算定する。尿中硫酸抱合型胆汁酸と同時算定不可。





# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 蛋白・含窒素成分関連検査

1039 3C025	尿素窒素 (UN)	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	ウレアーゼ・ GLDH (アンモニア 消去)法	8~22  mg/dL	1 2	11 生化I	緊急 (対象:血清)  随時尿の項目コードは (1061)です。
8361 3C025		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	ウレアーゼ・ GLDH (アンモニア 消去)法	6.5~13.0  g/day	1 2	11 生化I	
1041 3C015	クレアチニン	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	M 0.61~1.04 F 0.47~0.79  mg/dL	1 2	11 生化I	緊急 (対象:血清)  随時尿の項目コードは (1059)です。
8359 3C015		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	酵素法	0.5~1.5  g/day	1 2	11 生化I	
1271 3C016	シスタチンC	血清 0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	M 0.63~0.94 F 0.52~0.85  mg/L	2 4	115 生化I	*1
1042 3C010	クレアチン	血清 0.4	A1-1 冷蔵	酵素法	0.17~1.00  mg/dL	2 3	11 生化I	*A
1060 3C010		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	酵素法	0.15 以下  g/day	2 3	11 生化I	*A
1040 3C020	尿酸 (UA)	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (21日)	ウリカーゼ・ ペルオキシダーゼ法	M 3.7~7.0 F 2.5~7.0  mg/dL	1 2	11 生化I	随時尿の項目コードは (1058)です。
8358 3C020		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	ウリカーゼ・ ペルオキシダーゼ法	0.4~1.2  g/day	1 2	11 生化I	

※1 尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。但し、ペントジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 基準値上限は、日本痛風・核酸代謝学会「高尿酸血症・痛風の治療ガイド」における高尿酸血症の定義に基づいております。



実施料について (生化I)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合	
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化I 93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化I 99点
3.	10項目以上の場合 生化I 106点

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 蛋白・含窒素成分関連検査

1069 3C040	アンモニア (NH <sub>3</sub> ) (1092) 3C040-0000-031-271	全血 1.0 ↓ 除蛋白 上清 2.0	M ↓ G-1 凍結	奥田・藤井変法	30~86  μg/dL	1 ↓ 2	50 生化 I	緊急
---------------	---	------------------------------	---------------------	---------	--------------------	-------------	------------	----

## 色素

1026 3J010	総ビリルビン (T-Bil) (1023) 3J010-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	バナジウム酸化法	0.2~1.1  mg/dL	1 ↓ 2	11 生化 I	
1027 3J015	直接ビリルビン (D-Bil) (1024) 3J015-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	バナジウム酸化法	0.4 以下  mg/dL	1 ↓ 2	11 生化 I	間接ビリルビンの項目コードは (1120)です。
3256 5C040	ハプトグロビン(型判定含む) (4058) 5C041-0000-023-063	血清 0.3	A1-1 冷蔵	TIA法/ 薄層アクリルアミドゲル 電気泳動法	1-1型 43~180 2-1型 38~179 2-2型 15~116  mg/dL	5 ↓ 6	132 免疫	感度(10mg/dL)未満の場合 は型判定ができません。  *1
4296 5C040	ハプトグロビン(型判定なし) (4026) 5C040-0000-023-061	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA法	19~170  mg/dL	2 ↓ 4	132 免疫	*A
3596 3J040	赤血球コプロポルフィリン (5070) 3J040-0000-019-204	全血 1.5	FG 避光 冷蔵	HPLC法	1 以下  μg/dL RBC	8 ↓ 12	210 生化 I	凍結不可  *E

	<b>A1-1</b> 血清分離 冷蔵保存		<b>FG</b> 冷蔵保存		<b>M</b> 血液を正確に1mL 入れ十分に振とう 混和すみやかに遠心 分離後 (上清を直ちに 凍結保存) 保存はポリ試験管 容器に移すとき、沈 殿物が混ざらないよ う注意して下さい  タングステン酸 ナトリウム4mL
---	-----------------------------	---	-------------------	---	--

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 色素

3597 3J055	プロトポルフィリン定量 (血中) (5894) 3J055-0000-019-204	全血 1.5	FG 遮光 冷蔵	HPLC 法	(赤血球) 30 ~ 86  μg/dL RBC	8 12	272 生化 I	凍結不可 17 頁参照  *4
---------------	--	--------	----------------	--------	-----------------------------------	---------	-------------	--------------------------

## 酵素

1007 3B035	AST (GOT) (アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ) (1029) 3B035-0000-023-272	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	JSCC 標準化対応法	10 ~ 40  U/L	1 2	17 生化 I	緊急 溶血血清は高値を示す場合があります。
1008 3B045	ALT (GPT) (アラニンアミノトランスフェラーゼ) (1030) 3B045-0000-023-272	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	JSCC 標準化対応法	5 ~ 45  U/L	1 2	17 生化 I	緊急 溶血血清は高値を示す場合があります。
5143 3B070	ALP / IFCC (アルカリホスファターゼ) (1694) 3B070-0000-023-275	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IFCC 標準化対応法	38 ~ 113  U/L	1 2	11 生化 I	
5144 3B050	LD / IFCC (乳酸脱水素酵素) (1766) 3B050-0000-023-279	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IFCC 標準化対応法	115 ~ 245  U/L	1 2	11 生化 I	緊急 凍結不可 溶血血清は高値を示す場合があります。
1021 3B110	コリンエステラーゼ (ChE) (1036) 3B110-0000-023-272	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (5日)	JSCC 標準化対応法 (基質: BZTC)	M 235 ~ 494 F 196 ~ 452  U/L	1 2	11 生化 I	
1016 3B090	γ-GT (γ-グルタミルトランスペプチダーゼ) (1038) 3B090-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (21日)	JSCC 標準化対応法	M 75 以下 F 45 以下  U/L	1 2	11 生化 I	

**A1-1**

血清分離  
冷蔵保存

---

**A1-2**

血清分離  
冷蔵保存  
(凍結不可)

**FG**

冷蔵保存

**G-1**

血清分離  
(必ず凍結保存)  
ポリ試験管使用

実施料について (生化 I)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合	
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化I 93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化I 99点
3.	10項目以上の場合 生化I 106点

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 酵素

1015 3B135	LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ) (1034) 3B135-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素法 (L-ロイシル-P-ニトロ ロアニリド基質法)	30~70  U/L	1 2	11 生化I	
1019 3B100	アルドラーゼ (ALD) (1039) 3B100-0000-023-272	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (5日)	酵素法	1.2~7.6  U/L	1 2	11 生化I	
1018 3B010	CK (クレアチンキナーゼ) (1040) 3B010-0000-023-272	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	JSCC 標準化対応法	M F 50~250 45~210  U/L	1 2	11 生化I	緊急
3458 3B015	CK-MB (1117) 3B015-0000-023-051	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLIA 法	0.9~5.9  ng/mL	2 3	90 生化I	免疫阻害法の項目コードは (3414)です。  * A
1024 3B160	アミラーゼ (AMY) (1042) (1290) 3B160-0000-023-271 3B160-0000-001-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (21日)	JSCC 標準化対応法 (G3-CNP 基質)	37~125  U/L	1 2	11 生化I	緊急 (対象: 血清)
1025 3B160		尿 0.5	C-3 冷蔵	JSCC 標準化対応法 (G3-CNP 基質)	60~790  U/L	1 2	11 生化I	
1987 3B175	膵アミラーゼ (P-AMY) (1320) 3B175-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	G3-CNP 基質免疫阻害法	16~52  U/L	2 4	48 生化I	実施料はアミラーゼアイン ザイムとしての算定となり ます。  * A
1073 3B180	リパーゼ (1043) 3B180-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (21日)	酵素法	13~55  U/L	1 2	24 生化I	
3976 3F160	リポ蛋白リパーゼ (LPL) (1319) 3F160-0000-022-023	血漿 0.5	F-3 ↓ G-1 凍結 注1	ELISA 法	164~284  ng/mL	3 9	219 生化I	すみやかに冷却遠心分離 EDTA 血漿不可 ※1  * E

注1 (リポ蛋白リパーゼ採血上の注意事項) 早朝空腹時にヘパリンを体重1kg 当り30単位静注し、15分後に採血して下さい。4℃で遠心分離して下さい。

※1 高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合のみ算定できる。又、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは、薬剤として算定できるが、注射料は算定できない。

 <p><b>A1-1</b> 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p><b>C-3</b> 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (尿量記載の必要なし)</p>	 <p><b>F-3</b> 採血後静かに約10 回ほど転倒混和 血漿分離 (必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用</p> <p>ヘパリン5mL用 又は10mL用</p>	 <p><b>G-1</b> 血清分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>
--	--	--	--

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 酵 素

1128 3B130	アデノシンデアミナーゼ (ADA) (1096) 3B130-0000-023-272	血清 0.4	A1-1 冷蔵	酵素法	10.0～31.0 U/L	2 3	32 生化I	胸水中ADAの項目コードは (1129)です。 * A
4005 3B125	グアナーゼ (GU) (1095) 3B125-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素法	1.0 以下 U/L	3 5	35 生化I	* 4
3598 3B255	リゾチーム (4068) (4170) 3B255-0000-001-292 3B255-0000-001-292	血清 0.4	A1-1 冷蔵	比濁法	5.0～10.2 μg/mL	3 5		
3599 3B255		尿 0.4	C-3 冷蔵	比濁法	0.1 未満 μg/mL	3 5		* 4
3068 3B325	アンギオテンシンI転換酵素 (ACE) (1170) 3B325-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	笠原法	8.3～21.4 U/L	2 4	140 生化I	* A
3224 3B185	トリプシン (1168) 3B185-0000-023-062	血清 0.3	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	210～570 ng/mL	2 4	189 生化I	

生化学

### 実施料について(生化I)

一回に採取した血液を用いて  
青色で表記されている検査を  
5項目以上行った場合

- 5項目以上7項目以下の場合  
生化I 93点
- 8項目又は9項目の場合  
生化I 99点
- 10項目以上の場合  
生化I 106点

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 酵素

3735 3B192	膵ホスホリパーゼA <sub>2</sub> (PLA <sub>2</sub> ) (1317) 3B192-0000-023-005	血清 0.3	A1-1 冷蔵	RIA・固相法	130~400 ng/dL	3 4	204 生化I	*E
3730 3B339	ペプシノゲンI・II (PG I・II) (4675) 3B339-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	下表1参照	2 3		
3017 3B072	BAP (骨型アルカリホスファターゼ) (1711) 3B072-0000-023-052	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA法	M 3.7~20.9 F (閉経前) 2.9~14.5 (閉経後) 3.8~22.6 μg/L	2 3	161 生化II	*1
0618 5C120	total P INP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド) (5913) 5C120-0000-023-053	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA法	M 18.1~74.1 F (閉経前) 16.8~70.1 (閉経後) 26.4~98.2 ng/mL	2 4	164 生化II	*1 *A

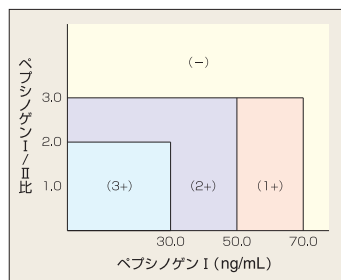
## アイソザイム

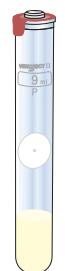

0143 3B055	LDアイソザイム (1067) 3B055-0000-023-233	血清 0.5	A1-4 常温	アガロース 電気泳動法	LD <sub>1</sub> 20.0~31.0 LD <sub>2</sub> 28.8~37.0 LD <sub>3</sub> 21.5~27.6 LD <sub>4</sub> 6.3~12.4 LD <sub>5</sub> 5.4~13.2 %	2 4	48 生化I	凍結不可 溶血不可
0141 3B080	ALPアイソザイム (1068) 3B080-0000-023-233	血清 0.5	A1-1 冷蔵	アガロース 電気泳動法	ALP <sub>1</sub> 0.0~ 5.3 ALP <sub>2</sub> 36.6~69.2 ALP <sub>3</sub> 25.2~54.2 ALP <sub>5</sub> 0.0~18.1 %	2 4	48 生化I	*イ

\*1 BAP、IntactP INP、total P INP及びALPアイソザイム(PAG電気泳動法)のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

(表1) ペプシノゲンI・II判定基準

判定	ペプシノゲンI値及びI/II比
(3+)	30.0 ng/mL 以下 且つ 2.0 以下
(2+)	50.0 ng/mL 以下 且つ 3.0 以下
(1+)	70.0 ng/mL 以下 且つ 3.0 以下
(-)	70.1 ng/mL 以上 又は 3.1 以上



	<b>A1-1</b> 血清分離 冷蔵保存		<b>C-3</b> 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (尿量記載の必要なし)
	<b>A1-4</b> 血清分離 常温保存 (凍結不可)		

# 生化学的検査



項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## アイソザイム

0144 3B165	アミラーゼアイソザイム (AMY アイソザイム) (1072) (1276) 3B165-0000-023-233 3B165-0000-001-233	血清 0.5	<b>A1-1</b> 冷蔵	アガロース 電気泳動法	P-TOTAL : 15.7~64.0 S-TOTAL : 36.0~84.3 % P/S比 : 0.19~1.79	2 4	48 生化I	
0145 3B165		尿 0.5	<b>C-3</b> 冷蔵	アガロース 電気泳動法	P-TOTAL : 38.7~82.3 S-TOTAL : 17.7~61.3 % P/S比 : 0.63~4.65	2 4	48 生化I	*イ
0142 3B025	CKアイソザイム (1069) 3B025-0000-023-233	血清 0.5	<b>A1-1</b> ↓ <b>G-1</b> 凍結	アガロース 電気泳動法	MM 92.4~100.0 MB 0.0~6.6 BB 0.0~1.9 %	2 4	55 生化I	溶血不可 *イ

## 有機酸

1115 3E045	ケトン体 分画	《静脈血》 (5177) 3E045-0000-023-271	血清 0.5	<b>A1-1</b> ↓ <b>G-1</b> 凍結	酵素法	アセト酢酸 14~68 3-ヒドロキシ酢酸 74以下 総ケトン体 28~120 μmol/L	1 2	59 生化I	
— 3E045		《動脈血》 (5521) 3E045-0000-020-271	血清 0.4 (動脈血)	<b>A1-1</b> ↓ <b>G-1</b> 凍結	酵素法	アセト酢酸 / 3-ヒドロ キシ酢酸比 0.7以上	2 4	59 生化I	ブドウ糖投与下又は食後(血 糖120mg/dL以上)に動脈 採血して下さい。採血後は すみやかに冷却遠心にて分 離し、凍結保存して下さい。*4
1132 3E010	乳酸	(4060) 3E010-0000-031-271	全血 1.0 ↓ 除蛋白 上清 0.8	<b>L</b> ↓ <b>G-1</b> 凍結	酵素法	5.0~20.0 mg/dL	2 4	47 生化I	*A
1086 3E015	ピルビン酸	(4061) 3E015-0000-031-271	全血 1.0 ↓ 除蛋白 上清 0.8	<b>L</b> ↓ <b>G-1</b> 凍結	酵素法	0.3~0.9 mg/dL	2 4	47 生化I	*A
3248 3D080	ヒアルロン酸	(4024) 3D080-0000-023-062	血清 0.5	<b>A1-1</b> 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	(健常者) 50以下 ng/mL 肝硬変の判断基準130 ng/mL以上 (50~130 ng/mLの場合、肝の線維 化が疑われます)	2 4	179 生化I	慢性肝炎の患者に対して慢 性肝炎の経過観察及び肝生 検の適応の確認を行う場合 に算定できる。

	<b>G-1</b>	血清分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用
	<b>G-2</b>	血清分離 冷蔵保存 (ゴム栓不可) ポリ試験管使用
	<b>L</b>	血液を正確に1.0mL 入れ激しく10数回 振とう混和すみやか に遠心分離 (上清を直ちに 凍結保存) 保存はポリ試験管
		過塩素酸 除蛋白液 1.0mL

### 実施料について(生化I)

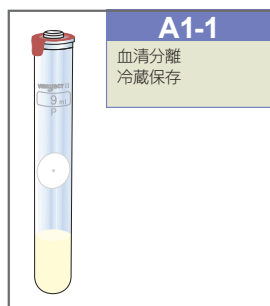
一回に採取した血液を用いて 青色で表記されている検査を 5項目以上行った場合	
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化I 93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化I 99点
3.	10項目以上の場合 生化I 106点

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 電解質・金属

1043 3H010	ナトリウム (Na)  (1044) (1205) 3H010-0000-023-261 3H010-0000-004-261	血清 0.5	A1-1 冷蔵	電極法	135~147 mEq/L	1 2	(11) 生化I	緊急 (対象:ナトリウム血清)  ナトリウム及びクロールは 同時算定不可
8352 3H010		蓄尿 1.0	C-1 冷蔵	電極法	1.6~5.8 g/day	1 2	(11) 生化I	
1046 3H020	クロール (Cl)  (1046) (1207) 3H020-0000-023-261 3H020-0000-004-261	血清 0.5	A1-1 冷蔵	電極法	98~108 mEq/L	1 2	(11) 生化I	緊急 (対象:血清) 全血で放置した場合、変動 します。  溶血血清は高値を示す場合 があります。
8355 3H020		蓄尿 1.0	C-1 冷蔵	電極法	2.5~8.9 g/day	1 2	(11) 生化I	
1044 3H015	カリウム (K)  (1045) (1206) 3H015-0000-023-261 3H015-0000-004-261	血清 0.5	A1-1 冷蔵	電極法	3.6~5.0 mEq/L	1 2	11 生化I	緊急 (対象:血清) イオン化カルシウムとカル シウムは同時算定不可
8353 3H015		蓄尿 1.0	C-1 冷蔵	電極法	1.0~3.9 g/day	1 2	11 生化I	
1045 3H030	カルシウム (Ca)  (1047) (1208) 3H030-0000-023-271 3H030-0000-004-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	アルセナゾⅢ法	8.6~10.1 mg/dL	1 2	11 生化I	すみやかに遠心分離
8354 3H030		蓄尿 1.0	C-1 冷蔵	アルセナゾⅢ法	0.1~0.3 g/day	1 2	11 生化I	
3429 3H035	イオン化カルシウム  (5112) 3H035-0000-023-261	血清 0.9	A1-1 ↓ G-1 凍結	イオン電極法	2.41~2.72 (37°C、PH7.4) mEq/L	4 6	26 生化I	* 4





# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
1047 3H025	マグネシウム (Mg) (1048) (1209) 3H025-0000-023-271 3H025-0000-004-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵	キシリジルブルー 比色法	1.8～2.6 mg/dL	1 2	11 生化I	
8356 3H025		蓄尿 1.0	C-1 冷蔵	キシリジルブルー 比色法	0.02～0.13 g/day	1 2	11 生化I	
1048 3H040	無機リン (IP) (1049) (1210) 3H040-0000-023-271 3H040-0000-004-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (5日)	モリブデン酸直接法	2.5～4.6 mg/dL	1 2	17 生化I	
8357 3H040		蓄尿 1.0	C-1 冷蔵	モリブデン酸直接法	0.5～1.0 g/day	1 2	17 生化I	
1049 3I010	鉄 (Fe) (1051) (1274) 3I010-0000-023-271 3I010-0000-001-274	血清 0.5	A1-1 冷蔵 (7日)	直接比色法 (ニトロソPSAP法)	M 45～200 F 40～170 μg/dL	1 2	11 生化I	
8139 3I010		尿 5.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	50～160 μg/L	5 13	11 生化I	*E
1050 3I015	総鉄結合能 (TIBC) (1088) 3I015-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵	直接比色法/ ニトロソPSAP法 (計算法)	M 245～385 F 265～430 μg/dL	1 2	11 生化I	※1
1100 3I020	不飽和鉄結合能 (UIBC) (1089) 3I020-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵	直接比色法 (ニトロソPSAP法)	M 110～300 F 135～350 μg/dL	1 2	11 生化I	

※1 総鉄結合能(TIBC)(比色法)と不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)を同時に実施した場合は、不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)又は総鉄結合能(TIBC)(比色法)の所定点数を算定する。

C-3



蓄尿又は部分尿  
必要量提出、冷蔵保存  
(尿量記載の必要なし)

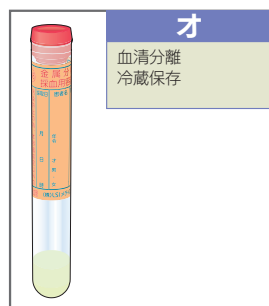
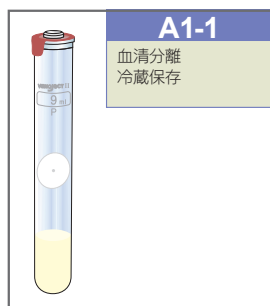
実施料について(生化I)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合	
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化I 93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化I 99点
3.	10項目以上の場合 生化I 106点

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 電解質・金属

1051 31025	銅 (Cu)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	比色法 (直接法(3.5-DiBr-PAESA))	M F 80~130 100~150 μg/dL	2 } 4	23 生化I	
3574 31025		尿 5.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	36 以下 μg/L	5 } 13	23 生化I	*E
3577 3K105	アルミニウム (Al)	全血 2.0	ソ 冷蔵	原子吸光法	1.0 以下 μg/dL	3 } 6	112 生化I	*イ
3579 31030	亜鉛 (Zn)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	原子吸光法	80~130 μg/dL	2 } 4	136 生化I	*イ
3580 31030		尿 5.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	50~1000 μg/L	2 } 4	136 生化I	*イ
3581 3K110	鉛 (Pb)	全血 1.0	F-5 冷蔵	原子吸光法	μg/dL	3 } 6	凍結不可	*イ
3582 3K110		尿 2.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	20 以下 μg/L	3 } 7		*イ
3586 3K120	カドミウム (Cd)	全血 1.0	F-5 冷蔵	ICP-MS法	0.5 以下 μg/dL	5 } 8	凍結不可	*1
3587 3K120		尿 1.0	C-3 冷蔵	ICP-MS法	3.8 以下 μg/L	5 } 11		*1



# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 電解質・金属

3575 3K115	クロム (Cr)  (5109) (5110) 3K115-0000-019-274 3K115-0000-001-274	全血 0.7	F-5 冷蔵	原子吸光分光光度法	1.0 以下  μg/dL	7 } 20		凍結不可  * E
3583 3K115		尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光分光光度法	2 以下  μg/L	7 } 20		* E
— 3K150	水銀 (Hg)  (5061) (5293) 3K150-0000-019-274 3K150-0000-001-274	全血 0.5	F-5 冷蔵	原子吸光法	5 以下  μg/dL	6 } 13		凍結不可  * 1
3589 3K150		尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	25 以下  μg/L	6 } 13		* 1
3578 3K125	マンガン (Mn)  (5060) (5554) (5292) 3K125-0000-019-274 3K125-0000-023-274 3K125-0000-001-274	全血 0.5	F-5 冷蔵	原子吸光分光光度法	0.4～2.0  μg/dL	6 } 14	27 生化 I	凍結不可  * 1
— 3K125		血清 0.5	才 冷蔵	原子吸光法	0.7 以下  μg/dL	6 } 14	27 生化 I	1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上)高カロリー-静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができる。  * 1
— 3K125		尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	2.0 未満  μg/L	6 } 14	27 生化 I	* 1
3576 3K130	ニッケル (Ni)  (5374) 3K130-0000-023-274	血清 0.5	才 冷蔵	原子吸光法	0.6 以下  μg/dL	7 } 12		* 1

生化学

### 実施料について(生化 I)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

- 5項目以上7項目以下の場合  
生化I 93点
- 8項目又は9項目の場合  
生化I 99点
- 10項目以上の場合  
生化I 106点

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
3563 3K010	総三塩化物 (TTC) (5125) 3K010-0000-001-202	尿 1.0	I-1 冷蔵 注1	GC法	mg/L	3 ~ 6		防腐剤使用不可
3564 3K015	三塩化(トリクロル)酢酸 (TCA) (5244) 3K015-0000-001-202	尿 1.0	I-1 冷蔵 注1	GC法	mg/L	3 ~ 6		
3566 3K040	マンデル酸及び フェニルグリオキシル酸総量 (MA及びPGA総量) (5444) 3K040-0000-001-204	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC法	g/L	3 ~ 5		
3561 3K025	馬尿酸 (HA) (5082) 3K025-0000-001-204	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC法	g/L	3 ~ 5		
3562 3K030	メチル馬尿酸 (MHA) (5083) 3K030-0000-001-204	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC法	g/L	3 ~ 5		
3592 3J075	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA) (5067) 3J075-0000-001-204	尿 1.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC法	mg/L	3 ~ 6		
3567 3K045	N-メチルホルムアミド (5443) 3K045-0000-001-202	尿 3.0	I-1 冷蔵 注2	GC法	mg/L	3 ~ 8		
3568 3K050	2,5-ヘキサンジオン (2,5-HD) (5445) 3K050-0000-001-202	尿 5.0	I-1 冷蔵 注2	GC法	mg/L	3 ~ 8		

注1 週末の作業終了後に採尿して下さい。作業終了2時間前に一度排尿を行い、その後2時間は排尿せずに採取するようにして下さい。  
注2 連続した作業日の最初の日以外の作業終了時に採尿して下さい。作業終了2時間前に一度排尿を行い、その後2時間は排尿せずに採取するようにして下さい。

## 特殊健康診断の検査分布

鉛健康診断結果報告書(鉛中毒予防規則、様式第3号)  
有機溶剤など健康診断結果報告書(有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2)より

有機溶剤の名称	検査内容	単位	分布			注	
			1	2	3		
キシレン	尿中メチル馬尿酸	g/L	0.5以下	0.5超	1.5以下	1.5超	Ns
N・N-ジメチルホルムアミド	尿中N-メチルホルムアミド	mg/L	10以下	10超	40以下	40超	Ns
テトラクロルエチレン	尿中トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超	Ns
	尿中総三塩化物	mg/L	3以下	3超	10以下	10超	Ns
1,1,1-トリクロルエタン	尿中トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超	Ns
	尿中総三塩化物	mg/L	10以下	10超	40以下	40超	Ns
トリクロルエチレン	尿中トリクロル酢酸	mg/L	30以下	30超	100以下	100超	Ns
	尿中総三塩化物	mg/L	100以下	100超	300以下	300超	Ns
トルエン	尿中馬尿酸	g/L	1以下	1超	2.5以下	2.5超	B.Ns
ノルマルヘキサン	尿中2,5-ヘキサンジオン	mg/L	2以下	2超	5以下	5超	Ns
(鉛業務)	血液中鉛	μg/dL	20以下	20超	40以下	40超	B
	尿中δ-ALA	mg/L	5以下	5超	10以下	10超	
	プロトポルフィリン定量(血中)	μg/dL 全血	100以下	100超	250以下	250超	B

注 B: 測定対象物質は通常職業性の曝露を受けない人の試料にも明らかに存在しています。  
Ns: 非特異的な測定対象物質。そのため他の化学物質の曝露後でも検出されます。したがって特異的検査よりも曝露の相関が高く、有効利用できます。



# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

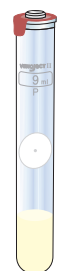
## 産業医学関連

3530 3Z040	エタノール (5124) 3Z040-0000-019-202	全血 1.0	F-1 凍結	GC 法	0.1 未満 mg/mL	4 7	108 生化 I	* 4
---------------	---------------------------------------	--------	-----------	------	-----------------	--------	-------------	-----

## ビタミン関連検査


3419 3G015	ビタミン A (レチノール) (5105) 3G015-0000-023-204	血清 0.4	A1-1 遮光 冷蔵	HPLC 法	97 ~ 316 IU/dL	4 6		* 4
3473 5C030	レチノール結合蛋白 (RBP) (5317) 5C030-0000-023-062	血清 0.3	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	M2.7 ~ 6.0 F 1.9 ~ 4.6 mg/dL	4 6	136 免疫	* 1
3421 3G025	ビタミン B1 (チアミン) (5055) 3G025-0000-019-204	全血 0.5	S 凍結	HPLC 蛍光法	30 ~ 70 ng/mL	3 5	239 生化 I	*イ
3400 3G030	ビタミン B2 (リボフラビン) (5077) 3G030-0000-019-204	全血 0.5	S 遮光 凍結	HPLC 蛍光法	70.4 ~ 123.7 ng/mL	3 6	242 生化 I	採血後、容器全体をアルミホ イルで遮光し凍結保存 *イ
3435 3G035	ビタミン B6 (5298) 3G036-0000-023-204	血清 0.6	A1-1 遮光 冷蔵	HPLC 法	PAM 0.6 以下 PAL M 6.0 ~ 40.0 F 4.0 ~ 19.0 PIN 3.0 以下 ng/mL	4 8		* 4
3426 3G040	ビタミン B12 (5056) 3G040-0000-023-052	血清 1.0	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	180 ~ 914 pg/mL	1 2	140 生化 I	過剰な露光は、ビタミン B12の値を変化させること があります。
3427 3G105	葉酸 (5057) 3G105-0000-023-052	血清 1.0	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	3.1 ~ 19.9 ng/mL	1 2	150 生化 I	溶血の場合は高値となりま すのでご注意ください。
3420 3G060	ビタミン C (アスコルビン酸) (5106) 3G060-0000-031-204	血清 0.5 ↓ 除蛋白 上清 0.5 下図参照	Z G-1 遮光 凍結	HPLC 法	5.5 ~ 16.8 μg/mL	4 6	305 生化 I	* 4

**A1-1**  
血清分離  
冷蔵保存



**S**

採血後静かに  
約10回ほど  
転倒混和  
そのまま  
(必ず凍結保存)  
ガラス管の場合は  
ポリ試験管に移して  
凍結  
他の項目との同時依  
頼はできません。



EDTA-2K  
2mL用

**F-1**

採血後静かに約10  
回ほど  
転倒混和そのまま  
(必ず凍結保存)  
(溶血してもよい)  
ガラス管の場合は  
ポリ試験管に移して  
凍結



ヘパリン5mL用  
又は10mL用

**G-1**  
血清分離  
(必ず凍結保存)  
ポリ試験管使用

**G-2**  
血清分離  
冷蔵保存  
(ゴム栓不可)  
ポリ試験管使用



**Z**

正確に血清0.5mL  
を専用容器「Z」に加  
え、混和後、遠心分  
離し、その上清を遮  
光ボリスピッツにて  
ご提出下さい。  
(必ず凍結)



0.8N過塩素酸 0.5mL

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## ビタミン関連検査

4297 3G065	25OHビタミンD 〔CLEIA〕 (5103) 3G065-0000-023-052	血清0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA法	ビタミンD充足状態 30.0以上 ビタミンD不足 20.0～29.9 ビタミンD欠乏 20.0未満 ng/mL	2 4	117 生化Ⅰ	※1 *A
3425 3G070	1α-25-(OH) <sub>2</sub> ビタミンD (1,25-ジヒドロキシビタミンD3) (5316) 3G070-0000-023-001	血清1.0	A1-1 ↓ G-1 凍結	RIA・2抗体法	20～60 pg/mL	4 7	388 生化Ⅰ	※2 *E
3428 3G080	ビタミンE (トコフェロール) (5104) 3G080-0000-023-282	血清0.5	A1-1 ↓ G-1 遮光 凍結	蛍光法	0.75～1.41 mg/dL	4 10		*7
— 3G090	ビタミンK分画 (5754) 3G090-0000-022-204	血漿2.0	D-1 ↓ G-1 遮光 凍結	HPLC法	K <sub>1</sub> 0.15～1.25 K <sub>2</sub> 0.10以下 ng/mL	4 10		すみやかに遠心分離 *4
8106 3G055	カルニチン (5701) 3G055-0000-023-271	血清0.5	A1-1 冷蔵	酵素サイクリング法	総カルニチン 45～91 遊離カルニチン 36～74 アシルカルニチン 6～23 μmol/L	2 3	95+95 生化Ⅰ	総カルニチン：95 遊離カルニチン：95 *A
3440 3G110	ニコチン酸 (ナイアシン) (5107) 3G110-0000-019-905	全血1.5	F-5 冷蔵	Bioassay	4.7～7.9 μg/mL	8 14		*4

## 特殊分析検査

3970 3F095	脂肪酸4分画 (5360) 3F095-0000-023-202 3F095-0000-022-202	血清0.5 又は 血漿0.5	A1-1 ↓ G-1 凍結  F-3 ↓ G-1 凍結	GC法	DHLA: 10.9～43.5 AA : 85.1～207.8 EPA : 11.6～107.2 DHA : 48.6～152.4 μg/mL  EPA/AA比 : 0.09～0.75	3 6	405 生化Ⅱ	*イ
---------------	--	----------------------	---	-----	---	--------	------------	----

※1 原発性骨粗しょう症の患者に対して、ECLIA法により測定した場合にのみ算定できる。但し、骨粗しょう症の薬剤治療方針の選択時に1回限り算定をする

※2 慢性腎不全、特異性及び偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型、低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD3剤による治療中に測定した場合にのみ算定できる。なお、活性型ビタミンD3剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度とする。

 <p><b>A1-1</b> 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p><b>D-1</b> 血液を正確に1.8mL 入れ静かに約10回 ほど転倒混和 (血漿分離) (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p> <p>3.2% クエン酸ナトリウム 0.2mL</p>	 <p><b>F-3</b> 採血後静かに約10 回ほど転倒混和 血漿分離 (必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用</p> <p><b>F-5</b> 採血後静かに約10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)</p> <p>ヘパリン5mL用 又は10mL用</p>	 <p><b>X-4</b> 必要量採取 常温保存</p>
--	--	--	---

# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 特殊分析検査

1806 3Z065	結石分析 (成分比率) (5119) 3Z065-0000-081-273	結石 10mg以上	X-4 常温	赤外線吸収スペクトロ フォトメトリー	%	5 7	117 生化II	サンプルは乾燥させてご提出 下さい。血液などの付いたサ ンプルは蒸留水で洗浄後、乾 燥させてご提出下さい。 *4
3F095	全脂質脂肪酸分画 (5173) 3F095-0000-023-205	血清 0.8	A1 ↓ G-1 凍結	LC-MS/MS 法	次頁表1参照	15 24	405 生化II	*1
3807 3C070	総ホモシステイン (5072) 3C070-0000-022-204	血漿 0.4	E4 ↓ G-1 冷蔵	HPLC 法	M6.3 ~ 18.9 F 5.1 ~ 11.7 nmol/mL	6 12	279 生化II	*E
2820 3C045	アミノ酸分析 〔血漿〕 (5539) 3C045-0000-022-204	血漿 0.9	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	次頁表2参照	5 12	1141 生化II	
2829 3C045	アミノ酸分析 〔尿〕 (5540) 3C045-0000-001-204	尿 3.0	X-5 凍結					
3724 3C047	BTR (総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比) (5460) 3C047-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 ↓ G-1 凍結	酵素法	BCAA 344~713 チロシン 51~98 μmol/L BCAA/Tyr (モル比) 4.41~10.05	3 4	283 生化II	*1
0771 5C141	M2BPGi (MAC2 結合蛋白糖鎖修飾異性体) (7644) 5C141-0000-023-052	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	Cut off index 判定 1.00未満 (-) 表1参照	2 7	194 生化I	*1、*2 *ア


- ※1 慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。  
 ※2 IV型コラーゲン又はIV型コラーゲン・7S、プロコラーゲン-III - ペプチド(P-III-P)と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

(表1) M2BPGi 判定基準と意義

Cut off index	判定	意義
1.00 未満	陰性 (-)	非慢性肝炎
1.00 以上 ~ 3.00 未満	陽性 (1+)	慢性肝炎
3.00 以上	強陽性 (2+)	肝硬変

生検検査によって判定した肝臓の線維化ステージと良い一致率を示しますが、まれに両者で異なる結果を示すことがあります。  
 つきましては、測定結果に基づく診断については、他の検査及び臨床症状等により総合的な判断をお願いします。

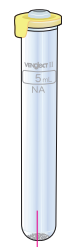
**E-2**



採血後静かに約10回ほど転倒混和  
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)  
保存はポリ試験管使用

EDTA-2Na  
5mL用

**E-4**



採血後静かに約10回ほど転倒混和、血漿分離  
冷蔵保存

EDTA-2Na  
5mL用

**G-1**



血清分離  
(必ず凍結保存)  
ポリ試験管使用

**G-6**

蓄尿又は部分尿  
必要量提出  
(尿量記載の必要なし)  
(必ず凍結保存)

実施料について(生化I)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合	
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化I 93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化I 99点
3.	10項目以上の場合 生化I 106点

# 生化学的検査

(表 1) 全脂質脂肪酸分画基準値一覧表

分画成分名	略号	基準値		分画成分名	略号	基準値	
		濃度(μg/mL)	成分比(weight %)			濃度(μg/mL)	成分比(weight %)
ラウリン酸	C12:0	4.2以下	0.16以下	5-8-11 エイコサトリエン酸	C20:3ω9	1.2~5.4	0.17以下
ミリスチン酸	C14:0	8.2~40	0.33~1.17	ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3ω6	23~72	0.92~2.24
ミリストレイン酸	C14:1ω5	3.4以下	0.10以下	アラキドン酸	C20:4ω6	142~307	4.86~9.42
パルミチン酸	C16:0	451~898	18.38~22.80	エイコサペンタエン酸	C20:5ω3	12~112	0.36~3.42
パルミトレイン酸	C16:1ω7	25~112	0.90~3.05	ベヘニン酸	C22:0	1.3~2.6	0.08以下
ステアリン酸	C18:0	164~306	6.30~9.10	エルシン酸	C22:1ω9	1.4以下	0.04以下
オレイン酸	C18:1ω9	432~1069	17.53~26.82	ドコサテトラエン酸	C22:4ω6	2.9~7.6	0.11~0.23
リノール酸	C18:2ω6	697~1280	25.30~37.02	ドコサペンタエン酸	C22:5ω3	26~60	0.98~1.79
γ-リノレン酸	C18:3ω6	3.6~22	0.14~0.71	リグセリン酸	C24:0	1.6~2.9	0.09以下
リノレン酸	C18:3ω3	10~41	0.31~1.06	ドコサヘキサエン酸	C22:6ω3	51~185	1.69~5.55
アラキジン酸	C20:0	1.2~2.7	0.07以下	ネルボン酸	C24:1ω9	2.1~4.0	0.13以下
エイコセン酸	C20:1ω9	3.2~8.2	0.12~0.23	T/T比(C20:3ω9/C20:4ω6)		0.02以下*	—
エイコサジエン酸	C20:2ω6	3.6~10	0.17~0.29	EPA/AA比(C20:5ω3/C20:4ω6)		0.06~0.44*	—

(表 2) アミノ酸分析基準値一覧表

アミノ酸名(英語)	アミノ酸名(日本語)	基準値		アミノ酸名(英語)	アミノ酸名(日本語)	基準値	
		血漿 (単位:nmol/mL)	尿 (単位:μmol/g・Cr)			血漿 (単位:nmol/mL)	尿 (単位:μmol/g・Cr)
Taurine	タウリン	46.4~128.2	280~2000	Isoleucine	イソロイシン	37.0~100.4	13~46
Phosphoethanolamine	ホスホエタノールアミン	TRA	7~70	Leucine	ロイシン	74.2~169.1	24~77
Aspartic acid	アスパラギン酸	TRA~7.2	TRA~12	Tyrosine	チロシン	38.4~89.4	49~230
Hydroxyproline	ヒドロキシプロリン	TRA~18.8	ND	Phenylalanine	フェニルアラニン	43.5~79.8	27~96
Threonine	トレオニン	74.2~216.1	70~390	β-Alanine	β-アラニン	TRA~11.8	2~110
Serine	セリン	91.5~186.4	120~630	β-Amino-iso-butyric acid	β-アミノイソ酪酸	5.9以下	TRA~830
Asparagine	アスパラギン	43.8~90.6	51~300	Homocystine	ホモシスチン	ND	ND
Glutamic acid	グルタミン酸	12.2~82.7	3~29	γ-Amino-n-butyric acid	γ-アミノ-n-酪酸	ND	ND
Glutamine	グルタミン	418.0~739.8	150~810	Ethanolamine	エタノールアミン	TRA~10.5	190~530
Sarcosine	サルコシン	TRA	ND	Hydroxylysine	ヒドロキシリジン	ND	8以下
α-Amino adipic acid	α-アミノアジピン酸	ND	5~52	Ornithine	オルニチン	42.6~141.2	TRA~35
Proline	プロリン	71.3~373.0	ND	Tryptophan	トリプトファン	36.2~79.3	22~110
Glycine	グリシン	140.4~427.3	380~3600	Lysine	リジン	125.7~281.9	78~800
Alanine	アラニン	258.8~615.2	89~560	1-Methylhistidine	1-メチルヒスチジン	9.1以下	25~2400
Citrulline	シトルリン	17.9~48.0	2~41	Histidine	ヒスチジン	63.0~105.2	400~2000
α-Amino-n-butyric acid	α-アミノ-n-酪酸	8.1~31.0	3~21	3-Methylhistidine	3-メチルヒスチジン	TRA~8.2	110~340
Valine	バリン	156.2~360.4	23~66	Anserine	アンセリン	ND	ND
Cystine	シスチン	4.7~34.8	13~76	Carnosine	カルノシン	ND	4~74
Methionine	メチオニン	15.5~38.6	11~58	Arginine	アルギニン	31.8~149.5	8~71
Cystathionine	シスタチオニン	ND	6~37	Fischer's ratio	フィッシャー比	2.2~4.3	---

(備考) ND: 検出感度以下 TRA: 痕跡

$$\text{フィッシャー比} = \frac{\text{分岐鎖アミノ酸 (BCAA)}}{\text{芳香族アミノ酸 (AAA)}} = \frac{\text{Val} + \text{Leu} + \text{Ile}}{\text{Phe} + \text{Tyr}}$$



# 生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 特殊分析検査

3859 5C210	KL-6 (1710) 5C210-0000-023-062	血清 0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集法	500 未満 U/mL	1 2	111 生化 I	
7700 3F250	SP-A (肺サーファクタントプロテインA) (1708) 3F250-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	43.8 未満 ng/mL	4 7	130 生化 I	SP-A (肺サーファクタントプロテインA) シアル化糖鎖抗原KL-6及びSP-D (肺サーファクタントプロテインD) のうちいずれか複数を実施した場合は、主たるもの*1のみ算定する。
4528 3F253	SP-D (肺サーファクタントプロテインD) (1709) 3F253-0000-023-052	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA法	110.0 未満 ng/mL	2 4	136 生化 I	* A

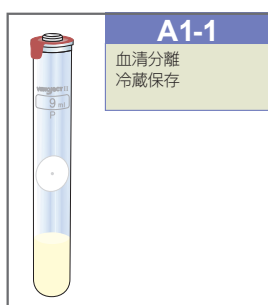
## クリアランステスト

1706 8A020	クレアチンクリアランス (1063) 8A020-0000-098-271	血清 0.5 および 尿 5.0 (同時提出)	A1-1 および C-5 冷蔵	酵素法	90 以上 mL/min	1 2		23頁参照
1088 8A025	クレアチンクリアランス (24時間内因性) (1064) 8A025-0000-098-271	血清 0.5 および 蓄尿 5.0 (同時提出)	A1-1 および C-5 冷蔵	酵素法	130 以上 ※1 L/day	1 2		23頁参照
1180 8A040	尿酸クリアランス (1942) 8A040-0000-098-271	血清 0.5 および 尿 5.0 (同時提出)	A1-1 および C-5 冷蔵	ウリカーゼ・ペルオキシダーゼ法	mL/min	1 2		23頁参照
3164 8A090	PFD (PABA 排出率) (膀胱機能) (4071) 8A090-0000-098-271	尿 5.0 (投与前) および 蓄尿 5.0 (6時間蓄尿) (同時提出)	C-5 冷蔵	DACA法	70.0 以上 %	1 3	100	24頁参照
7887 8A065	eGFRcreat (1152) 8A065-0000-023-919			計算法	24頁参照 mL/min/1.73m <sup>2</sup>	1 2		血清クレアチンを用いた推算GFRです。 ※2
0120 8A066	eGFRcys (1155) 8A066-0000-023-919			計算法	24頁参照 mL/min/1.73m <sup>2</sup>	2 4		血清シスタチンCを用いた推算GFRです。 ※3

※1 単位の変換式: Y (mL / min) = X (L/day) × 1000 ÷ 1440

※2 血清クレアチン(項目コード: 1041)との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。  
なお、年齢が18未満の場合、クレアチンの依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「取消」とご報告させていただきます。

※3 血清シスタチンC(項目コード: 1271)との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。  
なお、年齢が18未満の場合、シスタチンCの依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「取消」とご報告させていただきます。



# 生化学的検査

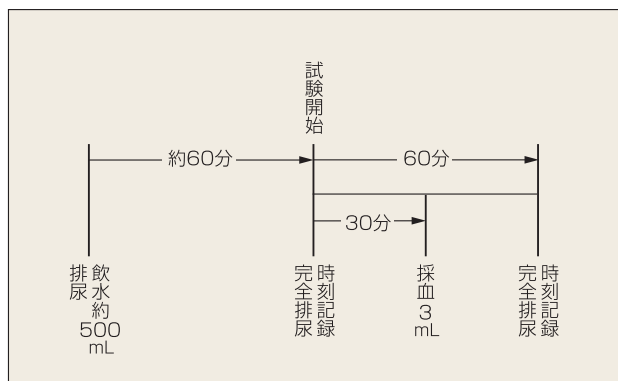
## クリアランステスト検体採取方法

### クレアチニンクリアランス、尿酸クリアランス

- (1) 朝、身長・体重を測定記録する。
- (2) 完全排尿させて捨てる。
- (3) 排尿後、温湯約500mLを飲ませる。
- (4) 飲水後、約60分に完全に排尿させて排尿終了の時刻を1分以内の正確さで記録する。(試験開始)
- (5) 開始後30分後に3mL採血、血清分離、4～6℃に保存。
- (6) 開始60分後に完全排尿、排尿終了時刻及び尿量を正確に記録する。(約5mL保存)
- (7) 完全排尿の尿量と経過時間(試験開始より完全排尿までの)を測り、1分間の尿量を正確に算出する。

$$1 \text{ 分間の尿量} = \frac{\text{完全な排尿量 (mL)}}{\text{試験開始より完全排尿までの時間 (分)}}$$

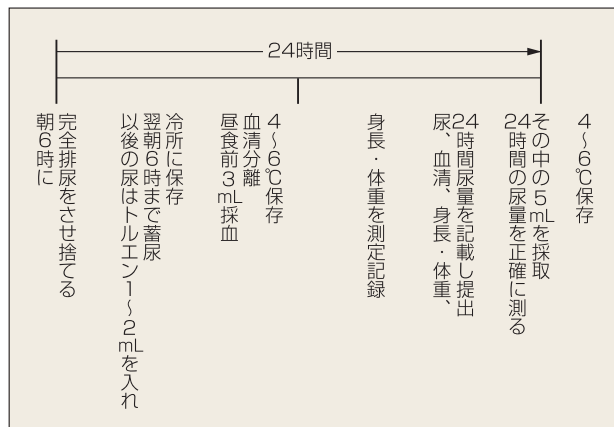
- (8) (5)の血清、(6)の尿5mL、身長・体重、1分間の尿量を記載の上提出する。
  - a 誤差の原因は不完全な排尿によるので、排尿時に十分な注意が必要である。
  - b 浮腫のある人は正常時の体重を記入して下さい。
  - c 正確を期待する場合は開始1時間半後 第2回目の採血、2時間後 第2回目の採尿を行い(5)以下の重複試験を実施、平均値を取る。
  - d 一回試験でも正確に実施すれば大きな誤差は生じない。



### クレアチニンクリアランス(24時間内因性)

- (1) 朝6時に完全排尿させて捨てる。
- (2) 以後の尿は翌朝6時まで冷所に蓄尿する。蓄尿ビンには予め防腐剤としてトルエン1～2mLを入れ、冷所に保存する。(時間を正確に)
- (3) 24時間の尿量を正確に測る。その中の5mLを採取、4～6℃保存。
- (4) 採血は昼食前に3mL採血。血清分離、4～6℃保存。
- (5) 身長・体重を測定記録する。
- (6) (3)の尿、(4)の血清、身長・体重、24時間尿量を記載して提出する。

- a 腎障害が著しく患者に水分負担が出来ない時。
- b 尿量による誤差が無視出来る。
- c 患者の日常生活のまま実施出来る等の利点がある。



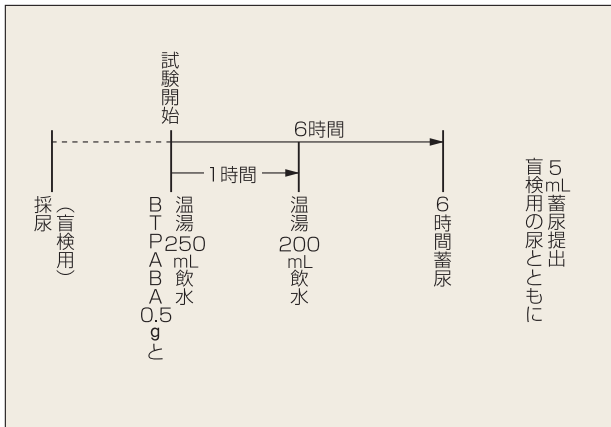
## クリアランステスト検体採取方法

### PFD

- (1) 検査開始前に盲検用の尿を採尿する。
- (2) BTPABA0.5 gを温湯250mLとともに服用させる。
- (3) 服用1時間後に利尿のため温湯200mLを飲ませる。
- (4) 検査開始後3時間後は絶食させ、その後は食事を摂らせてもよい。
- (5) 検査開始後6時間蓄尿する。
- (6) 蓄尿量を依頼書に記入し、5mLを容器に取り、盲検用の尿とともに提出して下さい。

**注意**

- 早朝空腹時に開始して下さい。
- 検査前3日間は消化酵素剤、分泌抑制剤、制酸剤などの投与は中止して下さい。



### ●推算 GFR 参考資料

1) 血清クレアチニン、及び血清シスタチンCを用いた日本人のGFR推算式

男性

$$eGFR_{creat}(mL/分/1.73m^2) = 194 \times Cr^{-1.094} \times 年齢^{-0.287}$$

$$eGFR_{cys}(mL/分/1.73m^2) = (104 \times Cys-C^{-1.019} \times 0.996^{年齢}) - 8$$

女性

$$eGFR_{creat}(mL/分/1.73m^2) = 194 \times Cr^{-1.094} \times 年齢^{-0.287} \times 0.739$$

$$eGFR_{cys}(mL/分/1.73m^2) = (104 \times Cys-C^{-1.019} \times 0.996^{年齢} \times 0.929) - 8$$

2) CKDの重症度分類

原疾患		蛋白尿区分		A1	A2	A3
糖尿病	尿アルブミン定量 (mg/日) 尿アルブミン/Cr 比 (mg/gCr)	正常	正常	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
		30未満	30~299	300以上		
高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎 不明 その他	尿蛋白定量 (g/日) 尿蛋白/Cr 比 (g/gCr)	正常	正常	正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
		0.15未満	0.15~0.49	0.50以上		
GFR区分 (mL/分/1.73m <sup>2</sup> )	G1	正常または高値	≥90			
	G2	正常または軽度低下	60~89			
	G3a	軽度~中等度低下	45~59			
	G3b	中等度~高度低下	30~44			
	G4	高度低下	15~29			
	G5	末期腎不全 (ESKD)	<15			

重症度は原疾患・GFR区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKDの重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを緑■のステージを基準に、黄■、オレンジ■、赤■の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。(KDIGO CKD guideline 2012を日本人用に改変)

# 内分泌学的検査

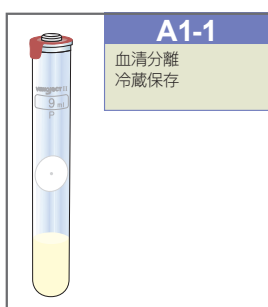
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 下垂体関連検査

3181 4A010	成長ホルモン (GH) (5002) 4A010-0000-023-053	血清 0.5	A1-1 冷蔵	ECLIA法	M 2.47 以下 F 0.13 ~ 9.88 ng/mL	2 ~ 4	108 生化II	*A
3100 4A015	ソマトメジンC (IGF-1) (5468) 4A015-0000-023-053	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA法	表1参照 ng/mL	2 ~ 4	212 生化II	*A

(表1)  
ソマトメジンC年齢別における参考値(単位: ng/mL)

男 性 (ng/mL)						女 性 (ng/mL)					
年齢 (歳)	-2SD ~ +2SD	年齢 (歳)	-2SD ~ +2SD	年齢 (歳)	-2SD ~ +2SD	年齢 (歳)	-2SD ~ +2SD	年齢 (歳)	-2SD ~ +2SD	年齢 (歳)	-2SD ~ +2SD
0	11 ~ 149	26	119 ~ 329	52	86 ~ 242	0	15 ~ 154	26	146 ~ 336	52	78 ~ 213
1	14 ~ 148	27	116 ~ 322	53	85 ~ 240	1	23 ~ 186	27	141 ~ 328	53	77 ~ 212
2	18 ~ 154	28	114 ~ 315	54	84 ~ 239	2	32 ~ 213	28	137 ~ 320	54	76 ~ 211
3	24 ~ 164	29	111 ~ 309	55	84 ~ 238	3	40 ~ 227	29	133 ~ 312	55	75 ~ 210
4	32 ~ 176	30	109 ~ 303	56	83 ~ 237	4	48 ~ 238	30	129 ~ 304	56	74 ~ 208
5	44 ~ 193	31	107 ~ 297	57	82 ~ 236	5	56 ~ 252	31	126 ~ 297	57	73 ~ 207
6	55 ~ 215	32	105 ~ 292	58	81 ~ 235	6	69 ~ 287	32	122 ~ 290	58	72 ~ 205
7	63 ~ 247	33	103 ~ 287	59	80 ~ 233	7	89 ~ 357	33	119 ~ 283	59	71 ~ 203
8	72 ~ 292	34	102 ~ 283	60	79 ~ 232	8	111 ~ 438	34	115 ~ 277	60	70 ~ 201
9	84 ~ 350	35	100 ~ 279	61	77 ~ 230	9	133 ~ 517	35	112 ~ 271	61	69 ~ 198
10	99 ~ 423	36	99 ~ 275	62	76 ~ 228	10	155 ~ 588	36	109 ~ 265	62	68 ~ 196
11	113 ~ 499	37	97 ~ 272	63	75 ~ 226	11	175 ~ 638	37	106 ~ 260	63	66 ~ 194
12	125 ~ 557	38	96 ~ 269	64	73 ~ 224	12	188 ~ 654	38	103 ~ 254	64	65 ~ 191
13	133 ~ 579	39	95 ~ 266	65	72 ~ 221	13	193 ~ 643	39	100 ~ 250	65	64 ~ 188
14	138 ~ 570	40	94 ~ 263	66	70 ~ 219	14	193 ~ 625	40	98 ~ 245	66	62 ~ 186
15	141 ~ 552	41	94 ~ 261	67	68 ~ 216	15	192 ~ 614	41	95 ~ 240	67	61 ~ 183
16	142 ~ 543	42	93 ~ 259	68	66 ~ 213	16	192 ~ 611	42	93 ~ 236	68	60 ~ 180
17	142 ~ 540	43	92 ~ 257	69	65 ~ 209	17	191 ~ 599	43	90 ~ 233	69	59 ~ 177
18	142 ~ 526	44	92 ~ 255	70	63 ~ 206	18	188 ~ 574	44	88 ~ 229	70	57 ~ 175
19	143 ~ 501	45	91 ~ 253	71	61 ~ 202	19	182 ~ 539	45	87 ~ 226	71	56 ~ 172
20	142 ~ 470	46	90 ~ 250	72	58 ~ 198	20	175 ~ 499	46	85 ~ 224	72	55 ~ 170
21	139 ~ 436	47	90 ~ 250	73	56 ~ 194	21	168 ~ 459	47	83 ~ 221	73	54 ~ 167
22	135 ~ 405	48	89 ~ 248	74	54 ~ 190	22	161 ~ 425	48	82 ~ 219	74	53 ~ 165
23	131 ~ 379	49	88 ~ 246	75	52 ~ 185	23	155 ~ 397	49	81 ~ 218	75	52 ~ 163
24	128 ~ 356	50	87 ~ 245	76	50 ~ 181	24	151 ~ 375	50	80 ~ 216	76	50 ~ 160
25	125 ~ 337	51	87 ~ 243	77	48 ~ 177	25	147 ~ 358	51	79 ~ 215	77	49 ~ 158



# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

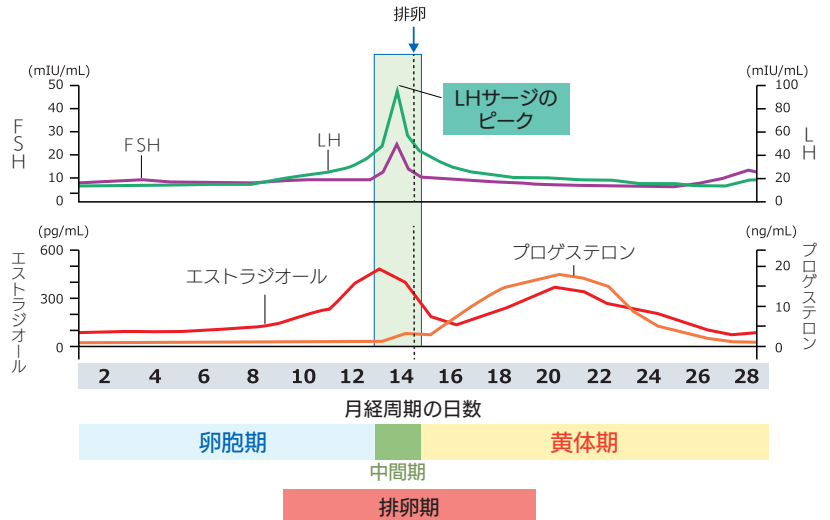
## 下垂体関連検査

3008 4A055	甲状腺刺激ホルモン (TSH) (5001) 4A055-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	0.350~4.940 μIU/mL	1 2	104 生化II	
3003 4A030	黄体形成ホルモン (LH) (5003) 4A030-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	表2・図1参照 mIU/mL	1 2	108 生化II	
3005 4A035	卵胞刺激ホルモン (FSH) (5004) 4A035-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	表2・図1参照 mIU/mL	1 2	108 生化II	
3007 4A025	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) (5005) 4A025-0000-022-053	血漿 0.5	E-2 ↓ G-1 凍結	ECLIA法	(早朝安静時) 7.2~63.3 pg/mL	2 4	189 生化II	
3009 4A020	プロラクチン (PRL) (5006) 4A020-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	M 3.46~19.40 F 5.18~26.53 ng/mL	1 2	98 生化II	
3010 4A070	AVP (アルギニンバソプレシン) (5007) 4A070-0000-022-001	血漿 1.2	E-2 ↓ G-1 凍結	RIA2抗体法	水制限 : 4.0以下 自由飲水 : 2.8以下 pg/mL	6 8	235 生化II	溶血の影響により測定値が変動する可能性があります。 抗利尿ホルモン(ADH) *1

(表2) LH・FSH基準値(単位: mIU/mL)

	LH	FSH
女性 卵胞期	1.80 ~ 11.78	3.03 ~ 8.08
中間期ピーク	7.59 ~ 89.08	2.55 ~ 16.69
黄体期	0.56 ~ 14.00	1.38 ~ 5.47
閉経後	5.16 ~ 61.99	26.72 ~ 133.41
男性	0.57 ~ 12.07	0.95 ~ 11.95

(図1) 性ホルモンの月経周期変動(目安)



**E-2**

採血後静かに約10回ほど転倒混和  
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)  
保存はポリ試験管使用

EDTA-2Na  
5mL用

**G-1**

血清分離  
(必ず凍結保存)  
ポリ試験管使用

### 実施料について(内分泌)

- 一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合
- 3項目以上5項目以下の場合  
1. 内分泌 410点
  - 6項目又は7項目の場合  
2. 内分泌 623点
  - 8項目以上の場合  
3. 内分泌 900点

# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

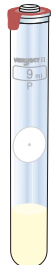
## 甲状腺関連検査

3023 4B010	トリヨードサイロニン (T <sub>3</sub> ) (5010) 4B010-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	0.57~1.52 ng/mL	1 2	99 生化II	
3025 4B015	遊離トリヨードサイロニン (F-T <sub>3</sub> ) (5097) 4B015-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	1.68~3.67 pg/mL	1 2	124 生化II	
3022 4B030	サイロキシシン (T <sub>4</sub> ) (5011) 4B030-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	4.87~11.72 μg/dL	1 2	108 生化II	
3027 4B035	遊離サイロキシシン (F-T <sub>4</sub> ) (5086) 4B035-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	0.70~1.48 ng/dL	1 2	124 生化II	
3026 4B045	サイロキシシン結合グロブリン (TBG) (5036) 4B045-0000-023-052	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA法	14~31 μg/mL	3 5	130 生化II	* 4
4821 4B040	サイログロブリン (Tg) (5161) 4B040-0000-023-051	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLIA法	3.68~64.15 ng/mL	2 3	131 生化II	

## 副甲状腺関連検査

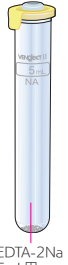
3202 4C035	カルシトニン (5018) 4C035-0000-023-053	血清 0.5	A1-1 ↓ G-1 凍結	ECLIA法	M F 5.15 以下 3.91 以下 pg/mL	2 4	133 生化II	* A
3204 4C025	副甲状腺ホルモン PTH-Intact (5088) 4C025-0000-022-053	血漿 0.5	E-1 冷蔵	ECLIA法	10~65 pg/mL	2 3	165 生化II	血清(凍結)による検査も可能です。但し、急速凝固管のご使用はお避け下さい。血清の項目コードは(0007)です。
8614 4C025	副甲状腺ホルモン Whole-PTH (5746) 4C026-0000-022-053	血漿 0.5	E-2 ↓ G-1 凍結	ECLIA法	14.9~56.9 pg/mL	2 7		* A
4185 4C034	副甲状腺ホルモン関連蛋白 Intact (PTHrP) (5884) 4C030-0000-022-006	血漿 0.5	ネ ↓ G-1 凍結	IRMA法 (ビーズ固相法)	1.1 未満 pmol/L	7 14	189 生化II	高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合のみ算定する。 * 4

**A1-1**  
血清分離  
冷蔵保存



**E-1**  
採血後静かに約10回ほど転倒混和  
そのまま冷蔵保存  
(凍結不可)

**E-2**  
採血後静かに約10回ほど転倒混和  
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)  
保存はポリ試験管使用



EDTA-2Na  
5mL用

**G-1**  
血清分離  
(必ず凍結保存)  
ポリ試験管使用

**G-5**  
冷所に24時間蓄尿  
尿量測定、混和  
必要量を提出  
(尿量明記)  
(必ず凍結保存)



# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----



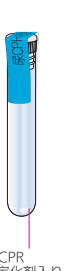
## 膵・消化管関連検査

3131 4G010	インスリン (IRI) (5043) 4G010-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	(空腹時負荷前) 2.7~10.4 μU/mL	1 2	103 生化II	溶血血清不可
3141 4G020	C-ペプチド (CPR) (5046) (5305) 4G020-0000-023-051 4G020-0000-004-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	(空腹時負荷前) 0.78~5.19 ng/mL	1 2	108 生化II	急速凝固管のご使用は お避け下さい。 血中と尿中を同時測定した 場合、血液の点数のみ算定 する。
3221 4G020		蓄尿 1.0 ※1	G-5 又は ナ 冷蔵	CLIA法	23.74~206.96 μg/day	2 3	108 生化II	
3151 4G030	膵グルカゴン (5530) 4G030-0000-022-023	血漿 0.5	ネ ↓ G-1 凍結	EIA法	(空腹時) 5.4~55.0 pg/mL	4 7	150 生化II	冷却遠心後、血漿分離 溶血は低値の影響がありま す。 *4

## 副腎髄質関連検査

3042 4E016	カテコールアミン分画 (5019) (5380) (5213) 4E016-0000-022-204 4E016-0000-041-204 4E016-0000-004-204	血漿 1.3	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC法	安静時 アドレナリン(A) 100以下 ノルアドレナリン(NA) 140~450 ドーパミン(DA) 20以下 pg/mL	3 5	165 生化II	*イ
— 4E016		髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC法	pg/mL	3 5	165 生化II	*A
3044 4E016		酸性蓄尿 2.0	I-3 凍結	HPLC法	アドレナリン(A) 3.4~26.9 ノルアドレナリン(NA) 48.6~168.4 ドーパミン(DA) 365.0~961.5 μg/day	3 6	165 生化II	*イ

※1 他項目との重複依頼は避けて下さい。

 <p><b>X-5</b> 必要量採取 (必ず凍結保存)</p>	 <p><b>ネ</b> 採血後、静かに 約10回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、 必ず凍結保存) (保存はポリ試験管 使用)</p> <p>トラジロール入り EDTA-2Na</p>	 <p>専用安定化剤</p> <p>尿CPR 安定化剤入り 有効期限3年</p>	<p><b>ナ</b></p> <p>予め専用安定化剤を蓄尿容器に 一袋全量(10g/袋 最終濃度約0.5%)を入 れて24時間蓄尿を行って下さい。 尿量測定、混和後、必要量を提出 (尿量明記)</p> <p>■特長 1. 予めの安定化剤添加により、常温蓄尿が 可能 2. 蓄尿サンプルで他項目の検査依頼は不可</p>
---	--	---	---

# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 副腎髄質関連検査

3049 4E050	ドーパミン総 (5250) 4E050-0000-022-204	血漿 1.5	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC法	1.8~7.7 ng/mL	7 } 12		*4
— 4E045	L-ドーパ (5450) 4E045-0000-022-204	血漿 1.5	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC法	1.2~2.2 ng/mL	6 } 21	ヘパリン血漿は不可	*4
— 4E070	5-ヒドロキシインドール 酢酸 (5-HIAA) (5356) (5257) (5022) 4E070-0000-022-204 4E070-0000-041-204 4E070-0000-004-204	血漿 1.1	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC法	3.6~21.5 ng/mL	3 } 8	95 生化II	*イ
8532 4E070		髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC法	5.0~34.7 ng/mL	3 } 8	95 生化II	*イ
3055 4E070		酸性蓄尿 3.0	I-3 凍結	HPLC法	1.7~7.2 mg/day	3 } 8	95 生化II	*イ
— 4E055	ホモバニリン酸 (HVA) (5355) (5111) (5021) 4E055-0000-022-204 4E055-0000-041-204 4E055-0000-004-204	血漿 1.1	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC法	7.0~25.0 ng/mL	3 } 8	69 生化II	*イ
— 4E055		髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC法	18.7~41.9 ng/mL	3 } 8	69 生化II	*イ
3050 4E055		酸性蓄尿 3.0	I-3 凍結	HPLC法	1.0~10.3 mg/day	3 } 8	69 生化II	*イ

### G-1

血清分離  
(必ず凍結保存)  
ポリ試験管使用



### I-3

6N塩酸20mL (小  
児5~10mL) を予  
め入れた容器に24  
時間蓄尿  
尿量測定、混和必要  
量提出  
(必ず凍結保存)  
(尿量明記)  
(市販の塩酸を水で  
2倍に希釈する)  
(6N塩酸)





# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------


## 副腎髄質関連検査

3736 4E060	バニールマンデル酸 (VMA)  (5354) (5095) (5020) 4E060-0000-022-204 4E060-0000-041-204 4E060-0000-004-204	血漿 1.1	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	3.3 ~ 9.9 ng/mL	3 } 8	90 生化II	*イ
— 4E060		髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC 法	1 以下 ng/mL	3 } 8	90 生化II	*イ
3046 4E060		酸性蓄尿 3.0	I-3 凍結	HPLC 法	1.1 ~ 7.2 mg/day	3 } 8	90 生化II	*イ
2086 4E040	メタネフリン・ノルメタネフリン分画 (5481) 4E040-0000-004-205	酸性蓄尿 2.0	I-3 冷蔵 避光	LC/MS/MS 法	メタネフリン (MN) 0.04 ~ 0.19 ノルメタネフリン (NMN) 0.09 ~ 0.33 mg/day	4 } 6	220 生化II	*1 *4

※1 所定用量の専用添加材を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。メタネフリン総 (mg/day) も報告いたします。

**E-2**

採血後静かに約 10 回ほど転倒混和  
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)  
保存はポリ試験管使用



EDTA-2Na  
5mL用

**X-5**

必要量採取  
(必ず凍結保存)



実施料について (内分泌)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合	
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3.	8項目以上の場合 内分泌 900点

# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

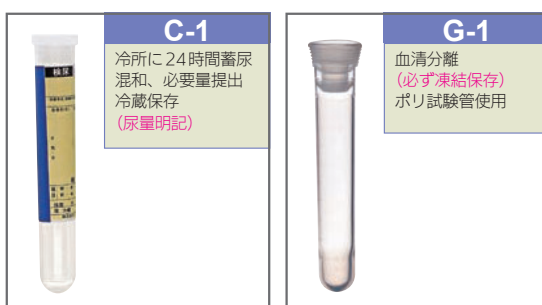
## 副腎皮質関連検査

3085 4D018	17-ケトステロイド分画 (17-KS分画) (5702) 4D018-0000-004-203	蓄尿 12.0	I-3 冷蔵	GC / MS法 (酵素水解法)	表1参照  mg/day	7 8	213 生化II	酸性蓄尿は避けて下さい。  *4
3073 4D035	11-ヒドロキシ コルチコステロイド (11-OHCS) (5030) 4D035-0000-023-282	血清 0.5	A1-1 冷蔵	蛍光法 (De Moor変法)	(午前10時採血) 7.0~23.0  μg/dL	3 9	60 生化II	  *4
3071 4D040	コルチゾール (5028) 4D040-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	(午前(10時以前)) 3.7~19.4  μg/dL	1 2	124 生化II	
3060 4D045	尿中コルチゾール (5016) 4D045-0000-004-051	蓄尿 又は 随時尿 1.0	C-1 冷蔵	CLIA法	蓄尿 4.3~176.0 随時尿 なし  μg/day	3 4	124 生化II	酸性蓄尿は避けて下さい。 ※ 冷所に蓄尿し、よく混和し て所定量をご提出下さい。 *E

(表1)

17-ケトステロイド分画基準値 単位: mg/day

	男性	女性
17-KS アンドロステロン	1.10~4.20	0.40~3.00
17-KS エチオコラノロン	0.55~2.60	0.30~2.50
17-OXY 11-ケト-エチオコラノロン	0.04~0.65	0.03~0.50
17-OXY 11-ヒドロキシアンドロステロン	0.40~2.30	0.22~1.60
17-OXY 11-ヒドロキシエチオコラノロン	0.03~0.65	0.02~0.65
17-OXY 11-ケト-アンドロステロン	0.12以下	0.07以下



# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 副腎皮質関連検査

3053 4D090	デハイドロエピアンドロステロン サルフェート (DHEA-S) (5369) 4D090-0000-023-052	血清 0.5	A1-1 ↓ G-1 凍結	CLEIA法	表2参照	2 4	169 生化II	*A
3061 4D115	アルドステロン (5024) 4D115-0000-023-052 4D115-0000-022-052	血清 0.5 又は 血漿 0.5	A1-1 冷蔵 又は E-2→G-1 凍結 下記参照	CLEIA法	4.0～82.1 pg/mL	2 4	125 生化II	*A
3062 4D115	尿中アルドステロン (5533) 4D115-0000-004-052	蓄尿 1.5	G-5 凍結		1.0～19.3 μg/day	6 8	125 生化II	尿量不明、部分尿で出検された場合、結果は整数で単位はpg/mLとなります。 *4
0907 4D120	アルドステロン/レニン活性比 (PAC / PRA比) (5784) 4D120-0000-022-919	血漿 0.8 又は 血漿 0.3 血清 0.5 (同時提出)	E-2→G 凍結 又は E-2→G 凍結 A1-1 冷蔵 下記参照	アルドステロン:CLEIA法 レニン活性: EIA法	200 以下	3 5		「アルドステロン」と「レニン活性」の同時依頼が必要で す。(32、36頁参照) ※1、※3 *A
5084 4D122	アルドステロン/レニン定量比 (PAC / ARC比) (5785) 4D122-0000-022-919	血漿 1.0 又は 血漿 0.5 血清 0.5 (同時提出)	E-2→G 凍結 又は E-2→G 凍結 A1-1 冷蔵 下記参照	アルドステロン:CLEIA法 レニン定量:CLEIA法	40 以下	2 7		「アルドステロン」と「レニン定量」の同時依頼が必要で す。(32、36頁参照) ※2、※3 *A
2858 4D120	アルドステロン(CLEIA)/ レニン活性比 (5245) 4D120-0000-022-919	血漿 0.6 又は 血漿 0.3 血清 0.3 同時提出	E-2→G 凍結 又は E-2→G 凍結 A1-1 冷蔵 下記参照	アルドステロン:CLEIA法 レニン定量: EIA法	100 未満	3 5		※4 *A
2859 4D122	アルドステロン(CLEIA) /活性型レニン定量(レニン定量)比 (5241) 4D122-0000-022-919	血漿 0.6 又は 血漿 0.3 血清 0.3 同時提出	E-2→G 凍結 又は E-2→G 凍結 A1-1 冷蔵 下記参照	CLEIA法	20 未満	3 5		※5 *A

注1 降圧剤(利尿剤)であるスピロラクトン及びその代謝物による交差反応が検査値に影響を与える可能性があり、当該薬剤投与時には測定の実施を避けて下さい。

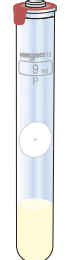
- ※1 アルドステロン/レニン活性比では、「アルドステロン」、「レニン活性」の容器・保存方法及び両項目の検体量を掲載しています。
- ※2 アルドステロン/レニン定量比では、「アルドステロン」、「レニン定量」の容器・保存方法及び両項目の検体量を掲載しています。
- ※3 アルドステロン・レニン比のPAスクリーニングカットオフ値は従来のRIA法アルドステロン値を元に設定されており、活性比のアルドステロンはRIA相当値で計算いたします。(RIA相当値=アルドステロンCLEIA値×1.174+42.3)
- ※4 アルドステロン(CLEIA)/レニン活性比のみのご依頼は出来ません。【3061】アルドステロン、【3063(臥位)又は2415(座位)又は2996(立位)】レニン活性も同時に  
ご依頼ください。
- ※5 アルドステロン(CLEIA)/活性型レニン定量(レニン定量)比のみのご依頼は出来ません。【3061】アルドステロン、【3470】活性型レニン定量(レニン定量)も同時に  
ご依頼ください。

(表2) デハイドロエピアンドロステロンサルフェート  
(DHEA-S)基準値 (単位: μg/dL)

年齢(歳)	男性	女性
18～20	24～537	51～321
21～30	85～690	18～391
31～40	106～464	23～266
41～50	70～495	19～231
51～60	38～313	8～188
61～70	24～244	12～133
71以上	5～253	7～177

**A1-1**

血清分離  
冷蔵保存



**C-1**

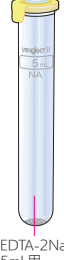
冷所に24時間蓄尿  
混和、必要量提出  
冷蔵保存  
(尿量明記)



**E-2**

採血後静かに約10  
回ほど転倒混和  
(低温にて血漿分離、  
必ず凍結保存)  
保存はポリ試験管使  
用

EDTA-2Na  
5mL用



**G-1**

血清分離  
(必ず凍結保存)  
ポリ試験管使用

**G-5**

冷所に24時間蓄尿  
尿量測定、混和  
必要量を提出  
(尿量明記)  
(必ず凍結保存)



実施料について(内分泌)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合	
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3.	8項目以上の場合 内分泌 900点

# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	-----

## 性腺関連検査

3107 4F025	エストラジオール (E <sub>2</sub> ) (5091) 4F025-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	表1・26頁図1参照 pg/mL	1 2	172 生化II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。
3111 4F045	プロゲステロン (5038) 4F045-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	男性 0.1未満～0.2 女性 卵胞期 0.1未満～0.3 黄体期 1.2～15.9 閉経後 0.1未満～0.2 妊娠初期 2.8～147.3 妊娠中期 22.5～95.3 妊娠後期 27.9～242.5 ng/mL 26頁図1参照	1 2	147 生化II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。

(表1) エストラジオール基準値

	血清 (単位: pg/mL)	
	E <sub>2</sub>	
男性	11 ~ 44	
女性	卵胞期	21 ~ 251
	中間期	38 ~ 649
	黄体期	21 ~ 312
	閉経後	10 未満 ~ 28

	<b>A1-1</b> 血清分離 冷蔵保存
	<b>C-1</b> 冷所に24時間蓄尿 混和、必要量提出 冷蔵保存 (尿量明記)
	<b>G-1</b> 血清分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用
	<b>G-5</b> 冷所に24時間蓄尿 尿量測定、混和 必要量を提出 (尿量明記) (必ず凍結保存)

# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 性腺関連検査

3065 4F055	プレグナンジオール (P <sub>2</sub> ) (5037) 4F055-0000-004-203	蓄尿 12.0	C-1 冷蔵	GC / MS法 (酵素水解法)	M 0.16 ~ 0.79 F (卵胞期) 0.28 ~ 1.42 (黄体期) 0.79 ~ 6.83 (妊娠前期) 1.29 ~ 6.08 (妊娠中期) 3.05 ~ 24.22 (妊娠後期) 9.10 ~ 60.51 mg/day	7 8	213 生化II	性別を明記して下さい。 妊娠の有無、妊娠週数を 必ず記載して下さい。 * 4
3064 4F060	プレグナントリオール (P <sub>3</sub> ) (5009) 4F060-0000-004-203	蓄尿 12.0	C-1 冷蔵	GC / MS法 (酵素水解法)	M 0.13 ~ 1.60 F (卵胞期) 0.13 ~ 1.30 (分泌期) 0.13 ~ 1.90 (閉経期) 0.02 ~ 0.83 mg/day	7 8	232 生化II	性別を明記して下さい。 妊娠の有無、妊娠週数を 必ず記載して下さい。 * 4
3101 4F065	テストステロン (5039) 4F065-0000-023-051	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLIA法	男性 21 ~ 49歳 240.24 ~ 870.68 50歳以上 220.91 ~ 715.81 女性 21 ~ 49歳 13.84 ~ 53.35 50歳以上 12.40 ~ 35.76 ng/dL	1 2	122 生化II	
0910 4F070	遊離テストステロン (5915) 4F070-0000-023-021	血清 0.2	A1-1 ↓ G-1 凍結	EIA法	表2参照	3 5	159 生化II	* A
2080 4F100	抗ミュラー管ホルモン (AMH) (5048) 4F100-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	表3参照 ng/mL	2 4		* A

(表2) 遊離テストステロン基準値 (単位: pg/mL)

年齢	男性	女性
20 ~ 29	8.8 ~ 31.7	1.5 ~ 4.9
30 ~ 39	7.3 ~ 28.9	0.8 ~ 4.1
40 ~ 49	6.2 ~ 24.9	0.5 ~ 4.0
50 ~ 59	6.1 ~ 25.0	
60 ~ 80	5.8 ~ 18.2	

(表3) 抗ミュラー管ホルモンの参考基準値

年齢(歳)	n	中央値(ng/mL)	95%信頼区間(参考基準値)(ng/mL)
≤ 27	558	4.69	0.76 ~ 14.18
28	387	4.27	0.84 ~ 12.44
29	555	4.14	0.86 ~ 11.97
30	663	4.02	0.79 ~ 12.74
31	865	3.85	0.44 ~ 13.08
32	872	3.54	0.62 ~ 13.87
33	959	3.32	0.40 ~ 12.76
34	1,064	3.14	0.38 ~ 11.16
35	1,191	2.62	0.37 ~ 10.18
36	1,122	2.50	0.33 ~ 9.93
37	1,154	2.27	0.24 ~ 8.50
38	1,230	1.90	0.11 ~ 7.81
39	1,176	1.80	0.13 ~ 7.45
40	1,057	1.47	0.08 ~ 6.13
41	888	1.30	0.06 ~ 5.52
42	715	1.00	0.05 ~ 5.81
43	509	0.72	0.03 ~ 4.49
44	309	0.66	0.03 ~ 3.98
45	144	0.41	0.03 ~ 3.43
46 ≤	127	0.30	0.02 ~ 1.67
全群	15,545	2.36	0.12 ~ 10.67

※ JISART (日本生殖補助医療標準化機関) の各施設に通院する不妊症患者で本品を用いて測定した16,526例のうち、多嚢胞性卵巣(PCO) (939例) および早発卵巣不全(POI) (42例) と診断された症例を除外した後の、女性15,545例のAMH測定値の年齢別分布(中央値)をノンパラメトリック法により求めました。(JISART多施設共同研究での国内検討データ)

### 【判定上の留意事項】

日本産科婦人科学会 生殖・内分泌委員会 生殖医療リスクマネージメント小委員会の報告では、AMH測定に際して留意すべき事項として次の4項目が挙げられています。

- ①AMHは卵子の質とは関連しない。
- ②AMHの測定値は個人差が大きく、若年女性でも低い場合や高齢女性でも高い場合があり、測定値からいわゆる「卵巣年齢」の推定はできない。
- ③測定値と妊娠する可能性とは直接的な関連はなく、測定値から「妊娠できる可能性」を判定するのは不適切と考えられる。
- ④測定値が低い場合でも「閉経が早い」という断定はできない。

### 実施料について (内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合	
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3.	8項目以上の場合 内分泌 900点

# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------



## 胎盤機能検査

5429 4F080	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量 (HCG)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA法	表1参照 mlU/mL	2 3	134 生化II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。 * A
1228 4F080	(5040) (5258) 4F080-0000-023-053 4F080-0000-001-053	尿 1.0	C-3 冷蔵	ECLIA法	3.0 以下 mlU/mL	2 3	134 生化II	*1 * A
2255 4F090	遊離βHCG (HCGβサブユニット) (5350) 4F090-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	0.28 未満 ng/mL	3 4	132 生化II	* E

\*1 ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定性又は、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

(表1) ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(HCG)《血清》基準値  
(単位: mlU/mL)

男性		1.0 以下
女性	閉経前非妊婦	4.9 以下
	閉経後非妊婦	8.1 以下
	妊婦	
	3週	5.4 ~ 72.0
	4週	10.2 ~ 708
	5週	217 ~ 8254
	6週	152 ~ 32177
	7週	4059 ~ 153767
	8週	31366 ~ 149094
	9週	59109 ~ 135901
	10週	44186 ~ 170409
	12週	27107 ~ 201615
	14週	24302 ~ 93646
	15週	12540 ~ 69747
	16週	8904 ~ 55332
17週	8240 ~ 51793	
18週	9649 ~ 55271	

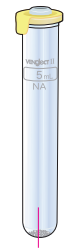
 <p><b>A1-1</b> 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p><b>C-3</b> 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (尿量記載の必要なし)</p>	 <p><b>G-1</b> 血清分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>
--	--	---

# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
<b>その他</b>								
— 4Z255	サイクリックAMP (c-AMP)  (5157) (5297) 4Z255-0000-022-004 4Z255-0000-004-004	血漿 0.3	E-2 ↓ G-1 凍結	RIA DCC法	11~21  pmol/mL	注1	170 生化II	* 4
— 4Z255		蓄尿 1.0	G-7 凍結	RIA DCC法	1.8~6.3  μmol/day	要 確認	170 生化II	* 4
3057 4E065	セロトニン  (5023) (5320) 4E065-0000-019-204 4E065-0000-022-204	全血 0.6	E-2 凍結	LC-MS/MS法	52.8~200  ng/mL	4 } 10		* 1
— 4E065		多血小板 血漿 0.6	E-5 ↓ G-1 凍結	HPLC法	623 以下  ng/mL	4 } 10	採血後、4℃、900rpm、 20分遠心分離によりPRP を採取して下さい。	* 1
3063 4Z010	レニン活性 (PRA)  (5025) 4Z010-0000-022-023	血漿 0.3	E-2 ↓ G-1 凍結	EIA法	臥位 0.2~2.3 座位 0.2~3.9 立位 0.2~4.1  ng/mL/h	3 } 6	100 生化II	同時算定不可
3470 4Z020	レニン定量 (ARC)  (5367) 4Z020-0000-022-052	血漿 0.5	E-2 ↓ G-1 凍結	CLEIA法	2.21 ~ 39.49  pg/mL	2 } 7	105 生化II	*ア

注1 事前に担当営業所にご確認下さい。

内分泌学



EDTA-2Na  
5mL用

E-2	E-5
採血後静かに約10回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、 必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	採血後静かに約10回ほど転倒混和 低温にて180G 20分間遠心 多血小板血漿を分取し (必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用 遠心機回転数については巻末「容器一覧」参照



G-7
トルエン1~2mLを加え冷所に24時間蓄尿 尿量測定、混和 必要量を提出 (尿量明記) (必ず凍結保存)

実施料について (内分泌)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合	
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3.	8項目以上の場合 内分泌 900点

# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## その他

1135 4Z275	エリスロポエチン (5042) 4Z275-0000-023-052	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA法	4.2~23.7 mIU/mL	2 ~ 4	209 生化II	※1 * A
3168 4Z280	オステオカルシン (BGP) (5451) 4Z280-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 ↓ G-1 凍結	FEIA法	8.3~32.7 ng/mL	4 ~ 8	157 生化II	※2、※3 * 1
1940 4Z282	低カルボキシル化 オステオカルシン (ucOC) (4704) 4Z282-0000-023-053	血清 0.3	A1-1 ↓ G-1 凍結	ECLIA法	4.50 未満 ※4 ng/mL	4 ~ 8	154 生化II	※5 溶血でのご依頼は避けて下 さい。 * F

※1 以下のいずれかの目的で行った場合に算定する。

ア) 赤血球増加症の鑑別診断

イ) 重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチンもしくはダルベポエチン投与前の透析患者における腎性貧血の診断

ウ) 骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定

※2 続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合のみ算定できる。

※3 NTx、デオキシピリジノリン(尿)、TRACP-5bを併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。

※4 骨粗鬆症患者におけるビタミンK不足状態判定のカットオフ値です。

※5 低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)は、骨粗鬆症におけるビタミンK<sub>2</sub>剤の治療選択目的で行った場合、又は治療経過観察を行った場合に算定できる。但し、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できる。





# 内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 心臓関連検査




3036 4Z270	<b>HANP</b> (ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド) (5063) 4Z270-0000-022-052	血漿 0.5	ネ ↓ <b>G-1</b> 凍結	CLEIA法	43.0 以下  pg/mL	2 3	221 生化II	※2、※4 溶血の場合は低値となり ますのでご注意ください。
3870 4Z271	<b>BNP</b> (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド) (5570) 4Z271-0000-022-051	血漿 0.5	E-2 ↓ <b>G-1</b> 凍結	CLIA法	18.4 以下  pg/mL	2 3	133 生化II	溶血の場合は低値となり ますのでご注意ください。  ※2、※3、※4
2667 4Z272	<b>NT-proBNP</b> (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド) 前駆体N端フラグメント (5777) 4Z272-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	125 以下  pg/mL ※1	2 3	136 生化II	

※1 基準値はメーカー設定による基準値(心不全除外のカットオフ値)です。

※2 BNP、NT-proBNP及びHANPのうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

※3 心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。

※4 本検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に本検査の実施日(2項目以上併せて実施した場合は、併せて当該検査の実施日)を記載する。

	<b>G-1</b> 血清分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用
	<b>E-2</b> 採血後静かに約10 回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、 必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使 用
	<b>ネ</b> 採血後、静かに 約10回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、 必ず凍結保存) (保存はポリ試験管 使用)

実施料について (内分泌)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合	
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3.	8項目以上の場合 内分泌 900点

# 内分泌負荷試験

## 内分泌負荷試験

負荷試験名	測定ホルモン	内容	保険点数
下垂体前葉負荷試験	成長ホルモン(GH)	インスリン負荷、アルギニン負荷、L-DOPA負荷 クロニジン負荷、グルカゴン負荷、プロプラノロール負荷 プロモクリプチン負荷、睡眠負荷など	1200 (一連として月二回) ※
	黄体形成ホルモン(LH)及び 卵胞刺激ホルモン(FSH)	LH-RH負荷、クロミフェン負荷など	1600 (一連として月一回)
	甲状腺刺激ホルモン(TSH)	TRH負荷など	1200 (一連として月一回)
	プロラクチン(PRL)	TRH負荷、プロモクリプチン負荷など	1200 (一連として月一回)
	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	インスリン負荷、メトピロン負荷、デキサメサゾン負荷など	1200 (一連として月一回)
下垂体後葉負荷試験	アルギニンバソプレッシン(AVP) (抗利尿ホルモン)(ADH)	水制限、高張食塩水負荷(カーター・ロビンテスト)など	1200 (一連として月一回)
甲状腺負荷試験	T <sub>3</sub> 、T <sub>4</sub> 、FT <sub>3</sub> 、FT <sub>4</sub>	T <sub>3</sub> 抑制など	1200 (一連として月一回)
副甲状腺負荷試験	PTH	カルシウム負荷、PTH負荷(エルスワース・ハワードテスト) EDTA負荷など	1200 (一連として月一回)
副腎皮質負荷試験	鉱質コルチコイド(レニン、レニン活性、 アルドステロン)	フロセミド負荷、アンジオテンシン負荷など	1200 (一連として月一回)
	糖質コルチコイド(コルチゾール、 DHEA-S)	ACTH負荷、デキサメサゾン負荷、メトピロン負荷など	1200 (一連として月一回)
性腺負荷試験	テストステロン	HCG負荷など	1200 (一連として月一回)
	エストラジオール(E <sub>2</sub> )	HMG負荷など	

※患者1人につき月2回に限り算定する。

### 保険点数について

- 1月に3600点を限度として算定する。
- 負荷試験に伴って行った注射(手技料)、採血及び検体測定のコスト(点数)は、採血回数及び測定回数に係らず、所定点数に含まれるものとする。

## 糖負荷試験

負荷試験名	測定項目・内容	保険点数
常用負荷試験	血糖(尿糖検査を含む)	200 ※
耐糖能精密検査 グルカゴン負荷試験	インスリン(IRI)及び血糖(尿糖検査を含む)、C-ペプチド(CPR) [血清]及び血糖(尿糖検査を含む)	900 ※

※注射(手技料)、採血及び検体測定費用(点数)は、採血回数に係らず所定点数に含まれるものとする。

## 75g 経口ブドウ糖負荷試験(75gOGTT)実施上の注意

### 検査手順

1. 朝まで10時間以上絶食の後、空腹のまま来院させる。この検査を午前9時頃に開始することが望ましい。
2. 空腹のまま採血<sup>注1)</sup>し血糖値を測定する。次にブドウ糖(無水ブドウ糖末75gを水に溶かしたもの、又はでんぷん分解産物の相当量、例えばトレーランG)を飲用させる。
3. ブドウ糖負荷後30分、1時間<sup>注2)</sup>と2時間に採血し血糖値を測定する。
4. 判定基準に従い、糖尿病型、正常型、境界型のいずれかに判定する。
5. 検査終了まで喫煙、運動は控える。又、上部消化管造影X線検査や内視鏡検査後に本試験を行わない。

注1) 75gOGTT前後のインスリン反応を測定する場合には、負荷前及び負荷後30分にインスリン測定用のサンプルを採血する。

注2) 75gOGTTで、30分、60分の血糖値は糖尿病の診断には必要ないが、境界型を正確に判定し糖尿病高リスク群を見出すために役立つ。

## 糖尿病の診断方法および診断基準

### 型の判定(1時点での高血糖の存在確認)

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| ①早朝空腹時血糖値 126 mg/dL 以上     | } ①~④のいずれかが確認された場合は「 <b>糖尿病型</b> 」と判定する。  |
| ②75gOGTTで2時間値 200 mg/dL 以上 |   |
| ③随時血糖値 200 mg/dL 以上        |   |
| ④HbA1cが6.5%以上              |   |
| -----                      |   |
| ⑤早朝空腹時血糖値 110 mg/dL 未満     | } ⑤および⑥の血糖値が確認された場合には「 <b>正常型</b> 」と判定する。 |
| ⑥75gOGTTで2時間値 140 mg/dL 未満 |   |

●上記の「糖尿病型」「正常型」いずれにも属さない場合は「**境界型**」と判定する。

### 空腹時血糖値<sup>注1)</sup>および75gOGTTによる判定区分と判定基準

血糖値 (静脈血漿値)	血糖測定時間		判定区分
	空腹時	負荷後2時間	
126 mg/dL以上	←または→	200 mg/dL以上	糖尿病型
糖尿病型にも正常型にも属さないもの			境界型
110 mg/dL未満	←および→	140 mg/dL未満	正常型 <sup>注2)</sup>

注1) 血糖値は、とくに記載のない場合には静脈血漿値を示す。

注2) 正常型であっても1時間値が180 mg/dL 以上の場合は180 mg/dL 未満のものに比べて糖尿病に悪化する危険が高いため、境界型に準じた取り扱い(経過観察など)が必要である。また、空腹時血糖値が100~109 mg/dL は正常域ではあるが、「正常高値」とする。この集団は糖尿病への移行やOGTT時の耐糖能障害の程度からみて多様な集団であるため、OGTTを行うことが勧められる。

日本糖尿病学会糖尿病診断基準に関する調査検討委員会：糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告(国際標準化対応版)．糖尿病55：499，2012より一部改変

# 腫瘍マーカー

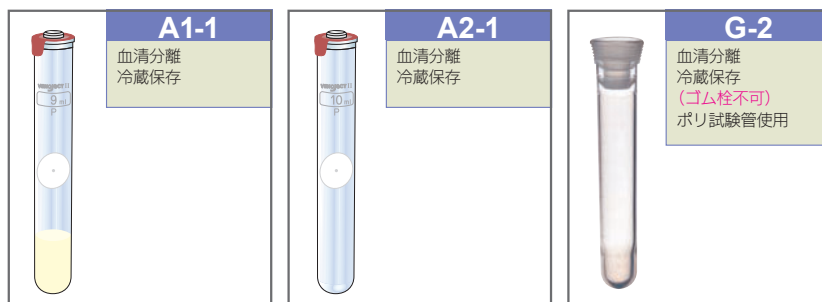
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 胎児性蛋白

3290 5D015	<b>α-フェトプロテイン</b> (AFP) (4009) 5D015-0000-023-051	血清 <b>0.2</b>	<b>A1-1</b> 冷蔵	CLIA法	10.0 以下 ng/mL	1 2	101 生化II	
8098 5D018	<b>α-フェトプロテイン レクチン分画</b> (AFP-L3%) (4587) 5D018-0000-023-024	血清 <b>0.4</b>	<b>A1-1</b> 冷蔵	LBA (LBA-EATA)法	L3分画 10.0 未満 %	2 5	190 生化II	*イ
3288 5D010	<b>CEA</b> (癌胎児性抗原) (4010) 5D010-0000-023-051	血清 <b>0.2</b>	<b>A1-1</b> 冷蔵	CLIA法	5.0 以下 ng/mL	1 2	99 生化II	DUPAN-2と同時算定不可
3706 5D025	<b>BFP</b> (塩基性フェトプロテイン) (4330) 5D025-0000-023-023	血清 <b>0.4</b>	<b>A2-1</b> ↓ <b>G-2</b> 冷蔵	EIA法	75 未満 ng/mL	2 7	150 生化II	採血後2時間以内に血清分離して下さい。 溶血不可 分離剤入りの容器での採血不可 *ア

## 糖鎖抗原

3710 5D200	<b>NCC-ST-439</b> (4332) 5D200-0000-023-023	血清 <b>0.4</b>	<b>A1-1</b> 冷蔵	EIA法	M 4.5 未満 F (49才以下) 7.0 未満 (50才以上) 4.5 未満 U/mL	2 5	115 生化II	*ア
3245 5D170	<b>DUPAN-2</b> (4365) 5D170-0000-023-023	血清 <b>0.4</b>	<b>A1-1</b> 冷蔵	EIA法	150 以下 U/mL	2 5	118 生化II	癌胎児性抗原(CEA) と同時算定不可 *ア
3299 5D130	<b>CA19-9</b> (4103) 5D130-0000-023-051	血清 <b>0.3</b>	<b>A1-1</b> 冷蔵	CLIA法	37.0 以下 U/mL	1 2	124 生化II	
3284 5D120	<b>CA15-3</b> (4049) 5D120-0000-023-051	血清 <b>0.5</b>	<b>A1-1</b> 冷蔵	CLIA法	31.3 以下 U/mL	1 2	115 生化II	CSLEXと同時算定不可
3275 5D100	<b>CA125</b> (4106) 5D100-0000-023-051	血清 <b>0.5</b>	<b>A1-1</b> 冷蔵	CLIA法	35.0 以下 U/mL	1 2	140 生化II	



# 腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
糖鎖抗原								
7232 5D110	ヒト精巢上体蛋白 4 (HE4) (4331) 5D110-0000-023-051-01	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLIA法	閉経前：70.0 以下 閉経後：140.0 以下 pmol/L	3 8	200 生化II	*A
(7390)	ROMA (卵巣悪性腫瘍推定値) (4828)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	計算法	閉経前：7.4 未満 閉経後：25.3 未満 %	2 7		*1、2 *A
3721 5D125	BCA225 (4394) 5D125-0000-023-052	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA法	160.0 未満 U/mL	2 4	158 生化II	*A
3720 5D175	SLX (シアリルLe <sup>x</sup> -i抗原) (4359) 5D175-0000-023-006	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IRMA法 (RIA・固相法)	38.0 以下 U/mL	4 6	144 生化II	溶血不可 *E
2978 5D177	CSLEX (シアリルLe <sup>x</sup> 抗原) (4765) 5D177-0000-023-023	血清 0.5	A1-1 冷蔵	EIA法	8.0 未満 U/mL	4 7	160 生化II	診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。 CA15-3と同時算定不可 *E
3723 5D153	シアリルTn抗原 (STN) (4447) 5D153-0000-023-005	血清 0.3	A1-1 冷蔵	RIA固相法	45 以下 U/mL	4 7	146 生化II	*4
3709 5D150	CA72-4 (4033) 5D150-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	11.97 以下 U/mL	2 4	146 生化II	*A
3708 5D220	SPan-1 (4034) 5D220-0000-023-006	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IRMA法 (RIA・固相法)	30.0 以下 U/mL	3 4	144 生化II	*E

※1 閉経前・後で計算式、基準値が異なるため、閉経前・後両方の結果値を報告いたします。

※2 ROMAは、HE4とCA125（専用試薬）の測定結果から計算で算出します。なお、HE4、および、CA125（ROMA用）を併せて報告いたします。

青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、47～48頁をご参照下さい。

# 腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 腫瘍関連抗原

3166 5D325	シフラ (CYFRA21-1) (サイトケラチン 19 フラグメント) (4388) 5D325-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA 法	2.08 以下 ng/mL	2 3	158 生化II	※1
3276 5D300	扁平上皮癌関連抗原 (SCC 抗原) (4050) 5D300-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA 法	2.0 以下 ng/mL	1 2	104 生化II	注1
3293 3B195	エラストラーゼ I (4027) 3B195-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	300 以下 ng/dL	2 3	123 生化II	
3410 5D305	PSA (前立腺特異抗原) (4088) 5D305-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA 法	4.000 以下 ng/mL	1 2	124 生化II	※2
7105 5D305	高感度 PSA タンデム (4397) 5D305-0000-023-052	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	4.00 以下 ng/mL	1 2		
4079 5D306	PSA-ACT (4446) 5D306-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA 法	3.40 以下 ng/mL	2 4		*A
4118 5D308	高感度 PSA タンデム F/T 比 (4781) 5D308-0000-023-052	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	F/T 比 : 25 以上 総 PSA : 4.00 以下 % ng/mL	1 2	150 生化II	※3
2199	プロステートヘルス インデックスセット (phi セット) (4281) 5D309-0000-023-052	血清 0.8	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	表 1 参照	1 2	281 生化II	※4
2209	phi F/T 比同時依頼セット (4122) 5D309-0000-023-052				表 2 参照			

注1 フケ、毛髪、皮膚(表皮)、爪等の混入により異常高値を示す場合がありますので、検体の取り扱いには十分ご注意ください。

※1 悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺がんの場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。

※2 PSAは、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。但し、PSAの検査結果が4.0 ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3ヶ月に1回に限り、3回を上限として算定できる。なお、PSAを2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

※3 PSA F/T 比のカットオフ値 25%は、高感度 PSA タンデムのグレーゾーン(4.01~10.0 ng/mL)における前立腺癌と前立腺肥大症の判別に用いるカットオフ値です。25%以下 低値になる程、前立腺癌の確率が高くなります。25% 超 高値になる程、良性前立腺癌の確率が高くなります。

※4 F/T 比の報告が必要な場合は、(4122) phi F/T 比同時依頼セットをご依頼下さい。

(表1) phiセット 基準値・単位

項目名	基準値	単位
phi	27.2未満	なし
t-PSA	4.00以下	ng/mL
f-PSA	なし	ng/mL
[-2]proPSA	なし	pg/mL

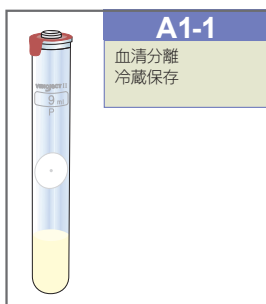
(表2) phi F/T比同時依頼セット 基準値・単位

項目名	基準値	単位
phi	27.2未満	なし
t-PSA	4.00以下	ng/mL
f-PSA	なし	ng/mL
[-2]proPSA	なし	pg/mL
F/T比	25超	%

# 腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
<b>腫瘍関連抗原</b>								
3274 5D310	<b>γ -Sm</b> (γ -セミノプロテイン) (4043) 5D310-0000-023-052	血清 0.6	<b>A1-1</b> ↓ <b>G-1</b> 凍結	CLEIA 法	4.00 以下 ng/mL	4 } 8	194 生化II	*1
3719 5D550	<b>Pro GRP</b> (ガストリン放出ペプチド前駆体) (4429) 5D550-0000-023-053	血清 0.6	<b>A1-1</b> 冷蔵	ECLIA 法	81.0 未満 pg/mL	2 } 4	175 生化II	同時算定不可
3281 5D410	<b>NSE</b> (神経特異エノラーゼ) (4048) 5D410-0000-023-053	血清 0.2	<b>A1-1</b> 冷蔵	ECLIA 法	16.3 以下 ng/mL	2 } 3	142 生化II	溶血不可 赤血球や血小板中にある NSE が影響を与える恐れが ありますので、採血後、血 清分離は1時間以内に実施 して下さい。
3268 5C025	<b>α<sub>1</sub> - 酸性糖蛋白</b> (α <sub>1</sub> -AGP) (4246) 5C025-0000-023-063	血清 0.3	<b>A1-1</b> 冷蔵	免疫比濁法	M 45 ~ 98 F 39 ~ 86 mg/dL	3 } 6		*4
3278 5D320	<b>TPA</b> (組織ポリペプチド抗原) (4104) 5D320-0000-023-051	血清 0.4	<b>A1-1</b> 冷蔵	CLIA 法	75 未満 U/L	3 } 5	110 生化II	*ア
3754 5D520	<b>PIVKA II 定量</b> (4357) 5D520-0000-023-051	血清 0.5	<b>A1-1</b> 冷蔵	CLIA 法	40 未満 mAU/mL	2 } 3	135 生化II	急速凝固管のご使用は お避け下さい。

腫瘍マーカー



青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、47～48頁をご参照下さい。

# 腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考	
<b>腫瘍関連抗原</b>									
3223 5C124	I CTP (I型コラーゲンCテロペプチド) (4110) 5C124-0000-023-001	血清 0.5	A1-1 冷蔵	RIA・2抗体法	(骨転移マーカーの カットオフ値として) 4.5 未満 ng/mL	3 4	※1 ※2	*E	
1939 3B222	TRACP-5b 定量 (酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ) (4012) 3B222-0000-023-023	血清 0.4	A1-1 ↓ G-1 凍結	EIA 法	表1 参照	2 4	156 生化II	※2、※3 *ア	
7567 5C123	NTx (I型コラーゲン架橋 N- テロペプチド) (血清) (4540) 5C123-0000-023-021	血清 0.2	A1-1 冷蔵 注1	EIA 法	表2 参照 nmol BCE/L	3 5	156 生化II	※2、※4	
4378 5C123	NT <sub>x</sub> (I型コラーゲン架橋 N- テロペプチド) (4903) 5C123-0000-001-021	尿 3.0 (午前第2尿)	C-2 冷蔵	EIA 法	表3 参照 nmol BCE/mmol CRE	2 5		*ア	
3016 5C146	デオキシピリジノリン (DPD) (5907) 5C146-0000-001-021	尿 3.0 (午前第2尿)	C-2 冷蔵	EIA 法	M 2.1~5.4 F 2.8~7.6 骨粗鬆症薬剤治療の指標 骨折リスクカットオフ値 7.6 骨量低下カットオフ値 5.9 骨代謝回転の低下 2.8 未満 nM/mMcr	2 5	191 生化II	※2、※4 *ア	

注1 NT<sub>x</sub>値は夜間に高く午後に低値を示すことが報告されています。治療効果のモニター等、同一患者での比較を行う場合には第1回目と同時刻に採取して下さい。

※1 悪性腫瘍特異物質治療管理料としてのみ保険請求が認められます。

※2 乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「口」を算定する。

※3 代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。又、治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。本検査をNT<sub>x</sub>、オステオカルシン、又はデオキシピリジノリン(尿)を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。

※4 原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、又、薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。TRACP-5bとNT<sub>x</sub>、オステオカルシン又はデオキシピリジノリン(尿)を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。

(表1) TRACP-5b 定量基準値 単位: mU/dL

男性	170 ~ 590
女性(YAM)	120 ~ 420

YAM: 若年成人平均値

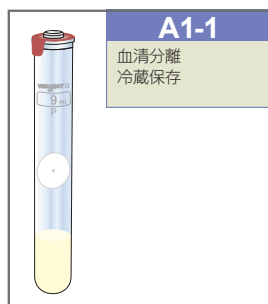
女性の基準値は、健常閉経前女性(30~44歳)が相当します。なお、閉経後女性にも適用されます。

(表2) NT<sub>x</sub>《血清》基準値・判定基準 単位: nmol BCE/L

男性	9.5 ~ 17.7
女性(閉経前)	7.5 ~ 16.5
女性(閉経後)	10.7 ~ 24.0
骨粗鬆症薬剤治療の指標	骨折リスク カットオフ値 16.5 骨量低下 カットオフ値 13.6

(表3) NT<sub>x</sub>《尿》基準値・判定基準 単位: nmol BCE/mmol CRE

男性	13.0 ~ 66.2
女性(閉経前)	9.3 ~ 54.3
女性(閉経後)	14.3 ~ 89.0
骨吸収亢進の指標	55以上
副甲状腺摘出術の適応	200以上
悪性腫瘍の骨転移の指標	100以上
骨粗鬆症薬剤治療の指標	骨折リスク カットオフ値 54.3 骨量低下 カットオフ値 35.3





# 腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 腫瘍関連抗原

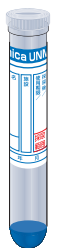
3810 5D570	尿中 NMP22 定量 (4764) 5D570-0000-001-023	尿 5.0	フ 冷蔵	ELISA 法	12.0 未満 U/mL	3 5	143 生化II	※1 核マトリックスプロテイン22 定量 *4
1305 5D560	抗p53抗体 (4702) 5D560-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	1.30 以下 U/mL	3 5	163 生化II	※2 *A
4099 5J095	インターロイキン2受容体 (IL-2R) (4379) 5J095-0000-023-052	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	156.6 ~ 474.5 U/mL	2 4	438 生化II	※3 *A

※1 尿沈渣顕微鏡検査により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。なお、尿中NMP22については、尿路上皮癌診断が確定した後にを行った場合であっても、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。

※2 食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。

※3 非ホジキンリンパ腫、ATLの診断目的で測定した場合のみ算定できる。又、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。

フ



1. 自然排出の随時尿を用い、カテーテルによる採取は行わないで下さい。尿採取にあたりガラス製及び金属製の容器は使用しないで下さい。
2. 膀胱鏡検査実施後、又はカテーテル施行後、5日以内の尿は用いないで下さい。
3. 肉眼的血尿検体は正誤差を生じますので、使用しないで下さい。
4. 採取した尿をすみやかに遠心し、その上清を専用容器に移し混和して下さい。(冷蔵保存)

青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、47～48頁をご参照下さい。

# 腫瘍マーカー

## 腫瘍マーカー検査の保険点数の算定について (留意事項)

### 検体検査実施料

- (1) 腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定する。悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理に行った腫瘍マーカーの検査の費用は特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは原則として、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。但し、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。
  - ア 急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のためにエラスターゼ1を行った場合
  - イ 肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、 $\alpha$ -フェトプロテイン (AFP) 又はPIVKA-II半定量又は定量を行った場合 (月1回に限る。)
  - ウ 子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的としてCA125を行った場合 (診断又は治療前及び治療後の各1回に限る。)
  - エ 家族性大腸腺腫症の患者に対して癌胎児性抗原 (CEA) を行った場合
- (2) 尿中BTAは、膀胱癌であると既に確定診断がされた患者に対して、膀胱癌再発の診断のために、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「イ」を算定する。
- (3) 前立腺特異抗原 (PSA) は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。但し、前立腺特異抗原 (PSA) の検査結果が4.0 ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を上限として算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- (4) 核マトリックスプロテイン22 (NMP22) 定性 (尿) 又は定量 (尿)
  - ア 核マトリックスプロテイン22 (NMP22) 定量 (尿) 又は定性 (尿) は、尿沈渣 (鏡検法) により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。
  - イ 核マトリックスプロテイン22 (NMP22) 定量 (尿) 又は定性 (尿) については、尿路上皮癌の診断が確定した後に行った場合であっても、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。
- (5) 核マトリックスプロテイン22 (NMP22) 定量 (尿) 又は定性 (尿) を同時に実施した場合は、いずれか一方の所定点数を算定する。
- (6) 遊離型PSA比 (PSA F/T比) は、診療及び他の検査 (PSA等) の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。
- (7) 抗p53抗体は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。
- (8) I型コラーゲン-C-テロペプチド (ICTP)、I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx) 又はデオキシピリジノリン (DPD) (尿) は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。
- (9) シアリルLe<sup>x</sup>抗原 (CSLEX)
  - ア シアリルLe<sup>x</sup>抗原 (CSLEX) は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。
  - イ シアリルLe<sup>x</sup>抗原 (CSLEX) とCA15-3を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- (10) サイトケラチン19フラグメント (シフラ) は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。
- (11) ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP) を神経特異エノラーゼ (NSE) と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
- (12)  $\alpha$ -フェトプロテインレクチン分画 (AFP-L3%) は、電気泳動法及び抗体親和性転写法又はLBA法による。

- (13) 癌胎児性抗原 (CEA) 定性又は半定量 (乳頭分泌液) は、乳頭異常分泌患者に対して非腫瘍性乳癌を強く疑って、乳頭分泌液中のCEAを測定した場合に算定する。
- (14) 可溶性インターロイキン-2レセプター受容体 (sIL-2R) は、非ホジキンリンパ腫、ATLの診断の目的で測定した場合に算定できる。又、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定する。
- (15) 「注2」に係る規定は、本区分に掲げる血液を検体とする検査と癌胎児性抗原 (CEA) 定性 (乳頭分泌液)、半定量 (乳頭分泌液) を同一日に行った場合にも、適用する。

### 悪性腫瘍特異物質治療管理料

- (1) 悪性腫瘍特異物質治療管理料は、悪性腫瘍であると既に確定診断がされた患者について、腫瘍マーカー検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月1回に限り算定する。
- (2) 悪性腫瘍特異物質治療管理料には、腫瘍マーカー検査、当該検査に係る採血及び当該検査の結果に基づく治療管理に係る費用が含まれるものであり、1月のうち2回以上腫瘍マーカー検査を行っても、それに係る費用は別に算定できない。
- (3) 腫瘍マーカー検査の結果及び治療計画の要点を診療録に記載する。
- (4) 「注3」に規定する初回月加算は、適切な治療管理を行うために多項目の腫瘍マーカー検査を行うことが予想される初回月に限って算定する。但し、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する当該初回月の前月において、区分番号「D009」腫瘍マーカーを算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。
- (5) 区分番号「D009」腫瘍マーカーにおいて、併算定が制限されている項目を同一月に併せて実施した場合には、1項目とみなして、本管理料を算定する。
- (6) 当該月に悪性腫瘍特異物質以外の検査 (本通知の腫瘍マーカーの項に規定する例外規定を含む。) を行った場合は、本管理料とは別に、検査に係る判断料を算定できる。
- (7) 特殊な腫瘍マーカー検査及び計画的な治療管理のうち、特に本項を準用する必要のあるものについては、その都度当局に内話し、最も近似する腫瘍マーカー検査及び治療管理として準用が通知された算定方法により算定する。

## 腫瘍マーカー検査の保険点数の算定について (実施料と管理料)

検査項目	検体検査実施料		悪性腫瘍特異物質 治療管理料	
	点数	項目数	点数	項目数
尿中 BTA ※ 1	(80点)		220点	
癌胎児性抗原(CEA)	99点	2項目 230点 3項目 290点 4項目以上 396点	1項目 360点 2項目以上 400点	150点 初回月加算
α-フェトプロテイン(AFP)	101点			
扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	104点			
組織ポリペプチド抗原(TPA)	110点			
NCC-ST-439	115点			
CA15-3				
DUPAN-2	118点			
エラスターゼ 1	123点			
前立腺特異抗原(PSA)	124点			
CA19-9				
PIVKA-II 定量	135点			
CA125	140点			
神経特異エノラーゼ(NSE)	142点			
核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿) ※ 2	143点			
SPan1	144点			
シアリルLeX-i 抗原(SLX)				
CA72-4	146点			
シアリルTn抗原(STN)				
塩基性フェトプロテイン(BFP)	150点			
遊離型PSA比(PSA F/T比)				
BCA225	158点			
サイトケラチン 19フラグメント(シフラ)				
シアリルLeX抗原(CSLEX)	160点			
抗p53抗体	163点			
I型コラーゲン-C-テロペプチド( ICTP) ※ 1	170点			
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	175点			
α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)	190点			
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	194点			
可溶性インターロイキン-2レセプター(s IL-2R)	438点			
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)				
デオキシピリジノリン(DPD)(尿)				
TRACP-5b定量				

※ 1 悪性腫瘍特異物質治療管理料としてのみ算定      ※ 2 検体検査実施料としてのみ算定

# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 免疫血液学的検査

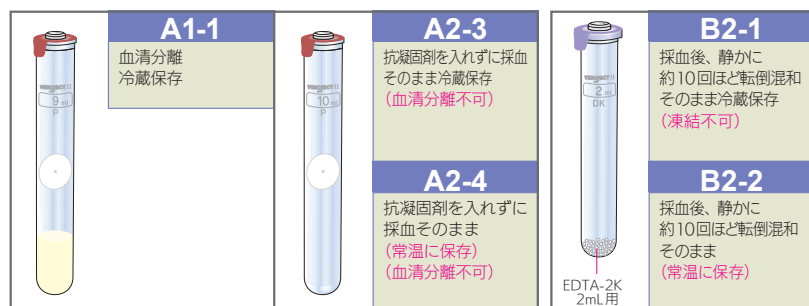
2009 5H010	ABO血液型 (2017) 5H010-0000-019-101	全血 2.0	B2-1 冷蔵	マイクロプレート法 又は、試験管法		1 4	24 免疫	凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。
2010 5H020	Rh(D)血液型 (2018) 5H020-0000-019-101	全血 2.0	B2-1 冷蔵	マイクロプレート法 又は、試験管法		1 4	24 免疫	凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。
— 5H025	Rh-Hr式血液型 (2047) 5H025-0000-019-101	全血 2.0	B2-1 冷蔵	試験管法		2 4	152 免疫	凍結不可 CcDEe因子 同一検体による検査の場合は 因子の種類及び数に依らず、 所定点数を算定する。 * A
4023 5H121	直接クームス試験 (2022) 5H121-0000-019-101	全血 2.0	B2-2 常温	カラム凝集法 又は、試験管法 (直接抗グロブリン法)	(-)	1 2	34 免疫	<b>緊急</b> 凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。 全血 2.0mL、A2-4でも受 託可能です。
4024 5H122	間接クームス試験 (2023) 5H122-0000-018-101	全血 1.0	A2-3 冷蔵	カラム凝集法 (間接抗グロブリン法)	(-)	1 2	47 免疫	
— 5H122	クームス定量試験 (2024) 5H122-0000-018-101	全血 4.0	A2-3 冷蔵	カラム凝集法 ※1 (間接抗グロブリン法)	1倍未満	2 4		凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。 抗凝固剤使用不可 * A
4071 5H180	不規則抗体 (2025) 5H180-0000-018-101	全血 10.0	A2-3 冷蔵	カラム凝集法 ※1 (間接抗グロブリン法、 フィンソ法)	(-)	1 2	159 免疫	凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。 抗凝固剤使用不可 極力全血 2.0mL、B2-1も ご提出下さい。 ※2
0587 5H160	交差適合試験 (クロスマッチ) (2334) 5H160-0000-018-101	全血 各 3.0	A2-4 常温	生理食塩液法 (主試験・副試験)、 間接抗グロブリン試験 (主試験：PEG)	(-)	1 2	30+ 47	凍結不可 年齢・輸血歴・妊娠歴を明 記して下さい。 抗凝固剤使用不可 ※3、※4
3610 5G520	抗血小板抗体 (2027) 5G520-0000-023-103	血清 0.4	A1-1 冷蔵	MPHA法	(-)	4 9	261 免疫	* 4

※1 精査を必要とする場合は、試験管法も実施いたします。

※2 手術に際して輸血が行われた場合は、不規則抗体又は、輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。輸血歴、妊娠歴があり、胸部手術、心・脈管手術、腹部手術、子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮付属器悪性腫瘍手術（両側）、帝王切開術、子宮外妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴又は妊娠歴がある旨を記載する。

※3 副試験は生理食塩液法のみとなるため、血液型は2回以上異なる時点で採血した検体で二重チェックにより確認してから提出して下さい。

※4 血液センターからの赤血球製剤のみを対象とします。



# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 免疫血液学的検査

3930 5G525	<b>曜日指定</b> <b>血小板関連IgG</b> (PA-IgG) (2223) 5G525-0000-019-021	全血 7.5	毛 冷蔵	ELISA法	46 以下  ng / 10 <sup>7</sup> cells	3 } 5	193 免疫	凍結不可 休日の前日は受付できません。 月曜日～金曜日受付 ※1 ※2 * 4
0126 5G530	<b>HIT抗体</b> (血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体) (7750) 5G530-0000-022-062	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	1.0 未満  U/mL	3 } 4	390 免疫	HIT抗体(IgG、A及びM)を 測定しています。グロブリン クラス別での報告ではあ りません。 ※3 * 1

※1 必ず採血当日にご依頼下さい。血小板数が3万/μL以下の場合は、10mL以上ご提出下さい。

※2 特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。

※3 HIT抗体はヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。

 <p><b>D-1</b></p> <p>血液を正確に1.8mL 入れ静かに約10回 ほど転倒混和 (血漿分離) (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p> <p>3.2% クエン酸ナトリウム 0.2mL</p>	 <p><b>G-1</b></p> <p>血清分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>	 <p><b>毛</b></p> <p>採血後静かに約10回 ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可) (注) 末梢血の血小板 が3万/μL以下の場 合は、専用容器を2本 使用し必ず10mL以 上採血して下さい。</p>
---	--	---

# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 感染症血清反応

4050 5E074	梅毒定性	RPR法 (3463) 5E074-1351-023-116	血清0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法 及び凝集法	(-)	15 免疫	梅毒血清反応(STS)定性
4044 5E075		TP抗体 (3004) 5E075-1351-023-116	血清0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法 及びPA法			梅毒トレポネーマ抗体定性
4049 5E079		FTA-ABS (3009) 5E079-1351-023-161	血清0.5	A1-1 冷蔵	FA法			梅毒トレポネーマ抗体 (FTA-ABS試験)定性 * A
4060 5E074	梅毒半定量	RPR法 (3470) 5E074-1353-023-117	血清0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法 及び凝集法	1倍未満	34 免疫	梅毒血清反応(STS)半定量
4048 5E075		TP抗体 (3007) 5E075-1353-023-117	血清0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法 及びPA法	80倍未満		梅毒トレポネーマ抗体半定量
4077 5E079		FTA-ABS (3027) 5E079-1353-023-162	血清0.5	A1-1 冷蔵	FA法	20倍未満		梅毒トレポネーマ抗体 (FTA-ABS試験)半定量 * A
4001 5E035	抗ストレプトリジンO定量 (ASO) (1058) 5E035-0000-023-062	血清0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	160以下	IU/mL	15 免疫	
4013 5E106	マイコプラズマ抗体半定量		血清0.2	A1-1 冷蔵	PA法			40倍未満
4032 5E106		(4041) (4047) 5E106-0000-023-117 5E106-0000-023-141 5E106-0000-041-141	血清0.3 又は 髄液0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵	CF法	血清4倍未満 髄液1倍未満	4 6	32 免疫

	<b>A1-1</b> 血清分離 冷蔵保存		<b>G-1</b> 血清分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用		<b>X-2</b> 必要量採取 冷蔵保存
	<b>A1-3</b> 採血後血清分離まで (必ず保温) 血清分離 冷蔵保存				

# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
4012 5E105	寒冷凝集反応 (1060) 5E105-0000-023-102	血清0.5	<b>A1-3</b> 冷蔵 備考参照	HA法	64倍未満	2 3	11 免疫	採血後、すみやかに血清分離 血清分離まで保温 *A
3645 5E026	オーム病クラミジア抗体 (7034) 5E026-0000-023-141 5E026-0000-041-141	血清0.3 又は 髄液0.4	<b>A1-1</b> 又は <b>X-2</b> 冷蔵	CF法	血清4倍未満 髄液1倍未満	4 6	79 免疫	*E
4182 5E031	クラミドフィラ(クラミジア)・ ニューモニエIgG抗体 (7361) 5E031-0000-023-023	血清0.3 ※1	<b>A1-1</b> 冷蔵	EIA法	30未満陰性(-) 表1参照	3 6	70 免疫	※1 *ア
4179 5E032	クラミドフィラ(クラミジア)・ ニューモニエIgA抗体 (7722) 5E032-0000-023-023	血清0.3 ※1	<b>A1-1</b> 冷蔵	EIA法	8未満陰性(-) 表2参照	3 6	75 免疫	※1 *ア
5185 5E033	クラミドフィラ(クラミジア)・ ニューモニエIgM抗体 (7878) 5E033-0000-023-023	血清0.3	<b>A1-1</b> 冷蔵	EIA法	0.5未満陰性(-) 表3参照	3 6	152 免疫	※1 *ア
1825 5E154	トリコスポロン・アサヒ抗体 (4674) 5E154-0000-023-023	血清0.3	<b>A1</b> ↓ <b>G-1</b> 凍結	Antigen-captured ELISA法	0.15未満 表4参照	8 15	847 免疫	※2 *S
0775 5E069	MAC抗体 (7607) 5E069-0000-023-023	血清0.2	<b>A1-1</b> 冷蔵	ELISA法	判定 抗体濃度 (-) 0.7未満 U/mL	4 7	116 免疫	*1

※1 クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体を、クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体又はクラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

※2 夏型過敏性肺炎の鑑別診断を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班による「過敏性肺炎の診断の手引と診断基準」により、夏型過敏性肺炎が疑われる患者とする。

(表1) クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体 判定基準

判定	EIU値
陰性(-)	EIU < 30
判定保留(±)	30 ≤ EIU ≤ 45
陽性(+)	EIU > 45

(表2) クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体 判定基準

判定	EIU値
陰性(-)	EIU < 8
判定保留(±)	8 ≤ EIU ≤ 12
陽性(+)	EIU > 12

(表3) クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体 判定基準

判定	S/CO
判定(-)	0.5未満
判定保留(±)	0.5 ~ 1.1
判定(+)	1.2以上

EIU (Enzyme Immunounits) 単位

(表4) トリコスポロン・アサヒ抗体判定基準

判定	CAI(Corrected Absorbance Index)
陰性	0.15未満
判定保留	0.15 ~ 0.30未満
陽性	0.30以上

# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
4544 5E156	トキソプラズマIgG抗体 (4278) 5E156-0000-023-052	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA法	7.5 未満 表1参照 IU/mL	2 4	93 免疫	* A
4545 5E157	トキソプラズマIgM抗体 (4279) 5E157-0000-023-052	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA法	0.8 未満 表2参照 S/CO	2 4	95 免疫	* A
4506 5E054	百日咳菌抗体 (4766) 5E054-0000-023-023	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	PT-IgG : 10 未満 FHA-IgG : 10 未満 図1参照 EU/mL	3 5	257 免疫	* ア
8666 5E020	クラミジアトラコマチス IgG・IgA抗体 (7151) 5E020-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA法	IgG (-) IgA (-) 表3、4参照 cut off index	3 5	200 免疫	IgG → (4885) IgA → (4888) * ア
008E 5E146	アスペルギルスIgG抗体 (4492) 5E146-0000-023-023	血清 0.3	A ↓ G 冷蔵	EIA法	濃度(-) 5.0未満 (±) 5.0~10.0未満 (+) 10.0以上 判定(-) AU/mL	5 11		* E

※1 クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患(骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等)の診断に際し、IgG抗体価又はIgA抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM抗体価を測定した場合に算定する。なお、IgG抗体価、IgA抗体価及びIgM抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

(表1) トキソプラズマIgG抗体判定基準

IU/mL	判定
7.5 未満	陰性
7.5 以上~10.4	判定保留
10.5 以上	陽性

(表2) トキソプラズマIgM抗体判定基準

S/CO	判定
0.8 未満	陰性
0.8~0.9	判定保留
1.0 以上	陽性

(表3) クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体判定基準

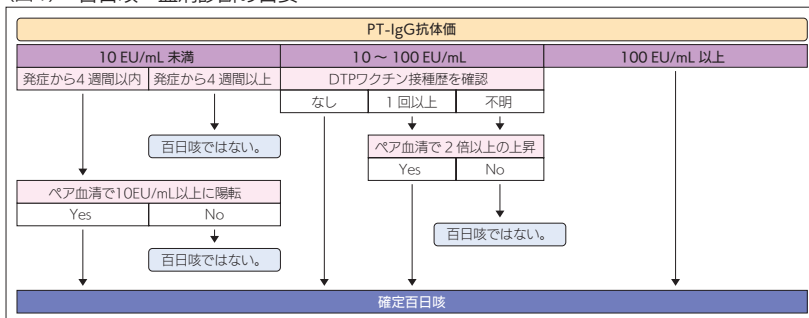
判定	cut off index
(-)	0.90 未満
(±)	0.90~1.09 *
(+)	1.10 以上

(表4) クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体判定の解釈

IgG	IgA	判定の解釈
(+)	(+)	クラミジア感染の疑いがある
(-)	(+)	クラミジア感染の疑いがある
(+)	(-)	クラミジア感染の既応あるいは感染の疑いがある
(-)	(-)	抗体陰性

\*再度、7~10日後に新しく採血した血清により再検査するなど注意して判定して下さい。

(図1) 百日咳・血清診断の目安





# 免疫学的検査

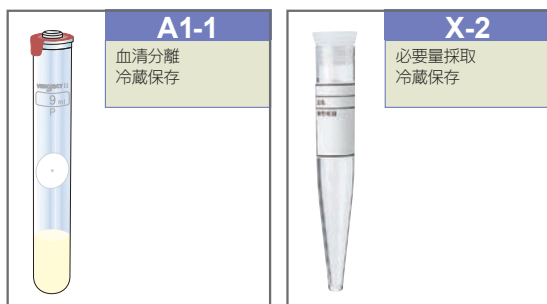
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 感染症血清反応

4519 5E128	ツツガ虫 Gilliam	IgG 抗体 (4716) 5E128-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4 } 6	207 免疫	各株ごとに算定する。 ツツガムシ抗体半定量
4518 5E129		IgM 抗体 (4717) 5E129-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4 } 6		
4517 5E125	ツツガ虫 Kato	IgG 抗体 (4718) 5E125-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4 } 6	207 免疫	
4516 5E126		IgM 抗体 (4719) 5E126-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4 } 6		
4515 5E122	ツツガ虫 Karp	IgG 抗体 (4720) 5E122-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4 } 6	207 免疫	
4514 5E123		IgM 抗体 (4721) 5E123-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4 } 6		

\* E

免疫学



# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 感染症血清反応

2421 5E064	ヘリコバクター・ピロリ 抗体/国内株 (4921) 5E064-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	10.0 未満 (-) U/mL	2 3	80 免疫	※1
7995 5E065	ヘリコバクター・ピロリ IgG抗体 (国内株) (HP抗体国内株) (4176) 5E065-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA法	10.0 未満 (-) U/mL	2 3	80 免疫	※1
0004 3B347	胃がんリスク層別化検査 (ABC分類) (1494) 3B347-0000-023-920	血清 0.7 注1	A1-1 冷蔵 注1	ペプシノゲンI・II (PG I・II) ラテックス凝集 比濁法 ヘリコバクター・ピロリ IgG抗体/国内株: EIA法	(陽性判定基準) ・ペプシノゲン: PG I 値が70.0 ng/mL以下 且つPG I / II比が3.0 以下 ・H.ピロリ抗体: 3.0U/ mL以上 表1参照	2 4		ご依頼時には「E群」を正しく判断するため、除菌歴をご記入下さい。
2420	胃がんリスク層別化検査 (ABC分類) [LA法] (1496) 3B347-0000-023-062	血清 0.7 注1	A1-1 冷蔵 注1	ペプシノゲンI・II (PG I・II) ラテックス凝集 比濁法 ヘリコバクター・ピロリ IgG抗体/国内株: ラテックス凝集比濁法	(陽性判定基準) ・ペプシノゲン: PG I 値が70.0 ng/mL以下 且つPG I / II比が3.0 以下 ・H.ピロリ抗体: 10.0U /mL以上 表2参照	3 5		ご依頼時には「E群」を正しく判断するため、除菌歴をご記入下さい。

※1 当該検査を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取り扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取り扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に即して行うこと。

注1 検体量、容器及び保存方法は、同時依頼が必要である「ペプシノゲンI・II」、「ヘリコバクター・ピロリ抗体」のもので。

(表1) 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)の基準

		H.ピロリ抗体検査(※1)		
		(-)	(+)	
		3.0U/mL未満	3.0U/mL以上 10.0U/mL未満	10.0U/mL以上
ペプシノゲン 検査	(-)	A群	B群(※2)	B群
	(+)	D群	C群	

胃がんリスク層別化検査(ABC分類)は、AからD群まで分類して報告します。ただし、既にピロリ菌の除菌治療を受けた方につきましてはE群として報告します。

※1 「未感染」と「現感染」を診断する臨床診断と異なり、ABC分類では胃疾患(特に胃がん)になるリスクの低い「未感染」とリスクがある「過去感染と現感染」を診断する検査であるため、判定基準が異なります。

※2 除菌する場合は、必ず他の方法(尿素呼吸試験、便中H.ピロリ抗原測定など)で検査を実施し、ピロリ菌の存在診断を行ってください。

(表2) 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)[LA法]の基準

		H.ピロリ抗体検査 [4921]	
		10.0U/mL未満	10.0U/mL以上
		(-)	(+)
ペプシノゲン 検査 [4675]	(-)	A群	B群
	(+)	D群	C群

◇胃がんリスク層別化(ABC分類)[LA法]について  
既存の胃がんリスク層別化検査(ABC分類)で検査しているヘリコバクター・ピロリ抗体(ヘリコバクター・ピロリIgG抗体/国内株)につきましては、現感染や既感染が混在する陰性高値が問題とされておりました。本検査は、その従来からの問題点を無視できずとして認定NPO法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構で推奨されている試薬を試用する、より精度の高い検査です。

(使用試薬: H.ピロリ-ラテックス「生研」)

▼検査方法参考文献

・乾 正幸,他: 日本ヘリコバクター学会誌 19(1): 33~42,2017

【ABC分類の結果の解釈】

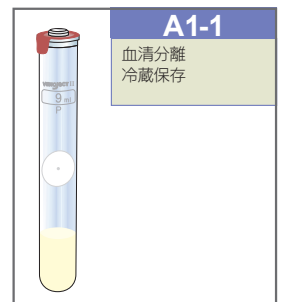
- A 群: おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往がある方が含まれます。一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。
- B 群: 少し弱った胃粘膜です。胃かいよう・十二指腸かいようなどに注意しましょう。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。
- C 群: 萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。
- D 群: 萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。必ず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けてご相談下さい。
- E 群: ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群(除菌群)として定期的に内視鏡検査を受けましょう。E群は除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんが、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

B、C、Dの順にリスクが高くなります。

【胃がんリスク層別化検査(ABC分類)の注意事項】

《この検査に適さない方》

- ・ピロリ菌の除菌治療を受けた方
- ・胃切除後の方
- ・明らかな上部消化器症状のある方
- ・腎不全の方
- ・上部消化管疾患治療中の方
- ・プロトンポンプ阻害服用中の方



# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

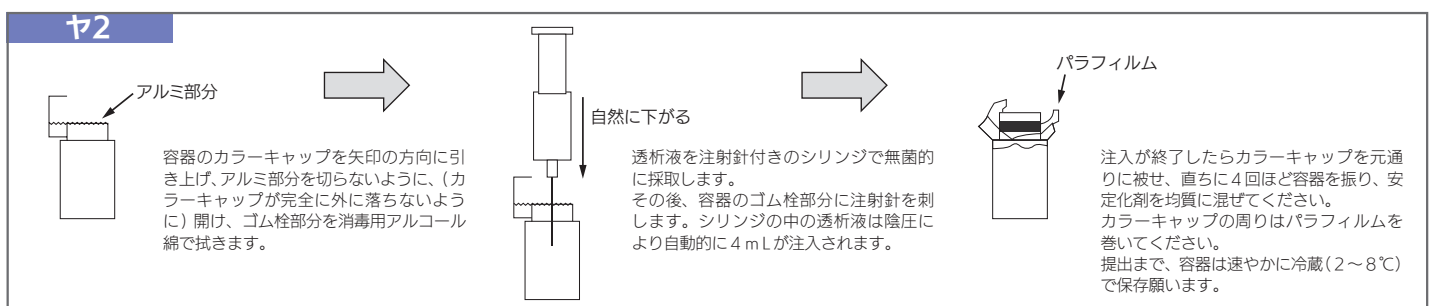
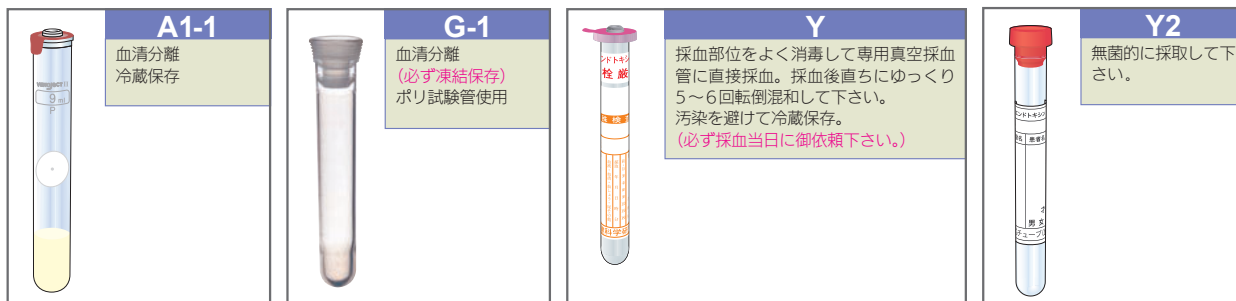
## 感染症血清反応

8093 5C215	プロカルシトニン定量 (PCT) (5778) 5C215-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 ↓ G-1 凍結	CLIA 法	0.05 未満 ng/mL	1 2	284 生化 I	敗血症(細菌性) 鑑別診断の カットオフ値: 0.50 ng/mL 未満 重症度判定の カットオフ値: 2.00 ng/mL 以上 ※1
3466 5E046	エンドトキシン (5490) 5E046-0000-019-297	全血 2.0	Y2 冷蔵	比濁時間分析法	1.0 以下 pg/mL	3 5	236 免疫	凍結不可 検体は無菌的に採取し採取 容器をご提出下さい。 必ず指定容器をご使用下さい。 * E
3163 5E151	(1→3)-β-D-グルカン (5247) 5E151-0000-019-271	全血 3.0	Y 冷蔵	発色合成基質法	20.0 以下 pg/mL	3 5	201 免疫	凍結不可 深在性真菌感染症が疑われる患者に 対する治療法の選択又は、治療効果 の判定に使用した場合に算定する。 ※2 *イ
- 5E048	透析液エンドトキシン 5E048-0000-095-297	透析液 各 4.0	ヤ2 冷蔵	発色合成基質法	EU/mL	3 5		A液のコードは (5955) B液のコードは (5956) RO水のコードは (5953) 調整液のコードは (5954) その他のコードは (5952)*イ

※1 プロカルシトニン(PCT)は、敗血症(細菌性)を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。但し、エンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 (1→3)-β-D-グルカンをカンジダ抗原半定量、クリプトコックス抗原定性、アスペルギルス抗原と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

免疫学



# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 抗原検査

2886	カンジダ・マンナン抗原 (4885) 5E142-0000-023-023	血清 0.4	A1-1 冷蔵	EIA 法	0.05 未満  U/mL	3 6	134 免疫	※1 ※2  * E
3951 5E140	クリプトコッカス抗原定性 (4538) 5E140-0000-023-116 5E140-0000-041-116	血清 0.8 又は 髄液 0.8	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集反応	(-)	4 7	174 免疫	髄液のコードは (8103) ※1  * 7
5165 5E148	アスペルギルス抗原 (4788) 5E148-0000-023-023	血清 0.7	A1-1 冷蔵	EIA 法	Cut off index 判定 0.5 未満 (-) 0.5 以上 (+)	3 5	157 免疫	下記、注意事項をご参照下さい。 侵襲性肺アスペルギルス症の診 断のために実施した場合に算定 する。 ※1  * E

※1 (1→3)-β-D-グルカンをカンジダ抗原半定量、クリプトコッカス抗原定性、アスペルギルス抗原と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 フィブリン析出時の除去に竹串を使用しないでください。

### 【アスペルギルス抗原の結果判定に関する注意事項】

- 1) 侵襲性アスペルギルス症の診断は、本品の判定結果のみではなく、臨床症状や培養検査、病理学的検査、画像診断などの結果を加味し、総合的に行って下さい。
- 2) 陽性を判定された場合には、再度採血を行った検体にて再測定を実施することをお勧めします。
- 3) 陰性と判定された場合でも、侵襲性アスペルギルス症の可能性は否定できません。検体中の抗原濃度が、本品で検出できる濃度に達していなかった可能性もあります。感染が疑われる場合には、再測定を実施することをお勧めします。
- 4) 慢性肉芽腫症 (CGD) や Job 症候群の患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低かったとの報告があります。
- 5) 抗真菌薬の投与を受けている患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低くなる場合があります。
- 6) 臨床症状がなく陽性と判定された場合、次の状況が考えられます。
  - ①感染初期に、臨床症状や画像所見等よりも先に、アスペルギルス抗原 (ガラクトマンナン) が陽性を示すことがあります。
  - ②幼児で、臨床症状を示さない陽性が報告されています。実際に血中にアスペルギルス抗原が存在した場合がありますが、ほとんどは、偽陽性と考えられています。
  - ③ガラクトマンナンは豆、種子、牛乳等に多く含まれており、食物繊維としても種々の食物に添加されています。また、わが国では多くの食品 (味噌、醤油など) でコウジカビ (アスペルギルス属) を利用しています。乳幼児や消化管粘膜に損傷のある患者では食物の影響により陽性を示す可能性があるとの報告がありますので、注意して診断して下さい。
  - ④海外で、ピペラシリン / タゾバクタムの合剤及びアモキシシリンの投与により、本品の測定結果が陽性を示したという報告があります。したがって、上記薬剤で治療されている患者においては判定の際に注意が必要です。
  - ⑤ペニシリウム属等の菌種では抗ガラクトマンナン (ラット) モノクローナル抗体との交差反応性が認められます。
- 7) 本製品はグレーゾーンを設定していないので、カットオフインデックス値 (0.5) 近辺の結果の場合は、侵入性アスペルギルス症の他の臨床症状、他の臨床検査結果及び画像診断結果も参照の上、注意深く総合的に判断して下さい。
- 8) 自己免疫疾患患者の血清では、非特異的反応が起こりうるので測定結果に基づく診断は他の検査結果や臨床症状等を加味して総合的に判断して下さい。



# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
<b>抗原検査</b>								
7885 5E041	肺炎球菌 莢膜抗原 定性	《尿》 (5976) 5E041-0000-001-190	尿 1.0 <b>G-6</b> 凍結	イムノクロマト法	(-)	1 2	193 免疫	肺炎球菌莢膜抗原定性(尿・ 髄液)は、免疫クロマト法によ り実施した場合に限り算定で きる。
5E041		《髄液》 (5988) 5E041-0000-041-190	髄液 1.0 <b>X-5</b> 凍結	イムノクロマト法	(-)	2 4	193 免疫	
4260 5E056	尿中レジオネラ抗原定性 (4964) 5E056-0000-001-190	尿 1.0	<b>G-6</b> 凍結	イムノクロマト法	(-)	1 2	211 免疫	症状や所見からレジオネラ 症が疑われる患者に対して 実施した場合に限り1回を 限度として算定する。
4826 6B620	結核菌DNA〔PCR〕 (TB-PCR) (7374) 6B620-0000-061-862	喀痰 1.0 ~2.0	<b>ワ</b> 冷蔵	リアルタイム PCR法	(-)	2 5	410 微生物	<b>緊急</b> 結核患者の退院の可否を判 断する目的で、患者の病状を 踏まえ頻回に行われる場合に おいても算定できる。
4828 6B621	MAC DNA〔PCR〕 (マイコバクテリウム・アビウム 及びびイントラセルラー核酸検出) (7375) 6B621-0000-061-862	喀痰 1.0 ~2.0	<b>ワ</b> 冷蔵	リアルタイム PCR法	アビウム (-) イントラセルラー (-)	2 5	421 微生物	他の検査により結核菌が陰 性であることが確認された 場合のみに算定できる。な お、抗酸菌同定検査と同時 算定不可。
0268 5E301	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能 (T-SPOT. TB) (7527) 5E301-0000-019-031	全血 9.0 注1	<b>F-6</b> 常温 (18~25℃)	ELISPOT法	(-)	4 5	594 免疫	凍結不可・開封厳禁予約検査・ 休日の前日は受付できませ ん。 検体は採取後、当日中にご提 出下さい。 *ア
5064 5E301	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能 (QFTプラス) (7026) 5E301-0000-019-023	全血 6.0	<b>FL</b> 冷蔵	ELISA法	(-)	3 7	594 免疫	依頼に際しては、「採血時間」 をご記入下さい。 T-SPOT.TB、QFTプラス の判定基準は72頁をご参照 下さい。 ※1 *ア

注1 他項目と重複しないよう単独検体で提出して下さい。

※1 診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。

免疫学

 <p><b>F-6</b> 採血後静かに約10 回ほど転倒混和、必 ず常温保存</p> <p>ヘパリン5mL用 又は10mL用</p>	 <p><b>FL</b> 採血後静かに約10 回ほど転倒混和。 そのまま冷蔵保存</p>	 <p><b>G-6</b> 蓄尿又は部分尿 必要量提出、凍結保存 (尿量記載の必要なし) (必ず凍結保存)</p>	 <p><b>X-5</b> 必要量採取 (必ず凍結保存)</p>	 <p><b>ワ</b> うがいをした後滅菌 喀痰容器に痰出し、 密栓後冷蔵保存して 下さい。</p>
--	--	---	--	--

# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
<b>抗原検査</b>								
4849 5E021		尿 (初尿) 4.5 ~ 6.3	Ⅰ2 冷蔵					同時算定不可
0124 5E021	クラミジア・トラコマチスDNA 【PCR】	うがい液 4.5 ~ 6.3	Ⅰ2 冷蔵	リアルタイムPCR法	(-)	3 ~ 4	193 微生物	
4874 5E021	(7388) (7728) (7380) 5E021-0000-001-862 5E021-0000-079-862 5E021-0000-085-862	子宮頸部 擦過細胞	Ⅰ1 冷蔵					

\*ア

# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
<b>抗原検査</b>								
4876 6B610	淋菌 DNA [PCR] (7389) (7729) (7387) 6B610-0000-001-862 6B610-0000-079-862 6B610-0000-085-862	尿 (初尿) 4.5 ~ 6.3	Ⅰ2 冷蔵	リアルタイムPCR法	(-)	3 4	204 微生物	細菌培養同定と同時算定不可 ※1
0125 5E021		うがい液 4.5 ~ 6.3	Ⅰ2 冷蔵					
4875 6B610		子宮頸部 擦過細胞	Ⅰ1 冷蔵					
2795 6B615	淋菌/クラミジア・トラコマチス 同時測定 DNA [PCR] (7507) (7732) (7504) 6B615-0000-001-862 6B615-0000-079-862 6B615-0000-085-862	尿 (初尿) 4.5 ~ 6.3	Ⅰ2 冷蔵	リアルタイムPCR法	(-)	3 4	270 微生物	クラミジア・トラコマチス抗原、細菌 培養同定検査(淋菌及びクラミジア による感染を疑って実施するもの)、 淋菌核酸同定検査(淋菌PCR、淋菌 SDA)又はクラミジア・トラコマチス 核酸同定検査(クラミジア・トラコマ チスPCR、クラミジア・トラコマチス SDA)を併せて実施した場合は、主 たるもののみ算定する。 ※2 ※3
0121 6B615		うがい液 4.5 ~ 6.3	Ⅰ2 冷蔵					
2792 6B615		子宮頸部 擦過細胞	Ⅰ1 冷蔵					
2440 6B643	脛トリコモナス/ マイコプラズマジェニタリウム 同時測定 DNA [PCR] 6B643-0000-001-862 6B643-0000-085-862	尿 (初尿) 4.5 ~ 6.3 注1	Ⅰ2 冷蔵	リアルタイムPCR法	(-)	3 4	350 微生物	※4
2435 6B643		脛擦過物 及び 子宮頸部 擦過細胞 注1	Ⅰ1 冷蔵					

注1 他の検査と重複しないよう、単独検体で提出してください。

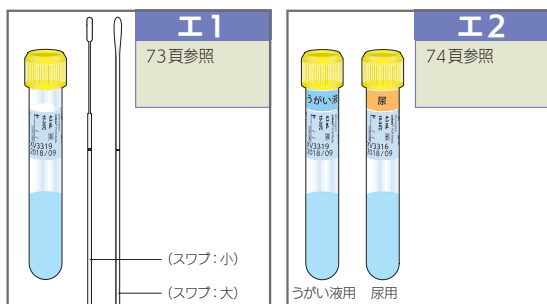
※ 尿検体の場合、最後の排尿から少なくとも1時間以上経過していることを確認してください。

※1 淋菌核酸同定検査(淋菌PCR・淋菌SDA)は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。但し、男子尿を含み女子尿を含まない。なお、SDA法においては咽頭からの検体も算定できる。

※2 淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸増幅同定精密検査は、クラミジア・トラコマチス感染症もしくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査によっては感染因子の鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。

※3 淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。但し、男子尿は含み、女子尿は含まない。

※4 脛トリコモナス核酸及びマイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出は、リアルタイムPCR法により、脛トリコモナス感染症を疑う患者であって、鏡検が陰性又は実施できないもの若しくはマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して治療法選択のために実施した場合及び脛トリコモナス感染症又はマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して治療効果判定のために実施した場合に、本区分の「10」HPV核酸検出の所定点数を準用して算定する。



# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 抗原検査

5151 5E068	糞便中ヘリコバクター・ ピロリ抗原定性 (4909) 5E068-0000-015-023	糞便	メ 冷蔵	EIA法	(-)	3 ~ 5	142 免疫	※1 *ア
---------------	--	----	---------	------	-----	-------------	-----------	----------

## 尿素呼気試験

3084 6Z100	尿素呼気試験 (UBT) (コービット) (5723) 6Z100-0000-098-273	呼気 前・後 (各1個)	UB 常温	IR法 (赤外分光分析)	2.5未満  4%	3 ~ 5	70 微生物	服用前および服用20分後 の呼気をそれぞれ採取し、 ペアで提出して下さい。 ※1 *C
---------------	--	--------------------	----------	-----------------	-----------------	-------------	-----------	---

### UB



### 検査当日の 注意事項

空腹時に実施する検査ですので、午前中の検査の場合は朝食をとらずにお越し下さい。午後には検査の場合は、昼食をとらずにお越し下さい。

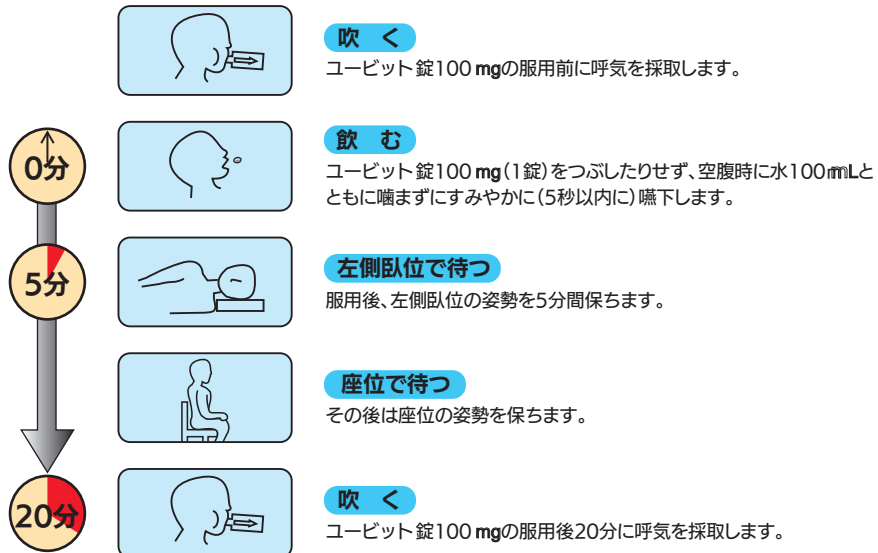
#### ※呼気採取方法のポイント

- 1) 呼気採取バックを口にあて、(鼻から)息を吸って、5~10秒程度息を止めて下さい。
- 2) その後呼気採取バックにゆっくりと息を入れて下さい。(バックには肺の中の息を入れて下さい)
- 3) 息止めが苦しい場合は2~3回に分けて入れても大丈夫です。

※呼気を採取する前に、呼気バックに“施設名”、“患者名”などの所定の内容を記入し、“服用前”又は“服用後”のいずれかにチェックを入れて下さい。

※呼気の採取後に記入するとバックを傷つける恐れがあります。又、記入にはペン先の鋭利でないものをご利用下さい。

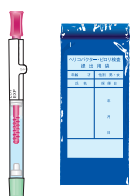
※呼気を採取したバックには必ずしっかりとキャップをして下さい。



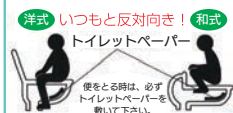
※1 当該検査を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取り扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取り扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に即して行うこと。

### ×

提出日の当日又は前日に、下記のように大便を採って、なるべく早く提出して下さい。



容器の白ラベルを途中まではがし、図のように広げて、氏名・日付等を記入し、元のとおり巻き付けて下さい。



洋式 いつもと反対向き！ 和式 トイレトペーパー  
便をとる時は、必ずトイレトペーパーを敷いて下さい。



採便棒先端の溝すべりが便でうまるように、便の表面をこすり取って下さい。



注意：  
採便棒を容器にもどして根元までしっかりねじ込んで下さい。

再び開けないで下さい。

採便棒を容器にもどして、根元までねじ込んで下さい。



# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## リウマトイド因子・RA関連検査

4003 5G160	リウマトイド 因子(RF)	定性 (1057) 5G160-0000-023-062	血清 0.5	A1-1 冷蔵	LA法	(-)	1 2	
4000 5G160		定量 (1145) 5G160-0000-023-062	血清 0.5	A1-1 冷蔵	LA法	15 以下 IU/mL	1 2	30 免疫 ※1、2
7899 5G167	抗CCP抗体定量 (抗シトルリン化ペプチド抗体) (4750) 5G167-0000-023-051	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLIA法	4.5 未満 U/mL	2 3	198 免疫	※3、4
3169 5G161	IgG型リウマトイド因子 (IgG-RF) (4581) 5G161-0000-023-023	血清 0.7	A1-1 冷蔵	EIA法	2.0 未満	2 7	198 免疫	※1、4 *ア
4186 5G166	抗ガラクトース欠損 IgG 抗体 (CA・RF) (4579) 5G166-0000-023-053	血清 0.3	A1-1 ↓ G-1 凍結	ECLIA法	6.0 未満 AU/mL	4 6	114 免疫	※1、※2、※4 *F
4239 3B503	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3) (4116) 3B503-0000-023-062	血清 0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	M 35.2~123.8 F 16.1~ 56.8 ng/mL	1 2	116 免疫	※1、※4
7529 5G635	モノクローナルRF結合 免疫複合体 (mRF-IC) (4448) 5G635-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 ↓ G-1 冷蔵	EIA法	4.2 未満 μg/mL	3 9	194 免疫	※1、※4 *E

- ※1 リウマトイド因子定量、MMP-3、抗ガラクトース欠損IgG抗体、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体、IgG型リウマトイド因子のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。
- ※2 抗ガラクトース欠損IgG抗体とRF定量を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
- ※3 関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。但し、当該検査結果が陰性の場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。上記とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき1回に限り算定する。
- ※4 抗シトルリン化ペプチド抗体、IgG型リウマトイド因子、C1q結合免疫複合体、C3d結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体、抗ガラクトース欠損IgG抗体及びマトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)のうち2項目以上を併せて実施した場合、主たるもの1つに限り算定する。



### 実施料について (自己抗体)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

- 2項目  
1. 自己抗体 320点
- 3項目以上  
2. 自己抗体 490点

# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 甲状腺関連自己抗体検査

4809 5G290	抗サイログロブリン抗体 (抗Tg抗体) (5538) 5G290-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	4.11 未満 IU/mL	2 3	140 免疫	
4824 5G285	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (抗TPO抗体) (5541) 5G285-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	5.61 未満 IU/mL	2 3	142 免疫	※1
2659 5G310	TSHレセプター抗体(第3世代) (5783) 5G310-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	3.10 未満 IU/L	2 3	220 免疫	同時算定不可 TSHレセプターのTSH結合部 位を認識する抗TSHレセプ ターヒトモノクローナル抗体を 用いた第3世代TRAbです。
2840 5G360	TSAb〔バイオアッセイ法〕 (TSH刺激性レセプター抗体) (5294) 5G360-0000-023-905	血清 0.3	A1-1 冷蔵	バイオアッセイ法	110 未満 %	5 7	340 免疫	* E

## 自己抗体検査

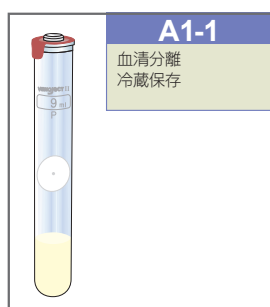
5130 5G010	抗核抗体半定量 (ANA) (4969) 5G010-0000-023-162	血清 0.3	A1-1 冷蔵	FA法	40倍 未満(-)	2 4	102 免疫	※2 * A
---------------	--	--------	------------	-----	-----------	--------	-----------	-----------

※1 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体を抗甲状腺マイクロソーム抗体半定量と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 報告対象の染色型

CENTROMERE	HOMOGENEOUS GRANULAR	SPECKLED 細胞周期関連型	NUCLEOLAR 核膜型	PERIPHERAL CYTOPLASM
------------	-------------------------	---------------------	------------------	-------------------------

※CYTOPLASMIにつきましては、(-)または(+ )でのご報告となります。



# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 自己抗体検査

0137 5G087	抗RNAポリメラーゼIII抗体 (4807) 5G087-0000-023-023	血清 0.3	A1 ↓ G-1 冷蔵	ELISA法	index 28未満 28以上50未満 50以上 判定 (-) (+-) (+)	3 } 5	170 免疫	※1、※2 *4
003L 5G090	抗セントロメア抗体 (4627) 5G090-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	10.0未満 U/mL	4 } 8	174 免疫	抗セントロメア抗体定量 ※3 *4
3603 5G020	抗DNA抗体定量 (4075) 5G020-0000-023-002	血清 0.3	A1-1 冷蔵	RIA・硫酸法	6.0以下 IU/mL	3 } 4		乳ビ血清不可 *E
3968 5G026	抗ss-DNA-IgG抗体定量 (4366) 5G026-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA法	25以下 AU/mL	4 } 7	163 免疫	*4
3966 5G036	抗ds-DNA-IgG抗体定量 (4368) 5G036-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA法	12以下 IU/mL	4 } 7		*4
3969 5G028	抗ss-DNA-IgM抗体 (4367) 5G028-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	ELISA法	17未満 U/mL	3 } 9		*4
3967 5G038	抗ds-DNA-IgM抗体 (4369) 5G038-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA法	6未満 U/mL	4 } 11		*4
3746 5G066	抗RNP抗体定量 (4689) 5G066-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	U/mL 10.0未満 10.0以上 判定 (-) (+)	3 } 5	144 免疫	*A

※1 びまん性強皮症の確定診断を目的として行った場合に、1回を限度として算定できる。

※2 びまん性強皮症の確定診断の際、陽性と認められた患者に関し、腎クリーゼのリスクが高い者については治療方針の決定を目的として行った場合に、又腎クリーゼ発症後の者については病勢の指標として測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。

※3 原発性胆汁性肝硬変又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合のみ算定できる。



G-1

血清分離  
(必ず凍結保存)  
ポリ試験管使用

### 実施料について (自己抗体)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

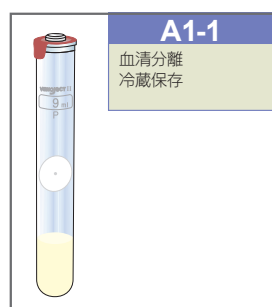
- 2項目  
1. 自己抗体 320点
- 3項目以上  
2. 自己抗体 490点

# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 自己抗体検査

3743 5G065	抗Sm抗体定量 (4667) 5G065-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	U/mL 10.0未満 10.0以上	判定 (-) 3 (+) 5	151 免疫	*A
3737 5G076	抗SS-A /Ro抗体定量 (4661) 5G076-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	U/mL 10.0未満 10.0以上	判定 (-) 3 (+) 5	161 免疫	*A
3740 5G077	抗SS-B /La抗体定量 (4664) 5G077-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	U/mL 10.0未満 10.0以上	判定 (-) 3 (+) 5	158 免疫	*A
8394 5G085	抗Scl-70抗体定量 (4692) 5G085-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	U/mL 10.0未満 10.0以上	判定 (-) 3 (+) 5	157 免疫	*A
1272 5G120	抗Jo-1抗体定量 (4883) 5G120-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	10.0 未満 U/mL	3 5	140 免疫	*A



# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 自己抗体検査

000W 5G385	抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗AChR抗体) (4240) 5G385-0000-023-007	血清 0.3	A1-1 ↓ G-1 凍結	RIA法 (ヒトIgG法)	0.2 以下 (-) 0.3~0.5 (+-) 0.6 以上 (+) nmol/L	4 } 7	798 免疫	*1、*2  *4
0779 5G821	抗アクアポリン4抗体 (7616) 5G821-0000-023-023	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	ELISA法	3.0 未満 (-) U/mL	3 } 9	1000 免疫	*3  *E
0778 5G386	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体 (抗MuSK抗体) (4266) 5G386-0000-023-007	血清 0.3	A1-1 ↓ G-1 凍結	RIA法	0.02 未満 nmol/L	4 } 10	1000 免疫	*4  *E
2520 5G504	抗カルジオリピン-β <sub>2</sub> - グリコプロテイン1複合体抗体 (抗CL-β <sub>2</sub> GP1抗体) (4711) 5G504-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	ELISA法	3.5 未満 U/mL	4 } 6	223 免疫	同時算定不可  *E
3228 5G508	抗カルジオリピンIgG抗体 (4038) 5G508-0000-023-023	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	12.3 以下 U/mL	3 } 6	226 免疫	  *E
4854 5G510	抗カルジオリピンIgM抗体 (4039) 5G510-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA法	20.8 以下 U/mL	3 } 6	232 免疫	  *E
4078 5G501	ループスアンチコアグラント (LA) (2091) (2436) 5G501-0000-022-311 5G502-0000-022-311	乏血小板 血漿 0.7	D-3 ↓ G-1 凍結 下記参照	希釈ラッセル蛇毒 試験(DRVVT)法	下表参照	2 } 4	273 免疫	抗リン脂質抗体症候群の 診断を目的として行った 場合に限って算定する。  *A
— 5G502		乏血小板 血漿 1.0	D-3 ↓ G-1 凍結 下記参照	リン脂質中和法	1.16 以下	3 } 5		

\*1 重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。

\*2 抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)と抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

\*3 視神経脊髄炎の診断(治療効果判定を除く。)を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。但し、この場合、前回の検査実施日及びその結果並びに検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

\*4 重症筋無力症の診断(治療効果判定を除く)を目的として測定した場合に算定できる。抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

### ループスアンチコアグラント(DRVVT法)結果の判定

T1/T2	判定
1.3以上	(+)
1.1以上 1.3未満	(+-)
1.1未満	(-)

本試薬は凝固カスケードをバイパスして、第X因子を直接活性化  
するラッセル蛇毒を用い凝固時間を測定する試薬1と試薬2に過  
剰なリン脂質を加えた試薬2の凝固時間を測定し、凝固時間の比  
を求めてLAを検出します。

試薬1(蛇毒)の凝固時間(T1)

試薬2(蛇毒+リン脂質)の凝固時間(T2)

**A1-1**  
血清分離  
冷蔵保存

---

**A1-3**  
採血後血清分離まで  
(必ず保温)  
血清分離  
冷蔵保存

**D-3**

血液を正確に1.8mL入れ転倒混和後、  
すみやかに室温にて1,500G以上15分  
間遠心後、上清の表面よりやや下の部分  
を1mL採取し、凍結保存にてご提出下  
さい。血小板の混入は測定結果に影響し  
ますので注意して下さい。

※遠心器回転数の計算式  
 $g = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$  (r = 回転半径cm, n = 回転数rpm)

3.2%  
クエン酸ナトリウム  
0.2mL

**G-1**  
血清分離  
(必ず凍結保存)  
ポリ試験管使用

### 実施料について(自己抗体)

一回に採取した血液を用いて  
青色で表記されている検査を  
2項目以上行った場合

1. 2項目  
自己抗体 320点
2. 3項目以上  
自己抗体 490点

# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 自己抗体検査

4105 5G551	PR3-ANCA (C-ANCA、抗好中球細胞質) プロテイナーゼ3抗体 (4558) 5G551-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	3.5 未満 U/mL	3 5	259 免疫	*A
4106 5G552	MPO-ANCA (P-ANCA、抗好中球細胞質) ミエロペルオキシダーゼ抗体 (4384) 5G552-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	3.5 未満 U/mL	3 5	258 免疫	急性進行性糸球体腎炎の診断 又は経過観察のために測定し た場合において算定する。 *A
7658 5G396	抗デスマグレイン1抗体 (抗Dsg1抗体) (4907) 5G396-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	20.0 未満 U/mL	3 5	300 免疫	※1、※4 *A
7659 5G397	抗デスマグレイン3抗体 (抗Dsg3抗体) (4908) 5G397-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	20.0 未満 U/mL	3 5	270 免疫	※2、※4 *A
8119 5G398	抗BP180抗体 (抗BP180NC16a抗体) (4945) 5G398-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	9.0 未満 U/mL	3 5	270 免疫	※3、※4 *A
5957 5G395	抗皮膚抗体 (4432) 5G395-0000-023-162	血清 0.3	A1-1 ↓ G-1 凍結	IFA法	10倍 未満 (-)	6 12		上皮基底膜抗体・ 上皮細胞間質抗体 *5
3964 5G420	抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体) (4381) 5G420-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	3.0 未満	3 5	262 免疫	抗糸球体基底膜抗体腎炎及び グッドパスチャー症候群の 診断又は治療方針の決定 を目的として行った場合に 限り算定する。 *A
4567 5G440	精子不動化抗体 (4544) 5G440-0000-023-186	血清 0.5	A1-1 ↓ G-1 凍結	不動化法	判定 : (-) 不動化値 : 1.40 以下 (SIV値) SI <sub>50</sub> : 1.0 未満 U/mL	4 8		溶血不可 *E
2074 5C245	ロイシンリッチα <sub>2</sub> グリコプロテイン (LRG) (5717) 5C245-0000-023-062	血清 0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	16.0 未満 μg/mL	3 4	276 生化I	※4 *E

- ※1 ア 血清中抗デスマグレイン1抗体は、ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。  
 なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患調査研究事業稀少難治性疾患に関する調査研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。  
 イ 落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と血清中抗デスマグレイン3抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※2 ア 血清中抗デスマグレイン3抗体は、ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断及び経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。  
 なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患調査研究事業稀少難治性疾患に関する調査研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。  
 イ 尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と血清中抗デスマグレイン1抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※3 血清中抗BP180NC16a抗体は、ELISA法又はCLEIA法により、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。
- ※4 診療報酬算定について  
 ア LRGを潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として測定する場合は、3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由および検査結果を診療録および診療報酬明細書の摘要欄に記載する。  
 イ 潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として、カルボテクチン（糞便）または「[D313] 大腸内視鏡検査」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。



# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 肝・胃関連自己抗体検査

4336 5G555	抗LKM1抗体 (4115) 5G555-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	ELISA法	index 17未満 17~49 50以上	判定 (-) (+-) (+)	3 } 9	215 免疫	※1 *4
3604 5G175	抗ミトコンドリア抗体 (AMA) (4125) 5G175-0000-023-162	血清 0.3	A1-1 冷蔵	FA法	20倍未満		2 } 4	181 免疫	*イ
4527 5G176	抗ミトコンドリアM2抗体 (AMA-M2) (4399) 5G176-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	7.0未満	Index値	3 } 5	189 免疫	*A
3607 5G180	抗平滑筋抗体 (4126) 5G180-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA法	40倍未満		2 } 4		*イ
3612 5G185	抗胃壁細胞抗体 (4297) 5G185-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA法	(-)		2 } 4		*イ

## 糖尿病関連自己抗体検査

2837 5G360	抗インスリン抗体 (5431) 5G360-0000-023-007	血清 0.5	A1-1 冷蔵	RIA法	濃度 0.4 未満	U/mL	5 } 10	110 免疫	*E
3729 5G340	抗GAD抗体 (抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体) (5376) 5G340-0000-023-021	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ELISA法	5.0 未満	U/mL	2 } 4	134 生化II	すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。*ア
1892 5G342	抗IA-2抗体 (5945) 5G342-0000-023-021	血清 0.6	A1-1 ↓ G-2 冷蔵	ELISA法	0.6 未満	U/mL	4 } 10	213 生化II	※2 *4

※1 ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、且つ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。本検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性であることを記載すること。

※2 すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、抗GAD抗体の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。なお、算定するに当たっては、抗GAD抗体の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

### 実施料について (自己抗体)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

- 2項目  
1. 自己抗体 320点
- 3項目以上  
2. 自己抗体 490点

# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 免疫グロブリン

3261 5A010	IgG (4015) 5A010-0000-023-061	血清 0.5	A1-1 冷蔵	TIA法	870~1700 mg/dL	1 2	38 免疫	
5A056	IgG2 (4999) 5A056-0000-023-061	血清 0.4	A1-1 冷蔵	免疫比濁法	239~838 mg/dL	4 8	239 免疫	*1
1891 5A058	IgG4 (4298) 5A058-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LA法	11~121 mg/dL	2 4	377 免疫	*イ
3262 5A015	IgA (4016) 5A015-0000-023-061	血清 0.5	A1-1 冷蔵	TIA法	110~410 mg/dL	1 2	38 免疫	
3263 5A020	IgM (4017) 5A020-0000-023-061	血清 0.5	A1-1 冷蔵	TIA法	35~220 mg/dL	1 2	38 免疫	

## 補体関連物質

3622 5B023	C3 (β <sub>1</sub> C/β <sub>1</sub> Aグロブリン) (4021) 5B023-0000-023-061	血清 0.5	A1-1 冷蔵	TIA法	65~135 mg/dL	1 2	70 免疫	
3623 5B024	C4 (β <sub>1</sub> Eグロブリン) (4022) 5B024-0000-023-061	血清 0.5	A1-1 冷蔵	TIA法	13~35 mg/dL	1 2	70 免疫	
3625 5B040	C1q (4025) 5B040-0000-023-063	血清 0.4	A1-1 ↓ G-1 凍結	ネフェロメトリー法	8.8~15.3 mg/dL	3 9		*4
3621 5B010	血清補体価 (CH <sub>50</sub> ) (4031) 5B010-0000-023-142	血清 0.4	A1-1 ↓ G-1 凍結	Mayer 変法	30.0~46.0 CH <sub>50</sub> /mL	2 4	38 免疫	*A

※1 原発性免疫不全等を疑う場合に算定する。

	<b>A1-1</b> 血清分離 冷蔵保存		<b>C-3</b> 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (尿量記載の必要なし)		<b>G-1</b> 血清分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用
	<b>A1-3</b> 採血後血清分離まで (必ず保温) 血清分離 冷蔵保存				



# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 血漿蛋白免疫学的検査

4002 5C070	C反応性 蛋白 (CRP)	定性 (1056) 5C070-0000-023-062	血清 0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	(-)	1 2	16 免疫	併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
3292 5C070		定量 (1158) 5C070-0000-023-062	血清 0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	0.30 以下 mg/dL	1 2	16 免疫	
3877 5C080	血清アミロイドA蛋白 (SAA)	(1719) 5C080-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	3.0 以下 mg/L	2 4	47 免疫	*A
3250 5A160	クリオグロブリン定性	(4127) 5A160-0000-023-920	血清 0.5	A1-3 冷蔵	寒冷沈殿法	(-)	4 6	42 免疫	血清分離まで保温 *イ
3279 5C060	トランスフェリン (Tf)	(4023) 5C060-0000-023-061	血清 0.3	A1-1 冷蔵	TIA法	M 190~300 F 200~340 mg/dL	2 4	60 免疫	
0066 5A141	遊離L鎖κ/λ比 (FLC)	(4575) 5A141-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 ↓ G-2 冷蔵	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	κ鎖 3.3~19.4 λ鎖 5.7~26.3 mg/L κ/λ比 0.26~1.65	3 4	388 免疫	*1 *1

※1 免疫グロブリンL鎖κ/λ比と免疫電気泳動法(抗ヒト全血清による定性)又は免疫電気泳動法(免疫固定法によるM蛋白同定)を同時に実施した場合は、主たるもののみ算定する。

# 免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 血漿蛋白免疫学的検査

3257 5A135	<b>免疫電気泳動</b> (抗ヒト全血清による定性) (1697) 5A135-0000-023-081	血清 <b>0.5</b>	<b>A1-1</b> 冷蔵	免疫電気泳動法		4 〜 8	170 免疫	特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承下さい。年齢、病歴を明記して下さい。 病歴を記載 動物検体不可 * 1
3260 5A135	<b>免疫電気泳動</b> (免疫固定法によるM蛋白同定) (1691) 5A135-0000-023-086	血清 <b>0.3</b>	<b>A1-1</b> 冷蔵	免疫固定法		4 〜 8	218 免疫	* 1、* 2 * 1
3258 5A145	<b>尿蛋白免疫電気泳動</b> (B-J 蛋白同定) (1692) 5A145-0000-001-086	部分尿 <b>0.4</b>	<b>C-3</b> 冷蔵	免疫固定法		4 〜 6	201 免疫	特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承下さい。年齢、病歴を明記して下さい。 動物検体不可 * 4
3269 5C020	<b>α1-アンチトリプシン</b> (2225) 5C020-0000-023-063	血清 <b>0.4</b>	<b>A1-1</b> 冷蔵	ネフェロメトリー法	94 ~ 150 mg/dL	3 〜 4	80 血液	* 1

※ 1 免疫電気泳動法(抗ヒト全血清による定性)及び免疫電気泳動法(免疫固定法によるM蛋白同定)については、同一検体につき一回に限り算定する。

※ 2 同一検体について免疫電気泳動法(抗ヒト全血清による定性)及び免疫電気泳動法(免疫固定法によるM蛋白同定)を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

### ● T-SPOT.TBの判定基準

判定基準	
パネルA(ESAT-6)とパネルB(CFP-10)のスポット数	
(+)	両方又は一方が8以上
判定保留	両方又は一方の最大値が5～7
(-)	両方が4以下
判定不可	陰性コントロールのスポット数が10を超える場合 陽性コントロールのスポット数が20未満の場合

○報告対象は判定、パネルA、パネルBとなります。

判定：(+), (-), 判定保留, 判定不可

パネルA：スポット数(整数)

パネルB：スポット数(整数)

※判定保留、判定不可の場合には、再度、採血して再提出することを推奨いたします。

### ● QFTプラスの判定基準

Nil値 (IU/mL)	TB1値 (IU/mL)	TB2値 (IU/mL)	Mitogen値 (IU/mL)	判定	解釈
8.0以下	0.35以上かつ Nil値の25%以上	不問	不問	(+)	結核感染を疑う
	不問	0.35以上かつ Nil値の25%以上			
	0.35未満、あるいは0.35以上かつ Nil値の25%未満		0.5以上	(-)	結核感染していない
8.0を超える	不問		0.5未満	判定不可	結核感染の有無について判定できない

○報告対象は、判定、Nil値、TB1値、

TB2値、Mitogen値となります。

判定：(+), (-), 判定不可

Nil値：測定値

TB1値：測定値

TB2値：測定値

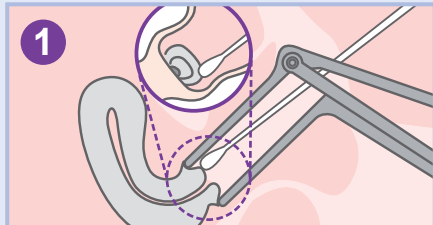
Mitogen値：測定値

# 免疫学的検査

## 淋菌/クラミジア・トラコマチスDNA〔PCR〕の検体採取方法と保存方法

### 子宮頸管擦過細胞

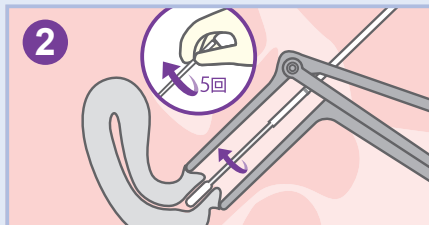
使用容器： **E1**



#### 子宮頸部の粘液除去

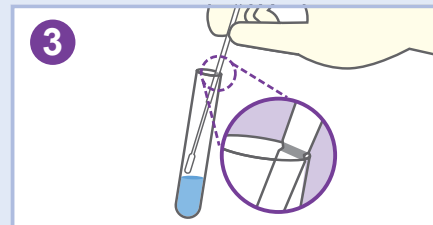
スワブ検体採取セット付属の粘液除去用ドライスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を充分拭い取ります。

**注意** 粘液を拭ったスワブは廃棄します。



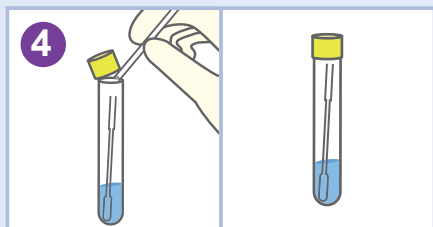
#### 子宮頸部検体の採取

付属されている検体採取用フロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。(回し過ぎないでください。)スワブを引き抜く際は膣の粘膜に触れないように注意して下さい。



#### 子宮頸部検体の保存

専用容器のキャップを開けます。採取したフロックスワブを専用容器に入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。



専用容器の縁を利用して、キャップで黒い線をはさむようにして折ります。専用容器のキャップをしっかり閉めます。

**注意** 手元に残った折られた柄は廃棄して下さい。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないで下さい。

#### 検体採取上の注意

- スワブ検体採取セット付属の検体採取スワブ以外は使用しないで下さい。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
- 粘液を十分除いてから検体を採取して下さい。
- 専用容器には検体を採取したスワブのみ入れて下さい。スワブを保存した専用容器は2～30℃で12ヶ月安定です。

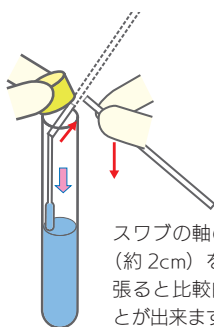
#### 一般的な注意

- 子宮頸管検体を採取する前にスワブを専用容器に浸さないで下さい。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意ください。
- 検体を採取したスワブは速やかに専用容器に入れて下さい。
- 専用容器は絶対に凍結させないで下さい。

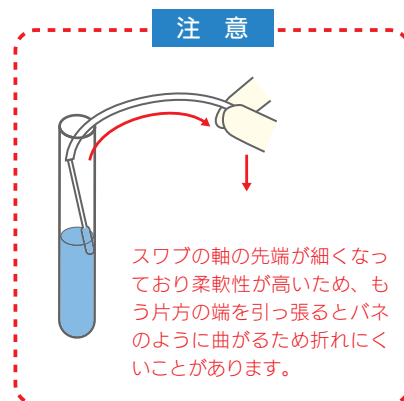
### フロックスワブを上手に折る方法



黄色いキャップとチューブの縁でスワブの黒い線を挟むようにしてセットします。



スワブの軸のチューブの近く(約2cm)をつまみ下に引っ張ると比較的きれいに折ることが出来ます。



**注意**

スワブの軸の先端が細くなっており柔軟性が高いため、もう片方の端を引っ張るとバネのように曲がるため折れにくいことがあります。

\*折目線の辺りが汚染されてキャップで押さえることが困難な場合には折目線を出るだけ固定し鋭角に曲げると折りやすくなります。

### 尿

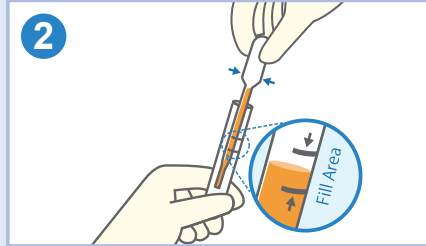
使用容器： **エ2**



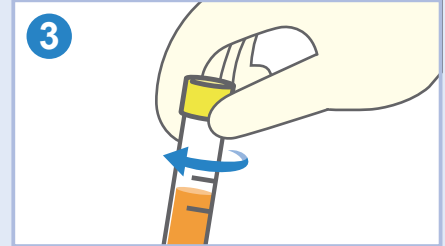
#### 尿検体の採取

滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて、初尿を専用容器に移します。

**注意** 初尿は採取後2～30℃で24時間以内に専用容器に移して下さい。

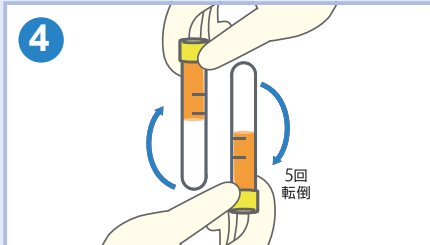


専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えて下さい。



#### 尿検体の保存

専用容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。



専用容器を5回転倒混和させて下さい。

#### 検体採取上の注意

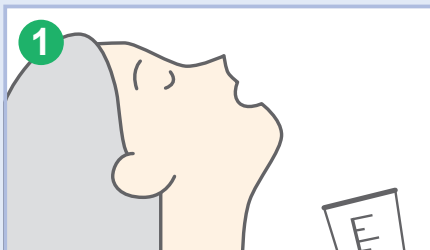
- 初尿は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えて下さい。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
- 初尿は2～30℃で24時間以内に専用容器に移して下さい。
- 尿検体を保存した専用容器は2～30℃で12ヶ月安定です。

#### 一般的な注意

- 女性の尿を採取する前は消毒しないで下さい。
- 月経中の患者からは尿検体を採取しないで下さい。
- 最後の排尿から少なくとも1時間以上経過していることを確認して下さい。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意下さい。
- 専用容器は絶対に凍結させないで下さい。

### うがい液

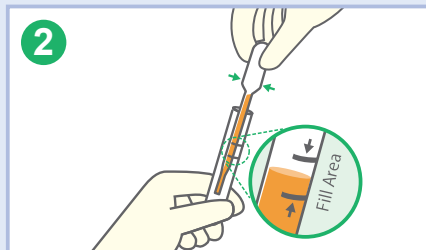
使用容器： **エ2**



#### うがいの仕方

生理食塩水(日局方など)をコップに15～20mL入れて下さい。生理食塩水15～20mLを口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢よく"ガラガラ"とうがいを行います。

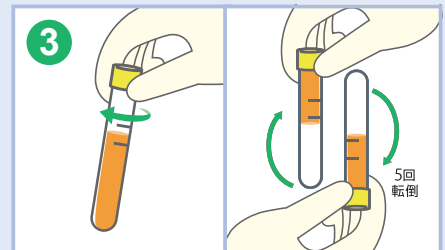
**注意** 口に含んで吐き出した液とうがい容器に残した液を合わせて"うがい液"とします。



#### 検体輸送液への懸濁

"うがい液" 全量とうがい用容器に回収し、スポイトで専用容器(尿・うがい用)に必要量添加します。

**注意** "うがい液"は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えて下さい。



#### 検体容器の保管

専用容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。専用容器を5回転倒混和させて下さい。

#### 検体採取上の注意

- うがい液は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えて下さい。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。  
うがい液検体を保存した専用容器は2～30℃で12ヶ月安定です。  
うがい液を専用容器に入れない場合は2～8℃で輸送して下さい。採取から10日以内に専用容器に入れて下さい。

#### 一般的な注意

- 検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けて下さい。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意下さい。
- 専用容器は絶対に凍結させないで下さい。

# アレルギー

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## アレルギー関連検査

3265 5A090	IgE (4019) 5A090-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	FEIA法	1歳未満 20 以下 1~3歳 30 以下 4~6歳 110 以下 7歳以上 170 以下 IU/mL	2 3	100 免疫	
( ) 5A100	IgE シングルアレルゲン ( )	血清 0.3 ※1	A1-1 冷蔵	FEIA法	0.35 未満 UA/mL	2 3	各110 ※2 免疫	判定基準は表1、2参照 アレルゲン種類 77頁参照
( ) 5A100	IgE マルチアレルゲン ( )	血清 0.3 ※1	A1-1 冷蔵	FEIA法	0.35 未満 UA/mL	2 3	各110 ※2 免疫	判定基準は表1参照 アレルゲン種類 78頁参照
0691 5A100	Viewアレルギー 39 (3921) 5A100-2808-023-023	血清 1.0	A1-1 冷蔵	FEIA法	0.27 未満 index 値	2 3	1430 免疫	判定基準は表3参照 Viewアレルギー 39に 含まれるアレルゲン種類 78頁参照
3734 5A100	アトピー鑑別試験 (4483) 5A100-2820-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	FEIA法	(-)	2 3	194 免疫	アレルゲン種類 78頁参照
2900 (5J228)	TARC (Th2ケモカイン) (4943) 5J228-0000-023-052	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA法	小児(6~12ヶ月):1367 未満 小児(1~2歳未満):998 未満 小児(2歳以上):743 未満 成人(15歳以上):450 未満 pg/mL	2 5	184 ※3、※4 免疫	(表4参照) *ア

※1 アレルゲン検査において、多項目を同時にご依頼の場合、下記算出式に基づいた必要量をおよその目安としてご提出下さい。

$$\text{アレルゲン必要量算出式} = [0.3 + (0.1 \times \text{依頼項目数})] \text{ mL} : \text{依頼項目数} \geq 2$$

※2 特異的IgE 1430点を限度として算定する。

※3 アトピー性皮膚炎の重症度評価の補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合は、月1回を限度として算定できる。

※4 COVID-19と診断された患者（呼吸不全管理を要する中等症以上の患者を除く。）の重症化リスクの判定補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合には、一連の治療につき1回を限度として算定できる。

(表1) IgE シングルアレルゲン・マルチアレルゲン 判定基準

UA/mL	0.35未満	0.35~0.69	0.70~3.49	3.50~17.49	17.50~49.99	50.00~99.99	100以上
クラス	0	1	2	3	4	5	6
判定	陰性	疑陽性	陽性				

UA/mL : WHOの標準品(U/mL)検定。Aはアレルゲン特異性を意味する。

(表2) Ara h 2(ピーナッツ由来) 判定基準

UA/mL	0.35未満	0.35~3.99	4.00以上
判定	陰性	疑陽性	陽性

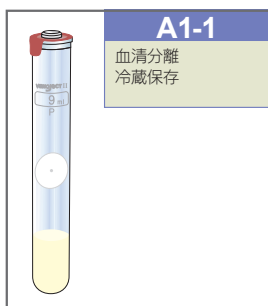
Ara h 2(ピーナッツ由来)は、他のIgEシングルアレルゲンと異なり、判定基準にクラス設定はありません。判定フローは78頁参照  
(IgEシングルアレルゲン ピーナッツ陽性者が対象となります)

(表3) Viewアレルギー 39 判定基準

index 値	0.27未満	0.27~0.49	0.50~1.79	1.80~7.04	7.05~17.34	17.35~29.30	29.31以上
クラス	0	1	2	3	4	5	6
判定	陰性	疑陽性	陽性				

(表4) アトピー性皮膚炎の重症度判定の目安

	TARC 測定値	アトピー性皮膚炎の重症度の目安
成人	700 pg/mL 未満	軽症
	700 pg/mL 以上	中等症以上
小児 (2歳以上)	760 pg/mL 未満	軽症
	760 pg/mL 以上	中等症以上



# アレルギー

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## IgE シングルアレルゲン(疾患別セット)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
I031 5A100	鼻炎・喘息・結膜炎 (1474)	血清 1.4 ※1	A1-1 冷蔵	FEIA法	0.35 未満	2 3	1430 免疫	判定基準は表1参照 アレルゲン種類 表5参照
I032 5A100	小児アレルギー (1475)							
I033 5A100	アトピー性皮膚炎 (成人) (1476)							
I034 5A100	食物アレルギー (1477)							
I035 5A100	花粉症 (1478)							
I041 5A100	成人食物アレルギー (1493)							
I036 5A100	鼻炎・喘息・結膜炎 (1466)	血清 1.0 ※1	A1-1 冷蔵	FEIA法	0.35 未満	2 3	1100 免疫	判定基準は表1参照 アレルゲン種類 表5参照
I037 5A100	小児アレルギー (1467)							
I038 5A100	アトピー性皮膚炎 (成人) (1468)							
I039 5A100	食物アレルギー (1469)							
I040 5A100	花粉症 (1470)							

※1 検体量が記載量に満たない場合、全アレルギーの検査ができないことがあります。

(表5) IgE特異的アレルゲン(疾患別セット)の対象アレルゲン一覧

セット名称	鼻炎・喘息・結膜炎	小児アレルギー	アトピー性皮膚炎(成人)	食物アレルギー	花粉症	成人食物アレルギー
セット構成 アレルゲン一覧	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ ヒノキ ハンノキ(属) ガ フタクサ カモガヤ 動物上皮 ※1 カビ ※1	ヤケヒョウヒダニ スギ 動物上皮 ※1 卵白 ミルク 小麦(食餌) ソバ ピーナッツ エビ ソバ 動物上皮 ※1 カビ ※1, ※2	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ ガ 小麦(食餌) ピーナッツ エビ ソバ 動物上皮 ※1 カビ ※1, ※2	卵白 オボムコイド ミルク 小麦(食餌) ソバ ピーナッツ エビ カニ イクラ 大豆	スギ ヒノキ ハンノキ(属) シラカンバ(属) コナラ(属) カモガヤ ギョウギンバ フタクサ ヨモギ カナムグラ	小麦 ω-5グリアジン エビ カニ サバ アニサキス ソバ キウイ Gly m 4 ハンノキ(属)
	ヨモギ ユスリカ(成虫) ゴキブリ	ゴキブリ オボムコイド イクラ	カンジダ マラセチア(属) アスペルギルス アルテルナリア	クルミ バナナ キウイ	ハルガヤ オオアワガエリ アキノキリンソウ	スギ カモガヤ ヤケヒョウヒダニ

※1 マルチアレルゲンを使用  
※2 13セットでは対象外です。

疾患と年齢の組み合わせにより推奨するIgE特異的アレルゲン疾患別セット

年齢	年齢	年齢	年齢
疾患名	乳幼児 (0歳~就学前)	学童 (小学~中学)	成人
鼻炎・結膜炎	鼻炎・喘息・結膜炎 10、13 セット		
気管支喘息	鼻炎・喘息・結膜炎 10、13 セット		
アトピー性皮膚炎	小児アレルギー 10、13 セット	アトピー性皮膚炎(成人) 10、13 セット	
食物アレルギー	食物アレルギー 10、13 セット		成人食物アレルギー 13 セット
花粉症	花粉症 10、13 セット		

# IgE アレルゲン一覧表

NO.	略号コード	アレルゲン名	NO.	略号コード	アレルゲン名	NO.	略号コード	アレルゲン名	NO.	略号コード	アレルゲン名
House dust (室内塵)			Parasites (寄生虫)			Foods (食餌性アレルゲン)			Foods (食餌性アレルゲン)		
3314	h1	ハウスダスト1 (4080)	3375	p1	カイチュウ (4212)	3305	g8	ナガハグサ (4092)	4934	f75	卵黄 (4304)
3315	h2	ハウスダスト2 (4081)	4969	p4	アニサキス (4527)	4903	g9	コヌカグサ(属) (4323)	4935	f76	α-ラクトアルブミン (4171)
Mites (ダニ)			Occupational (職業性)			3345	g10	セイパンモロコシ (4324)	4936	f77	β-ラクトグロブリン (4172)
3312	d1	ヤケヒョウヒダニ (4078)	4997	k72	オオバコ種子 (4507)	3348	g15	小麦(属) (4341)	4937	f78	カゼイン (4190)
3313	d2	コナヒョウヒダニ (4079)	4281	k75	イソシアネート TDI (4508)	3349	g16	オオズメノテッポウ (4342)	4996	f79	グルテン (4191)
4919	d70	アシプトコナダニ (4202)	4280	k76	イソシアネート MDI (4509)	3350	g17	スズメノヒエ(属) (4346)	4938	f80	ロブスター (4192)
4920	d71	サヤアシシクダニ (4203)	4282	k77	イソシアネート HDI (4510)	Foods (食餌性アレルゲン)			4939	f81	チーズ (4193)
4921	d72	ケナガコナダニ (4204)	4287	k78	エチレンオキサイド (4511)	3320	f1	卵白 (4132)	4879	f82	モールドチーズ (4501)
Epithelia (動物上皮)			4881	k79	無水フタル酸 (4512)	3321	f2	ミルク (4133)	4940	f83	鶏肉 (4322)
3310	e1	ネコ皮膚 (4085)	4991	k80	ホルマリン (4638)	3326	f3	タラ (4077)	4941	f84	キウイ (4194)
3371	e3	ウマ皮膚 (4215)	4980	k82	ラテックス (4635)	3327	f4	小麦 (4287)	4942	f85	セロリ (4195)
3372	e4	ウシ皮膚 (4216)	0937	k220	Hev b 6.02 (4655)	3328	f5	ライ麦 (4087)	4943	f86	パセリ (4196)
4923	e5	イヌ皮膚 (4217)	Trees (樹木花粉)			3329	f6	大麦 (4100)	4944	f87	メロン (4197)
3373	e6	モルモット上皮 (4218)	3360	t1	カエデ(属) (4250)	3330	f7	オート麦 (4101)	4945	f88	羊肉 (4198)
4924	e70	ガチョウ羽毛 (4220)	3361	t2	ハンノキ(属) (4316)	3378	f8	トウモロコシ (4392)	4946	f89	マスタード (4199)
4949	e77	セキセイインコのふん (4227)	3309	t3	シラカンバ(属) (4096)	3379	f9	米 (4284)	4977	f90	麦芽 (4200)
4948	e78	セキセイインコ羽毛 (4228)	3363	t5	ブナ(属) (4256)	3380	f10	ゴマ (4386)	4877	f91	マンゴ (4201)
4286	e80	ヤギ上皮 (4230)	3364	t6	ビャクシン(属) (4257)	3381	f11	ソバ (4292)	4994	f92	バナナ (4502)
4925	e81	羊上皮 (4231)	3365	t7	コナラ(属) (4269)	3331	f12	エンドウ (4102)	4972	f93	カカオ (4503)
4951	e82	家兎上皮 (4232)	3366	t8	ニレ(属) (4270)	3332	f13	ピーナッツ (4319)	4878	f94	洋ナシ (4504)
4926	e83	豚上皮 (4233)	3367	t9	オリーブ (4271)	3382	f14	大豆 (4249)	4992	f95	モモ (4505)
4971	e84	ハムスター上皮 (4234)	3368	t10	クルミ(属) (4272)	3383	f15	インゲン (4113)	4995	f96	アボカド (4506)
4927	e85	ニワトリ羽毛 (4235)	3370	t12	ヤナギ(属) (4274)	3333	f17	ハシバミ (4120)	5177	f97	ヤマイモ (4646)
4928	e86	アヒル羽毛 (4244)	3396	t16	マツ(属) (4310)	3334	f18	ブラジルナッツ (4121)	9952	f202	カシューナッツ (4651)
4985	e87	ラット (4247)	3322	t17	スギ (4134)	3335	f20	アーモンド (4123)	4595	f207	アサリ (4641)
4978	e88	マウス (4248)	4915	t19	アカシア(属) (4285)	3336	f23	カニ (4374)	4999	f209	グレープフルーツ (4631)
			3323	t24	ヒノキ (4517)	3337	f24	エビ (4371)	4993	f214	ホウレンソウ (4632)
			4917	t70	クワ(属) (4288)	3384	f25	トマト (4377)	4981	f225	カボチャ (4633)
			Weeds (雑草花粉)			3385	f26	豚肉 (4301)	4882	f233	オボムコイド (4224)
			3306	w1	ブタクサ (4136)	4931	f27	牛肉 (4395)	4880	f254	カレイ (4634)
			4918	w2	ブタクサモドキ (4289)	3386	f31	ニンジン (4389)	5178	f256	クルミ (4644)
			3307	w3	オオブタクサ (4095)	3387	f33	オレンジ (4401)	4584	f290	カキ(貝) (4642)
			4907	w5	ニガヨモギ (4294)	3388	f35	ジャガイモ (4398)	5176	f329	スイカ (4645)
			3308	w6	ヨモギ (4094)	3389	f36	ココナッツ (4144)	5000	f338	ホタテ (4643)
			3351	w7	フランスギク (4295)	3390	f37	ムラサキイガイ (4148)	4579	f349	イクラ (4639)
			3352	w8	タンポポ(属) (4302)	3391	f40	マグロ (4325)	4580	f350	タラコ (4640)
			3353	w9	ヘラオオバコ (4303)	3392	f41	サケ (4307)	0938	f353	Gly m4 (4654)
			3354	w10	シロザ (4305)	3393	f44	イチゴ (4167)	9953	f416	ω-5グリアジン (4650)
			3356	w12	アキノキリンソウ (4313)	4932	f45	ビール酵母 (4168)	0800	f423	Ara h 2 (4653)
			3357	w18	ヒメスイバ (4314)	3394	f47	ニンニク (4383)	7501	f441	Jug r 1 (4656)
			3359	w20	イラクサ(属) (4317)	3395	f48	タマネギ (4380)	7502	f443	Ana o 3 (4657)
			4968	w22	カナムグラ (4528)	4933	f49	リンゴ (4169)	Drugs (薬物)		
			Grasses (イネ科植物花粉)			4959	f50	サバ (4516)	4285	c73	ヒトインシュリン (4513)
			3301	g1	ハルガヤ (4090)	4952	f51	タケノコ (4518)	4986	c74	ゼラチン (4221)
			3302	g2	ギョウギシバ (4091)	4953	f54	サツマイモ (4519)	Other (その他)		
			3303	g3	カモガヤ (4130)	4954	f55	キビ (4520)	4998	o1	綿 (4637)
			4901	g4	ヒロハウシノケグサ (4318)	4955	f56	アワ (4521)			
			4902	g5	ホソムギ (4320)	4957	f58	イカ (4523)			
			3304	g6	オオアワガエリ (4093)	4958	f59	タコ (4524)			
			3344	g7	アシ (4321)	4960	f60	アジ (4515)			
						4967	f61	イワシ (4525)			



# IgE アレルゲン一覧表

## ● マルチアレルゲン

NO.	略号	項目名	内容
3984	g×5	イネ科 (4020)	主なイネ科植物の花粉5種混合 ハルガヤ(g1)、ギョウギシバ(g2)、カモガヤ(g3)、オオアワガエリ(g6)、アシ(g7)
3993	w×5	雑草 (4029)	主なキク科植物の花粉5種混合 ブタクサ(w1)、ヨモギ(w6)、フランスギク(w7)、タンポポ属(w8)、アキノキリンソウ(w12)
3990	e×2	動物上皮 (4067)	強力なアレルゲンといわれる動物のフケ5種混合 ネコ皮膚(e1)、イヌ皮膚(e5)、モルモット上皮(e6)、ラット(e87)、マウス(e88)
3996	m×2	カビ (4070)	日常生活での区別が困難で交差性も少ないとされるカビ6種混合 ペニシリウム(m1)、クラドスポリウム(m2)、アスペルギルス(m3)、カンジダ(m5)、アルテルナリア(m6)、ヘルミントスポリウム(m8)
3981	f×5	食物 (4064)	幼児の代表的食物アレルゲン5種混合 卵白(f1)、ミルク(f2)、小麦(f4)、ピーナッツ(f13)、大豆(f14)
3987	f×6	穀物 (4065)	三大アレルゲン(卵白、ミルク、大豆)に次いで注目されている穀物5種混合 小麦(f4)、トウモロコシ(f8)、米(f9)、ゴマ(f10)、ソバ(f11)

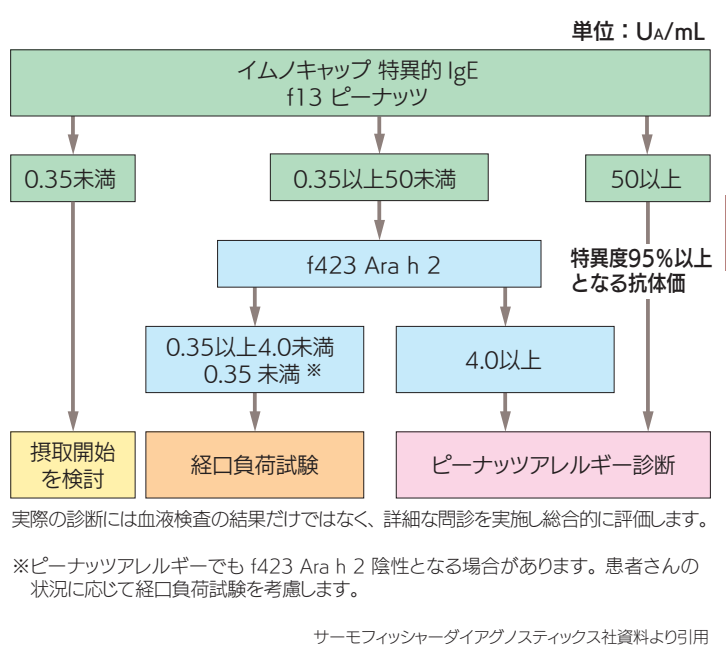
## ● アトピー鑑別試験

含まれるアレルゲン
ヤケヒョウヒダニ コナヒョウヒダニ ネコのフケ イヌのフケ ギョウギシバ カモガヤ ブタクサ ヨモギ シラカンバ(属) スギ カンジダ アルテルナリア

## ● Viewアレルギー 39に含まれるアレルゲン 一覧

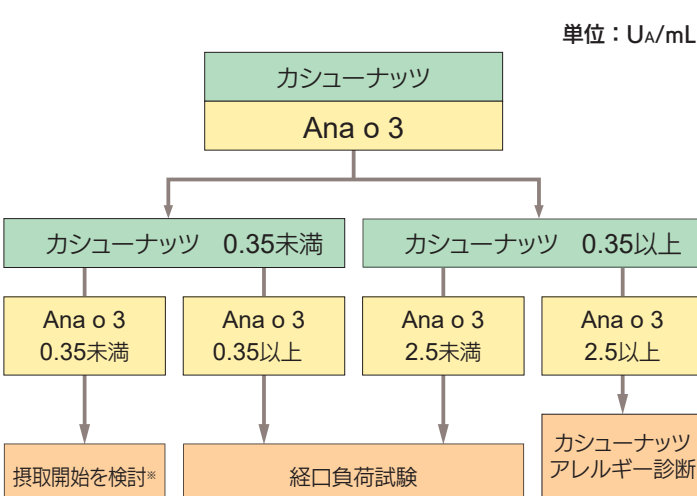
室内塵	ハウスダスト1	食餌性	エビ
ダニ	ヤケヒョウヒダニ		カニ
樹木花粉	スギ		ミルク
	ヒノキ		卵白
	ハンノキ(属)		オボムコイド
	シラカンバ(属)		ピーナッツ
イネ科花粉	カモガヤ		小麦
	オオアワガエリ		米
雑草花粉	ブタクサ		大豆
	ヨモギ		ソバ
動物上皮	ネコ皮膚		ゴマ
	イヌ皮膚		サバ
真菌<カビ>	カンジダ		マグロ
	アスペルギルス		サケ
	アルテルナリア		牛肉
	マラセチア(属)		鶏肉
			豚肉
昆虫	ガ		キウイ
	ゴキブリ		リンゴ
職業性	ラテックス		バナナ

## ● ピーナッツアレルギー判定フロー (目安)



アレルギー

## ● カシューナッツアレルギー判定フロー (目安)

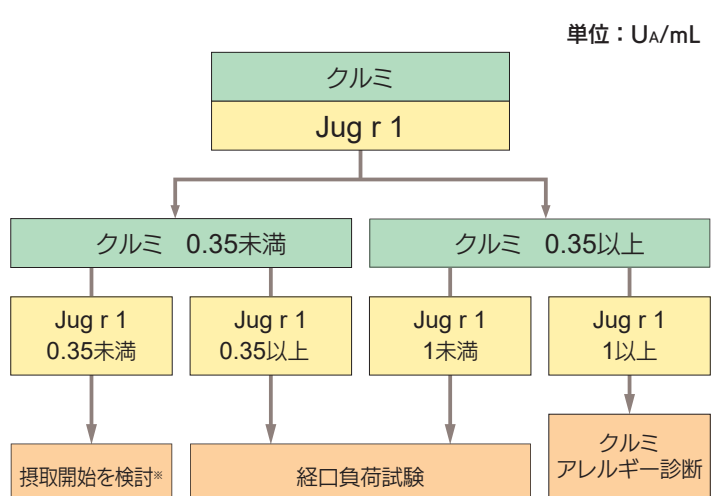


※大多数は摂取可能ですが、まれに症状を誘発するケースもあります。患者さんの状況に応じて経口負荷試験を考慮します。

Thermo Scientific™ イムノキャップ™ 特異的 IgE および Thermo Scientific™ イムノキャップ™ アレルゲンコンポーネントによる検査値からの目安です。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス社資料より引用

## ● クルミアレルギー判定フロー (目安)



※大多数は摂取可能ですが、まれに症状を誘発するケースもあります。患者さんの状況に応じて経口負荷試験を考慮します。

※実際の診断には血液検査の結果だけでなく、詳細な問診を実施し総合的に評価します。Thermo Scientific™ イムノキャップ™ 特異的 IgE および Thermo Scientific™ イムノキャップ™ アレルゲンコンポーネントによる検査値からの目安です。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス社資料より引用

# 免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
<b>B型肝炎ウイルス関連検査</b>								
4015 5F016	HBs抗原 定性 (4003) 5F016-1411-023-116	血清 0.5	A1-1 冷蔵	RPHA法	(-)	1 3	29 免疫	注1
4016 5F016	HBs抗体 定性 (4004) 5F016-1491-023-103	血清 0.2	A1-1 冷蔵	PHA法	(-)	1 3	32 免疫	
3672 5F016	HBs抗原 (4001) 5F016-1413-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	0.05 未満 (-) IU/mL	1 2	88 免疫	注1
3673 5F016	HBs抗体 (4002) 5F016-1430-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	10.0 未満 (-) mIU/mL	1 2	88 免疫	10.0mIU/mLはHBVワクチンの再接種基準のためのカットオフ値です(最小防御抗体価)。
3674 5F019	HBe抗原 (4006) 5F019-1410-023-051	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLIA法	S/CO値 1.00 未満 1.00 以上 判定 (-) (+)	1 2	101 免疫	
3675 5F019	HBe抗体 (4007) 5F019-1430-023-051	血清 0.7	A1-1 冷蔵	CLIA法	Inhibition% 50.0 未満 50.0 以上 判定 (-) (+)	1 2	101 免疫	
3678 5F018	HBc抗体 (4005) 5F018-1430-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	S/CO値 1.00 未満 1.00 以上 判定 (-) (+)	1 2	133 免疫	同時算定不可
3684 5F018	HBc-IgM抗体 (4236) 5F018-1432-023-051	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLIA法	S/CO値 1.00 未満 1.00 以上 判定 (-) (+)	1 2	146 免疫	

## 注1 (HBs抗原について)

【HBV感染の診断】B型肝炎ウイルス(HBV)感染の診断は、他の免疫測定法等と同じく、本製品による陽性又は陰性の検査結果のみにより行わず、HBc抗体測定、HBV-DNA定量検査等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断して下さい。特に下記の場合は使用方法にご留意下さい。

### 1. 健康診断時のスクリーニング検査

できるだけ検出感度の高いEIA法/化学発光法などを用いた検出試薬を使用し、イムノクロマト法や凝集法で検出感度の低い検出試薬の使用にあたっては、十分にご留意下さい。

### 2. 緊急検査

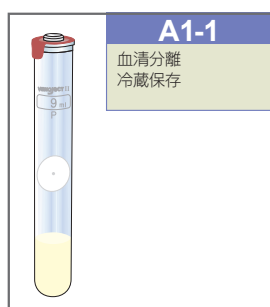
緊急対応として実施される迅速・簡便な検出試薬において陰性と判定された場合でも、必要に応じてさらに検出感度の高い検出試薬で再検査をすることをお勧めします。

### 3. B型肝炎と診断された患者の経過観察検査

EIA法/化学発光法、凝集法、イムノクロマト法等いずれの方法を用いた検出試薬でも使用できますが、陰性化した場合はより検出感度の高い方法で確認することをお勧めします。

(注) HBV感染直後はウイルス量が極めて少なく、どのような高感度の検出試薬を用いてもウイルスを確認できません。この時期は「ウィンドウ(空白)期間」と呼ばれており、ウィンドウ時に採取された血液では、HBs抗原は必ず検出されるとは限りません。

【性能】RPHA法最小検出限界 5 IU/mL CLIA法感度 0.05 IU/mL以下



# 免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## B型肝炎ウイルス関連検査

2983 5F015	HBV-DNA 定量 〔リアルタイムPCR法〕 (4740) 5F015-1441-023-862	全血 5.0 注1	力 凍結 下記参照	リアルタイム PCR法	表1参照  Log IU/mL	3 } 5	263 微生	※5  *A
1817 5F018	B型肝炎ウイルスコア 関連抗原 (HBcrAg) (4183) 5F018-1410-023-052	血清 0.5	A1-1 ↓ G-2 冷蔵	CLEIA法	2.9 以下  Log U/mL	4 } 10	259 免疫	※1  *E
0005 5F015	HBVゲノタイプ(判定) (4729) 5F015-1405-023-023	血清 0.5	A1-1 冷蔵	EIA法	  型	3 } 9	340 免疫	注2 ※2  *E

## A型肝炎ウイルス関連検査

3679 5F350	HA-IgG 抗体 (4485) 5F350-1431-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	S/CO値 1.00 未満 1.00 以上  判定 (-) (+)	1 } 2	146 免疫	同時算定不可
3680 5F350	HA-IgM 抗体 (4097) 5F350-1432-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	S/CO値 0.80 未満 0.80~1.20 1.21 以上  判定 (-) (±) (+)	1 } 2	146 免疫	

注1 他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

注2 報告形式：A、B、C、Dまたは「検出されず」HBs抗原量が少なく、型判定が不可能な場合に「検出されず」とご報告いたします。国内ではまれな遺伝子型E、F、G、Hの検体における測定結果は検証されていません。

- ※1 HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のHBcrAgを測定した場合に1月に1回に限り算定する。なお、HBV核酸定量を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※2 HBVゲノタイプ(判定)は、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回で算定できる。
- ※3 HBVDNA検出結果、プレコア変異型及び比率、コアプロモーター変異型についてご報告します。低ウイルス量(概ね2,000コピー/mL未満)の検体では、試薬の特性上、安定した判定結果を得られない場合があります。
- ※4 B型肝炎急性患者に対しては、劇症肝炎が疑われる場合に限り、患者1人につき1回算定できる。B型肝炎慢性患者に対しては、経過観察中にALT異常値などにより肝炎増悪が疑われ、且つ、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の投与対象患者の選択のために行われた場合に限り算定できる。なお、本検査実施以降は、肝炎ウイルス関連検査のうちB型肝炎に関する検査(但し、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の治療効果判定に用いる検査を除く)は、算定できない。
- ※5 B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し行った場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できる。

(表1) HBV-DNA定量(リアルタイムPCR法)の判定

	測定結果(Log IU/mL)	測定結果
定量値	1.0~9.1以上	陽性
増幅反応シグナル	(+)	
定量値	1.0未満	陽性*
増幅反応シグナル	(+)	
定量値	1.0未満	陰性
増幅反応シグナル	(-)	

\*測定下限値が1.0未満であっても、増幅反応シグナルが(+)の場合はウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。



**力**

直接採血後4~5回静かに転倒混和し常温にて30分~60分放置して下さい。凝固完了を確認後遠心器にて10~15分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存して下さい。

分離剤入り10mL管  
※採血量は、8.0mLです。

### 実施料について (肝炎)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1.	3項目 肝炎	290点
2.	4項目 肝炎	360点
3.	5項目以上の場合 肝炎	438点

# 免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
3898 5F360	HCV抗体 (4541) 5F360-1480-023-062	血清 0.5	A1-1 冷蔵	LPIA法 及びCLEIA法	cut off index 判定 ~0.9 (-) 1.0~ (+)	1 2	105 免疫	*1
7799 5F360	HCVコア抗原 (4997) 5F360-1500-023-054	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	3.0 未満 fmol/L	3 4	105 免疫	*1
3869 5F360	HCV群別 (4743) 5F360-1406-023-052	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA法	群判定 表1参照	2 7	221 免疫	C型肝炎の診断が確定した患者に対し、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。 *ア
1976 5F360	HCV-RNA定量 〔リアルタイムPCR法〕 (7001) 5F360-1453-023-875	全血 5.0 注1	カ 凍結 下記参照	リアルタイム PCR法	表2参照 Log IU/mL	3 5	424 微生物	急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。 *A
8606 5F360	ジェノタイプHCV-RNA-PCR (7903) 5F360-1405-023-875	全血 2.0 注1	カ 凍結 下記参照	RT-PCR法	I型 (1a) (-) II型 (1b) (-) III型 (2a) (-) IV型 (2b) (-) V型 (3a) (-)	4 7		*イ

注1 他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

\*1 【重要な基本的注意】C型肝炎ウイルス(HCV)感染の診断は抗体検査による検査結果のみで行わず、HCV-RNA測定等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断して下さい。

(表1) HCV群別の判定と意義

判 定	意 義
グループ1	PCR法における I型、II型、に相当します。
グループ2	PCR法における III型、IV型、に相当します。
判定保留	両グループの重複感染、あるいは過去の異なった時期にそれぞれのグループのウイルスに感染した可能性等が考えられます。どちらか一方のウイルスが排除されている可能性を否定しきれないので判定は保留とします。 (両グループの抗体が陽性)
判定不能	本検査試薬に用いている抗原に対する抗体が存在しないため、本法によってウイルスのグループ判定を行うことはできません。(両グループの抗体が陰性)

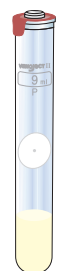
(表2) HCV-RNA定量(リアルタイムPCR法)の判定

	測定結果	判 定
定量値	1.2 ~ 8.1 以上	陽 性
増幅反応シグナル	(+)	
定量値	1.2 未満	陽 性*
増幅反応シグナル	(+)	
定量値	1.2 未満	陰 性
増幅反応シグナル	(-)	

\* 測定結果が1.2未満であっても、増幅反応シグナルが(+)の場合はウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。

**A1-1**


血清分離  
冷蔵保存



**カ**

直接採血後4~5回静かに転倒混和し常温にて30分~60分放置して下さい。凝固完了を確認後遠心器にて10~15分遠心し血餅を分離部の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存して下さい。

分離部入り10mL管  
※採血量は、8.0mLです。



# 免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

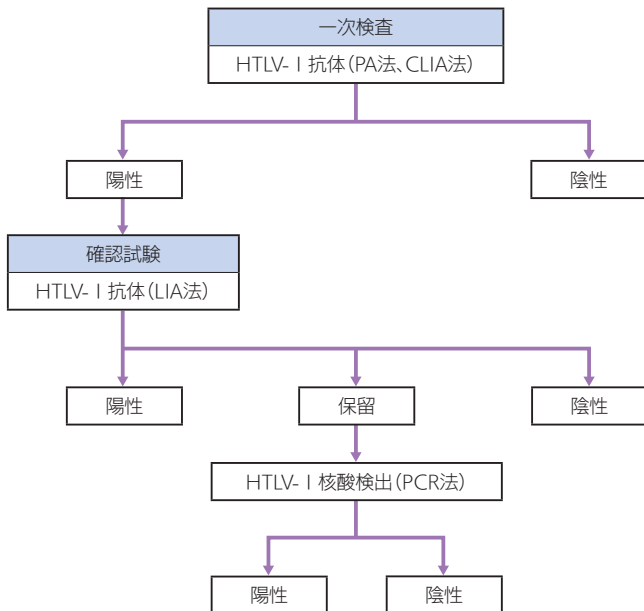
## レトロウイルス検査

3712 5F450	HTLV- I 抗体半定量 (4951)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	PA法	16倍未満 図1参照	2 3	85 免疫	
3713 5F450	HTLV- I 抗体(第3世代) (ATLA) (4265) 5F450-1430-023-051	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLIA法	(-) 図1参照	2 4	163 免疫	* A
7503 5F450	HTLV- I (ATLV) 抗体 [ラインプロット法・LIA法] (3663) 5F450-1430-023-833	血清 0.2	A1-1 冷蔵 注1	ラインプロット法 (LIA法)	(-) 図1・表1参照	4 6	425 免疫	* 1 * 4

注1 他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

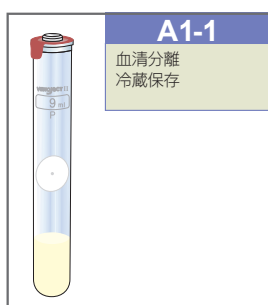
※1 HTLV- I 抗体定性又は半定量、又はHTLV- I 抗体によって陽性が確認された症例について、確定診断の目的で行われた場合にのみ算定する。

(図1) HTLV- I 抗体検査フローチャート



(表1) HTLV- I 抗体ラインプロット法の判定基準

ラインが認められない		陰性
ラインが1本認められる(≧±)	gag p19かgag p24かenv gp46のいずれかが認められる	保留
	env gp21が認められる	
ラインが2本認められる(≧±)	env gp21が認められない	陽性
	env gp21が認められる	
ラインが3本認められる(≧±)		



### 実施料について (肝炎)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

- 3項目  
肝炎 290点
- 4項目  
肝炎 360点
- 5項目以上の場合  
肝炎 438点

# 免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

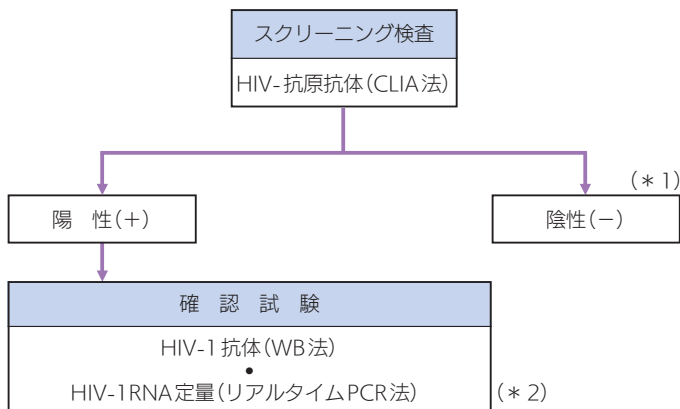
## レトロウイルス検査

2456 5F560	HIV 抗原・抗体 (4057) 5F560-1550-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	(-) 下表参照	1 2	112 免疫	HIVスクリーニング検査 診療報酬請求の項目名称は 「HIV-1、2抗原・抗体同時 測定定量」としての算定とな ります。
— 5F560	HIV-1/2特異抗体 (4562) 5F560-1430-023-190	血清 0.5	A1-1 冷蔵	イムノクロマト法	陰性	4 6	660 免疫	他項目との重複依頼は避けて 下さい。 確認方法(イムノクロマト法)を ご依頼の際には、改めて採血し、 ご提出下さい。 * 4
005J 5F500	HIV-1RNA 定量 〔リアルタイムPCR法〕 (4737) 5F500-1453-022-875	血漿 2.1	ホ 冷蔵 注1	リアルタイムPCR法	定量結果: $2.0 \times 10^1$ 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル: 検出せず コピー/mL	4 5	520 微生物	HIVスクリーニング検査 の確認試験 ※1 * 1

注1 HIV関連検査は、他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

※1 HIV感染者の経過観察に用いた場合又はHIV-1抗体価又はHIV-1、2抗体価が陽性の場合の確認診断に用いた場合のみ算定する。本検査とHIV-1抗体(ウエスタンブロット法)を併せて実施した場合は、それぞれを加算することができる。

## ■ HIV検査フローチャート・判定



HIV-1抗体 (WB法)	HIV-1RNA定量(リアルタイムPCR法)		判定
	測定結果	増幅反応シグナル	
陽性(+)	定量値	(+)	陽性
	定量下限値以下	(+)	
判定保留	定量値	(+)	陽性
	定量下限値以下	(+)	陽性(*3)
陰性(-)	定量値	(+)	陽性
	定量下限値以下	(+)	陽性(*3)
陰性(-)	定量値	(-)	陰性
	定量下限値以下	(-)	陰性(*4)

- \* 1 感染が強く疑われる場合、又は、急性感染を疑う症状がある場合は、数週間後に採血し、再検査を実施することをお勧めします。
- \* 2 HIV-1抗体(WB法)では感染初期において陰性となることがある為、HIV-1RNA定量(リアルタイムPCR法)との同時依頼をお勧めします。
- \* 3 初期感染の可能性があるため、数週間後にHIV-1RNA定量検査の再検査を実施するか、一定期間においてWB法を実施することをお勧めします。
- \* 4 感染が強く疑われる場合、又は、急性感染を疑う症状がある場合は、数週間後に採血し、HIV-2抗体(WB法)の確認検査も併せ、再検査を実施することをお勧めします。

### 《留意事項》

- ① スクリーニング検査は、非特異反応によって偽陽性を呈することがあります。スクリーニング検査が陽性の場合、必ず確認検査を実施して下さい。
- ② スクリーニング検査が陽性でWB法(HIV-1抗体)が陰性又は判定保留の場合、感染初期あるいはHIV-2感染の可能性もあります。
- ③ HIV-2抗体はHIV-1抗体との交差反応により、偽陽性を呈する場合があります。HIV-2抗体陽性あるいは判定保留時には、結果の解釈にご留意下さい。
- ④ HIV-1RNA定量は、血中ウイルスが微量の場合、検出感度以下(定量下限値以下)かつ増幅反応シグナルが検出されない場合があります。

HIV-1RNA定量(リアルタイムPCR法)の測定範囲  
 $2.0 \times 10^1 \sim 1.0 \times 10^7$  コピー/mL

※ 測定結果が定量下限値以下であっても、増幅反応シグナルが検出の場合は、ウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。

確認追加項目  
HIV-2抗体(WB法)

**ホ**

指定の採血量(8mL)を採取後、4~5回静かに転倒混和して下さい。

遠心機にて遠心(1,200G ± 400G、20分)したのち冷蔵保存して下さい。  
(凍結厳禁)



分離剤入り

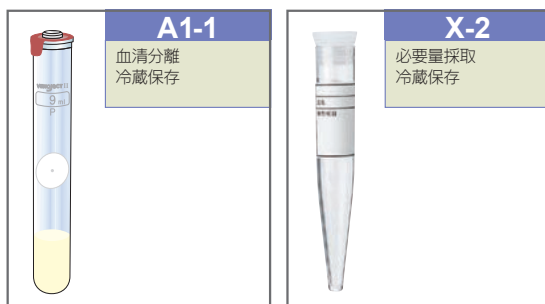
# 免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## ウイルス抗体検査 (CF)

3657 5F190	単純ヘルペス (HSV) (7035) 5F190-1430-023-141	血清各0.3 又は 髄液各0.5	A1-1 又は X-2  冷蔵	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	4 6	79 免疫	髄液の項目コードは (4762)です。 * E
3656 5F193	水痘・帯状ヘルペス (VZV) (7036) 5F193-1430-023-141							髄液の項目コードは (4763)です。 * E
3648 5F194	サイトメガロ (CMV) (7037) 5F194-1430-023-141							髄液の項目コードは (4766)です。 * E
3660 5F432	ムンプス (7040) 5F432-1430-023-141							髄液の項目コードは (4760)です。 * E
3649 5F150	アデノ (7041) 5F150-1430-023-141 5F150-1430-041-141	血清各0.3 又は 髄液各0.5	A1-1 又は X-2  冷蔵	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	4 6	79 免疫	髄液の項目コードは (4761)です。 * E
3658 5F400	インフルエンザ A型 (7058) 5F400-1430-023-141 5F400-1430-041-141							髄液の項目コードは (4758)です。 * E
3659 5F410	B型 (7059) 5F410-1430-023-141 5F410-1430-041-141							髄液の項目コードは (4759)です。 * E
4621 5F430	RS (7042) 5F430-1430-023-141 5F430-1430-041-141							髄液の項目コードは (4623)です。 * E
4613 5F385	日本脳炎 (7043) 5F385-1430-023-141 5F385-1430-041-141	血清各0.3 又は 髄液各0.5	A1-1 又は X-2  冷蔵	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	4 6	79 免疫	髄液の項目コードは (4617)です。 * E
3691 5F289	コクサッキー A群 9型 (7045) 5F289-1430-023-141 5F289-1430-041-141							髄液の項目コードは (4642)です。 * E
4627 5F301	1型 (7046) 5F301-1430-023-141 5F301-1430-041-141							髄液の項目コードは (4643)です。 * E
4628 5F302	2型 (7047) 5F302-1430-023-141 5F302-1430-041-141							髄液の項目コードは (4644)です。 * E
4629 5F303	3型 (7048) 5F303-1430-023-141 5F303-1430-041-141							髄液の項目コードは (4645)です。 * E
4630 5F304	4型 (7049) 5F304-1430-023-141 5F304-1430-041-141							髄液の項目コードは (4646)です。 * E
4631 5F305	5型 (7050) 5F305-1430-023-141 5F305-1430-041-141							髄液の項目コードは (4647)です。 * E
4632 5F306	6型 (7051) 5F306-1430-023-141 5F306-1430-041-141							髄液の項目コードは (4648)です。 * E

ウイルス



# 免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
<b>ウイルス抗体検査 (HI)</b>								
3661 5F432	ムンプス (7072) 5F432-1430-023-111	血清0.2 又は 髄液0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵	HI法	血清8倍未満 髄液8倍未満	3 ~ 6	79 免疫	髄液の項目コードは (4471)です。 血清は*ア リコールは* A
3664 5F395	風疹 (7038) 5F395-1430-023-111	血清0.2	A1-1 冷蔵		8倍未満	4 ~ 7	79 免疫	
4817 5F400	インフル エンザ	A型 (7224) (H <sub>1</sub> N <sub>1</sub> ) (H <sub>3</sub> N <sub>2</sub> ) 5F400-1430-023-111 5F400-1430-041-111	血清0.2 又は 髄液0.4		血清10倍未満 髄液1倍未満	4 ~ 6	79 免疫	髄液の項目コードは (4444)です。 * E
0033 5F410		B型 (7227) (山形系統) (ピクトリア系統) 5F410-1430-023-111 5F410-1430-041-111						髄液の項目コードは (0036)です。 * E
3693 5F421	パラインフル エンザ	1型 (7061) 5F421-1430-023-111	血清0.2 又は 髄液0.4 A1-1 又は X-2 冷蔵		血清10倍未満 髄液1倍未満	4 ~ 6	79 免疫	髄液の項目コードは (4712)です。 * E
4709 5F422		2型 (7062) 5F422-1430-023-111						髄液の項目コードは (4713)です。 * E
4710 5F423		3型 (7063) 5F423-1430-023-111						髄液の項目コードは (4714)です。 * E
3692 5F313	エコー	3型 (7216) 5F313-1430-023-111 5F313-1430-041-111	血清0.3 又は 髄液0.4		血清8倍未満 髄液1倍未満	4 ~ 6	79 免疫	髄液の項目コードは (4684)です。 * 5
4661 5F317		7型 (7217) 5F317-1430-023-111 5F317-1430-041-111						髄液の項目コードは (4685)です。 * 5
4662 5F321		11型 (7218) 5F321-1430-023-111 5F321-1430-041-111						髄液の項目コードは (4686)です。 * 5
4663 5F322		12型 (7219) 5F322-1430-023-111 5F322-1430-041-111						髄液の項目コードは (4687)です。 * 5
3571 5F385	日本脳炎 (JaGAR株) (7222) 5F385-1430-023-111 5F385-1430-041-111	血清0.5 又は 髄液1.0	A1-1 又は X-2 冷蔵		血清10倍未満 髄液1倍未満	5 ~ 11	79 免疫	髄液の項目コードは (3838)です。 * E

- (注) (1) ウイルス感染症の診断は原則として急性期(発病初期)と回復期(2~3週間後)の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。  
 (2) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。  
 又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。



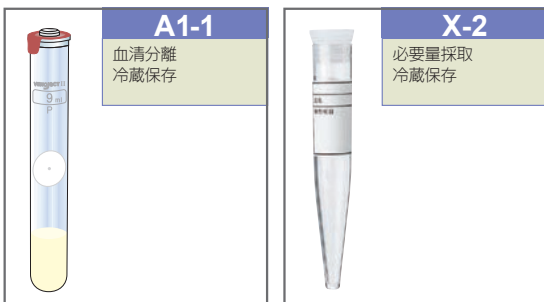
# 免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## ウイルス中和抗体検査 (NT)

001J 5F191	単純ヘルペス (HSV)	1型 (7110) 5F191-1430-023-151 5F191-1430-041-151	血清各0.3 又は 髄液各0.4	A1-1 又は X-2 <b>冷蔵</b>	NT法	8 12	79 免疫	髄液の項目コードは (001K)です。 * E	
005M 5F192		2型 (7111) 5F192-1430-023-151 5F192-1430-041-151						髄液の項目コードは (005W)です。 * E	
4718 5F432	ムンプス (7147) 5F432-1430-023-151 5F432-1430-041-151	血清0.2 又は 髄液0.2	8 14			79 免疫	髄液の項目コードは (4719)です。 * E		
4689 5F151	アデノ	1型 (7196) 5F151-1430-023-151 5F151-1430-041-151	血清各0.2 又は 髄液各0.5			10 15	79 免疫	髄液の項目コードは (4699)です。 * E	
4690 5F152		2型 (7197) 5F152-1430-023-151 5F152-1430-041-151						髄液の項目コードは (4700)です。 * E	
4691 5F153		3型 (7198) 5F153-1430-023-151 5F153-1430-041-151						髄液の項目コードは (4701)です。 * E	
4692 5F154		4型 (7199) 5F154-1430-023-151 5F154-1430-041-151						髄液の項目コードは (4702)です。 * E	
4693 5F155		5型 (7200) 5F155-1430-023-151 5F155-1430-041-151						髄液の項目コードは (4703)です。 * E	
4694 5F156		6型 (7201) 5F156-1430-023-151 5F156-1430-041-151						髄液の項目コードは (4704)です。 * E	
4695 5F157		7型 (7202) 5F157-1430-023-151 5F157-1430-041-151						髄液の項目コードは (4705)です。 * E	
4696 5F158		8型 (7203) 5F158-1430-023-151 5F158-1430-041-151						血清0.3 又は 髄液0.4	髄液の項目コードは (4706)です。 * E
4783 5F161		11型 (7204) 5F161-1430-023-151 5F161-1430-041-151						血清各0.2 又は 髄液各0.5	髄液の項目コードは (4784)です。 * E
4697 5F169		19型 (7205) 5F169-1430-023-151 5F169-1430-041-151						髄液の項目コードは (4707)です。 * E	
4441 5F171		21型 (7441) 5F171-1430-023-151 5F171-1430-041-151						血清0.2 又は 髄液0.4	10 16
4238 5F177	37型 (7731) 5F177-1430-023-151 5F177-1430-041-151	血清0.2 又は 髄液0.4	髄液の項目コードは (4443)です。 * E						
4622 5F430	RS (7215) 5F430-1430-023-151 5F430-1430-041-151	血清各0.2 又は 髄液各0.2	8 14	79 免疫	髄液の項目コードは (4624)です。 * E				
4716 5F431	麻疹 (7214) 5F431-1430-023-151 5F431-1430-041-151	血清各0.2 又は 髄液各0.2	髄液の項目コードは (4717)です。 * E						

- (注) (1) ウイルス感染症の診断は原則として急性期(発病初期)と回復期(2~3週間後)の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。  
 (2) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。



# 免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考						
<b>ウイルス中和抗体検査 (NT)</b>														
4799 5F282	コクサッキー A群	2型 (7402) 5F282-1430-023-151 5F282-1430-041-151	血清各0.2 又は 髄液各0.2	NT法	血清4倍未満 髄液1倍未満	9 ~ 15	79 免疫	髄液の項目コードは (4463)です。 * E						
4800 5F283		3型 (7403) 5F283-1430-023-151 5F283-1430-041-151						髄液の項目コードは (4464)です。 * E						
4796 5F284		4型 (7209) 5F284-1430-023-151 5F284-1430-041-151						髄液の項目コードは (4465)です。 * E						
4440 5F285		5型 (7404) 5F285-1430-023-151 5F285-1430-041-151						髄液の項目コードは (4466)です。 * E						
4797 5F286		6型 (7210) 5F286-1430-023-151 5F286-1430-041-151						血清各0.2 又は 髄液各0.4	血清4倍未満 髄液1倍未満	8 ~ 14	髄液の項目コードは (4467)です。 * 4			
4633 5F287		7型 (7211) 5F287-1430-023-151 5F287-1430-041-151						血清各0.2 又は 髄液各0.2	A1-1 又は X-2  冷蔵	NT法	血清4倍未満 髄液1倍未満	9 ~ 15	79 免疫	髄液の項目コードは (4649)です。 * E
4634 5F289		9型 (7212) 5F289-1430-023-151 5F289-1430-041-151												髄液の項目コードは (4650)です。 * E
4801 5F290		10型 (7213) 5F290-1430-023-151 5F290-1430-041-151												髄液の項目コードは (4468)です。 * E
4635 5F296		16型 (7120) 5F296-1430-023-151 5F296-1430-041-151												髄液の項目コードは (4651)です。 * E
4636 5F301		1型 (7121) 5F301-1430-023-151 5F301-1430-041-151												血清各0.2 又は 髄液各0.2
4637 5F302	2型 (7122) 5F302-1430-023-151 5F302-1430-041-151	髄液の項目コードは (4653)です。 * E												
4638 5F303	3型 (7123) 5F303-1430-023-151 5F303-1430-041-151	髄液の項目コードは (4654)です。 * E												
4639 5F304	4型 (7124) 5F304-1430-023-151 5F304-1430-041-151	髄液の項目コードは (4655)です。 * E												
4640 5F305	5型 (7125) 5F305-1430-023-151 5F305-1430-041-151	髄液の項目コードは (4656)です。 * E												
4641 5F306	6型 (7126) 5F306-1430-023-151 5F306-1430-041-151	髄液の項目コードは (4657)です。 * E												
4664 5F311	1型 (7176) 5F311-1430-023-151 5F311-1430-041-151	血清各0.2 又は 髄液各0.2	A1-1 又は X-2  冷蔵	NT法	血清4倍未満 髄液1倍未満	9 ~ 15	79 免疫	髄液の項目コードは (4674)です。 * E						
4665 5F313	3型 (7177) 5F313-1430-023-151 5F313-1430-041-151							髄液の項目コードは (4675)です。 * E						
4666 5F314	4型 (7178) 5F314-1430-023-151 5F314-1430-041-151							髄液の項目コードは (4676)です。 * E						
3886 5F315	5型 (7179) 5F315-1430-023-151 5F315-1430-041-151							髄液の項目コードは (4450)です。 * E						

(注) (1) ウイルス感染症の診断は原則として急性期(発病初期)と回復期(2~3週間後)の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。  
 (2) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

# 免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
<b>ウイルス中和抗体検査 (NT)</b>								
4667 5F316	エコー	6型 (7180) 5F316-1430-023-151 5F316-1430-041-151	血清各0.2 又は 髄液各0.2	A1-1 又は X-2  冷蔵	NT法	9 15	79 免疫	髄液の項目コードは (4677)です。 * E
4668 5F317		7型 (7181) 5F317-1430-023-151 5F317-1430-041-151						髄液の項目コードは (4678)です。 * E
4669 5F319		9型 (7182) 5F319-1430-023-151 5F319-1430-041-151						髄液の項目コードは (4679)です。 * E
3887 5F321		11型 (7183) 5F321-1430-023-151 5F321-1430-041-151						* E
3888 5F322		12型 (7184) 5F322-1430-023-151 5F322-1430-041-151						髄液の項目コードは (4451)です。 * E
4670 5F323		13型 (7185) 5F323-1430-023-151 5F323-1430-041-151						髄液の項目コードは (4680)です。 * E
4452 5F324		14型 (7186) 5F324-1430-023-151 5F324-1430-041-151						髄液の項目コードは (4453)です。 * E
3889 5F326		16型 (7187) 5F326-1430-023-151 5F326-1430-041-151						髄液の項目コードは (4454)です。 * E
4671 5F327		17型 (7188) 5F327-1430-023-151 5F327-1430-041-151						髄液の項目コードは (4681)です。 * E
3878 5F328		18型 (7189) 5F328-1430-023-151 5F328-1430-041-151						髄液の項目コードは (4455)です。 * E
3880 5F329		19型 (7190) 5F329-1430-023-151 5F329-1430-041-151						髄液の項目コードは (4456)です。 * E
4457 5F331		21型 (7191) 5F331-1430-023-151 5F331-1430-041-151						髄液の項目コードは (4458)です。 * E
4459 5F332		22型 (7192) 5F332-1430-023-151 5F332-1430-041-151						髄液の項目コードは (4460)です。 * E
4461 5F334		24型 (7193) 5F334-1430-023-151 5F334-1430-041-151						髄液の項目コードは (4462)です。 * E
4672 5F335		25型 (7194) 5F335-1430-023-151 5F335-1430-041-151						髄液の項目コードは (4682)です。 * E
4673 5F340		30型 (7195) 5F340-1430-023-151 5F340-1430-041-151						髄液の項目コードは (4683)です。 * E
4469 5F270	エンテロ	70型 (7136) 5F270-1430-023-151 5F270-1430-041-151	血清各0.2 又は 髄液各0.2		血清4倍未満 髄液1倍未満	9 15		髄液の項目コードは (4470)です。 * E
4732 5F271		71型 (7137) 5F271-1430-023-151 5F271-1430-041-151						髄液の項目コードは (4733)です。 * E

ウイルス

(注) (1) ウイルス感染症の診断は原則として急性期(発病初期)と回復期(2~3週間後)の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。

(2) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

# 免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

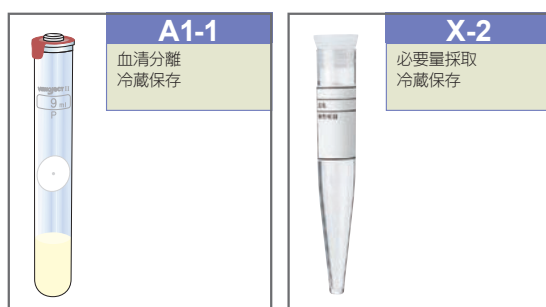
## ウイルス抗体検査 (FA)

5416 5F202	抗VCA IgG抗体 (7065) 5F202-1431-023-162	血清各0.3 又は 髄液各0.4	A1-1 冷蔵	FA法	血清10倍未満 髄液1倍未満	4 5	206 免疫	髄液の項目コードは (5422)です。 *1
5417 5F202	抗VCA IgM抗体 (7067) 5F202-1432-023-162							髄液の項目コードは (5423)です。 *1
5412 5F203	抗EA-DR IgG抗体 (7068) 5F203-1431-023-162							髄液の項目コードは (5418)です。 *1
5413 5F204	抗EBNA抗体 (7070) 5F204-1430-023-162							髄液の項目コードは (5419)です。 *1
5415 5F202	抗VCA IgA抗体 (7066) 5F202-1433-023-162							髄液の項目コードは (5421)です。 *1
3654 5F203	抗EA-DR IgA抗体 (7069) 5F203-1433-023-162 5F203-1433-041-162							血清各0.2 又は 髄液各0.4
4771 5F203	抗EA-DR IgM抗体 (7074) 5F203-1432-023-162 5F203-1432-041-162	*E						

## ウイルス抗体検査 (EIA)

4483 5F203	抗EA IgG抗体 (7895) 5F203-1431-023-023	血清各0.5	A1-1 冷蔵	EIA法	抗体指数 0.5未満 0.5~0.9 1.0以上	判定 (-) (±) (+)	4 6	206 免疫	*E
4484 5F204	抗EBNA IgG抗体 (7896) 5F204-1431-023-023								*E
4559 5F202	抗VCA IgG抗体 (7897) 5F202-1431-023-023								*E
4485 5F202	抗VCA IgM抗体 (7898) 5F202-1432-023-023								*E
8671 5F011	ヒトパルボ B19 IgG抗体 (7167) 5F011-1431-023-023	血清0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	表1参照	3 6	206 免疫	*ア	
8695 5F011	IgM抗体 (7250) 5F011-1432-023-023	血清0.2	A1-1 冷蔵	EIA法				*ア	

(注) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定を行った場合は、2項目を限度とする。ウイルス抗体価と併せて実施した場合は、いずれか一方の点数を算定する。



(表1)ヒトパルボB19 IgG・IgM 抗体判定基準

判定	指数
(-)	0.80未満
(+-)	0.80~0.99
(+)	1.00以上

### 【ヒトパルボB19 IgG・IgM抗体判定上の留意事項】

- IgM型抗体検出とIgG型抗体検出を併用することにより、ヒトパルボB19感染においてどの時期にあるのか(未感染であるのか、最近の感染であるのか、過去における感染であるのか)を判定することができます。一般的にIgM型抗体とIgG型抗体共に陰性の場合はヒトパルボB19未感染でありIgM型抗体が陽性の場合は、IgG型抗体の判定結果を問わず、ヒトパルボB19の最近の感染であると考えられます。IgM型抗体が陰性で、IgG型抗体が陽性の場合は、過去における感染の可能性が高いと考えられます。
- 判定保留となった場合、1~2週間後に再度採血するか、又はPCR法などの他の方法及び臨床症状などから総合的に判定を行って下さい。

# 免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## ウイルス抗体検査 (EIA)

2083 5F395	風疹	IgG 抗体 (7022) (7654) 5F395-1431-023-052 5F395-1431-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	抗体価 (IU/mL) 10 未満 10~15 15 以上	判定 (-) (±) (+)	2 ~ 5	206 免疫	*ア
7960 5F395		IgM 抗体 (7238) 5F395-1432-023-023	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	表 2 参照		3 ~ 5		
8686 5F395		IgG 抗体 (7100) 5F395-1431-023-052	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	20 未満	IU/mL	2 ~ 7		
0862 5F431	麻疹	IgG 抗体 (7657) 5F431-1431-023-023	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	表 2 参照		3 ~ 5	206 免疫	*ア
7583 5F431		IgM 抗体 (7142) 5F431-1432-023-023	血清各 0.2 又は 髄液 0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵	EIA 法	表 3 参照		3 ~ 5		
8637 5F190	単純ヘルペス (HSV)	IgG 抗体 (7139) 5F190-1431-023-023 5F190-1431-041-023	血清各 0.2 又は 髄液 0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵	EIA 法	表 3 参照		3 ~ 6	206 免疫	*ア
8689 5F190		IgM 抗体 (7241) 5F190-1432-023-023								
8657 5F193	水痘・ 帯状ヘルペス (VZV)	IgG 抗体 (7140) 5F193-1431-023-023	血清各 0.2	A1-1 冷蔵					206 免疫	*ア
8692 5F193		IgM 抗体 (7244) 5F193-1432-023-023								
8634 5F194	サイトメガロ (CMV)	IgG 抗体 (7902) 5F194-1431-023-051	血清各 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	表 4 参照		2 ~ 4	206 免疫	*ア
8680 5F194		IgM 抗体 (7999) 5F194-1432-023-051								
8631 5F432	ムンプス	IgG 抗体 (7116) 5F432-1431-023-023	血清各 0.2 又は 髄液各 0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵	EIA 法	表 3 参照		3 ~ 6	206 免疫	*ア
8628 5F432		IgM 抗体 (7115) 5F432-1432-023-023								

(注) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定を行った場合は、2項目を限度とする。ウイルス抗体価と併せて実施した場合は、いずれか一方の点数を算定する。

(表2) 風疹・麻疹 IgG 抗体 判定基準

判定	抗体価
(-)	2.0 未満
(+-)	2.0~4.0 未満
(+)	4.0 以上

(表3) ウイルス抗体検査 判定基準

血清	判定	EIA 値	髄液	判定	EIA 値
IgG	(-)	2.0 未満	IgG	(-)	0.20 未満
	(+-)	2.0~3.9		(+-)	0.20~0.39
	(+)	4.0 以上		(+)	0.40 以上
	(+)	1.21 以上			
IgM	(-)	0.80 未満	IgM	(-)	0.85 未満
	(+-)	0.80~1.20		(+-)	0.85~0.99
	(+)	1.21 以上		(+)	1.00 以上
	(+)	1.21 以上			

(表4) サイトメガロウイルス IgG・IgM 抗体 判定基準

血清	判定	AU/mL	判定	S/CO
IgG	(-)	6.0 未満	(-)	0.85 未満
	(+)	6.0 以上	(+)	1.00 以上

# 免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## ウイルス分離・同定

4599 6B655	ウイルス分離 (7031) 6B655-0000-099-920	下記参照	ト 下記参照	細胞変性効果、血球吸着現象、赤血球凝集反応		5 22		分離、同定検査は以下の細胞を使用しています。 PHfb (ヒト繊維芽細胞)、HEp-2 (ヒト喉頭癌細胞)、Vero (モドリザル腎細胞)、MA104 (アカゲザル腎細胞)、RD-18S (ヒト横紋筋腫細胞)、MDCK (イヌ腎細胞)、B95a (マーモセットB細胞)、AGMK (アフリカモドリザル腎細胞)、A549 (ヒト肺癌細胞)、Caco-2 (ヒト結腸腺癌細胞) * 4
4600 6B705	ウイルス同定 (7032) 6B705-0000-099-920	下記参照	ト 下記参照	標準抗血清による中和反応・免疫蛍光抗体法・赤血球凝集抑制反応		14 30		

※1 水痘ワクチン接種後の効果判定に有用です。効果判定に用いる場合は接種前及び接種後4～6週間後のペア血清でご提出下さい。

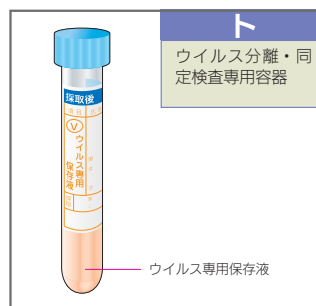
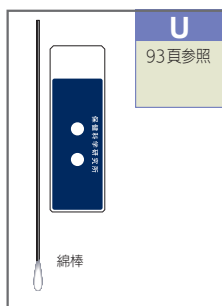
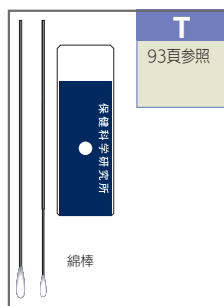
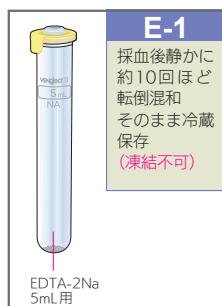
### 〈検査材料〉

ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と、同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。ウイルス分離材料の選択は、分離率向上のため、できる限り複数の材料をご提出下さい。

臨床症状	分離可能ウイルス	主要検査材料
上気道感染症	ライノ、パラインフルエンザ アデノ、コクサッキー、エコー	咽頭ぬぐい液、鼻分泌液
下気道感染症	インフルエンザ、パラインフルエンザ、アデノ、RS、サイトメガロ	咽頭ぬぐい液、喀痰、気管支洗浄液
紅斑性発疹症	麻疹、風疹 エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液
水疱性発疹症	単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス コクサッキー、エンテロ71	水疱内容
中枢神経系疾患	エコー、コクサッキー、ポリオ 水痘・帯状ヘルペス、ムンプス	咽頭ぬぐい液、髄液、糞便
先天性異常	サイトメガロ、風疹 単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	咽頭ぬぐい液、尿、髄液
嘔吐下痢症	エコー、コクサッキー、アデノ	咽頭ぬぐい液、糞便
出血性膀胱炎	アデノ	尿
耳下腺炎	ムンプス	咽頭ぬぐい液
眼疾患	アデノ、単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	結膜ぬぐい液

### 〈検体採取及び保存方法〉

検査材料	培養細胞試験管に採取する場合	患部ぬぐい液等	糞便	尿・液状検体等
患部ぬぐい液・水疱内容 糞便など	滅菌綿棒でぬぐい、右図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存して下さい。	管壁をよく擦ります 綿棒は抜き取ってください きちんとキャップを締めて冷蔵保存し提出してください	便 数回突き刺します 表面を転がします	液状検体(尿等)は、ウイルス専用保存液と等量混合して下さい。 検体量が保存液より少ない場合、保存液は捨てず、そのまま提出可能な量の検体を入れてください。 きちんとキャップを締めて冷蔵保存し提出してください
尿・髄液・胸水・鼻汁など	右図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存して下さい。	ウイルス専用保存液		
組 織	組織小片(5mm角程度)をウイルス専用保存液に入れ冷蔵保存して下さい。			



# 免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 抗原検査

4586 5F194	<b>曜日指定</b> <b>サイトメガロウイルス</b> pp65 抗原定性 (C10, C11) CMV (C10, C11) (7714) 5F194-1421-019-173	全血 5.0	<b>E-1</b> 冷蔵 注1	間接酵素抗体法	(-) 注2	3 5	366 免疫	凍結不可 受託可能日は月～金曜日です。 ※1 *ア
4745 5F190	<b>単純ヘルペスウイルス(HSV)抗原</b> (7033) 5F190-1420-094-161	患部細胞	<b>U</b> 凍結	FA法	(-)	2 4	180 免疫	1型2型同定 ヘルペスウイルスの型別確認 を行った場合算定できる。 *ア
7535 5F193	<b>水痘・帯状ヘルペス(VZV)抗原</b> (7019) 5F193-1410-094-161	患部細胞	<b>T</b> 凍結	FA法	(-)	2 4	227 免疫	93 頁参照 *ア
2995 5F630	<b>ノロウイルス抗原定性</b> (7790) 5F630-1410-015-190	糞便 0.5g	<b>イ</b> 凍結	イムノクロマト法	(-)	2 3	150 免疫	※2 *ア
2593 5F630	<b>ノロウイルス抗原(BLEIA)</b> (7844) 5F630-1410-015-054	糞便	<b>ニ</b> 冷蔵	BLEIA法	(-)			所要日数は時期によって 異なります。 4～9月：3～8日 10～3月：3～6日 *ア

注1 (サイトメガロウイルス抗原 (C10, C11) 検体採取提出上の注意事項)

採血後すみやかに提出して下さい。採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。休日の前日は受付できません。

注2 (サイトメガロウイルス抗原 (C10, C11) 検査結果の判定基準)

末梢白血球 $1.5 \times 10^9$ 個について陽性細胞数の計数測定を二重測定 ( $3.0 \times 10^9$ 個) で行い、1枚以上のスライドに1個以上の陽性細胞を認めるとき、判定は陽性 (+)、まったく認めないとき判定は陰性 (-) となります。

所定量の白血球が回収できない場合を判定保留とします。

※1 臓器移植後もしくは造血幹細胞移植後の患者又はHIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合のみ算定できる。但し、高度細胞性免疫不全の患者については、当該検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※2 ノロウイルス抗原定性は、以下のいずれかに該当する患者について、当該ウイルス感染症が疑われる場合に算定する。

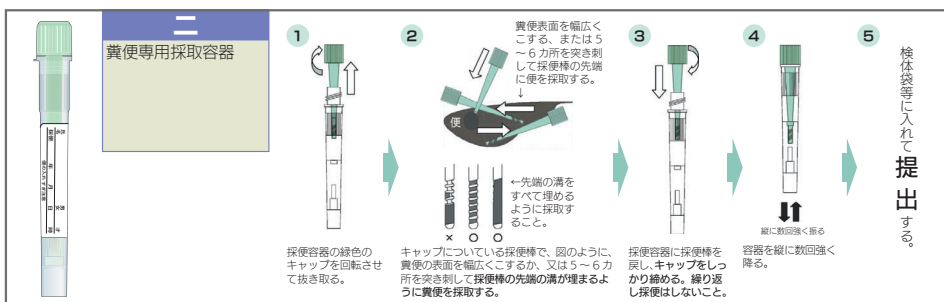
ア 3歳未満の患者

イ 65歳以上の患者

ウ 悪性腫瘍の診断が確定している患者

エ 臓器移植後の患者

オ 抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、又は免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者



# 免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 抗原検査

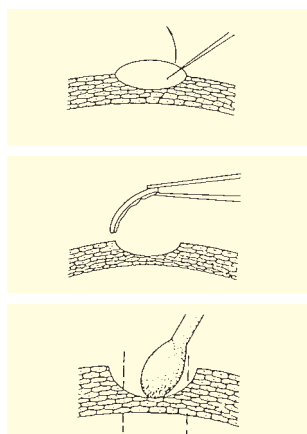
5F101	HPV-DNA検出(高リスク) (7405) 5F101-1405-085-842	子宮頸部 擦過細胞	キ又はW 冷蔵	ハイブリッドキャブ チャー法	index 1.00未満 (-)	3 6	350 微生物	容器キ→ (8340) → *ア 容器W→ (9477) → *1 ※1、※2、※3
0947 5F101	HPV-DNA簡易ジェノタイプ (16型、18型その他ハイリスクグループ) (7611) 5F101-1405-085-862	子宮頸部 擦過細胞	W又はW4 冷蔵 注1	リアルタイムPCR法	16型 (-) 18型 (-) その他 ハイリスクグループ(-)	3 6	350 微生物	※1、※2、※3 血液が混入していると、データに影響を及ぼす場合がありますので、ご注意ください。 *ア
5F101	HPV-DNAジェノタイプ (ハイリスク13種) (7581) 5F101-1405-085-898	子宮頸部 擦過細胞	W4 冷蔵 注2	PCR-rSSO法	(-)	4 12	2000 微生物	※3、※4、※5 *イ
5F100	HPV-DNA型別 (7541) 5F100-1405-085-898	子宮頸部 擦過細胞	W4 冷蔵 注2	PCR-rSSO法	(-)	4 12		*イ

- ※1 予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US (意義不明異型扁平上皮) と判定された患者に対して行った場合に限り算定できる。細胞診と同時に実施した場合は算定できない。
- ※2 HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)とHPV核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
- ※3 HPV核酸検出の施設基準を届け出ている保健医療機関のみ算定できる。
- ※4 予め行われた組織診断の結果、CIN1又はCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。
- ※5 予め行われた組織診断の結果及び組織診断の実施日、及び当該検査によって選択した治療法を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。又、同一の患者について、当該検査を2回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日、及び前回選択した治療(その後通常の検診となった場合はその旨)を上記に併せて記載する。
- 注1 必ず専用容器で採取してご提出下さい。他項目との重複依頼は避けて下さい。
- 注2 コンタミネーションの影響がより大きい為、検体採取にあたっては取り扱いにご注意下さい。又、他項目との重複依頼は避けて下さい。

(表1) HPV-DNA検出対象HPV型一覧

項目コード	検査項目	検出対象HPV型	備考
8340	HPV-DNA検出(高リスク)	16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型の高リスク型HPVを検出します。	型別判定はできません。
0947	HPV-DNA簡易ジェノタイプ (16型、18型、その他ハイリスク)	16、18及び、その他高リスク型(31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、66、68)のHPVを検出します。	16、18型については型別判定を行います。その他高リスクは型別判定ではありません。
	HPV-DNAジェノタイプ (ハイリスク13種)	16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型のHPVを検出します。	型別判定を実施し、検出された型のみをご報告します。
	HPV-DNA型別	6、11、16、18、26、31、33、35、39、42、44、45、51、52、53、54、55、56、58、59、61、62、66、68、70、71、73、82、84、90およびCP6108型のHPVを検出致します。	型別判定を実施し、検出された型のみをご報告します。

## 単純ヘルペスウイルス抗原・水痘帯状ヘルペス抗原 検体採取保存方法



なるべく早期の水疱病巣から検体を採取して下さい。水疱内溶液は検体として不適当です。

- 水泡がある場合は、滅菌針を用いて上部の皮膚をはがし、水疱内溶液を除去して病巣基底部を露出させます。
- ポリエステル綿棒を精製水で軽く湿らせます。病巣基底部全面を強くぬぐいます。
  - ウイルス感染細胞は病巣基底部の細胞を採取する必要があります。
  - 患者が痛いという位強くぬぐうことが大切です。
  - 膿が出ている場合は、清潔な綿棒でまず膿をぬぐい去った後、別の綿棒で細胞を擦過して下さい。
- 採取した検体(擦過細胞)を、無蛍光スライドグラスT又はUのウェル内に円を描くように、綿棒を回転させながら塗抹します。この時、こすったりせず軽く叩くように塗抹して下さい。

- 綿棒を捨てる前に検体がウェル内に均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていればウェルが不透明に見えます。透明に見える部分があればそこに綿棒をあてて再び塗抹します。
- そのままよく風乾します。完全に乾燥させないと後の処理の途中で、検体がはがれ落ちる原因となります。
- アセトンで固定します。無蛍光スライドグラスの検体を塗抹した面を上にし水平に置き、検体の上に約0.5mLのアセトンを滴下し、アセトンを蒸発させます。
- 提出容器に納め、凍結保存して下さい。





# 免疫学的検査（ウイルス）

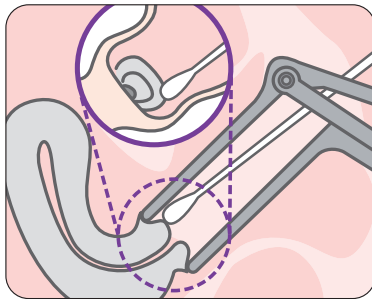
## HPV 検体採取方法

キ

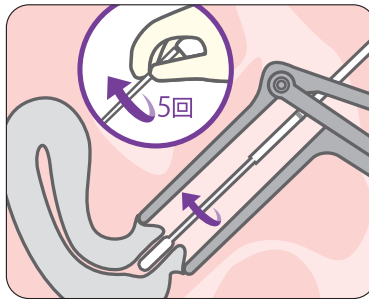


**採取方法** 妊娠中の女性へは、ブラシタイプのご使用は避けて綿棒タイプをご使用下さい。

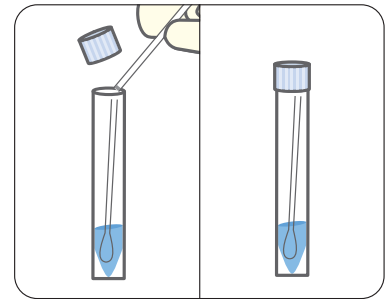
### 1 綿棒タイプを用いての検体採取と保存方法



① 1本目のサンプラー（綿棒）を用いて子宮口と周辺の子宮腔部の過剰な粘液を取り除きます。

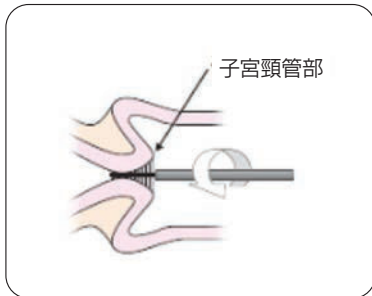


② 2本目のサンプラー（綿棒）を用いて子宮頸管内に挿入し、5回、交互に180度回転させ、擦過物を採取します。細胞変化領域が見られる場合はその部分をしっかりとこすって採取します。（腔粘膜との接触は避けて下さい。）

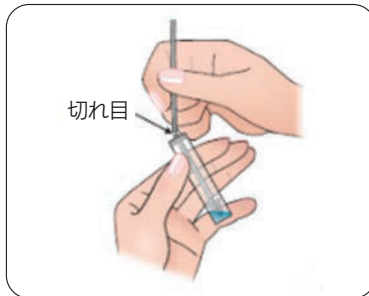


③ 検体を採取したサンプラー（綿棒）を輸送用チューブに入れサンプラーの軸を切れ目の入った所で折って、しっかりとキャップします。採取した検体は2～8℃で保存して下さい。

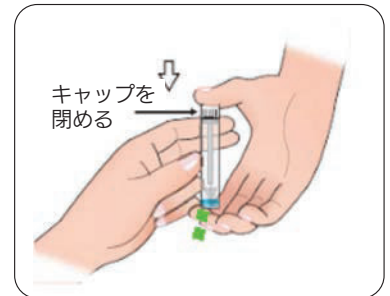
### 2 ブラシタイプを用いての検体採取と保存方法



① 綿棒等を用いて子宮口と周辺の子宮腔部の過剰な粘膜を取り除く。サンプラー（ブラシ）を子宮頸管に1～1.5cm位挿入し、3回、反時計回りに回転させ擦過物を採取します。



② 検体を採取したサンプラー（ブラシ）を輸送用チューブに入れ、サンプラーの軸を切れ目の入ったところで折ります。

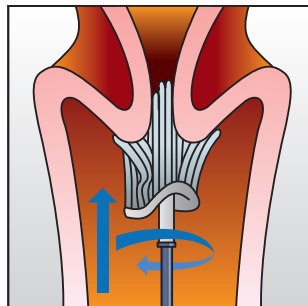


③ しっかりとキャップをします。採取した検体は2～8℃で保存して下さい。

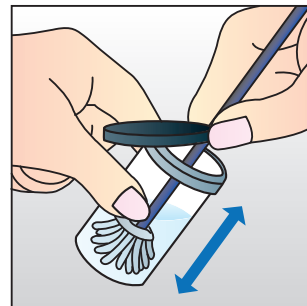
**【注意】**

- ・妊娠中の女性への使用は避けて下さい。
- ・検体採取時に、ブラシの軸が大きく曲がるほど強く押し付けたり、擦過したりすると切れ目の位置で折れる可能性がありますので、注意して下さい。
- ・子宮頸部細胞診を実施する場合には、「ヒトパピローマウイルス DNA中～高リスク」用の検体より前に採取して下さい。コルポスコピーを実施する場合には、「ヒトパピローマウイルス DNA中～高リスク」用の検体を採取後に実施して下さい。

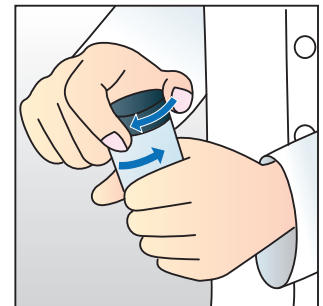
## W4 液状検体細胞診(LBC) シンプレップ



① 綿棒等以外の採取器具（ブラシ、スパーテル）を用い検体を採取します。



② ブラシを容器に入れ、容器の底で毛先が広がるように10回程度押し付けます。さらに、強くかき回して、採取した細胞を洗い落とします。



③ ブラシを取り出して廃棄し、しっかりと蓋をして検体を冷蔵保存にて提出して下さい。  
(注) ブラシの先端は容器に残さないで下さい。

**【注意】**

妊婦より検体を採取する場合は安全性を考慮してブラシ等の採取器具の使用は避け、安全性の高い綿棒を使用して下さい。但し、綿棒では適切な細胞量が採取できないこともあるため取り直しが必要になることもあります。綿棒では無理な力がかかると折れる可能性がありますので十分にご注意下さい。

ウイルス

# 血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考	
<b>血液形態・機能検査</b>									
2001 2A010	白血球数 (WBC) (2001) 2A010-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	フローサイトメトリー法	M 3900~9800 F 3500~9100 / μL	1 2		緊急 (対象: WBC、RBC、Hb、PLT)	
2002 2A020	赤血球数 (RBC) (2002) 2A020-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	電気抵抗法	M 427~570 F 376~500 × 10 <sup>4</sup> / μL	1 2			
2003 2A030	ヘモグロビン (Hb) (血色素量) (2003) 2A030-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	SLS-ヘモグロビン法	M 13.5~17.6 F 11.3~15.2 g/dL	1 2			
2004 2A040	ヘマトクリット (Ht) (2004) 2A040-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	赤血球パルス波 高値検出法	M 39.8~51.8 F 33.4~44.9 %	1 2	21 血液		凍結不可 末梢血液一般検査
2016 2A060	MCV (平均赤血球容積) (2103) 2A060-0000-019-919	全血 2.0	B-1 冷蔵	計算法	M 83~102 F 79~100 fL	1 2			
2017 2A070	MCH (平均赤血球血色素量) (2104) 2A070-0000-019-919	全血 2.0	B-1 冷蔵	計算法	M 28.0~34.6 F 26.3~34.3 pg	1 2			
2018 2A080	MCHC (平均赤血球血色素濃度) (2105) 2A080-0000-019-919	全血 2.0	B-1 冷蔵	計算法	M 31.6~36.6 F 30.7~36.6 %	1 2			
2005 2A050	血小板数 (PLT) (2005) 2A050-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	電気抵抗法	13.0~36.9 × 10 <sup>4</sup> / μL	1 2			
2006 2A160	白血球像 (2174) 2A160-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	自動機械法	下記参照 %	1 3	15 血液		緊急 (対象: 白血球像) 精査は鏡検法により実施致 します。※1、3
2779 2A160	赤血球像 (2175) 2A160-0000-019-310	全血 2.0	B-1 冷蔵	鏡検法	大小不同 (-) 多染性 (-) 奇形 (-)	1 3			凍結不可 標本による受託も可能です。 ※2

※1 次の場合、鏡検法による精査分類のうえNeutroをStab、Segに分けてご報告します。  
①血液疾患加療中の患者、又はその疑いのある患者で特別に指示のある場合、②顆粒球系幼若細胞の出現、③異型リンパ球の出現、④通常認められない異常細胞の出現、⑤有核赤血球の出現。

※2 好酸球数及び末梢血液像(白血球像、赤血球像)を同時に行った場合は、主たる検査の点数のみを算定する。

※3 白血球像、赤血球像の結果における(+)の報告表現は、百分率:1.0%未満を示します。

## 白血球像基準値(単位: %)

細胞の種類	基準値	
好塩基球 (Baso)	0.0 ~ 3.0	
好酸球 (Eosino)	0.0 ~ 10.0	
好中球 (Neutro)	35.0 ~ 73.0	
※1	桿状核球 (Stab)	0.0 ~ 18.0
	分葉核球 (Seg)	27.0 ~ 72.0
リンパ球 (Lympho)	20.0 ~ 51.0	
単球 (Mono)	2.0 ~ 12.0	

# 血液学的検査

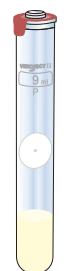
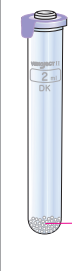
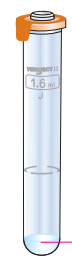

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 血液形態・機能検査

2007 2A110	網赤血球数 (2009) 2A110-0000-019-662	全血 2.0	B-1 冷蔵	フローサイトメトリー法 及びBrecher法	2~27 %	1 3	12 血液	凍結不可
2040 2A090	好酸球数 (2010) 2A090-0000-019-919	全血 2.0	B-1 冷蔵	白血球数及び 白血球像による計算法	70~450 / $\mu$ L	1 2	17 血液	凍結不可 ※2
2008 2Z030	全血比重 (GB) (2037) 2Z030-0000-019-919	全血 2.0	B-1 冷蔵	間接法 (Phillipsら の方法)	M 1.055~1.063 F 1.052~1.060	1 2		凍結不可
2011 2Z010	赤血球沈降速度 (ESR) (2100) 2Z010-0000-019-096	全血 1.6	P 冷蔵	Westergren法	M 2~10 F 3~15 mm/h	1 2	(9) 血液	凍結不可 当該保険医療機関内で検査 を行った場合に算定する。
1083 3H045	浸透圧 (1183) 3H045-0000-023-902	血清 0.5	A1-1 冷蔵	氷点降下法	275~290 mOsm/kgH <sub>2</sub> O	1 3	15 血液	(1084)浸透圧(尿)
3089 2C105	チミジンキナーゼ (TK 活性) (4449) 2C105-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 ↓ G-1 凍結	CLIA法	7.5 以下 U/L	3 6	233 血液	造血器腫瘍の診断又は治療 効果判定のために行った場 合に算定する。 *1
8047 2A400	マラリア原虫 (2043) 2A400-0000-019-723	全血 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	(-)	2 5	40 血液	凍結不可 標本による受託も可能です。 血中微生物
8057 2A410	フィラリア原虫 (2044) 2A410-0000-019-723	全血 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	(-)	2 5	40 血液	凍結不可 標本による受託も可能です。 血中微生物
2060 2A170	骨髓像 (2008) 2A170-0000-049-650	骨髓塗抹 標本 (未固定) 2~3枚 注1	X2 常温	鏡検法 (May-Giemsa染色)		3 7	788 血液	診断に特殊染色が必要とさ れる場合、追加検査推奨の 連絡をさせていただきます。

注1 骨髓像検体提出注意事項 塗抹後できるだけ早く乾燥させて下さい。メイギムザ染色をしますので未固定の状態でお送り下さい。特にペルオキシダーゼ染色は、メタノールなどの固定後は染色できませんので未固定の状態でお送り下さい。

※2 好酸球数及び末梢血液像(白血球像、赤血球像)を同時に行った場合は、主たる検査の点数のみを算定する。

 <p><b>A1-1</b> 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p><b>B-1</b> 採血後、静かに 約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可) EDTA-2K 2mL用</p>	 <p><b>P</b> 血液1.6mLを入れ 静かに約10回ほど 転倒混和そのまま 冷蔵保存 (特に新鮮血が 必要) (凍結不可) 3.8%クエン酸 ナトリウム0.4mL</p>	<p><b>X2</b> 常温保存</p> 
---	---	---	--

# 血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 血液形態・機能検査

— 2A180	骨髄像特殊染色	アルカリホスファターゼ染色 (ALP 染色) (2229) 2A180-0000-049-612	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	<b>X2</b> 常温	朝長法		3 } 6	血液	骨髄像の場合加算 40点
2061 2A200		PAS 染色 (2332) 2A200-0000-049-477	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	<b>X2</b> 常温	Schiff 法		3 } 7	血液	
2063 2A230		ペルオキシダーゼ染色 (2230) 2A230-0000-049-615	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	<b>X2</b> 常温	ICSH 標準法 (改良法)		3 } 7	血液	
2065 2A190		エステラーゼ染色 (2254) 2A190-0000-049-614	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	<b>X2</b> 常温	α-NB 法及び 二重染色法 (α-NB・NAS-D 法)		3 } 7	血液	
2064 2A240		鉄染色 (2278) 2A240-0000-049-541	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	<b>X2</b> 常温	ベルリン青反応	ジデロプラスト: 20~50 %	3 } 7	血液	
2050 2A180	血液特殊染色	アルカリホスファターゼ染色 (ALP 染色) (2177) 2A180-0000-034-612	血液塗抹 標本 (未固定) 3枚	<b>X2</b> 常温	朝長法	陽性率 M 60.5~99.5 F 67.5~99.5 % 陽性指数 M 170~335 F 189~367	3 } 7	血液	末梢血液像の場合加算 27点
5174 2A200		PAS 染色 (2299) 2A200-0000-034-477	血液塗抹 標本 (未固定) 3枚	<b>X2</b> 常温	Schiff 法		3 } 7	血液	
5175 2A230		ペルオキシダーゼ染色 (2180) 2A230-0000-034-615	血液塗抹 標本 (未固定) 3枚	<b>X2</b> 常温	ICSH 標準法 (改良法)		3 } 7	血液	
5172 2A190		エステラーゼ染色 (2060) 2A190-0000-034-614	血液塗抹 標本 (未固定) 3枚	<b>X2</b> 常温	α-NB 法及び 二重染色法 (α-NB・NAS-D 法)		3 } 7	血液	
5173 2A240		鉄染色 (2279) 2A240-0000-034-541	血液塗抹 標本 (未固定) 3枚	<b>X2</b> 常温	ベルリン青反応	ジデロサイト: 0~3 ‰	3 } 7	血液	



# 血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 凝固系一般検査

2012 2B030	プロトロンビン時間 (PT) (2029) 2B030-0000-022-311	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	Quick変法	PT INR値 0.88~1.17 PT活性 66.0~127.6 % PT時間 9.4~12.2 秒 ※1	1 } 3	18 血液	緊急
2020 2B020	活性化部分トロンボ プラスチン時間 (APTT) (2030) 2B035-0000-022-311	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	エラジン酸活性化法	26.5~37.2 秒	1 } 3	29 血液	緊急

## 凝固因子関連検査

2014 2B100	フィブリノゲン定量 (Fib) (2033) 2B100-0000-022-311	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	トロンビン時間法	160~410 mg/dL	1 } 3	23 血液	緊急
2541 2B350	第Ⅱ因子 (2404) 2B350-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70~120 %	2 } 7	223 血液	* A
2542 2B370	第Ⅴ因子 (2405) 2B370-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70~120 %	2 } 7	223 血液	* A
2543 2B380	第Ⅶ因子 (2406) 2B380-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70~120 %	2 } 7	223 血液	* A
2544 2B390	第Ⅷ因子 (2407) 2B390-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70~150 %	2 } 7	223 血液	* A

※1 PT時間(秒)：健常者参考値です。PT時間は試薬の力価により若干の変動があります。



### 実施料について(出血・凝固)

一回に採取した血液を用いて  
青色で表記されている検査を  
3項目以上行った場合

3項目又は4項目の場合

1. 出血・凝固 530点

5項目以上

2. 出血・凝固 722点

# 血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 凝固因子関連検査

2545 2B400	第IX因子 (2408) 2B400-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70~120 %	2 ↓ 7	223 血液	* A
2546 2B410	第X因子 (2409) 2B410-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70~120 %	2 ↓ 7	223 血液	* A
2547 2B420	第XI因子 (2410) 2B420-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70~120 %	2 ↓ 7	223 血液	* A
2548 2B430	第XII因子 (2397) 2B430-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70~150 %	2 ↓ 7	223 血液	* A
2549 2B440	第XIII因子 (2257) 2B440-0000-022-062	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	63~131 %	2 ↓ 7	223 血液	* A
8891 2B450	フォン・ウィルブランド 因子抗原 定量 (v.W 因子抗原 定量) (2256) 2B450-0000-022-062	血漿 0.2	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	50~155 %	3 ↓ 5	147 血液	* 4
2555 2B480	フォン・ウィルブランド 因子活性 (v.W因子活性) (リストセチンコファクター) (2052) 2B480-0000-022-316	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	固定血小板凝集法	60~170 %	3 ↓ 5	129 血液	* 4
5116 2B495	ADAMTS13 活性 (2709) 2B495-0000-022-025	クエン酸 加血漿 0.2	D-1 ↓ G-1 凍結	ELISA 法	0.10 以上 (10% 以上) ※1 IU/mL	4 ↓ 6	400 血液	※2 * 1
— 2B496	ADAMTS13 インヒビター定量 (2707) 2B496-0000-022-025	クエン酸 加血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	Bethesda 法	0.5 未満 B.U/mL	4 ↓ 6	1000 血液	※3 * 1

※1 測定値が0.10IU/mL 未満(10%未満)の場合は、血栓性血小板減少性紫斑病(TPP)と判定されます。  
TPP判定基準 健常者参考値：0.78IU/mL (78%以上)

※2 他に原因を認めない血小板減少を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的とした測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。又、血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※3 ADAMTS13 活性の著減を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。又、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。



### 実施料について(出血・凝固)

一回に採取した血液を用いて  
青色で表記されている検査を  
3項目以上行った場合

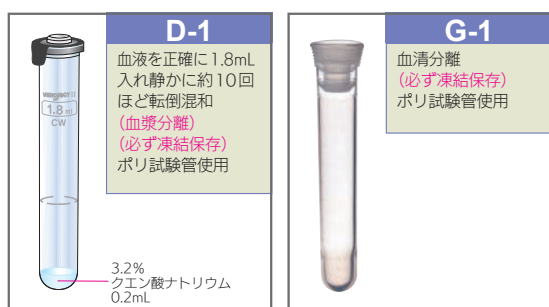
- 3項目又は4項目の場合  
1. 出血・凝固 530点
- 5項目以上  
2. 出血・凝固 722点

# 血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
2551 2B460	第Ⅷ因子インヒビター (第Ⅷ因子-INH) (2222) 2B460-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	Bethesda法	検出せず  BU/mL	3 } 6	144 血液	測定1回につき算定する。  * 1
2552 2B470	第Ⅸ因子インヒビター (第Ⅸ因子-INH) (2070) 2B470-0000-022-311	血漿 1.0	D-1 ↓ G-1 凍結	Bethesda法	検出せず  BU/mL	3 } 5	144 血液	測定1回につき算定する。  * 4
— 2B260	プラスミノゲン抗原 (2394) 2B260-0000-022-062	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	9.1～14.5  mg/dL	3 } 4	100 血液	  * E
4031 2B260	プラスミノゲン活性 (2395) 2B260-0000-022-315	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	合成基質法	80～130  %	2 } 4	100 血液	  * E
3430 2B270	アンチプラスミン (プラスミンインヒビター) (2295) 2B270-0000-022-315	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	発色性合成基質法	77～120  %	3 } 4	128 血液	  * A
4125 2B200	アンチトロンビン活性 (AT-III) (2035) 2B200-0000-022-315	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	発色性合成基質法	75～135  %	1 } 3	70 血液	  * A
2013 2B120	フィブリン・フィブリノゲン 分解産物 (血漿FDP) (2034) 2B120-0000-022-062	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	5.0 未満  μg/mL	1 } 3	80 血液	緊急
2556 2B110	可溶性フィブリンモノマー 複合体 (SFMC) (2051) 2B110-0000-022-116	血漿 0.2	D-1 ↓ G-1 凍結	凝集反応	(-)  μg/mL	2 } 4	93 血液	  * A
2559 2B140	Dダイマー (2049) 2B140-0000-022-062	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	1.0 未満  μg/mL	1 } 3	130 血液	緊急
2553 2B280	プラスミンインヒビター・ プラスミン複合体 (PIC) (2067) 2B280-0000-022-062	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	0.8 以下  μg/mL	2 } 5	154 血液	  * A

# 血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
2558 2B210	トロンビン・アンチトロンビン 複合体 (TAT) (2498) 2B210-0000-022-052	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	CLEIA法	3.0 以下 ng/mL	2 } 3	176 血液	主たるもののみ算定する。 * A
2557 2B700	プロテインC活性 (2400) 2B700-0000-022-315	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	発色性合成基質法	70~140 %	2 } 5	234 血液	* A
4848 2B700	プロテインC (抗原量) (2039) 2B700-0000-022-062	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	69~144 %	2 } 5	232 血液	* A
4856 2B710	プロテインS (遊離型抗原量) (2041) 2B711-0000-022-062	血漿 0.2	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	M 50~131 F 49~133 %	3 } 5	158 血液	* 4
4857 2B710	プロテインS (抗原量) (2045) 2B710-0000-022-062	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	70~140 %	3 } 4		* E
4858 2B710	プロテインS活性 (2068) 2B710-0000-022-311	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	M 67~164 F 56~126 %	4 } 8	163 血液	* 4
5388 2B310	プラスミノゲンアクチベーター インヒビター-1 (PAI-1) (2042) 2B310-0000-022-062	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	50.0 以下 ng/mL	2 } 4	240 血液	測定対象は総PAI-1 (tPA・ PAI-1複合体及び活性型、潜 在型PAI-1)です。 * A
3975 2B730	トロンボモジュリン (TM) (2414) 2B730-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 ↓ G-1 凍結	CLEIA法	12.1~24.9 U/mL	3 } 6	204 血液	膠原病の診断もしくは経過 観察又は、DICもしくはそ れに引き続いて起こるMOF 観察のために測定した場合 のみ算定できる。 * 1
4100 5B045	C1 インアクチベーター活性 (C1 エステラーゼインヒビター活性) (4445) 5B045-0000-022-315	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	発色性合成基質法	70~130 %	3 } 9	260 免疫	* E





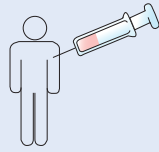
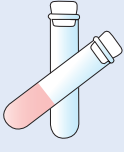
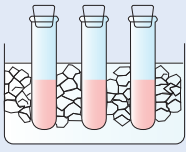
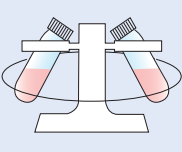
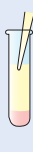
# 血液学的検査

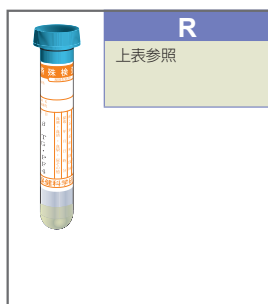
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 血小板機能検査

2027 2B620	血小板第4因子 (PF4) (2413) 2B620-0000-022-023	血漿 0.3	R ↓ G-1 下図参照 凍結	EIA法	20 以下  ng/mL	4 ~ 9	178 血液	* 4
2029 2B600	β-トロンボグロブリン (β-TG) (2412) 2B600-0000-022-023	血漿 0.3	R ↓ G-1 下図参照 凍結	EIA法	50 以下  ng/mL	4 ~ 9	176 血液	* 4

### 〔β-TG、PF-4の採取方法及び注意事項〕

		この操作を2分以内に行う																															
																																	
採取方法	できるだけ20ゲージ(19～23ゲージでも可)の針を用いたポリスチレン注射器で血液2.7mL採取する。 <b>(採血に当たって、専用容器(R)を使用しての直接採血は絶対にしないで下さい。)</b>	予め専用容器(R)を冷却しておく。次に専用容器のフタを開け血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2～3回反転混和する。	専用容器をすみやかに砕氷と水の入ったラックに入れる。	砕氷水に15～30分間放置後、採取血液を2,000Gで30分間、2～4℃で遠心分離する。(下表は、2,000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示す。)	上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで各0.3mL検体容器へ採取する。 検体は必ず凍結保存する。 (一ヶ月安定)																												
注意事項	真空採血管、カテーテル及び他の方法は使用しない。 又、脈血帯も使用しない。10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取する。	指定の専用容器以外は使用しない。専用容器は振とうさせない。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにする。 角氷は使用しない。	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離する。 <b>換算表</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>半径 (cm)</th> <th>回転数 (rpm)</th> <th>半径 (cm)</th> <th>回転数 (rpm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10</td><td>4,200</td><td>22</td><td>2,800</td></tr> <tr><td>12</td><td>3,800</td><td>24</td><td>2,700</td></tr> <tr><td>14</td><td>3,500</td><td>26</td><td>2,600</td></tr> <tr><td>16</td><td>3,300</td><td>28</td><td>2,500</td></tr> <tr><td>18</td><td>3,100</td><td>30</td><td>2,400</td></tr> <tr><td>20</td><td>3,000</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	半径 (cm)	回転数 (rpm)	半径 (cm)	回転数 (rpm)	10	4,200	22	2,800	12	3,800	24	2,700	14	3,500	26	2,600	16	3,300	28	2,500	18	3,100	30	2,400	20	3,000			血餅に近い部分からの採取は絶対に避ける。
半径 (cm)	回転数 (rpm)	半径 (cm)	回転数 (rpm)																														
10	4,200	22	2,800																														
12	3,800	24	2,700																														
14	3,500	26	2,600																														
16	3,300	28	2,500																														
18	3,100	30	2,400																														
20	3,000																																

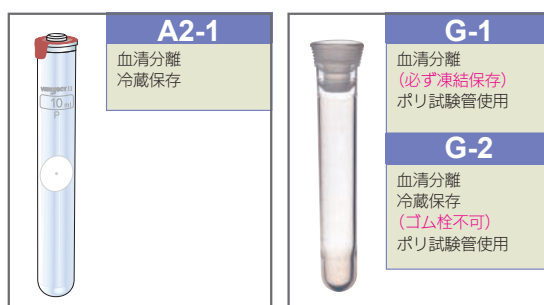


# 薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
抗てんかん剤								
3501 3L175	フェノバルビタール (5050) 3L175-0000-023-024	血清 0.2	A2-1 冷蔵	EIA法	10.0～40.0 μg/mL	1 2	※	緊急 フェノバル フェノバルビタール
3502 3L185	フェニトイン (5051) 3L185-0000-023-024	血清 0.5	A2-1 冷蔵	EIA法	10.0～20.0 μg/mL	1 2	※	緊急 アレピアチン ヒダントール
3503 3L115	カルバマゼピン (5052) 3L115-0000-023-024	血清 0.5	A2-1 冷蔵	EIA法	4.0～12.0 μg/mL	1 2	※	緊急 カルバマゼピン テグレトール
3504 3L190	プリミドン (5121) 3L190-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA法	5～12 μg/mL	2 3	※	緊急 プリミドン * A
3505 3L195	バルプロ酸 (5054) 3L195-0000-023-025	血清 0.5	A2-1 冷蔵	EIA法	50.0～100.0 μg/mL	1 2	※	緊急 セレニカR、デパケン、 バルプロ酸ナトリウム、 パレリン
3506 3L135	エトスクシミド (5096) 3L135-0000-023-024	血清 0.5	A2-1 冷蔵	EIA法	40.0～100.0 μg/mL	3 9	※	緊急 ザロンチン エピレオプチマル * E
3541 3L205	トリメタジオン (5122) 3L205-0000-023-210	血清 0.5	A2-1 ↓ G-1 凍結	LC-MS/MS法	300～500 μg/mL	8 14	※	ミノアレ * 1
3520 3L125	クロナゼパム (5120) 3L125-0000-023-204	血清 1.1	A2-1 冷蔵	HPLC法	20～70 ng/mL	3 5	※	リボトリール ランドセン * イ
9607 3L950	アセタゾラミド (5100) 3L950-0000-023-204	血清 0.3	A2-1 冷蔵	HPLC法	μg/mL	4 10	※	ダイアモックス * 4
3548 3L200	スルチアム (5532) 3L200-0000-023-204	血清 1.2	A2-1 ↓ G-1 凍結	HPLC法	μg/mL	3 9	※	オスポロット * 4

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は110頁をご参照下さい。



# 薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
抗てんかん剤								
3938 3L210	ゾニサミド (5371) 3L210-0000-023-062	血清 0.3	A2-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	10～30 μg/mL	2 3	※	エクセグラン ゾニサミド * A
3521 3L165	ニトラゼパム (5099) 3L165-0000-023-210	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS 法	20～200 ng/mL	4 6	※	ニトラゼパム ネルボン ベンザリン * 4
3522 3L130	ジアゼパム (5670) 3L130-0000-023-204	血清 0.5	A2-1 冷蔵	HPLC 法	ジアゼパム 600～1000 ※1 ng/mL	4 6	※	ジアゼパム ジアパックス セルシン セレナミン ホリゾン * 4
7571 3L145	クロバザム (5909) 3L145-0000-023-210	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS 法	※2	4 8	※	マイスタン * 4
9619 3L220	ラモトリギン (5847) 3L220-0000-022-210	血漿 0.3	F ↓ G-2 冷蔵	LC-MS/MS 法	2.5～15 μg/mL	4 6	※	ラミクタール * 4
8643 3L215	ガバペンチン (5982) 3L215-0000-022-210	血漿 0.3	F ↓ G-2 冷蔵	LC-MS/MS 法	μg/mL	4 6	※	ガバペン * 4
0127 3L225	トピラマート (5674) 3L225-0000-023-210	血清 0.3	A2 ↓ G-1 冷蔵	LC-MS/MS 法	Trough 5～20 μg/mL	4 5	※	トピナ トピラマート * 1
0062 3L230	レベチラセタム (5673) 3L230-0000-023-205	血清 0.3	A2 ↓ G-1 冷蔵	LC-MS 法	Trough 12～46 μg/mL	4 5	※	イーケプラ * 1
精神神経用剤								
3538 3L320	炭酸リチウム (5239) 3L320-0000-023-274	血清 0.5	A2-1 冷蔵	原子吸光法	0.60～1.20 mEq/L	2 5	※	緊急 炭酸リチウム リーマス * イ
3537 3L300	ハロペリドール (5128) 3L300-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	セディア法	3～17 注1 ng/mL	2 3	※	セレネース ネオペリドール ハロステン ハロペリドール ハロマンズ * A
4860 3L302	ブロムペリドール (5527) 3L302-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	セディア法	有効治療濃度(参考値) 4.0～14.3 注1 ng/mL	2 3	※	インプロメン ブロムペリドール * A

## 精神神経用剤

3538 3L320	炭酸リチウム (5239) 3L320-0000-023-274	血清 0.5	A2-1 冷蔵	原子吸光法	0.60～1.20 mEq/L	2 5	※	緊急 炭酸リチウム リーマス * イ
3537 3L300	ハロペリドール (5128) 3L300-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	セディア法	3～17 注1 ng/mL	2 3	※	セレネース ネオペリドール ハロステン ハロペリドール ハロマンズ * A
4860 3L302	ブロムペリドール (5527) 3L302-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	セディア法	有効治療濃度(参考値) 4.0～14.3 注1 ng/mL	2 3	※	インプロメン ブロムペリドール * A

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は110頁をご参照下さい。

注1 ハロペリドールとブロムペリドールを併用している患者検体では、免疫学的交差反応のため正確な濃度は測定できません。

※1 N-デスメチルジアゼパムの濃度も同時にご報告いたします。

※2 代謝産物のデスメチルクロバザムの濃度も同時にご報告いたします。

※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、109頁をご参照下さい。

# 薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
<b>抗炎症、リウマチ剤</b>								
3534 3M205	サリチル酸 (5101) 3M205-0000-023-271	血清 0.4	A2-1 冷蔵	酵素法	(抗炎症剤として) 100~250 μg/mL	3 ~ 5	※	<b>緊急</b> アスピリン サルゾニン ハフトロン ヘパルス * 4
<b>強心剤</b>								
3517 3L765	ジゴキシン (5049) 3L765-0000-023-024	血清 0.5	A2-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	0.8~2.0 ng/mL	1 ~ 2	※	<b>緊急</b> ジゴキシン ジゴキシン ジゴキシンエリキシル
<b>抗不整脈剤</b>								
4087 3L897	プロパフェノン (5457) 3L897-0000-023-210	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS法	ng/mL	4 ~ 6	※	プロノン プロパフェノン塩酸塩 * 4
4852 3L896	塩酸ピルジカイニド (5556) 3L896-0000-023-204	血清 0.5	A2-1 冷蔵	HPLC法	Peak 0.2~0.9 μg/mL	3 ~ 6	※	サンリズム ピルジカイニド塩酸塩 * イ
3509 3L898	シベンゾリン (5175) 3L898-0000-023-210	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS法	Trough 70~250 ng/mL	4 ~ 8	※	シベノール シベンゾリンコハク酸塩 * 4
3525 3L890	プロカインアミド (5448) 3L890-0000-023-024	血清 0.3	A2-1 冷蔵	HEIA法	4~8 μg/mL	3 ~ 4	※	<b>緊急</b> アミサリン * 1

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は110頁をご参照下さい。



# 薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
<b>抗不整脈剤</b>								
3526 3L895	プロプラノロール (5469) 3L895-0000-023-204	血清 0.3	A2-1 冷蔵	HPLC法	50~100 ng/mL	5 18		インデラル プロプラノロール塩酸塩 *4
3527 3L900	キニジン (5080) 3L900-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA法	2.0~6.0 μg/mL	3 9	※	硫酸キニジン *4
3523 3L875	リドカイン (5370) 3L875-0000-023-024	血清 0.3	A2-1 冷蔵	EIA法	1.2~5.0 μg/mL	3 5	※	<b>緊急</b> オリベス キシロカイン リドカイン *4
3524 3L865	ジソピラミド (5449) 3L865-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA法	2~5 μg/mL	2 3	※	ジソピラミド ジソピラン リスモダン *A
3529 3L855	アプリンジン (5491) 3L855-0000-023-210	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS法	0.25~1.25 μg/mL	4 6	※	アスペノン アプリンジン塩酸塩 *4
3535 3L880	メキシレチン (5464) 3L880-0000-023-204	血清 0.5	A2-1 冷蔵	HPLC法	0.5~2.0 μg/mL	3 8	※	チルミメール メキシチール メキシレチン塩酸塩 *イ
4530 3L905	フレカイニド (5375) 3L905-0000-023-210	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS法	200~1000 ng/mL	4 6	※	タンボコール フレカイニド酢酸塩 *4
3948 3L899	ピルメノール (5767) 3L899-0000-022-204	血漿 1.3	F-2 冷蔵	HPLC法	400.0以上 ng/mL	4 7	※	ピメノール *4
4581 3L800	アミオダロン (5770) 3L800-0000-022-210	血漿 0.3	F-2 ↓ G 冷蔵	LC-MS/MS法	ng/mL	4 8	※	アミオダロン塩酸塩 アンカロン *4
0150 3L802	ベプリジル (5849) 3L802-0000-022-210	血清 0.3	A2-1 ↓ G-1 冷蔵	LC-MS/MS法	ng/mL	4 5	※	ベプリコール *1

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は110頁をご参照下さい。



※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、109頁をご参照下さい。

# 薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------------------	----------	------------	----

## 解熱鎮痛剤消炎剤

3543 3L005	アセトアミノフェン (5466) 3L005-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA法	中毒域 200.1 以上(4時間) 100.1 以上(8時間) 50.1 以上(12時間) μg/mL	3 ~ 9	185 生化I	アセトアミノフェン、アセリオ、カロナール、コカール、ピレチノール 同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。 * 4
---------------	---	--------	------------	------	---	-------------	------------	---

## 抗悪性腫瘍剤

4846 3M725	メトトレキサート (5467) 3M725-0000-023-024	血清 0.5	A2-1 冷蔵	EIA法	危険限界濃度 24時間値 10 以上 48時間値 1 以上 72時間値 0.1 以上 μmol/L	3 ~ 5	※	緊急 メトトレキサート * 4
— 3M750	イマチニブ (5787) 3M750-0000-022-210	血漿 0.3	E-2 ↓ G-1 冷蔵	LC-MS/MS法	ng/mL	4 ~ 7	※	イマチニブ グリベック * 1

## 抗生物質

3531 3M606	ゲンタマイシン (5102) 3M606-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 ↓ G-1 凍結	EIA法	Peak 15~20 Trough 1 未満 μg/mL	3 ~ 5	※	エルタシン ゲンタシン ゲンタマイシン硫酸塩 抗菌薬TDM2016に準拠 * 4
0909 3M602	トブラマイシン (5452) 3M602-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 ↓ G-1 凍結	EIA法	Peak 15~20 Trough 1 未満 μg/mL	3 ~ 5	※	トブラシン 抗菌薬TDM2016に準拠 * 4
3533 3M601	アミカシン (5098) 3M601-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 ↓ G-1 凍結	EIA法	Peak 50~60 Trough 4 未満 μg/mL	3 ~ 5	※	アミカシン硫酸塩 アミカマイシン 抗菌薬TDM2016に準拠 * 4
4987 3M613	アルベカシン (5555) 3M613-0000-023-062	血清 0.3	A2-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集比濁法	Peak 15~20 Trough 1~2 未満 μg/mL	3 ~ 5	※	アルベカシン硫酸塩 ハベカシン * 4

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

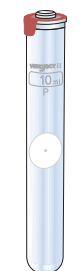
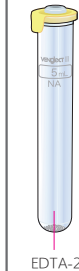

採血時刻は110頁をご参照下さい。

グラム陰性菌感染症に対する標準治療における目標値(μg/mL)

最小発育阻止濃度(MIC)	8 μg/mL(重症)		≦ 4 μg/mL(軽・中等度)	
アミカシン	50~60(ピーク)	4未満(トラフ)	41~49(ピーク)	4未満(トラフ)
最小発育阻止濃度(MIC)	2 μg/mL(重症)		≦ 1 μg/mL(軽・中等度)	
ゲンタマイシン	15~20(ピーク)	1未満(トラフ)	8~10(ピーク)	1未満(トラフ)
トブラマイシン				

※基準値は重症における目標値を基準値(治療濃度範囲)として設定いたしました。

抗菌薬TDMガイドライン2016より改変


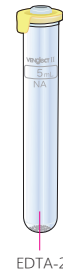

 <p><b>A2-1</b> 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p><b>E-2</b> 採血後静かに約10回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用</p> <p>EDTA-2Na 5mL用</p>	 <p><b>G-1</b> 血清分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>
---	--	---

# 薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
<b>抗生物質</b>								
3508 3M530	バンコマイシン (5531) 3M530-0000-023-024	血清 0.5	A2-1 冷蔵	EIA法	Trough 10.0~15.0 μg/mL	1 2	※	<b>緊急</b> バンコマイシン塩酸塩 抗菌薬 TDM2016に準拠 * a,b
3479 3M532	テイコプラニン (5478) 3M532-0000-023-062	血清 0.3	A2-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	Trough 15~30 μg/mL	4 7	※	<b>緊急</b> タゴシッド テイコプラニン 重症感染症は10~20μg/mL を保って下さい。 抗菌薬 TDM2016に準拠 * 4
<b>免疫抑制剤</b>								
3544 3M805	シクロスポリン (5465) 3M805-0000-019-051	全血 1.0	S 凍結	CLIA法	ng/mL	2 4	※	サンディミюн シクロスポリン ネオオラル 必ず単独検体で提出して下 さい。 * A
4859 3M810	タクロリムス (5256) 3M810-0000-019-051	全血 1.0	S 凍結	CLIA法	ng/mL	2 4	※	グラセプター タクロリムス プログラフ 必ず単独検体で提出して下 さい。 * A
— 3M815	エベロリムス (5989) 3M815-0000-019-053	全血 1.0	E-1 冷蔵	ECLIA法	免疫抑制剤としてシクロスポリ ンと併用した場合のTrough 3~8 抗癌性腫瘍剤として使用した 場合のTrough 5~15 ng/mL	3 4	※	サーティカン アフィニートール シクロリムス投与歴がある患 者検体は検査不可 * 1
— 3M816	ミコフェノール酸 (5991) 3M816-0000-022-024	血漿 0.5	E-4 ↓ G 冷蔵	EIA法	μg/mL	4 8	※	セルセプト ミコフェノール酸モフェチル * 4
<b>その他</b>								
3519 3M070	テオフィリン (気管支拡張剤) (5087) 3M070-0000-023-024	血清 0.5	A2-1 冷蔵	EIA法	10.0~20.0 μg/mL	1 2	※	<b>緊急</b> スローピッド チルミン テオドール テオフィリン テオロング テルパンス ユニコン ユニフィル

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は110頁をご参照下さい。

 <p><b>C-3</b></p> <p>蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (尿量記載の必要なし)</p>	 <p><b>E-1</b></p> <p>採血後静かに約10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)</p> <p>EDTA-2Na 5mL用</p>	 <p><b>S</b></p> <p>採血後静かに 約10回ほど 転倒混和 そのまま (必ず凍結保存) ガラス管の場合は ポリ試験管に移して 凍結 他の項目との同時依 頼はできません。</p> <p>EDTA-2K 2mL用</p>
--	---	--

※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、  
109頁をご参照下さい。

# 薬物検査

## [特定薬剤治療管理料]

薬 剤 名		1～3カ月	4カ月以降	初回月加算点	備 考	薬 剤 名		1～3カ月	4カ月以降	初回月加算点	備 考							
ジギタリス製剤	ジゴキシン	470	235		心疾患患者 急速飽和を行った場合、1回に限り算定740 初回月加算同時算定不可	ハロペリドール製剤 ナロメハロペリドール製剤	ハロペリドール	470	235		統合失調症の患者							
							プロムペリドール											
抗てんかん剤	フェノバルビタール	470	470	470	てんかん患者 複数薬剤測定の場合加算 470 てんかん重積状態の患者に抗てんかん剤の注射等を行った場合、1回に限り算定740 初回月加算同時算定不可	リチウム製剤	炭酸リチウム	470	235	1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	躁うつ病の患者							
	フェニトイン																	
	カルバマゼピン																	
	プリミドン																	
	バルプロ酸									バルプロ酸ナトリウム	バルプロ酸	470	470		躁うつ病又は躁病の患者			
	エトスクシミド																	
	トリメタジオン																	
	クロナゼパム																	
	アセタゾラミド																	
	スルチアム																	
	ゾニサミド																	
	ニトラゼパム																	
	ジアセパム																	
	クロバザム																	
ラモトリギン																		
ガバペンチン																		
トピラマート																		
レベチラセタム						バルプロ酸ナトリウム	バルプロ酸	470	235		片頭痛の患者							
テオフィリン製剤	テオフィリン	470	235		気管支喘息、喘息性(様)気管炎、慢性気管炎、肺気腫又は未熟児無呼吸発作の患者	免疫抑制剤	シクロスポリン	470	470	臓器移植を行った月から3カ月2740	臓器移植を受けた患者であって臓器移植における拒否反応の抑制を目的として免疫抑制剤を投与しているもの							
							タクロリムス							※1				
							エベロリムス							※2				
							ミコフェノール酸											
							シクロスポリン											
							タクロリムス											
不整脈用剤	プロパフェノン	470	235	470	不整脈の患者	サリチル酸系製剤	サリチル酸	470	235	1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	若年性関節リウマチ、リウマチ熱又は慢性関節リウマチの患者							
	塩酸ピルジカイニド																	
	シベンゾリン																	
	プロカインアミド																	
	キニジン																	
	リドカイン										抗生物質	ゲンタマイシン	470	235	数日間以上投与している入院中の患者について、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回算定	数日間以上投与している入院中の患者について、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回算定		
	ジソピラミド											トブラマイシン						
	アプリンジン											アミカシン						
	メキシレチン											アルベカシン						
	フレカイニド											バンコマイシン						
	ピルメノール										テイコプラニン							
	アミオダロン										抗悪性腫瘍剤	メトレキサート	470	235		悪性腫瘍の患者		
	ベプリジル											イマチニブ						
					エベロリムス				※3									

- ※1 ベーチェット病の患者であって活動性・難治性眼症状を有するもの又はその他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る。）、重度の再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る。）若しくはネフローゼ症候群の患者
- ※2 全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎又は間質性肺炎（多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る。）の患者
- ※3 結節性硬化症に伴う上衣下巨細胞性星細胞腫の患者であって抗悪性腫瘍剤としてエベロリムスを投与しているもの



## 【主な薬物の採血時刻】

検査項目	採血時刻
<b>抗てんかん剤</b>	
フェノバルビタール	投与直前(トラフ)
フェニトイン	経口：投与直前(トラフ) 静注：投与後2～4時間
カルバマゼピン	投与直前(トラフ)
プリミドン	投与直前(トラフ)
バルプロ酸	投与直前(トラフ)
エトサクシミド	投与直前(トラフ)
トリメタジオン	投与直前(トラフ)
クロナゼパム	投与直前(トラフ)
アセタゾールアミド	—
ゾニサミド	投与直前(トラフ)
ラモトリギン	投与直前(トラフ)
ニトラゼパム	投与直前(トラフ) 但し、抗てんかん剤として用いる場合
ジアゼパム	投与直前(トラフ) 但し、抗てんかん剤として用いる場合
レベチラセタム	投与直前(トラフ)
<b>精神神経用剤</b>	
炭酸リチウム	早朝投与前(トラフ)
ハロペリドール	投与直前(トラフ)
フロムペリドール	投与直前(トラフ)
<b>抗炎症、リウマチ剤</b>	
サリチル酸	投与直前(トラフ)
<b>強心剤</b>	
ジゴキシン	経口：投与後6時間～投与直前(トラフ) 静注：投与後4時間～投与直前(トラフ)
<b>不整脈用剤</b>	
プロパフェノン	—
塩酸ピルジカイノド	投与直前(トラフ)又は 経口：投与後1～2時間(ピーク)
コハク酸シベンゾリン	朝投与直前(トラフ)
プロカインアミド	投与直前(トラフ)
N-アセチルプロカインアミド	投与直前(トラフ)
プロプラノロール	投与直前(トラフ)
キニジン	投与直前(トラフ)

検査項目	採血時刻
<b>不整脈用剤</b>	
リドカイン	静注：投与後2時間 点滴静注：6～12時間
ジソピラミド	投与直前(トラフ)
アプリンジン	経口：投与直前(トラフ) 投与後2～4時間(ピーク) 静注：投与直前(トラフ)
メキシレチン	投与直前(トラフ)
フレカイノド	投与直前(トラフ)
ピルメノール	随時
アミオダロン	投与直前(トラフ)
ベプリジル	投与後3時間(ピーク)
<b>解熱鎮痛剤消炎剤</b>	
アセトアミノフェン	—
<b>抗悪性腫瘍剤</b>	
メトレキサート	メトレキサート・ロイコボリン救援療法時 24、48、72時間
エベロリムス(アフィニトール)	投与直前(トラフ)
<b>抗生物質</b>	
ゲンタマイシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
トブラマイシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
アミカシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
アルベカシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
バンコマイシン	点滴静注後1～2時間(ピーク) 投与直前(トラフ)
テイコプラニン	投与前30分以内(トラフ)
<b>免疫抑制剤</b>	
シクロスポリン	投与直前(トラフ)
タクロリムス	投与直前(トラフ)
エベロリムス(サーティカン)	投与直前(トラフ)
<b>その他</b>	
テオフィリン (気管支拡張剤)	投与直前(トラフ) (副作用：ピーク)

### 【採血時刻について】

- 維持投与量の調整のために行う場合の採血時刻を示します。
- 中毒症状を疑う場合は随時測定を実施する必要があります。

# 一般検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------



## 尿中一般物質定性、半定量検査

8014 1A030	比重 (6001) 1A030-0000-001-903	尿 10.0	C-3 冷蔵	屈折率法	1.005～1.030	1 2	(26)	緊急 (対象：糖定性、 ケトン体定性)  当該保険医療機関内で検査 を行った場合に算定する。
8013 1A035	pH (6002) 1A035-0000-001-911			試験紙法	5.0～8.0	1 2		
8001 1A010	蛋白定性 (6005) 1A010-0000-001-911			試験紙法	(-)	1 2		
8003 1A020	糖定性 (6007) 1A020-0000-001-911			試験紙法	(-)	1 2		
8005 1A040	ウロビリノーゲン定性 (6003) 1A040-0000-001-911			試験紙法	(+-)	1 2		
8007 1A055	ビリルビン定性 (6009) 1A055-0000-001-911			試験紙法	(-)	1 2		
8011 1A060	ケトン体(アセトン体)定性 (6010) 1A060-0000-001-911			試験紙法	(-)	1 2		
8012 1A100	潜血反応 (6011) 1A100-0000-001-911			試験紙法	(-)	1 2		
8080 1A075	白血球定性 (6083) 1A075-0000-001-911			試験紙法	(-)	1 2		
8030 1A080	亜硝酸塩 (6078) 1A080-0000-001-911			試験紙法	(-)	1 2		

## 尿中特殊物質定性定量検査

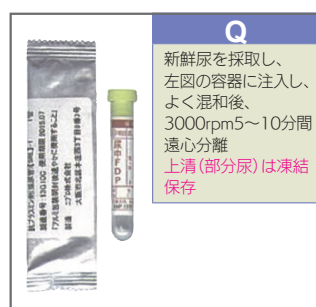
8002 1A015	蛋白定量 (6006) 1A015-0000-004-271 1A015-0000-001-271	蓄尿 3.0 又は 尿 3.0	C-1 又は C-3 冷蔵	ピロガロールレッド法	蓄尿 20～120 mg/day 随時尿 10以下 mg/dL	1 2	7 尿・便	蓄尿の項目コードは (8302)です。
7994 1A015	蛋白定量クレアチニン換算値 (尿蛋白/クレアチニン比) (6498) 1A015-0000-001-271	尿 3.0	C-3 冷蔵	計算法	0.11 以下  g/g・CRE	1 2	7 尿・便 ※1	蛋白定量と尿中クレアチニン も同時報告。 CKDの重症度分類(2012)に よる判定基準は検査案内24 頁参照。
8016 4E060	VMA 定性 (6016) 4E060-0000-001-901	尿 3.0	C-3 冷蔵	佐藤法	(-)	1 3	9 尿・便	
8028 1A110	ヘンスジョーンズ蛋白定性 (6017) 1A110-0000-001-920	尿 5.0	C-3 冷蔵	Putnum法	(-)	1 3		
8029 3J040	コプロポルフィリン定性 (5069) 3J040-0000-001-204	尿 5.0	I-1 遮光 冷蔵	蛍光法	(-)	1 3		

※1 蛋白定量と尿中クレアチニンも同時に測定しますので、報告書上に表記される実施料(点数)は18点になります。

	<b>C-1</b> 冷所に24時間蓄尿 混和、必要量提出 冷蔵保存 (尿量明記)		<b>I-1</b> 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (遮光保存)
	<b>C-3</b> 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (尿量記載の必要なし)		<b>I-2</b> 冷所に24時間蓄尿 尿量測定、混和、 必要量提出 冷蔵保存 (遮光保存)(尿量明記)

# 一般検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
<b>尿中特殊物質定性定量検査</b>								
8304 8004 1A025	糖定量 (6008) 1A025-0000-004-272 1A025-0000-001-272	蓄尿 3.0 又は 尿 3.0	C-1 又は C-3 冷蔵	電極法	蓄尿 0.040~0.085 g/day 随時尿 0.020 以下 g/dL	1 2	9 尿・便	
1084 3H045	浸透圧 (1184) 3H045-0000-001-902	尿 3.0	C-3 冷蔵	氷点降下法	50~1300 mOsm/kgH <sub>2</sub> O	1 3	16 尿・便	
1066 3B330	NAG (6018) 3B330-0000-001-271	尿 2.0	C-3 冷蔵	MPT-NAG 基質法	11.5 以下 U/L	1 2	41 尿・便	
2021 2B120	線維素分解産物 (尿中FDP) (2119) 2B120-0000-001-062	尿 2.0 ↓ 上清 0.5	Q ↓ G-1 凍結	LPIA 法	100 以下 ng/mL	3 7	72 尿・便	* 4
3592 3J075	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA) (5067) 3J075-0000-004-204	蓄尿 1.0	I-2 遮光 冷蔵	HPLC 法	2.0 以下 mg/day	3 6	109 尿・便	17 頁参照 * イ
3593 3J065	ポルフォビリノーゲン定量 (5068) 3J065-0000-004-271	蓄尿 3.0	I-2 遮光 冷蔵	比色法 M・G変法	2.0 以下 mg/day	3 9	191 尿・便	* E
3594 3J050	ウロポルフィリン定量 (5071) 3J050-0000-001-204	尿 2.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC 法	36 以下 μg/g・クレアチニン	4 7	105 尿・便	* 4
3595 3J040	コプロポルフィリン定量 (5299) 3J040-0000-001-204	尿 2.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC 法	170 以下 μg/g・クレアチニン	4 7	131 尿・便	* 4
3243 3A015	尿中アルブミン定量	蓄尿 1.0	C-1 冷蔵	TIA 法	30.0 未満 mg/day	1 2	99 尿・便	トランスフェリン(尿中)、アルブミン定量及び尿中Ⅳ型コラーゲンは、早期糖尿病性腎症患者であって微量アルブミン尿を伴うもの(糖尿病性腎症第Ⅰ期又は第Ⅱ期のものに限る)に対して行った場合に、3ヶ月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
8375 3A015		尿 0.5	C-3 冷蔵		27.0 未満 mg/g・クレアチニン			



# 一般検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 尿中特殊物質定性定量検査

7560 5C134	尿中IV型コラーゲン (5357) 5C134-0000-001-023	尿 5.0 (早朝第一尿)	コ 冷蔵	EIA 法	30～39歳 4.0 以下 40歳以上 4.9 以下 (随時尿参考値 7.3 以下) μg/g・クレアチニン	4 10	184 尿・便	トランスフェリン(尿中)、アルブミン定量及び尿中IV型コラーゲンは、早期糖尿病性腎症患者であって微量アルブミン尿を伴うもの(糖尿病性腎症第I期又は第II期のものに限る)に対して行った場合に、3ヶ月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。 * E
4825 5C060	尿中トランスフェリン (5429) 5C060-0000-004-062 5C060-0000-001-062	尿 1.0	C-3 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	1.0 以下 mg/g・クレアチニン	2 4	101 尿・便	* A
0106 5C100	L-FABP (L型脂肪酸結合蛋白) (5162) 5C100-0000-001-052	尿 2.0	C-7 冷蔵	CLEIA 法	(クレアチニン換算値) 8.4 以下 μg/gCr	4 7	210 尿・便	・凍結及び、他項目との重複依頼はできません。 ・酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。 ・室温保存ではデータに影響が認められるため、すみやかに冷蔵して提出して下さい。 ※ 1 * 4

## 尿沈渣顕微鏡検査

— 1A105	尿沈渣 (尿沈渣顕微鏡検査) (6020) 1A105-0000-001-701	尿 10.0	C-7 冷蔵	鏡検法	赤血球 4 以下 白血球 4 以下	1 2	(27) 尿・便	凍結不可 当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。同一検体について当該検査と「D017」排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。
8156 1A105	尿沈渣 (尿沈渣顕微鏡検査) (染色した場合) (6085) 1A105-0000-001-735	尿 10.0	C-7 冷蔵					

注 尿中細菌顕微鏡検査は細菌の項に準ずる

## 糞便検査

8042 1B010	虫卵検査	虫卵(塗抹) (6025) 1B010-0000-015-701	糞便 拇指頭大	イ 冷蔵	直接塗抹法	(-)	1 2	20 尿・便	(検出可能な主要虫卵) 回虫卵、広節裂頭条虫、 便虫卵など
8043 1B015		虫卵(集卵) (6037) (6026) 1B015-0000-015-701 1B015-0000-015-701	糞便 拇指頭大	イ 冷蔵	浮遊法	(-)	1 2	15 尿・便	(検出可能な主要虫卵) 鉤虫卵など
8040 1B015				イ 冷蔵	沈殿法	(-)	1 2		(検出可能な主要虫卵) 肝吸虫卵、横川吸虫卵など

※ 1 原則として3月に1回に限り算定する。但し、医学的な必要からそれ以上算定する場合においては、その詳細な利用を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

	<b>C-1</b> 冷所に 24時間蓄尿 湿和、必要量提出 冷蔵保存 (尿量明記)	<b>C-7</b> 冷蔵保存 (凍結不可)
	<b>C-3</b> 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷 蔵保存(尿量記載 の必要なし)	
	<b>イ</b> 新鮮糞便を小指頭大 容器に取りしっかり フタを閉める	
	<b>コ</b> 1. 安静就寝後の起 床第1尿を検体 として下さい。 2. 採取後すみやか に専用容器に移 し、添加剤が溶 けるまで湿和後、 冷蔵保存して下 さい。 3. 他項目との重複 依頼は避けて下 さい。	

# 一般検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 糞便検査


1B020	虫体検出 (6032) 1B020-0000-015-701	※1	※2	目視及び鏡検法	(-)	1 7	23 尿・便	(虫体) 鑑別した上でご報告します。 (虫体の存在が疑われる材料) 有無を確認し虫体が認められ た場合、鑑別してご報告します。
9711 1日法 (9712) 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血LA) 定性 (6036) (6120) 1B040-1351-015-062 1B040-1351-015-062	糞便 専用容器	□ 冷蔵	ラテックス凝集法	(-)	2 4	37 尿・便	120頁参照
9727 1日法 (9728) 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血LA) 定量 (6090) (6117) 1B040-1352-015-062 1B040-1352-015-062				100以下(-)  ng/mL	2 4	41 尿・便	
9577 1日法 (9578) 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血金コロイド) 定性 (6521) (6522) 1B040-1351-015-195 1B040-1351-015-195	糞便 専用容器 ※3	ヒ 冷蔵	金コロイド凝集法	(-)	2 4	37 尿・便	120頁参照
9574 1日法 (9575) 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血金コロイド) 定量 (6526) (6527) 1B040-1352-015-195 1B040-1352-015-195				100未満(-)  ng/mL		41 尿・便	
9571 1日法 (9572) 2日法 1B042	ヘモグロビン・トランスフェリン (Hb・Tf) 定性 (6532) (6533) 1B042-1351-015-195 1B042-1351-015-195	糞便 専用容器 ※3	ヒ 冷蔵	金コロイド凝集法	判定(-) Hb (-) Tf (-)	2 4	56 尿・便	120頁参照
9574 9580 1日法 (9575) (9581) 2日法 1B042	ヘモグロビン・トランスフェリン (Hb・Tf) 定量 (6544) (6545) 1B042-1352-015-195 1B042-1352-015-195				判定(-) Hb 100未満(-) Tf 50未満(-) ng/mL		56 尿・便	

※1 虫体又は虫体の存在が疑われる材料をご提出下さい。

※2 虫体の場合、10%ホルマリン又は70%アルコールにて固定して、虫体の大きさにあうサイズの容器でご提出下さい。虫体の存在が疑われる材料の場合、その材料に適合した容器をご使用下さい。

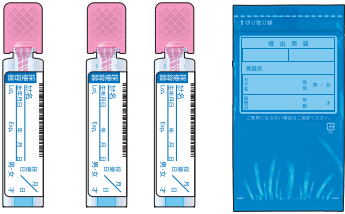
※3 1本の採便容器でヘモグロビンとトランスフェリンの測定が可能です。

**□**



- 専用容器のラベルに必要事項を記入して下さい。
- キャップを引き抜きキャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり先端のらせん部分の溝が埋まる程度採取して下さい。
- キャップを容器に差し込みしっかり閉めて下さい。  
(容器内の液を捨てないで採取して下さい)  
冷蔵保存

**ヒ**



- 採便スティックを回し、容器より抜く。
- 採便スティックの溝が埋まる程度に便の表面をまんべんなくこすり取る。(取りすぎ、少なすぎは不可)
- 容器に採便スティックを1回で差し込み、しっかり閉める。

1日法用      2日法用

# 一般検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 精液一般検査


8111	量 (6497) 1Z992-0000-060-920	精液全量	X-3 常温		(参考基準) 2.0 以上 ※1 mL	1 2	70 尿・便	120頁参照
8112	pH (6497) 1Z992-0000-060-901			試験紙法	(参考基準) 7.2 以上 ※1	1 2		
8113	精子濃度 (6497) 1Z992-0000-060-920			鏡検法	(参考基準) $20 \times 10^6$ 以上 ※1 /mL	1 2		
8114	奇形精子率 (6497) 1Z992-0000-060-920			鏡検法	(参考基準) 15 以下 ※1 %	1 2		
8115	運動率 (6497) 1Z992-0000-060-920			鏡検法	(参考基準) 50 以上 ※1 %	1 2		

## 髄液一般検査

3947 5A150	オリゴクローナルバンド 〔等電点電気泳動法〕 (4529) 5A150-0000-098-236	血清1.0 及び 髄液1.0 注1	G-2 又は X-2 冷蔵	等電点電気泳動法	検出せず	11 15	522 尿・便	多発性硬化症の診断の目的 で行った場合に算定する。 * 4
---------------	---	----------------------------	------------------------	----------	------	----------	------------	-------------------------------------

注1 他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

※1 射精後2時間以内に検査した場合の基準となります。



G-2

血清分離  
冷蔵保存  
(ゴム栓不可)  
ポリ試験管使用



X-1

必要量採取  
冷蔵保存  
(凍結不可)

X-5

必要量採取  
(必ず凍結保存)

X-3

必要量採取  
常温保存  
(凍結不可)

X-2

必要量採取  
冷蔵保存

実施料について(生化I)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合	
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化I 93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化I 99点
3.	10項目以上の場合 生化I 106点

# 一般検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
髄液一般検査								
4051 1C020	比重 (6044) 1C020-0000-041-903	髄液 5.0	X-1 冷蔵	屈折計法	1.005～1.007	1 2		
8124 1C025	pH (6045) 1C025-0000-041-920			PHメータ法	7.4～7.6	1 2		
4053 1C045	ノンネアペルト反応 (6046) 1C045-0000-041-920			ノンネアペルト法	(-)	1 2		
4054 1C040	パンディ反応 (6047) 1C040-0000-041-920			パンディ法	(-)～(1+)	1 2	62 尿・便	凍結不可 120頁参照
4052 1C030	細胞数 (6048) 1C030-0000-041-920			鏡検法	5 以下  / μL	1 2		
4058 1C050	トリプトファン反応 (6055) 1C050-0000-041-920			里見変法	(-)	1 2		
8996 1C035	細胞種類 (6073) 1C035-0000-041-920			鏡検法	単核球 多核球 その他  %	1 4		
4055 1C010	蛋白定量 (6050) 1C010-0000-041-271			ピロガロールレッド法	10～40  mg/dL	1 2	11 生化I	
4056 1C015	糖定量 (6051) 1C015-0000-041-262			電極法	50～75  mg/dL	1 2	11 生化I	
— 3H010	ナトリウム (Na) (6052) 3H010-0000-041-261			電極法	130～150  mEq/L	1 2	11 生化I	
4057 3H020	クロール (Cl) (6054) 3H020-0000-041-261	電極法	120～125  mEq/L	1 2				
— 3H015	カリウム (K) (6053) 3H015-0000-041-261	電極法	2.5～3.5  mEq/L	1 2	11 生化I			

一  
般

# 一般検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## その他の穿刺液・採取液検査

8263	ムチン塊形成試験 (6038)	関節液 5.0	X-1 冷蔵	酢酸加反応	正常(3+)	1 2		
8259 1Z050	ルンベルグ反応 (6039) 1Z050-0000-040-920	穿刺液 1.0	X-1 冷蔵	硝酸沈降反応		1 2		
8203 1Z035	リバルタ反応 (6041) 1Z035-0000-040-920	穿刺液 0.5	X-1 冷蔵	酢酸沈殿法		1 2		
8204 1Z020	比重 (6040) 1Z020-0000-040-903	穿刺液 0.5	X-1 冷蔵	屈折計法		1 2		
8261	pH (6088)	穿刺液 1.0	X-1 冷蔵	PHメーター法		1 2		
2892 1Z045	沈渣 (6043) 1Z045-0000-040-920	穿刺液 5.0	X-1 冷蔵	鏡検法	/HPF	1 4		凍結不可 120頁参照
8252 1Z030	細胞種類 (6086) 1Z030-0000-040-920	穿刺液 5.0	X-1 冷蔵	鏡検法		1 4		
8251 1Z025	細胞数 (6087) 1Z025-0000-040-920	穿刺液 5.0	X-1 冷蔵	鏡検法	/ $\mu$ L	1 2		

一般

 <p><b>B-1</b></p> <p>採血後、静かに 約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)</p> <p>EDTA-2K 2mL用</p>	 <p><b>X-1</b></p> <p>必要量採取 冷蔵保存 (凍結不可)</p>	 <p><b>X2</b></p> <p>常温保存</p>
---	--	--

### 実施料について(生化I)

一回に採取した血液を用いて  
青色で表記されている検査を  
5項目以上行った場合

1. 5項目以上7項目以下の場合  
生化I 93点
2. 8項目又は9項目の場合  
生化I 99点
3. 10項目以上の場合  
生化I 106点



# 一般検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## その他の穿刺液・採取液検査

8201 1Z010	蛋白定量 (6042) 1Z010-0000-040-903	穿刺液 0.5	X-1 冷蔵	Biuret法	g/dL	1 2	11 生化I	
8202 1Z015	糖定量 (6089) 1Z015-0000-040-262	穿刺液 1.0	X-1 冷蔵	電極法	mg/dL	1 2	11 生化I	
4290 1Z505	関節液結晶 (6107) 1Z505-0000-044-920	関節液 1.0	X-1 冷蔵	鏡検法	ピロリン酸Ca (-) 尿酸Na (-)	2 3		
5091 1Z025	有核細胞数 (2152) 1Z025-0000-046-920	骨髓液 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	100,000~250,000	1 3		凍結不可
5092 1Z025	巨核細胞数 (2053) 1Z025-1301-046-920	骨髓液 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	50~150 / μL	1 3		凍結不可
8071 2A300	鼻汁中好酸球 (6063) 2A300-0000-094-603	鼻汁 塗抹標本	X2 常温	鏡検法	(-)	1 4	15 血液	脱脂スライドガラス使用
8072 2A300	喀痰中好酸球 (6067) 2A090-0000-094-603	喀痰 塗抹標本	X2 常温	鏡検法	(-)	1 4	15 血液	脱脂スライドガラス使用

### 実施料について(生化I)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

- 5項目以上7項目以下の場合  
生化I 93点
- 8項目又は9項目の場合  
生化I 99点
- 10項目以上の場合  
生化I 106点

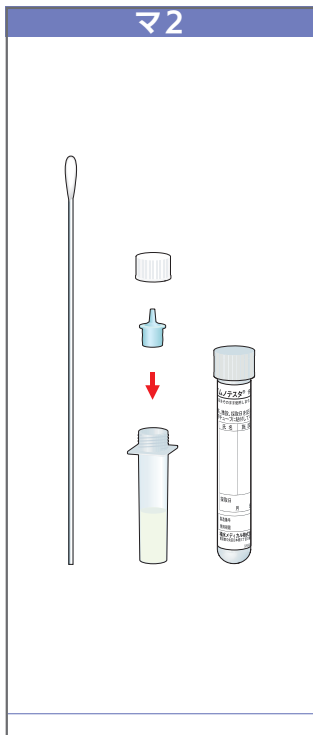
# 一般検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## その他の穿刺液・採取液検査

3913 5C111	癌胎児性フィブロネクチン 定性 (頸管膈分泌液) (5174) 5C111-0000-067-023	膈分泌液	マ2 凍結	EIA法	(-)	2 5	204 免疫	破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象とした場合のみ算定する。*イ
3914 3B200	顆粒球エラスターゼ (子宮頸管粘液) (5372) 3B200-0000-058-062	子宮頸管 粘液	テ 凍結	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	1.6 以下  μg/mL	3 4	119 尿・便	絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合算定する。*E

### マ2



① 専用綿棒を後脛円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。(脛表面を強くこすらないで下さい。)

② 検体抽出容器の白色キャップをはずし、分泌液を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。(この際、容器から液がこぼれないよう注意して下さい。)

③ 綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。

④ 検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。

⑤ 検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて下さい。シールを貼り、凍結保存して下さい。

⑥ 測定試料

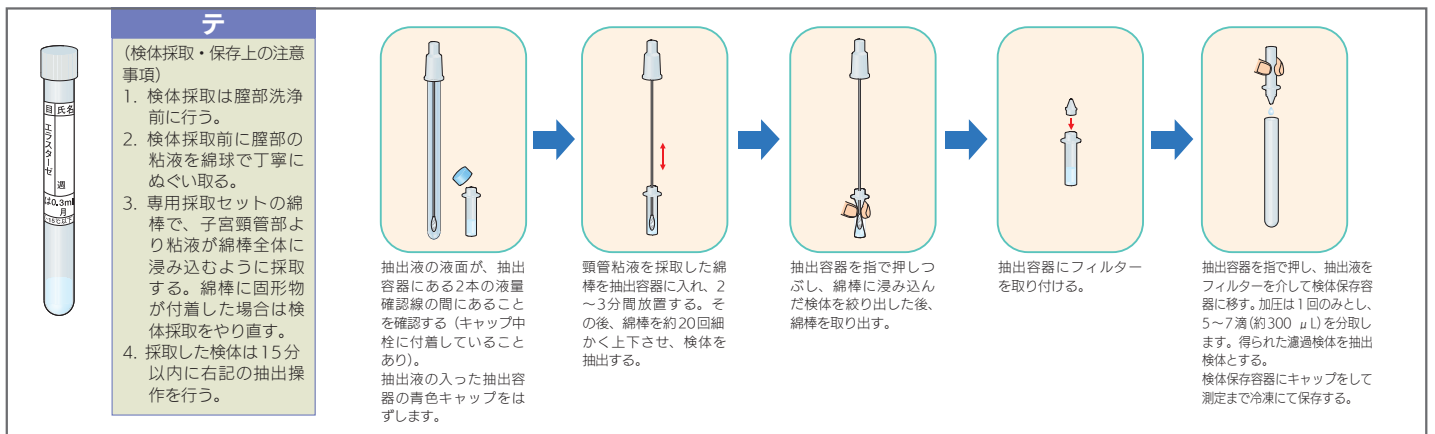
注意事項

- 検体の採取は盥洗浄前に行ってください。
- 検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないで下さい。
- 検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。

### テ

(検体採取・保存上の注意事項)

- 検体採取は膈部洗浄前に行う。
- 検体採取前に膈部の粘液を綿球で丁寧にぬぐい取る。
- 専用採取セットの綿棒で、子宮頸管部より粘液が綿棒全体に浸み込むように採取する。綿棒に固形物が付着した場合は検体採取をやり直す。
- 採取した検体は15分以内に右記の抽出操作を行う。



抽出液の液面が、抽出容器にある2本の液量確認線の間にあることを確認する(キャップ中に付着していることあり)。抽出液の入った抽出容器の青色キャップをはずします。

頸管粘液を採取した綿棒を抽出容器に入れ、2~3分間放置する。その後、綿棒を約20回細かく上下させ、検体を抽出する。

抽出容器を指で押しつぶし、綿棒に浸み込んだ検体を絞り出した後、綿棒を取り出す。

抽出容器にフィルターを取り付ける。

抽出容器を指で押し、抽出液をフィルターを介して検体保存容器に移す。加圧は1回のみとし、5~7滴(約300 μL)を分取します。得られた濾過検体を抽出検体とする。検体保存容器にキャップをして測定まで冷凍にて保存する。

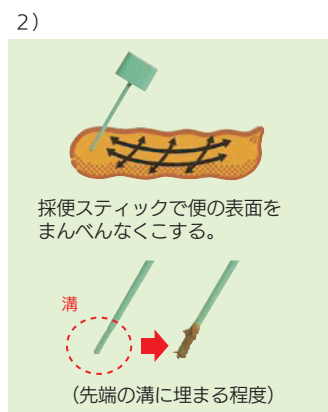
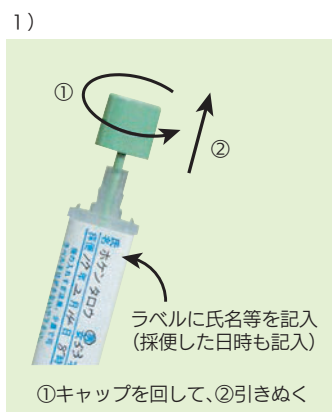
## 一般検査検体の採取方法と注意事項

### 虫卵検査

- 虫卵（塗抹）、（集卵）検査では、拇指頭大の自然排泄便を糞便検査汎用容器（イ）に入れて下さい。  
採集後は冷蔵保存して下さい。

### 便潜血検査：ヘモグロビン（潜血 LA）

- 1) 専用容器のラベルに必要事項を記入し、キャップを引き抜いて下さい。
- 2) キャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり、先端のらせん部分の溝が埋まる程度採取して下さい。
- 3) キャップを容器に差し込みしっかり閉めて下さい。（容器内の液を捨てないで下さい。）
- 4) 採集後は冷蔵保存して下さい。

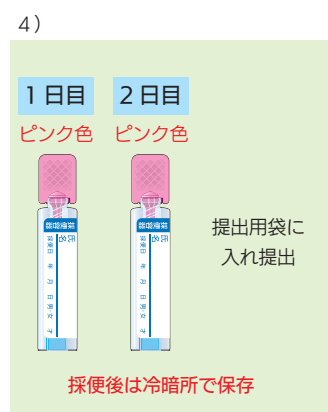
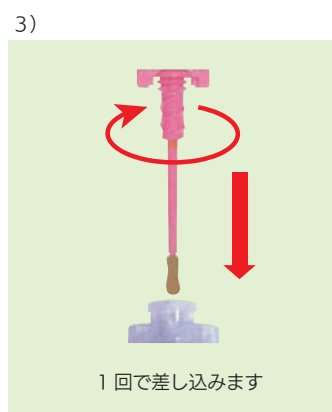
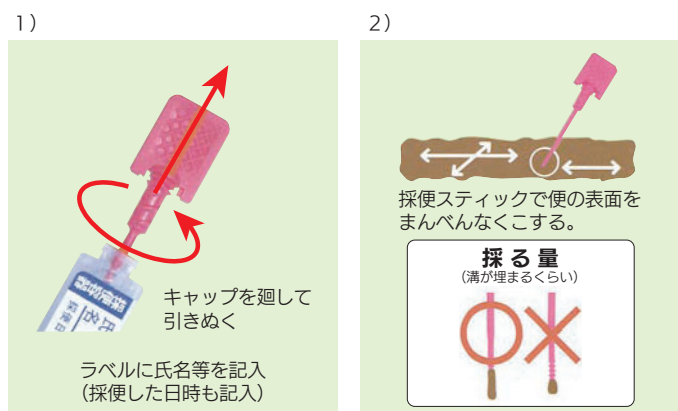


### 精液一般検査

- 1) 4～5日の禁欲後、陰茎を洗浄し、マスターベーションによって精液を清潔な乾いた密封容器に採取して、室温で保存して下さい。
- 2) 採取に当たっては、コンドームやティッシュペーパーを用いて採取しないで下さい。
- 3) 射精後、2時間以上経過した検体での検査は不適です。

### 便潜血検査：ヘモグロビン（潜血金コロイド） ヘモグロビン・トランスフェリン

- 1) 採便スティックを回し、容器より抜く。
- 2) 採便スティックの溝が埋まる程度に便の表面をまんべんなくこすり取る。（取り過ぎ、少なすぎは不可）
- 3) 容器に採便スティックを1回で差し込み、しっかり閉める。（容器内の液を捨てないで下さい。）
- 4) 採集後は冷蔵保存して下さい。



### 髄液一般検査

- 1) 髄液一般検査は抗凝固剤が入っていない滅菌容器に採取し、提出まで冷蔵保存して下さい。（ヘパリンは、細胞数算定時にサムソン液と反応し、微粒子が生じて検査の障害になります）
- 2) 細胞数・細胞種類検査時には変性や崩壊の影響を避けるため、緊急検査でのご依頼をお勧めします。

### その他の穿刺液・採取液検査

- 1) その他の穿刺液・採取液は滅菌容器に採取し、冷蔵保存して下さい。血液が混入している場合は、抗凝固剤（クエン酸 Na、EDTA、又はヘパリンなど）を加えて下さい。但し、細胞数依頼時にはヘパリンは使用しないで下さい。（上記、髄液一般検査をご参照下さい）
- 2) 関節液は抗凝固剤が入っていない滅菌容器を使用して下さい。抗凝固剤の EDTA を加えた場合はピロリン酸 Ca 結晶が溶解することがあります。

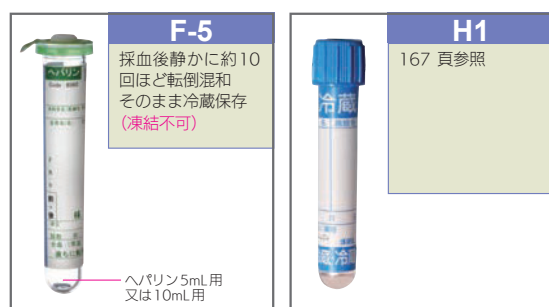
# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 先天性疾患 染色体検査

1900 8B200	倫理指針対象 曜日指定 <b>染色体 G-banding</b> (7291) 8B200-0000-019-403	全血 3.0	F-5 冷蔵	G-band法		8 ~ 17		凍結不可 受託可能日は月～金曜日 です。 * 4
— 8B453	倫理指針対象 曜日指定 <b>15 染色体</b> (プラダーウィリ症候群) (7819) 8B453-0000-019-841	全血 3.0		FISH法		9 ~ 13	2553 + 397 遺伝子	凍結不可 受託可能日は月～金曜日 です。 厚生労働大臣が定める施設基準に 適合しているものとして地方厚生 局長等に届け出た保険医療機関に おいて行われる場合に限り遺伝学 的検査5,000点を算定する。検査 の実施に当たっては厚生労働省 「医療・介護関係事業者における 個人情報の適切な取扱いのための ガイドライン」(平成28年4月)及 び関係学会による「医療における 遺伝学的検査・診断に関するガイ ドライン」(平成23年2月)の遵守 が必要です。 * 4
— 8B454	倫理指針対象 曜日指定 <b>15 染色体</b> (アンジェルマン症候群) (7818) 8B454-0000-019-841	全血 3.0				9 ~ 11		* 4
— 8B523	倫理指針対象 曜日指定 <b>22 染色体</b> (22q11 欠失) (7820) 8B523-0000-019-841	全血 3.0				9 ~ 11		* 4

●先天性疾患の検査依頼に当たりましては、検査実施前に被検者(親権者、代諾者)に対して、検査の目的、方法、精度、限界、結果の開示方法等について十分な説明がなされ、被検者の自由意志による同意(インフォームド・コンセント)が文書により得られている確認のご署名を、依頼書へお願いいたします。



# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 血液疾患 染色体検査

0080 8B220	<b>G-band 法</b> 8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403 8B220-0000-070-403	骨髄液 1.0	H-1 冷蔵	骨髓培養法 G-band法		9 } 15		凍結不可 全血検体の場合、末梢血中にblast細胞が多数出現していないと分析できません。 G-band標本の状態によっては、Q-band法、又はギムザ単染色法にて分析を行うことがありま すので予めご了承下さい。 * 4
1910 8B220		全血 5.0	F-5 冷蔵	G-band法		9 } 15		
— 8B220		その他 ※1	※1 冷蔵	G-band法				
— 8B395	<b>BCR-ABL1 t(9;22)転座</b> (7300) 8B395-0000-019-841 8B395-0000-046-841	全血 5.0	F-5 冷蔵	FISH法		8 } 11		
— 8B455		骨髄液 1.0	H-1 冷蔵					
— 8B455	<b>PML-RARA t(15;17)転座</b> (7299) 8B455-0000-019-841 8B455-0000-046-841	全血 5.0	F-5 冷蔵	FISH法		7 } 10		
— 8B385		骨髄液 1.0	H-1 冷蔵					
— 8B385	<b>RUNX1-RUNX1T1 (AML1-MTG8) t(8;21)転座</b> (7821) 8B385-0000-019-841 8B385-0000-046-841	全血 5.0	F-5 冷蔵	FISH法		8 } 11		
— 8B475		骨髄液 1.0	H-1 冷蔵					
— 8B475	<b>TP53 del(17)短腕欠失</b> (7596) 8B475-0000-019-841 8B475-0000-046-841	全血 5.0	F-5 冷蔵	FISH法		8 } 11	2553 + 397 遺伝子	
— 8B344		骨髄液 1.0	H-1 冷蔵					
— 8B445	<b>IGH-FGFR3 t(4;14)転座</b> (7595) 8B344-0000-019-841 8B344-0000-046-841	全血 5.0	F-5 冷蔵	FISH法		8 } 11		
— 8B445		骨髄液 1.0	H-1 冷蔵					
— 8B445	<b>IGH-MAF t(14;16)転座</b> (7594) 8B445-0000-019-841 8B445-0000-046-841	全血 5.0	F-5 冷蔵	FISH法		8 } 11		
— 8B414		骨髄液 1.0	H-1 冷蔵					
— 8B414	<b>IGH-CCND1 t(11;14)転座</b> (7865) 8B414-0000-019-841 8B414-0000-046-841	全血 5.0	F-5 冷蔵	FISH法		8 } 11		凍結不可 左記の項目以外をご希望の場合は 担当営業員までご相談下さい。
— 8B384		骨髄液 1.0	H-1 冷蔵					
— 8B384	<b>IGH-MYC t(8;14)転座</b> (7423) 8B384-0000-019-841 8B384-0000-046-841	全血 5.0	F-5 冷蔵	FISH法		8 } 11		
— 8B434		骨髄液 1.0	H-1 冷蔵					
— 8B434	<b>D13S319 del(13)長腕欠失</b> (7597) 8B434-0000-019-841 8B434-0000-046-841	全血 5.0	F-5 冷蔵	FISH法		8 } 11		
— 8B317		骨髄液 1.0	H-1 冷蔵					
— 8B317	<b>CKS1B 1q21増幅</b> (7667) 8B317-0000-019-841 8B317-0000-046-841	全血 5.0	F-5 冷蔵	FISH法		8 } 11		
— 8B317		骨髄液 1.0	H-1 冷蔵					

受託可能日は月～金曜日です。

※1 その他検体材料で提出される場合は、事前に担当営業員までご相談下さい。

FISH法 対象となる主な疾患

BCR-ABL1 t(9;22)転座	t(9;22)(q34;q11.2)を有するCML、ALL、AML
PML-RARA t(15;17)転座	t(15;17)(q22;q21)を有するAML
RUNX1-RUNX1T1 (AML1-ETO) t(8;21)転座	t(8;21)(q22;q22)を有するAML

# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
細胞表面マーカー								
2093 51021	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgG (7012) 51021-0000-019-662	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～3 %	4 6	157 免疫	※1
2094 51022	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgA (7013) 51022-0000-019-662	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～3 %			
2095 51023	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgM (7014) 51023-0000-019-662	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	3～12 %			
2096 51024	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgD (7094) 51024-0000-019-662	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～10 %			
2097 51025	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) K (7015) 51025-0000-019-662	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	3～8 %			
2098 51026	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) L (7016) 51026-0000-019-662	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～5 %			
2030 51020	曜日指定 T細胞・B細胞百分率 (CD3、CD19) (7007) 51020-0000-019-662	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	T細胞 (CD3) 66～89 B細胞 (CD19) 4～13 %			
— 51070 51082	曜日指定 T細胞サブセット (CD4、CD8) (7391) 51702-0000-019-662	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD4 : 25.0～54.0 CD8 : 23.0～56.0 CD4/CD8 : 0.4～2.3 %	4 6	185 免疫	リンパ球の少ない患者の場 合、採血量を増やして下さい。 * 4

※1 細胞性免疫検査のご依頼について

1. 検体は常温で保存して下さい。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。受付可能日は月～金曜日です。
3. 検体は採取後、当日中にご提出下さい。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血して下さい。

【B細胞表面免疫グロブリンのご依頼について】

・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。



# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 細胞表面マーカー

( )	<div style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px; display: inline-block;">曜日指定</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px; display: inline-block;">予約検査</div>	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	下表参照	4 } 6		※1 実施項目一覧は下表を ご参照下さい。
-----	---	--------	-----------	-------------	------	-------------	--	-----------------------------

\*4

### ●モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析

	CDnumber	基準値(%)	特異性
T細胞	CD1a	1.0 以下	胸腺細胞
	CD2	71.0~91.0	汎T細胞
	CD3	58.0~84.0	成熟T細胞
	CD4	25.0~54.0	インデューサー/ヘルパーT細胞
	CD5	60.0~90.0	PanT細胞、B細胞の一部
	CD7	72.0~90.0	汎T細胞
	CD8	23.0~56.0	サブレッサー/サイトトキシクT細胞
	CD25	8.0~34.0	IL-2レセプター
B細胞	CD19	5.0~24.0	PanB細胞
	CD20	3.0~20.0	PanB細胞
	CD21	3.0~18.0	B細胞
骨髄細胞	CD11b	18.0~49.0	NK細胞、サブレッサーT細胞の一部
	CD13	9.0 以下	骨髄細胞(AMLの75%に反応)
	CD14	5.0 以下	単球
	CD33	5.0 以下	骨髄細胞(AMLの30%に反応)

	CDnumber	基準値(%)	特異性
特殊細胞	CD10	1.0 以下	CALLA、PreB細胞など
	CD16	6.0~39.0	NK細胞、好中球
	CD38	18.0~59.0	前駆細胞、活性化細胞
	CD57	4.0~45.0	T細胞とNK細胞サブセット
	(抗HLA-DR)	11.0~46.0	B細胞、活性化T細胞、単球

- 1) 免疫調節のパラメーター  
CD4/CD8比は免疫調節機能の指標として有用性が認められています。  
CD4とCD8を同一検体で同時に依頼された場合はCD4/CD8比も報告させていただきます。
- 2) 上記以外の抗体による細胞表面マーカーの解析を希望される場合は、営業員又は直接当社までご相談下さい。
- 3) 通常の場合リンパ球の細胞群で解析します。それ以外の細胞群での解析の場合は、予めご指示下さい。

#### ※1 細胞性免疫検査のご依頼について

1. 検体は常温で保存して下さい。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。受付可能日は月～金曜日です。
3. 検体は採取後、当日中にご提出下さい。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血して下さい。

#### 【モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析のご依頼について】

- ・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。

# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
( )	<b>曜日指定</b> Two-color 解析による リンパ球表面マーカー検査 ( )	全血 3.0	F-4 常温	TWO-Color フローサイトメトリー法	TWO-Color解析による リンパ球表面マーカー 検査一覧参照	4 6 %		※1 実施項目一覧は「Two-color解 析によるリンパ球表面マーカー 検査一覧」をご参照下さい。 * 4

## 細胞表面マーカー

### ● Two-color 解析によるリンパ球表面マーカー検査一覧

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
— 51701	<b>曜日指定</b> CD4 × CD29 (7303) 51701-0000-019-662	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD4-CD29+ 22.0 ~ 59.0 CD4-CD29- 12.0 ~ 38.0 CD4+CD29- 9.0 ~ 34.0 CD4+CD29+ 11.0 ~ 26.0	4 6	190 免疫	休日の前日は受付できません。 ※1 * 4
— 51700	<b>曜日指定</b> CD4 × CD45RA (7308) 51700-0000-019-662	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD4-CD45RA+ 30.0 ~ 57.0 CD4-CD45RA- 5.0 ~ 23.0 CD4+CD45RA- 15.0 ~ 34.0 CD4+CD45RA+ 9.0 ~ 37.0	4 6	190 免疫	休日の前日は受付できません。 ※1 * 4
— 51721	<b>曜日指定</b> CD57 × CD16 (7260) 51721-0000-019-662	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD57-CD16+ 1.0 ~ 15.0 CD57-CD16- 49.0 ~ 87.0 CD57+CD16- 2.0 ~ 40.0 CD57+CD16+ 2.0 ~ 27.0	4 6	190 免疫	休日の前日は受付できません。 ※1 * 4
— 51710	<b>曜日指定</b> CD11b / CD8 (7321) 51710-0000-019-662	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD11b-CD8+ 11.0 ~ 40.0 CD11b-CD8- 29.0 ~ 64.0 CD11b+CD8- 8.0 ~ 32.0 CD11b+CD8+ 6.0 ~ 27.0 Bright 20.0以下 Dull 3.0 ~ 17.0以下	4 6	190 免疫	休日の前日は受付できません。 ※1 * 4
— 51706	<b>曜日指定</b> HLA-DR / CD4 (7326) 51706-0000-019-662	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	HLA-DR+CD4- 8.0 ~ 37.0 HLA-DR-CD4- 24.0 ~ 61.0 HLA-DR-CD4+ 22.0 ~ 51.0 HLA-DR+CD4+ 1.0 ~ 12.0	4 6	190 免疫	休日の前日は受付できません。 ※1 * 4
— 51707	<b>曜日指定</b> HLA-DR / CD8 (7331) 51707-0000-019-662	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	HLA-DR-CD8+ 15.0 ~ 49.0 HLA-DR-CD8- 28.0 ~ 62.0 HLA-DR+CD8- 6.0 ~ 25.0 HLA-DR+CD8+ 2.0 ~ 27.0	4 6	190 免疫	休日の前日は受付できません。 ※1 * 4

#### ※1 細胞性免疫検査のご依頼について

1. 検体は常温で保存して下さい。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。受付可能日は月～金曜日です。
3. 検体は採取後、当日中にご提出下さい。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血して下さい。

#### 【Two-color 解析によるリンパ球表面マーカー検査のご依頼について】

- ・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。





# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 細胞表面マーカー

— 5D596	曜日指定 CCR4 タンパク〔FCM〕 (7742) 5D596-0000-019-662	全血 5.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	陰性	4 〜 6	10000 血液	休日の前日は受付できません。 検体は採取後、当日中にご提出下さい。 ※1、※3 ※2 * 4
------------	--	--------	-----------	-------------	----	-------------	-------------	---

## 細胞表面マーカーセット検査

4499 3098	曜日指定 造血器悪性腫瘍細胞検査 白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)CD45ゲーティング (7107)	骨髓液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-4 常温	フローサイトメトリー法		4 〜 6	1940 血液	受託可能日は月～金曜日です。 検体は採取後、当日中にご提出下さい。 リンパ球の少ない患者の場合、採血量を増やして下さい。  実施項目は下記の一覧表をご参照下さい。  * 4
4498 4557	曜日指定 悪性リンパ腫解析検査 (MLA)CD45ゲーティング (7109)	リンパ節 又は 全血 5.0	H2 冷蔵 又は F-4 常温	フローサイトメトリー法		4 〜 6		

※1 「ボテリジオ（一般名：モガムリズマブ）」を投与された検体で実施した際には、正しい結果が得られないことがありますので、ご注意ください。本検査結果は、臨床症状や他の検査結果などを考慮して総合的に判断して下さい。

※2 CCR4 蛋白〔FCM〕及びCCR4〔IHC〕を同一の目的で行った場合には、原則としていずれか一方のみを算定する。但し、必要があって併せて行った場合には、診療報酬明細書の摘要欄にその理由を記載し、いずれの点数も算定できる。

※3 CCR4 タンパク〔FCM〕の注意事項  
モガムリズマブ（遺伝子組換え）の適応を判定するための補助に用います。ATL（Adult T-cell leukemia-lymphoma、成人T細胞白血病リンパ腫）の診断や治療効果の確認を目的とした使用については有効性が確認されていないので、そのような目的で使用しないで下さい。（試薬添付文書より）

【白血病・リンパ腫、悪性リンパ腫解析検査 CD45ゲーティングのご依頼について】  
・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。

## ●造血器悪性腫瘍細胞検査 セット内容一覧

No.	検査項目	セット内容
4499 3098	白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)CD45ゲーティング	CD1a, CD2, CD3, CD4, CD5, CD7, CD8, CD10, CD13, CD14, CD19, CD20, CD33, CD34, CD41, CD56, GP-A, 抗HLA-DR
4498 4557	悪性リンパ腫解析検査 (MLA)CD45ゲーティング	CD2, CD3, CD4, CD5, CD7, CD8, CD10, CD11c, CD16, CD19, CD20, CD23, CD25, CD30, CD34, CD56, κ-chain, λ-chain

 <p><b>F-4</b> 採血後静かに約10回ほど転倒混和 そのまま常温保存 (必ず無菌採血) (採血後24時間 以内に検査)</p> <p>ヘパリン5mL用 又は10mL用</p>	 <p><b>H1</b> 167 頁参照</p>	 <p><b>H2</b> 167 頁参照</p>
---	--	--

# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
5K160	<b>曜日指定</b> <b>予約検査</b> <b>MLC</b> (リンパ球混合培養試験) (7025) 5K160-0000-019-814	供血者 全血 <b>20.0</b> (提供者) 全血 <b>10.0</b> (非血縁者) 全血 <b>10.0</b>	<b>F-4</b> <b>常温</b>	<sup>3</sup> Hサイミジン取込法		10 } 12		予約検査 受託可能日は火～金曜日です。 休日の前日は受付できません。 * 4
2601 5K020	<b>曜日指定</b> <b>HLA-A, B (血清対応型タイピング)</b> (7223)	全血 <b>2.0</b> ※ 1	<b>E-6</b> <b>冷蔵</b>	PCR-rSSO法		4 } 7		凍結不可 受託可能日は月～金曜日です。
2602 5K065	<b>曜日指定</b> <b>HLA-DR (血清対応型タイピング)</b> (7379)	全血 <b>2.0</b> ※ 1	<b>E-6</b> <b>冷蔵</b>	PCR-rSSO法		4 } 8		凍結不可 受託可能日は月～金曜日です。 * 4
2603 5K116	<b>曜日指定</b> <b>HLA-A (DNA タイピング)</b> (7531) 5K116-0000-019-899	全血 <b>2.0</b> ※ 1	<b>E-6</b> <b>冷蔵</b>	PCR-SBT法		7 } 10		
2604 5K117	<b>曜日指定</b> <b>HLA-B (DNA タイピング)</b> (7532) 5K117-0000-019-899	全血 <b>2.0</b> ※ 1	<b>E-6</b> <b>冷蔵</b>	PCR-SBT法		7 } 10		
2605 5K118	<b>曜日指定</b> <b>HLA-C (DNA タイピング)</b> (7259) 5K118-0000-019-899	全血 <b>2.0</b> ※ 1	<b>E-6</b> <b>冷蔵</b>	PCR-SBT法		7 } 10		
2609 5K121	<b>曜日指定</b> <b>HLA-DPB1 (DNA タイピング)</b> (7808) 5K121-0000-019-899	全血 <b>2.0</b> ※ 1	<b>E-6</b> <b>冷蔵</b>	PCR-SBT法		7 } 10		凍結不可 受託可能日は月～金曜日です。
2606 5K120	<b>曜日指定</b> <b>HLA-DRB1 (DNA タイピング)</b> (7806) 5K120-0000-019-899	全血 <b>2.0</b> ※ 1	<b>E-6</b> <b>冷蔵</b>	PCR-SBT法		7 } 10		
2608 5K130	<b>曜日指定</b> <b>HLA-DQB1 (DNA タイピング)</b> (7807) 5K130-0000-019-899	全血 <b>2.0</b> ※ 1	<b>E-6</b> <b>冷蔵</b>	PCR-SBT法		7 } 10		* 4

※ 1 【HLA型判定、遺伝子型判定検査の留意点】

- 「HLA型判定、遺伝子型判定」の検体採取・保存に際しては、検体相互のcross contaminationを防ぐため、以下の点にご注意下さい。
  - ①真空採血管を使用し、採血して下さい。
  - ②素手で採血管のゴムキャップに触れないで下さい。
  - ③同一検体で他の項目との同時依頼をしないで下さい。
  - ④キャップの開封、分取などが必要な場合、必ず1検体ずつ処理して下さい。
- 複数項目を同時にご依頼の場合、HLA型判定A,B LocusおよびDR LocusはEDTA加血液2mL、HLA遺伝子型判定群では3項目までは同2mL、4項目以上は同4mLで検査可能です。ただし、DQA1は単独でEDTA加血液3mLが必要となります。
- 有核細胞数が少ない場合、単項目でも検査不能となることがあります。白血球数が3,000/μL以下の場合、所定量の2倍の血液をご提出下さい。
- 血液以外の材料により検査を希望される場合、予め受託可否についてお問い合わせ下さい。

# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 細胞機能検査

006E 51010	曜日指定 PHAによるリンパ球 幼若化検査 (7008) 51010-0000-019-814	全血 5.0	F-4 常温	<sup>3</sup> Hサイミジン取込能	PHA+ 20,500 ~ 56,800 CONTROL 127~456 (cpm)	8 9	345 免疫	受託可能日は月～金曜日です。 検体は採血後、当日中にご提出下さい。 リンパ球の少ない患者の場合、採血量を増やして下さい。
006F 51011	曜日指定 Con-Aによるリンパ球 幼若化検査 (7009) 51011-0000-019-814	全血 5.0	F-4 常温	<sup>3</sup> Hサイミジン取込能	Con-A+ 20,300 ~ 65,700 CONTROL 127~456 (cpm)	8 9	345 免疫	※1 *4
— 51014	曜日指定 薬剤によるリンパ球刺激 試験 (DLST) (7027) 51014-0000-019-814	1薬剤 血液 12.0 ※1薬剤増 ごとに 血液5.0mL 必要	F-4 常温	<sup>3</sup> Hサイミジン取込能	陰性	10 13	1 薬剤 345 2 薬剤 425 3 薬剤 以上 515 免疫	受託可能日は月～金曜日です。 検体は採血後、当日中にご提出下さい。 皮内反应用薬剤では検査できません。 ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は、採血にNK活性の専用容器を使用して下さい。 リンパ球の少ない患者の場合、採血量を増やして下さい。 ※1 *4
2069 51900	曜日指定 NK 細胞活性 (7718) 51900-0000-019-907	全血 5.0	NK 冷蔵	<sup>51</sup> Cr 遊離法	(参考値) 18~40 %	4 6		予約検査 受託可能日は月～金曜日です。 検体は採血後、当日中にご提出下さい。 *4

注1 麻薬及び向精神薬取締法(第二十四条及び第五十条の十六)、及び覚せい剤取締法(第十四条及び第十五条)に定められている規制薬剤は受領できませんのでご了承下さい。

注2 検体必要量は、薬剤を追加する毎に5.0mL増となります。

※1 リンパ球刺激試験(LST)(一連につき)は、Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである。

【NK細胞活性のご依頼について】

・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。

## HLAタイピングの種類

A locus		B locus				C locus	DR locus	
A1	A30 (19)	B5	B35	B50 (21)	B63 (15)	Cw1	DR1	DR14 ( 6 )
A2	A31 (19)	B7	B37	B51 ( 5 )	B64 (14)	Cw2	DR2	DR15 ( 2 )
A3	A32 (19)	B8	B38 (16)	B52 ( 5 )	B65 (14)	Cw3	DR3	DR16 ( 2 )
A9	A33 (19)	B12	B39 (16)	B53	B67	Cw4	DR4	DR17 ( 3 )
A10	A34 (10)	B13	B40	B54 (22)	B70	Cw5	DR5	DR18 ( 3 )
A11	A36	B14	B41	B55 (22)	B71 (70)	Cw6	DR6	
A19	A43	B15	B42	B56 (22)	B72 (70)	Cw7	DR7	
A23 ( 9 )	A66 (10)	B16	B44 (12)	B57 (17)	B73	Cw8	DR8	
A24 ( 9 )	A68 (28)	B17	B45 (12)	B58 (17)	B75 (15)	Cw9 ( 3 )	DR9	
A25 (10)	A69 (28)	B18	B46	B59	B76 (15)	Cw10 ( 3 )	DR10	
A26 (10)	A74 (19)	B21	B47	B60 (40)	B77 (15)	Cw12	DR11 ( 5 )	
A28	A80	B22	B48	B61 (40)	B78	Cw14	DR12 ( 5 )	
A29 (19)		B27	B49 (21)	B62 (15)	B81	Cw15	DR13 ( 6 )	

注 試薬ロットの変更により、抗原の種類が変わる場合があります。

**F-4**



採血後静かに約10  
回ほど転倒混和  
そのまま常温保存  
(必ず無菌採血)  
(採血後24時間)  
(以内に検査)

ヘパリン5mL用  
又は10mL用

**NK**



よく混和させ  
冷蔵保存して  
下さい。検体  
は採取後、当  
日中にご提出  
下さい。

# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 癌関連遺伝子検査

1172 8C051	EGFR 遺伝子変異解析 《血漿》 (7691) 8C051-9951-022-862	血漿 5.0	サ 凍結	リアルタイムPCR法		4 ～ 9	2100 遺伝子	※1、※2、※3  *イ
---------------	--	--------	---------	------------	--	-------------	-------------	--------------------

### 【EGFR遺伝子変異解析《血漿》のご依頼上の留意事項】

- ①EDTA-2Kの採血管を用いて採血後、必ず8時間以内に血漿分離を実施し、別容器(滅菌スピッツ)に分取して凍結保存して下さい。
- ②別容器(滅菌スピッツ)に血漿を分取する際には、白血球成分由来のゲノムDNAの混入を防ぐため、デカンテーションを行わないで下さい。
- ③他項目との重複依頼は避けて下さい。
- ④本検査はコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取および遠心分離後の血漿分取にあたっては取扱いに十分ご注意ください。
- ⑤血漿検査が先に実施され、EGFR 遺伝子変異陰性の結果が得られた場合には、可能な限り組織検査の実施を考慮して下さい。
- ⑥組織検査でEGFR T790M 変異陰性且つ血漿検査でEGFR T790M 変異陽性の集団が少なからず存在しますが、当該集団におけるオシメルチニブメシル酸塩の有効性は確認されていません。
- ⑦血漿検査は組織検査と完全に置き換わる検査ではありません。
- ⑧血漿検査の選択とその結果の解釈の際には、日本肺癌学会が発出している「肺癌患者におけるEGFR 遺伝子変異検査の手引き」等の最新の情報を参考にして下さい。  
※本検査で検出可能な変異のタイプにつきましては130頁の【EGFR 遺伝子変異解析《血漿》／リアルタイムPCR法】により検出が可能な変異のタイプをご参照下さい。

### ▼採血時の注意点

- ・専用EDTA-2K真空採血管をご使用ください。
- ・採血管の規定量の血液を採取してください。
- ・採血直後、ゆるやかに5～6回転倒混和を行ってください。
- ・転倒混和後の試験管を激しく振ったり、衝撃を加えたりしないでください。
- ・採血前に激しい運動は避けてください。

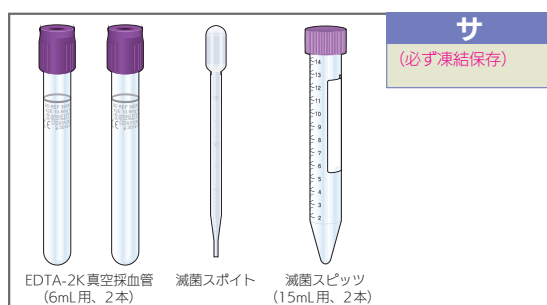
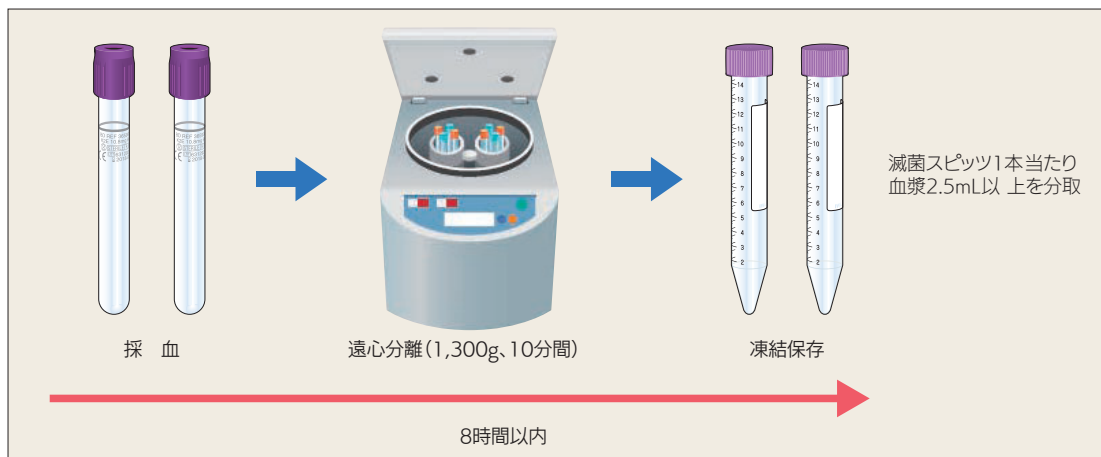
### ▼採血後処理の注意点

- ・採血後は常温にて遠心分離(1,300g、10分間)を実施してください。
- ・白血球由来のゲノムDNAの混入を避けるため、①専用採血管ごとに滅菌スポイトを用いて、血漿2.5mL以上を滅菌スピッツに移し換えてください。パフィーコートの混入が無いよう十分にご注意願います。
- ②デカンテーションによる分取は絶対に行わないでください。

### ▼血漿検体保存の注意点

- ・滅菌スピッツに分取した血漿は-20℃以下の冷凍庫にて凍結し、検体提出まで保存してください。
- ・採血から凍結保存までの作業は8時間以内に完了してください。

- ※1 肺癌の詳細な診断及び治療法を選択する場合、又は肺癌の再発や増悪により、EGFR 遺伝子変異の2次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する場合に、患者1人につきそれぞれの場合に1回に限り算定できる。但し、本検査の実施は、医学的な理由により、肺癌の組織を検体として、区分番号「D004-2」悪性腫瘍組織検査の「1」悪性腫瘍遺伝子検査の「イ」EGFR 遺伝子検査(リアルタイムPCR法)又は「ロ」EGFR 遺伝子検査(リアルタイムPCR法以外)を行うことが困難な場合に限る。
- ※2 EGFR 遺伝子検査(血漿)を実施した場合には、肺癌の組織を検体とした検査が実施困難である医学的な理由を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- ※3 EGFR 遺伝子検査(血漿)と、肺癌の組織を検体とした区分番号「D004-2」悪性腫瘍組織検査の「1」悪性腫瘍遺伝子検査の「イ」EGFR 遺伝子検査(リアルタイムPCR法)又は「ロ」EGFR 遺伝子検査(リアルタイムPCR法以外)を同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。



# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 癌関連遺伝子検査

0826 8C051	EGFR 遺伝子変異解析 〔リアルタイムPCR法〕 (7570) 8C051-9951-099-862	未染スライド 5～10枚 下記参照	X2 常温	リアルタイムPCR法		4 12	2500 遺伝子	他の検査と重複しないよう、 単独検体で提出して下さい。 ※1 *イ
2530 8C240	RAS/BRAF 遺伝子変異解析 (3658) 8C241-0000-099-898	未染スライド 5～10枚 下記参照	X2 常温	PCR-rSSO法		4 9	4000 遺伝子	他の検査と重複しないよう、 単独検体で提出して下さい。 ※ *イ

### 【EGFR遺伝子変異解析の留意事項】

- 未染スライドは、組織のホルマリン固定によりDNAが断片化されているため、固定の種類や固定時間などの条件、保存年数によっては解析不能ことがありますので、予めご了承下さい。
- 材料は予め病理組織的に鏡検され、腫瘍組織の存在が確認されていることが必要です。
- スライドの作成は、腫瘍細胞の確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより、連続切片にて作成願います。
- スライドの厚さは、DNA抽出用として10μmを5～10枚を提出して下さい。

※1 肺癌および大腸癌における本検査については、悪性腫瘍の詳細な診断及び治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った場合、患者1人につき1回に限り算定する。但し、肺癌における本検査については、再発や増悪により、2次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する必要がある場合にも算定できる。なお、当該検査を算定するに当たっては、その目的、結果及び選択した治療法を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

### 【EGFR遺伝子変異解析〔血漿〕／〔リアルタイムPCR法〕により検出可能な変異のタイプ】

EGFR遺伝子のエクソン18～21の42タイプの変異 ※の検出が可能です。

エクソン18	頻度	エクソン19	頻度	エクソン19	頻度	エクソン19	頻度	エクソン20	頻度	エクソン21	頻度
G719A <sup>6239</sup>	1.0%	Del <sup>6223</sup>	17.0%	Del <sup>12387</sup>	0.2%	Del <sup>13500</sup>	<0.1%	T790M <sup>6240</sup>	5.7%	L858R <sup>6224</sup>	41.3%
G719S <sup>6252</sup>	0.5%	Del <sup>6225</sup>	8.0%	Del <sup>6210</sup>	0.1%	Del <sup>12386</sup>	<0.1%	S768I <sup>6241</sup>	0.6%	L858R <sup>12429</sup>	<0.1%
G719C <sup>6253</sup>	0.8%	Del <sup>12370</sup>	2.7%	Del <sup>26038</sup>	0.1%	Del <sup>13552</sup>	<0.1%	Ins <sup>12376</sup>	0.2%	L861Q <sup>6213</sup>	1.5%
		Del <sup>12382</sup>	1.6%	Del <sup>13556</sup>	<0.1%	Del <sup>12385</sup>	<0.1%	Ins <sup>13428</sup>	0.3%		
		Del <sup>12389</sup>	0.9%	Del <sup>12422</sup>	<0.1%	Del <sup>12416</sup>	0.1%	Ins <sup>12378</sup>	<0.1%		
		Del <sup>12384</sup>	1.1%	Del <sup>6220</sup>	0.1%	Del <sup>18427</sup>	<0.1%	Ins <sup>12377</sup>	0.2%		
		Del <sup>6255</sup>	0.7%	Del <sup>13551</sup>	<0.1%	Del <sup>13551</sup>	<0.1%	Ins <sup>13558</sup>	<0.1%		
		Del <sup>12383</sup>	0.5%	Del <sup>12387</sup>	<0.1%	Del <sup>23571</sup>	0.1%				
		Del <sup>12678</sup>	0.4%	Del <sup>12419</sup>	<0.1%	Del <sup>12403</sup>	<0.1%				
		Del <sup>6218</sup>	0.3%	Del <sup>12728</sup>	0.1%						
		Del <sup>6254</sup>	0.5%								

※ COSMIC v.73.20150730

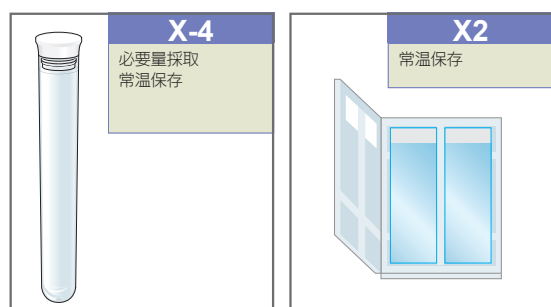
### 【BRAF V600 変異解析のご依頼時の留意事項】

- ホルマリン固定パラフィン包埋後12ヶ月以内(15～30℃保存)、未染スライド作成後60日以内の検体をご利用下さい。なお、強酸による脱灰操作をした検体では検査できません。
- 検査用の未染スライド、又は、パラフィン切片の他に、腫瘍が認められた部位をマーキングしたHE染色スライドも併せてご提出下さい。腫瘍細胞の含有率は50%以上が必要です。50%未満の場合、変異が検出できない恐れがあります。
- 未染スライド、又は、パラフィン切片は、5μm厚のものを5～10枚を提出して下さい。
- ご依頼時に「病理診断書のコピーを添付」又は、「依頼書に診断名を記入」の上、ご依頼下さい。

※2 本検査は、根治切除不能な悪性黒色腫瘍患者に対して、BRAF阻害剤の投与の適応を判断することを目的として、リアルタイムPCR法により行った場合に、当該薬剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定する。

### 【RAS/BRAF変異解析のご依頼時の留意事項】

- 未染スライドの厚さは、DNA抽出用として10μm厚で5～10枚を提出して下さい。
- 材料は予め病理組織的に鏡検され、腫瘍組織の存在が確認されていることが必要です。
- スライドの作成は、腫瘍細胞の確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより、連続切片にて作成願います。
- 未染スライドは組織のホルマリン固定により、DNAが断片化されているため、固定時間などの条件や保存年数によっては解析不能ことがありますので、予めご了承下さい。



# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 癌関連遺伝子検査

7516 8C986	倫理指针对象 マイクロサテライト不安定性検査 (HNPCC・リンチ症候群) (3669) 8C986-0000-070-856	未染スライド 5～10枚 又は 腫瘍組織 50 mg	X2 常温 又は X-5 凍結	マルチプレックスPCR- フラグメント解析		7 14	2100 遺伝子	
7509 8C986	マイクロサテライト不安定性 (MSI)検査(CDX) (3676) 8C986-0000-070-856	未染スライド 5～10枚 又は 腫瘍組織 50 mg	X2 常温 又は X-5 凍結	マルチプレックスPCR- フラグメント解析		7 14	2500 遺伝子	*イ

### 【ご依頼時の注意事項】

1. 病理報告書(腫瘍細胞が認められていること)のコピーを添付して下さい。
2. 新鮮凍結腫瘍組織で提出の場合、腫瘍部の割合が50%以上の組織をご提出下さい。又、未染スライドで提出の場合、腫瘍部の割合が50%未満の場合には腫瘍部位をマーキングしたHE染色スライドを添付してご提出下さい。
3. 尚、測定の結果、腫瘍部位のみの解析では判定できないパターンが認められた場合には、正常部位検体(正常部FFPE切片あるいは全血EDTA-2Na採血管3mL)の追加提出をお願いすることがあります。その場合、所要日数も延長になりますことを予めご了承下さい。
4. 未染スライドは、固定状態(固定液の種類、固定時間、保存状態)によっては、DNAが断片化してPCR増幅不良となり解析不可能となる場合があります。
5. 総合判定は、5種類のマーカー (BAT25、BAT26、NR21、NR24、MONO27)について解析して行います。
6. 「マイクロサテライト不安定性検査(HNPCC・リンチ症候群)」のご依頼には、「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。尚、ご報告は別紙報告書(親展)になります。
7. 「マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(CDX)」のご依頼には、汎用の依頼書(総合依頼書4など)をご利用下さい。

### ○マイクロサテライト不安定性検査の留意事項

本検査実施に当たっては、「家族性非ポリポーシス大腸癌\*におけるマイクロサテライト不安定性検査の実施についての見解と要望」(日本家族性腫瘍学会)より、「被験者に対して事前に遺伝性腫瘍の可能性について十分説明を行い、検査結果陽性の場合、家族性非ポリポーシス大腸癌における遺伝カウンセリング及び原因遺伝子の遺伝子検査が受けられる機会を提供する。また自施設で実施が困難な場合においては、対応可能な施設を紹介する等の配慮が必要と考えられる」とされており

\*家族性非ポリポーシス大腸癌：一般に遺伝性非ポリポーシス(性)大腸癌(Hereditary Nonpolyposis Colorectal Cancer : HNPCC)あるいはリンチ症候群等の病名で呼ばれる常染色体優性遺伝性疾患。



# 染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 薬剤関連遺伝子検査

0837 8C933	UGT1A1 遺伝子多型解析 (7462) 8C933-9956-019-999	全血 2.0	E-6 冷蔵	Quenching Probe (QP)法		3 } 7	2004 遺伝子	*イ
---------------	--	--------	-----------	--------------------------	--	----------	-------------	----

# 微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備考	
<b>塗抹鏡検</b>									
9201 9236 9218 9234 9219 6A010	細菌顕微鏡検査	一般細菌 6A010-0000-099-704	喀痰、尿/他	冷蔵	グラム染色	(-)	1 3	64 微生物	※1、2、3
		クリプトコッカス 6A105-0000-041-735	髄液		墨汁染色				※1、2、3
		真菌 6A105-0000-099-735	皮膚、爪、毛、落屑	※	KOH法	(-)	1 3	64 微生物	対象：糸状菌 (滅菌スピッツにて提出して下さい) ※1、2、3
		疥癬虫 6A010-0000-200-735	皮膚						対象：疥癬虫(ヒゼンダニ) (滅菌スピッツにて提出して下さい) ※1、2、3
		トリコモナス鏡検	膣分泌物、尿道分泌物、尿/他	常温	鏡検法	(-)	1 3	64 微生物	対象：トリコモナス原虫 ※1、2、3
<b>培養検査</b>									
9410 6B010	口腔・気道・呼吸器からの検体 6B010-6001-099-741	喀痰、咽頭ぬぐい液/他	冷蔵	※	培養同定	3 7	170 微生物	緊急 血液・髄液・穿刺液など無菌的部位由来の検体からの菌検出時 1〜3類感染症原因菌及び、感染対策として重要且つ緊急性が高い菌種などの検出時にすみやかにご報告いたします。 ※4	
9420 9460 6B010	消化管からの検体 6B010-6002-099-741	便、胆汁、胃粘膜/他							190 微生物
9430 6B010	泌尿器・生殖器からの検体 6B010-6003-099-741	尿、尿道分泌物、膣分泌物/他							180 微生物
9440 9480 6B010	血液・穿刺液 6B010-6004-099-741	血液、腹水/他							220 微生物
9450 9490 6B010	その他の部位からの検体 6B010-6005-099-741	褥瘡、耳漏/他							170 微生物
9226	定量培養	尿	冷蔵	※	白金耳法	3 7			
9237 6B010	嫌気培養 6B010-0000-099-743		冷蔵	※	嫌気培養	3 14	加算 122 微生物	同一検体について一般培養と併せて嫌気性培養を行った場合 ※4	

※142頁参照

- ※1 同一検体について当該検査と尿沈渣(鏡検法)又は尿沈渣(フローサイトメトリー法)を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。
- ※2 染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2以上用いた場合であっても、1回として算定する。
- ※3 当該検査と尿沈渣(鏡検法)又は尿沈渣(フローサイトメトリー法)を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- ※4 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1か所のみの所定点数を算定する。但し、血液を2か所以上から採取した場合に限り、血液又は穿刺液を2回算定できる。この場合、嫌気培養の加算は2回算定できる。
- ※5 血液は血液培養ボトルで提出して下さい。
- ※6 血液培養ボトルは常温で保存して下さい。



# 微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備 考
<b>目的菌検査</b>								
9278 6B050	MRSA 6B050-0000-099-741		冷蔵 ※	CLSI準拠		3 〜 7	微生物	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
9265	百日咳菌	鼻咽腔/他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	1 W	微生物	
9260	サルモネラ	便/他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	3 〜 7	微生物	
9259	赤痢	便/他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	3 〜 7	微生物	
9281	チフス菌	便/他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	3 〜 7	微生物	
9282	パラチフス菌	便/他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	3 〜 7	微生物	
9262	ビブリオ属	便/他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	3 〜 7	微生物	
9280	コレラ菌	便/他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	3 〜 7	微生物	
9285	O-157	便/他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	3 〜 7	微生物	
9283	オキシトカ	便/他	冷蔵 ※	培養同定		3 〜 7	微生物	
9276	緑膿菌		冷蔵 ※	培養同定		3 〜 7	微生物	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
9279	黄色ブドウ球菌		冷蔵 ※	培養同定		3 〜 7	微生物	
9270 6B405	マイコプラズマ 6B405-0000-099-741	喀痰、咽頭ぬぐい液、 /他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	2 W	微生物	
9266	ジフテリア菌	咽頭ぬぐい液、鼻粘膜 /他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	3 〜 7	微生物	
9269 6B940	レジオネラ	喀痰、胸水/他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	1 W	微生物	
9286 6B835	エルシニア	便/他	冷蔵 ※	培養同定	(-)	3 〜 7	微生物	
9271 5E110	クロストリジオイデス・ ディフィシル(嫌気培養)	便/他	冷蔵 ※	嫌気培養、同定		3 〜 7	加算 122 微生物	嫌気ポーターをご利用下さい。

※ 142頁参照

# 微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備考
目的菌検査								
9264	カンピロバクター	便/他	冷蔵 ※	微好気培養、同定	(-)	3 7	微生物	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
9401 6B575	ヘリコバクター・ ピロリ培養 6B575-0000-071-745	胃粘膜 十二指腸粘膜	冷蔵 ※	微好気培養、同定	(-)	5 6	190 微生物	ヘリコバクターにて提出して下さい。
9274 6B080	髄膜炎菌 6B080-0000-099-744	髄液、咽頭ぬぐい液 /他	※	CO <sub>2</sub> 培養、同定	(-)	3 7	微生物	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
9273 6B610	淋菌	尿道分泌物、 子宮頸管粘液/他	※	CO <sub>2</sub> 培養、同定	(-)	3 7	微生物	
9268 6B072	B群連鎖球菌 (GBS)培養 6B072-0000-099-741	膈分泌物、尿道分泌物	冷蔵 ※	培養同定	(-)	3 7	微生物	
9255	VRE (バンコマイシン耐性腸球菌)		冷蔵 ※	培養同定、薬剤感受性検査		3 7	微生物	
9258	MDRP (多剤耐性緑膿菌)		冷蔵 ※	培養同定、薬剤感受性検査		3 7	微生物	
9289	PRSP (ペニシリン耐性肺炎球菌)	喀痰/他	冷蔵 ※	培養同定、薬剤感受性検査		3 7	微生物	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
9294	ESBL(基質特異性拡張型 β-ラクタマーゼ)産生菌	喀痰、尿/他	冷蔵 ※	培養同定、ダブルディスク法		3 7	微生物	
9257	MBL(メタロβ-ラクタマーゼ) 産生菌	喀痰、尿/他	冷蔵 ※	培養同定、SMAディスク法		3 7	微生物	
9287	肺炎球菌	喀痰/他	冷蔵 ※	培養同定		3 7	微生物	
9288	肺炎桿菌		冷蔵 ※	培養同定		3 7	微生物	
9267	A群連鎖球菌	喀痰、咽頭ぬぐい液、 /他	冷蔵 ※	培養同定		3 7	微生物	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
9277	カンジダ		冷蔵 ※	培養同定		3 7	微生物	

※ 142頁参照

# 微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	------	------------	------	-----	----------	------------	----

## 真菌培養

9230	真菌培養・同定	皮膚、爪、毛、落屑/他	冷蔵 ※	培養同定		1 ~ 6 週	微生物	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
------	---------	-------------	---------	------	--	------------------	-----	--------------------

## 原虫・アメーバ

9220 6B505	トリコモナス培養 6B505-0000-099-743	膈分泌物 尿道分泌物、尿/他	常温 ※	培養同定	(-)	5 ~ 7	180 微生物	トリコモナス培地にて提出して下さい。
8046 1B080	赤痢アメーバ 1B080-0000-015-735	生鮮便・肝膿瘍	備考	鏡検法	(-)	1 ~ 4	64 微生物	提出方法はお問い合わせ下さい。

## 免疫学的細菌検査

9263 6B830	大腸菌抗原同定 6B830-0000-015-121	便/他	冷蔵 ※	血清抗体法		3 ~ 7	175 免疫	※1
9391 5E115	大腸菌ペロトキシン 〔RPLA〕 5E115-0000-015-116	菌株	冷蔵 ※	RPLA法	VT1 (-) VT2 (-)	3 ~ 5	189 微生物	大腸菌抗原が確定してからの検査となります。 ※2、※3、※4
9357 5E115	大腸菌ペロトキシン 〔ELISA〕 5E115-0000-015-023	便1.0g	冷蔵 ※	ELISA法	(-)	2 ~ 3	189 微生物	糞便より直接検査します。 ※2、※4、※5
1385 5E110	クロストリジオイデス・デフィシル抗原 (トキシンA・B) 5E110-0000-015-190	便1.0g	冷蔵 ※	イムノクロマト法	(-)	1 ~ 3	80 免疫	採便容器にて提出して下さい。

※142頁参照

- ※1 細菌培養同定検査により大腸菌が確認された後、血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において細菌培養同定検査の費用は別に算定できない。
- ※2 大腸菌血清型別の結果より病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。
- ※3 大腸菌血清型別の結果、ペロトキシン産生の報告が多い血清型（O157、O26、O111）の検出時、及びペロトキシン産生を疑う所見があった場合、ペロトキシンの検査を実施いたします。（加算）
- ※4 腸管出血性大腸菌を認めた場合、すみやかにご報告いたします。
- ※5 細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってELISA法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り、大腸菌の抗原定性を踏まえることなく行った場合にも算定できる。

# 微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備 考
<b>薬剤感受性検査</b>								
— 6C205	1菌種 6C010-1301-080-761	(菌株)		ディスク拡散法 微量液体希釈法		3 ~ 7	180 微生物	CLSI 準拠 対象薬剤 146、147頁参照
— 6C205	2菌種 6C010-1302-080-761						230 微生物	
— 6C205	3菌種 6C010-1303-080-761						290 微生物	
9405 6C205	ヘリコバクター・ピロリ 感受性検査 6C205-0000-080-762			E-test		9 ~ 15	180 微生物	アモキシシリン、クラリスロ マイシン、メトロニダゾール

## ●報告形態

表示方法	結果の解釈 (CLSI 準拠)
S	Susceptible : 感受性 「感受性」との判定には、当該感染部位の治療として推奨されている用法でその抗菌薬を使用した場合に、通常到達可能な濃度で菌株の発育を阻止できるという意味が含まれます。
I	Intermediate : 中間 「中間」との判定には、通常到達可能な血中・組織内濃度に近いMIC で、その効果が感受性の菌株よりは低いと思われる菌株が含まれます。「中間」に分類されれば、抗菌薬が生理的に濃縮される部位（尿中のキノロン系薬やβ-ラクタム系薬など）や通常よりも多い用量で使用するこことできる抗菌薬（β-ラクタム系薬など）で、臨床的效果が得られることを意味します。この分類には「緩衝域」も含まれます。それによって、特に薬理効果と副作用の間の範囲が狭い抗菌薬には、管理しきれない技術的要因により解釈に重大な影響がおよぶことを防ぐことが可能なはずですが。
R	Resistant : 耐性 耐性株は、通常の投与スケジュールでその抗菌薬が通常到達し得る体内濃度において増殖を阻止されません。そして、MIC または阻止円直径がこの範囲に入っているものは、特定の耐性メカニズムを有すると考えられます（β-ラクタマーゼなど）。また、耐性と判定されたものに対する臨床効果は治療研究において明確にされていません。
N	No Data : 弊社規程 被検菌に対し、化学構造的に抗菌スペクトルが及ばない、又は抗菌作用を有しないなどの根拠により、臨床的な効果を期待しえない場合に表示します。
MIC 値	MIC 値 : 最小発育阻止濃度 (Minimum Inhibitory Concentration) 抗菌薬の2倍連続希釈されている培地に菌を接種し培養した場合、低濃度から高濃度に向かって観察したときに菌の発育が最初に阻止された濃度

# 微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備考
<b>抗酸菌検査</b>								
9501 6A205	抗酸菌塗抹鏡検 チールネルゼン染色 6A205-0000-061-717	喀痰/他	冷蔵 ※	チールネルゼン染色	(-)	1 3	64 微生物	<b>緊急</b> スクリーニングには蛍光染色 (集菌塗抹法)を依頼して下 さい。 陽性時には至急連絡します。 ※1、※4
9504 6A205	抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(直接塗抹法) 6A205-0000-061-718			蛍光染色 直接塗抹法			50 微生物	
9507 6A205	抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(集菌塗抹法) 6A206-0000-061-718			蛍光染色 集菌塗抹法			85 微生物	
9508 6B305	抗酸菌分離培養検査 2 (小川培地) 6B305-0000-061-746	喀痰/他	冷蔵 ※	小川培地	(-)	8 W	209 微生物	<b>緊急</b> 4週で中間報告、8週で最終 報告します。 ※2、※3、※4
9510 6B305	抗酸菌分離培養検査 1 (液体培地) 6B305-0000-061-747			液体培地 (酵素感受性蛍光センサー法)			300 微生物	

※142頁参照

※1 同一検体について当該検査と尿沈渣(鏡検法)又は尿沈渣(フローサイトメトリー法)を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。

※2 検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を算定する。

※3 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。

※4 結核が疑われる場合は、連続した3日間の喀痰採取をお勧めいたします。

(表1) 抗酸菌塗抹鏡検(蛍光染色、チールネルゼン染色)結果記載法

記載法	検出菌数		備考 (相当するガフキー号数)
	蛍光染色(200倍)	チールネルゼン染色(1,000倍)	
(-)	0/30 視野	0/300 視野	G0
(+-)	1 ~ 2/30 視野	1 ~ 2/300 視野	G1
(1+)	1 ~ 19/10 視野	1 ~ 9/100 視野	G2
(2+)	> 20/10 視野	> 10/100 視野	G5
(3+)	> 100/1 視野	> 10/1 視野	G9

(表2) 抗酸菌分離培養検査 2(小川培地)結果記載法

記載法	集落数に関する所見	集落数
(-)	集落を認めない	0
(1+) 実数	集落が200未満	1 ~ 199
(2+)	大多数の集落は個々に分離しているが、一部融合	200 ~ 499 *
(3+)	初期には分離しているが、発育に伴いほとんどが融合	500 ~ 1,999 *
(4+)	融合 集落が極めて多く、培地全体を覆う	2,000以上

(表3) 抗酸菌分離培養検査 1(液体培地)結果記載法

記載法	検出菌数
(+)	陽性
(-)	陰性

\* 定量的な実験結果より導かれた推定値であり、実際は所見の記述を参考に大きめに区分します。

# 微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備 考
<b>抗酸菌検査</b>								
9516 6B325	結核菌群抗原定性  6B325-0000-080-190 6B325-0000-099-190	菌株	常温 (専用輸送 容器)	免疫クロマトグラフィー法		2 ~ 3	291 免疫	判定結果に基づく臨床診断 は、臨床症状や他の検査結 果等と合わせて担当医師が 総合的に判断して下さい。
		生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※			培養 陽性後 2 ~ 3		
7800 6B619	抗酸菌同定〔質量分析法〕  6B315-0000-080-299 6B315-0000-099-299	菌株 (専用輸送容器)	常温 ※	質量分析法 (MALDI-TOF-MS：マト リックス支援レーザー脱 離イオン化飛行時間型質 量分析法)		2 ~ 8	361 微生物	緊急  結核菌群が検出された場合 は、すみやかにご報告いた します。 ※ 1
		生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※			培養 陽性後 2 ~ 8		
— 6C105	抗酸菌薬剤感受性検査  6C105-0000-080-764 6C105-0000-099-764	菌株	常温 (専用輸送 容器)	一濃度比率法		4 ~ 10 W	400 微生物	薬剤指定がない場合は、 9剤について検査します。 ① SM ④ EB ⑦ TH ② INH ⑤ KM ⑧ CS ③ RFP ⑥ EVM ⑨ PAS ※ 2
生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※	培養 陽性後 4 ~ 10 W						

抗酸菌検査を菌株でご依頼される場合は、必ず専用輸送容器をご使用下さい(容器は担当営業員にお申し付け下さい)。

※ 142頁参照

※ 1 当該検査は、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の症状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。

※ 2 当該検査は、直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。

(表4) 抗酸菌薬剤感受性検査 結果記載法

記載法	判定
S	感受性
R	耐性

# 微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	------	------------	------	-----	----------	------------	----

## 衛生(検便検査)

(1751)	赤痢菌・サルモネラ	便	冷蔵	培養同定	陰性	4 ~ 7		
(1751) 9867	赤痢菌・サルモネラ・ ビブリオ							
(1752)	赤痢菌・サルモネラ・ EHEC O157							
(1752) 9867	赤痢菌・サルモネラ・ ビブリオ・EHEC O157							
9863	EHEC O157							

## 環境検査

\* P

7874	落下細菌検査	生菌数	環境材料	冷蔵	落下法					
7875		真菌数								* Q
7877	空中浮遊菌検査	生菌数	環境材料		衝突法		4 ~ 7			
7878		真菌数								* Q
7861	表面付着菌検査 (スタンプ検査)	一般生菌	環境材料	冷蔵	スタンプ法					
7862		大腸菌群								* Q
7863		黄色ブドウ球菌								
7851	表面付着菌検査 (拭き取り検査)	一般生菌	環境材料	冷蔵	拭き取り法					
7852		大腸菌群								* Q
7853		黄色ブドウ球菌								
—	無菌試験		環境材料	冷蔵	直接法		7 ~ 17		5日目で中間報告、 14日目で最終報告します。	
—			環境材料 (200mL)		メンブランフィルター法					陰性
2889	透析液細菌検査 塗抹平板培養法(生菌数)	透析液、透析用水 (100mL)		冷蔵	寒天平板塗抹培養法		10 ~ 16			
2890	透析液細菌検査 メンブランフィルター法(生菌数)	透析液、透析用水 (200mL)		又	メンブランフィルター法				* Q	

# 微生物学的検査

## 薬剤感受性検査

### 保健科学西日本薬剤セット内容

系統名	ペニシリン系				セフェム系								カルバペネム系		マクロライド系		リンコマイシン系		キノロン系		テトラサイクリン系		アミノグリコシド系		グリコペプチド系		その他
	PC	ABPC	PIPC	SBT/ABPC	TAZ/PIPC	CEZ	CAZ	CTX	TRX	CFDN	CFPM	LMOX	IPM	MEPM	EM	CAM	CLDM	CPFX	LVFX	MINO	GM	AMK	ABK	VCM	FOM		
抗菌薬 菌種																											
グラム陰性桿菌 (腸内細菌科)		○	○		○	○	○	○			○	○	○					○	○	○	○	○				○	
ブドウ糖非発酵菌 (緑膿菌含む)			○		○		○	○	○		○		○	○				○	○	○	○	○					
ブドウ球菌	○	○		○		○				○	○		○		○		○	○	○	○	○		○		○		
連鎖球菌	○	○				○		○	○	○			○	○	○		○		○	○					○		
腸球菌	○	○											○		○				○	○					○		
グラム陽性菌 (上記の3菌種を除く)	○	○				○		○		○	○		○		○			○	○	○	○	○			○		
ヘモフィルス		○		○				○	○	○	○		○	○		○		○	○	○							
カンピロバクター		○													○	○		○	○	○						○	
嫌気性菌		○	○						○			○	○				○										
グラム陰性双球菌 (淋菌含む)	○	○							○							○		○	○	○							

#### ●一般細菌薬剤感受性検査の報告形態













- S: 感受性 (Susceptible)
- I: 中間 (Intermediate)
- R: 耐性 (Resistant)  
※ CLSIに準拠
- N: No Data (弊社規定)

※被検菌に対し、化学構造的に抗菌スペクトルが及ばない、又は抗菌作用を有しないなどの根拠により、臨床的な効果を期待しえない場合に表示します。



# 微生物学的検査

## 微生物・輸送培地・輸送容器一覧

容器	材料	喀痰	咽頭拭い液	鼻腔・鼻粘膜	舌苔	気管支洗浄液	副鼻腔	上顎洞	便	腸洗浄液	胃液・肝膿瘍	尿	腔分泌物	尿道分泌物	精液・月経血	生殖器膿	腹水・関節液	動脈血・静脈血	髄液	開放・非開放性膿	耳漏	皮膚	その他	容器・培地	保存可能期間	(使用前)	検体採取時	輸送条件	注意事項	その他
	喀痰用容器	●				●		●																特になし		冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送して下さい。			
	滅菌スピッツ					●		●		●	●						●		●			●		特になし		冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送して下さい。			
	採便容器								●															特になし		冷蔵				
	キャリープレート								●															1年 常温		冷蔵				
	シードスワブ1号								●	●														容器に記載		冷蔵				
	シードスワブ2号	●	●	●									●	●	●						●		●	容器に記載		冷蔵				
	嫌気ポーター	●					●	●	●								●	●	●	●	●	●		1年 常温		冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送して下さい。			
	FA Plus ボトル(好気)																	●						ボトルに記載		常温	敗血症の疑いのある患者で、抗菌薬の投与前に使用して下さい。通常、好気・嫌気の2本1組で使用して下さい。検体10mL(最大接種量)を無菌的に注入し、常温にて提出して下さい。なお、最大接種量を超えると結果に影響をおよぼすことがあります。(148頁参照)			
	FN Plus ボトル(嫌気)																	●						ボトルに記載		常温	小児など採血量4mLまでの少量検体の場合は、PFボトルを使用し、4mL(最大接種量)を無菌的に注入し、常温にて提出して下さい。			
	PF Plus ボトル(小児用)																	●						ボトルに記載		常温	ヘリコバクター専用の輸送培地です。生検材料を培地の表面より0.5~1.5cmの深さまで入れ提出して下さい。			
	ヘリコポーター																						胃生検	容器に記載		冷蔵				
	トリコモナス培地											●	●	●										3ヶ月 冷蔵		常温	尿道分泌物や腔分泌物はそのまま、尿は遠心後の沈渣物を培地深部に接種して下さい。			

※上記以外の培地、容器についてはお問い合わせ下さい。シャーレ、その他の指定外の容器での採取はご遠慮下さい。  
 ※検体は7日間保管いたします。(但し、抗酸菌検査ご依頼の喀痰は検体の雑菌処理を行うため保管できません)  
 ※一般細菌培養後の菌株保管は、ご報告日より4日間です。(但し、血液培養は1週間)  
 ※抗酸菌検査後の菌株保存日数は、ご報告日より1年間です。

# 微生物学的検査

## 微生物学的検査材料の採取及び保存の注意事項

### ■ 一般的注意事項

- 1) 検体採取時は、環境細菌や人体常在菌の混入を極力避けるように慎重に行ってください。採取部位に用いた消毒薬の混入にも注意してください。
- 2) 原則として抗菌剤投与前に採取して下さい。投与後に採取される場合は、24時間以上経過または次回投薬直前(血中薬剤濃度が最低レベルの時期)に採取して下さい。
- 3) 検体採取後は直ちに当社指定の検体容器(検査案内参照)に入れ、原則として冷蔵保存を厳守して下さい。低温で死滅しやすい微生物として髄膜炎菌(*Neisseria meningitidis*)、淋菌(*Neisseria gonorrhoeae*)などがあります。このような微生物による感染症を疑われる場合は、常温あるいは30~37度で保温しすみやかに、ご提出をお願いいたします。
- 4) 滅菌綿棒のみでの採取やガーゼ、カテーテル先端等は乾燥しないようにご注意ください。
- 5) 菌株接種培地の場合は、蓋が開かないようにしていただき、常温で保存して下さい。

### ■ 主要材料の採取保存方法(\*検体容器は検査案内をご参照願います。)

#### 1) 口腔・気道・呼吸器系材料

**喀痰**：早朝起きがけに採取するのが適しています。口腔内常在菌の汚染を防ぐため、歯磨きをしたあと滅菌生理食塩水で2~3度うがいしてから喀出痰を採取し、直ちに搬送容器に入れ冷蔵保存します。唾液や鼻汁の混入は避けて下さい。

**咽頭液**：滅菌生理食塩水でうがいした後、滅菌綿棒で病変部を擦って粘液を採取し、冷蔵保存します。この際、綿棒が周辺部位に触れないようにご注意ください。

#### 2) 消化器系材料

**糞便**：急性期の自然排出便を輸送培地入りの容器に約3~5g採取し冷蔵保存します。*Clostridium difficile* の培養検査が必要な場合は、嫌気ポーターをご利用下さい。病原菌検出の手がかりとなりますので、依頼書には臨床所見や海外渡航歴等をご記入下さい。

**胆汁**：通常、胆嚢内胆汁(B胆汁)を用います。滅菌スピッツに5~10mL採取します。嫌気性菌を疑う場合は、嫌気ポーターに接種願います。

#### 3) 泌尿器・生殖器材料

**尿**：患者自身の採取となる場合がほとんどなため、適切な指示をお願いします。男性の場合は、陰茎先端部を滅菌水で拭いたあとに滅菌尿カップに採取し、直ちに滅菌スピッツに入れてもらいます。女性の場合は、外陰部の常在菌汚染を防ぐため採取前に十分な洗浄が必要です。洗浄は滅菌水を湿したガーゼで毎回ガーゼを取り替え数回洗浄します。その後、尿を滅菌尿カップに採取し、直ちに滅菌尿スピッツに入れます。いずれの場合も早朝尿が望ましく、また通常は中間尿の5~10mLを取ります。

**生殖器**：男性の場合は、陰茎をしごき分泌物を滅菌綿棒で採取します。**分泌物**：女性の場合は、外陰部を消毒後に分泌部を拭き取るか、鑿鏡を用いて後脛内内蓋部より滅菌綿棒で採取します。トリコモナス培養を目的とされる場合には、専用の培地に接種します。淋菌の培養検査は、シードスワブでの保温保存をお願いします。

#### 4) 血液・穿刺液

**血液**：採血前に穿刺部位を消毒用アルコールで中心部から外側に向けて円を描くように拭き、乾燥後ヨードチンキで同様に消毒し、1分後に注射器で採血します。その後、ゴムキャップ部分を予め消毒用アルコールで消毒した2本の血液培養ボトル(好気用、嫌気用)に接種します。小児の場合は、小児用ボトルをご用意しております。接種後、直ちに軽く混和して下さい。ボトルに貴院のラベルの貼付や文字の記入を行う場合は、ボトル自体のバーコードが全部隠れないようにご注意ください。

**髄液**：採取部位の消毒は、血液培養の場合に準じます。髄液は、血液培養用ボトルに接種後、すみやかに提出して下さい。塗抹検査(グラム染色や墨汁染色等)が必要な場合は、滅菌スピッツに入れて提出します。いずれも接種後のボトルは、常温で保存します。

#### 5) その他の部位

**閉鎖性の膿**：穿刺部位をよく消毒し採取します。嫌気性菌用の容器に入れて下さい。

**開放性の膿**：分泌物 皮膚または粘膜の化膿巣の周囲をよく清拭し、滅菌綿球や滅菌ガーゼ片にて膿または分泌物を拭き取って下さい。

**耳漏・眼脂**：滅菌綿棒2本を用いて十分膿を浸み込ませて、採取容器に入れて下さい。

### ■ 抗酸菌遺伝子検査の材料(ご依頼項目の掲載頁は58頁、135頁です)

材 料	喀 痰	気管支 洗浄液	胸 水	腹 水	髄 液	胃 液	尿	組 織	血 液	便	膿	菌 株
								ホルマリン 固定不可	ヘパリン 添加不可			
必要量(mL)	1	5	5	5	2	5	10	10mg	5	0.5g	×	-
容 器	喀痰用容器	滅菌スピッツ	滅菌スピッツ	滅菌スピッツ	滅菌スピッツ	滅菌スピッツ	滅菌スピッツ	滅菌スピッツ	EDTA	採便容器	滅菌スピッツ	-
結核菌DNA(PCR) (TB-PCR)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MAC DNA(PCR) (マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセラー核酸検出)	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○
抗酸菌核酸同定	培養後の菌株											

○：保険適用承認材料、●：保険適用未承認材料

# 微生物学的検査

## ■ 主な細菌名一覧

菌名	読み	和名	法的分類
<i>α-Streptococcus</i>	アルファ・ストレプトコッカス	緑色連鎖球菌	
<i>Achromobacter xylosoxidans</i>	アクロモバクター・キシローソキシダンス		
<i>Acinetobacter baumannii complex</i>	アシネトバクター・バウマニイ・コンプレックス		
<i>Actinomyces israelii</i>	アクチノマイセス・イスラエリイ	放線菌	
<i>Actinomyces sp.</i>	アクチノマイセス・エスピー		
<i>Aeromonas hydrophila</i>	アエロモナス・ヒドロフィラ		食
<i>Aeromonas sobria</i>	アエロモナス・ソブリア		食
<i>Aeromonas sp.</i>	アエロモナス・エスピー		
<i>Alcaligenes faecalis</i>	アルカリゲネス・フェカールイス		
<i>Alternaria sp.</i>	アルテルナリア・エスピー		
<i>Aspergillus fumigatus</i>	アスペルギルス・フミガータス		
<i>Aspergillus niger</i>	アスペルギルス・ニーゲル		
<i>Bacillus anthracis</i>	バシラス・アンスラシス	炭疽菌	4類
<i>Bacillus cereus</i>	バシラス・セレウス	セレウス菌	食
<i>Bacillus subtilis</i>	バシラス・サブチリス	枯草菌	
<i>Bacteroides fragilis</i>	バクテロイデス・フラジリス		
<i>Bordetella bronchiseptica</i>	ボルデテラ・ブロンキセプチカ	気管支敗血症菌	
<i>Bordetella pertussis</i>	ボルデテラ・ペルツシス	百日咳菌	
<i>Branhamella catarrhalis</i>	ブランハメラ・カタラリス		
<i>Burkholderia cepacia</i>	ブルクホルデリア・セパシア		
<i>Campylobacter coli</i>	カンピロバクター・コリ		食
<i>Campylobacter fetus</i>	カンピロバクター・フェタス		
<i>Campylobacter jejuni</i>	カンピロバクター・ジェジュニ		食
<i>Candida albicans</i>	カンジダ・アルビカンス		
<i>Candida glabrata</i>	カンジダ・グラブラータ		
<i>Candida tropicalis</i>	カンジダ・トロピカリス		
<i>Chryseobacterium indologenes</i>	クリセオバクテリウム・インドロジェネス		
<i>Citrobacter freundii</i>	サイトロバクタ・フレンディ		
<i>Citrobacter koseri</i>	サイトロバクタ・コセリ		
<i>Clostridium botulinum</i>	クロストリジウム・ボツリナム	ボツリヌス菌	4類・食
<i>Clostridium perfringens</i>	クロストリジウム・パーフリンゲンス	ウェルシュ菌	食
<i>Clostridium tetani</i>	クロストリジウム・テタニ	破傷風菌	
<i>Clostridioides difficile</i>	クロストリジオイデス・ディフィシル		
<i>Coagrase Negative Staphylo</i>	コアグラーゼ・ネガティブ・スタフィロ	コアグラーゼ陰性スタフィロコッカス	
<i>Corynebacterium diphtheriae</i>	コリネバクテリウム・ジフテリア	ジフテリア菌	2類
<i>Cryptococcus neoformans</i>	クリプトコッカス・ネオフォルマンズ		
<i>Edwardsiella tarda</i>	エドワードジェーラ・タルダ		
<i>Enterobacter cloacae complex</i>	エンテロバクター・クロアカエ・コンプレックス		
<i>Enterobacteriaceae</i>	エンテロバクテリアセエ	腸内細菌科	
<i>Enterococcus casseliflavus</i>	エンテロコッカス・カセリフラバス		
<i>Enterococcus faecalis</i>	エンテロコッカス・ファエカリス	腸球菌	
<i>Enterococcus faecium</i>	エンテロコッカス・フェシウム		
<i>Escherichia coli</i>	エセリキア・コリ	大腸菌	
<i>Escherichia coli aggregative (EAggEC)</i>	エセリキア・コリ アグリゲティブ		食
<i>Escherichia coli hemorrhagic (EHEC)</i>	エセリキア・コリ ヘモラシク	腸管出血性大腸菌	3類・食
<i>Escherichia coli invasive (EIEC)</i>	エセリキア・コリ インベシブ	組織侵人性大腸菌	食
<i>Escherichia coli pathogenic (EPEC)</i>	エセリキア・コリ パソゲニック	病原性大腸菌	食
<i>Escherichia coli toxigenic (ETEC)</i>	エセリキア・コリ ドキシゲニック	毒素原性大腸菌	食
<i>Escherichia hermannii</i>	エセリキア・ハーマニー		
<i>Eubacterium sp.</i>	ユーバクテリウム・エスピー		
<i>Francisella tularensis</i>	フランシセラ・ツラレンシス	野兔病菌	4類
FUNGI	ファンジ	真菌	
<i>Fusobacterium sp.</i>	フソバクテリウム・エスピー		
<i>Gardnerella vaginalis</i>	ガードネレラ・バギナリス	ガードネレラ菌	
<i>Group A Streptococcus</i>	グループA ストレプトコッカス	A群溶連菌	
<i>Group B Streptococcus</i>	グループB ストレプトコッカス	B群溶連菌	
<i>Group C Streptococcus</i>	グループC ストレプトコッカス		
<i>Group D Streptococcus</i>	グループD ストレプトコッカス		
<i>Group G Streptococcus</i>	グループG ストレプトコッカス		
<i>Haemophilus ducreyi</i>	ヘモフィルス・デュクレイ	軟性下疳菌	
<i>Haemophilus influenzae</i>	ヘモフィルス・インフルエンザ	インフルエンザ菌	
<i>Haemophilus parahaemoliticus</i>	ヘモフィルス・パラヘモリティカス		
<i>Helicobacter pylori</i>	ヘリコバクター・ピロリ		
<i>Klebsiella aerogenes</i>	クレブジェーラ・アエロゲネス		

1類：感染症法1類、2類：感染症法2類、3類：感染症法3類、4類：感染症法4類、食：食品衛生法による食中毒菌

# 微生物学的検査

菌名	読み	和名	法的分類
<i>Klebsiella oxytoca</i>	クレブジェーラ・オキシトカ		
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	クレブジェーラ・ニューモニアエ	肺炎桿菌	
<i>Legionella pneumophila</i>	レジオネラ・ニューモフィラ		4類
<i>Listeria monocytogenes</i>	リステリア・モノサイトゲネス	リステリア	
<i>Malassezia furfur</i>	マラセジア・フルフル	黴菌	
<i>Micrococcus sp.</i>	マイクロコッカス・エスピー		
<i>Moraxella sp.</i>	モラクセラ・エスピー		
<i>Morganella morganii</i>	モルガネラ・モルガニー		
<i>Mycobac. avium-intra. complex</i>	ミコパクテリウム・アビウム・インドラセルラー・コンプレックス		
<i>Mycobacterium bovis</i>	ミコパクテリウム・ボビス	ウシ型結核菌	
<i>Mycobacterium kansasii</i>	ミコパクテリウム・カンサシ		
<i>Mycobacterium smegmatis</i>	ミコパクテリウム・スメグマティス	スメグマ菌	
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	ミコパクテリウム・ツベルクローシス	結核菌	2類
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	マイコプラズマ・ニューモニアエ	マイコプラズマ	
<i>Myroides odoratus</i>	ミロイデス・オドラタス		
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	ナイセリア・ゴノローエ	淋菌	
<i>Neisseria meningitidis</i>	ナイセリア・メニンジティティス	髄膜炎菌	
<i>Neisseria sp.</i>	ナイセリア・エスピー		
<i>Nocardia sp.</i>	ノカルジア・エスピー		
<i>Nonfermenting bacteria (GNR)</i>	ノンファーメンティングバクテリア	ブドウ糖非醗酵菌	
<i>Pasteurella multocida</i>	パストツレラ・ムルトシダ		
<i>Peptostreptococcus sp.</i>	ペプトストレプトコッカス・エスピー		
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	プレジオモナス・シゲロイデス		食
<i>Prevotella sp.</i>	プレボテラ・エスピー		
<i>Propionibacterium sp.</i>	プロピオニバクテリウム・エスピー		
<i>Proteus mirabilis</i>	プロテウス・ミラビリス		
<i>Proteus vulgaris</i>	プロテウス・ブルガリス		
<i>Providencia rettgeri</i>	プロビデンシア・レットゲリ		
<i>Providencia stuartii</i>	プロビデンシア・スチュアティイ		
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	シュードモナス・エルジノーサ	緑膿菌	
<i>Pseudomonas putida</i>	シュードモナス・プチダ		
<i>Pseudomonas stutzeri</i>	シュードモナス・スタツツェリ		
<i>Salmonella Enteritidis</i>	サルモネラ・エンテリティティス		食
<i>Salmonella Paratyphi A</i>	サルモネラ・パラティフィ エー	パラチフスA	3類・食
<i>Salmonella Typhi</i>	サルモネラ・ティフィ	チフス菌	3類・食
<i>Salmonella Typhimurium</i>	サルモネラ・ティフィムリウム	ネズミチフス菌	食
<i>Serratia marcescens</i>	セラチア・マルセッセンス	霊菌	
<i>Shigella boydii</i>	シゲラ・ボイディイ	ボイド赤痢菌	3類・食
<i>Shigella dysenteriae</i>	シゲラ・ディセンテリエ	志賀赤痢菌	3類・食
<i>Shigella flexneri</i>	シゲラ・フレクスネリ	フレクスナー赤痢菌	3類・食
<i>Shigella sonnei</i>	シゲラ・ソンネイ	ソンネ赤痢菌	3類・食
<i>Sphingobacterium sp.</i>	スフィンゴモナス・エスピー		
<i>Staphylococcus aureus</i>	スタフィロコッカス・アウレウス	黄色ブドウ球菌	食
<i>Staphylococcus aureus (MSSA)</i>	スタフィロコッカス・アウレウス(エムエスエスエー)	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌	
<i>MRSA</i>	エムアールエスエー	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	スタフィロコッカス・エピデルミディス	表皮ブドウ球菌	
<i>Stenotrophomonas maltophilia</i>	ステノトロフォモナス・マルトフィリア		
<i>Streptococcus agalactiae</i>	ストレプトコッカス・アガラクティエ	B群溶連菌	
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	ストレプトコッカス・ニューモニエ	肺炎球菌	
<i>Streptococcus pyogenes</i>	ストレプトコッカス・ピオゲネス	化膿連鎖球菌(A群連鎖球菌)	
<i>Trichophyton sp.</i>	トリコフィトン・エスピー	白癬菌	
<i>Ureaplasma urealyticum</i>	ウレアプラズマ・ウレアリティカム		
<i>Veillonella parvula</i>	ベイヨネラ・パルビュラ		
<i>Vibrio alginolyticus</i>	ビブリオ・アルジノリティカス		
<i>Vibrio cholerae</i>	ビブリオ・コレレ	コレラ菌	3類
<i>Vibrio cholerae non O1</i>	ビブリオ・コレレ・ノン・オーワン	NAGビブリオ	食
<i>Vibrio fluvialis</i>	ビブリオ・フルビアリス		食
<i>Vibrio mimicus</i>	ビブリオ・ミミカス		食
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	ビブリオ・パラヘモリティカス	腸炎ビブリオ	食
<i>Vibrio vulnificus</i>	ビブリオ・バルニフィカス		
<i>Yeast like fungi</i>	イースト・ライク・ファンジ	酵母様真菌	
<i>Yersinia enterocolitica</i>	エルシニア・エンテロコリチカ		食
<i>Yersinia pestis</i>	エルシニア・ペスティス	ペスト菌	1類
<i>Yersinia pseudotuberculosis</i>	エルシニア・ジュードツベルクローシス	偽結核菌	

1類：感染症法1類、2類：感染症法2類、3類：感染症法3類、4類：感染症法4類、食：食品衛生法による食中毒菌

# 微生物学的検査

## ■ 抗菌剤一覧

一般名称	略号	系統	商品名
アジスロマイシン	AZM	マクロライド系	ジスロマック
アズトレオナム	AZT	モノバクタム系	アザクタム
アミカシン	AMK	アミノグリコシド系	アミカシン、アミカマイシン、ピクリン、プレカシン、ロミカシン、カシミール
アモキシシリン	AMPC	ペニシリン系	アモリン、クラモキシル、サワシリン、チタシリン、パセトシン、ワイドシリン
アルペカシン	ABK	アミノグリコシド系	ハベカシン
アンピシリン	ABPC	ペニシリン系	アンピレクト、ピクシリン、ヘルペン、ペントレックス
イセパマイシン	ISP	アミノグリコシド系	イセパシン、エクサシン
イミペネム・シラスタチン	IPM/CS	カルバペネム系	チエナム
エリスロマイシン	EM	マクロライド系	アイロタイシン、エブシン、エリスロシン、エシノール、タカスノン
オキサシリン	MPIPC	ペニシリン系	
オフロキサシン	OFLX	キノロン系	タリビット
ガチフロキサシン	GFLX	キノロン系	ガチフロ
カナマイシン	KM	アミノグリコシド系	カナマイシン
ガレノキサシン	GRNX	キノロン系	ジェニナック
クラブラン酸・アモキシシリン	CVA/AMPC	$\beta$ -ラクタマーゼ阻害剤合剤	オーグメンチン
クラリスロマイシン	CAM	マクロライド系	クラリシッド、クラリス
クリンダマイシン	CLDM	リンコマイシン	ダラシン-S(P)、ハンダラミン
クロラムフェニコール	CP	クロラムフェニコール系	クロロマイセチン
ゲンタマイシン	GM	アミノグリコシド系	ゲンタシン
コリスチン	CL	その他の抗生物質	コリマイシン、メタコリマイシン
シタフロキサシン	STFX	キノロン系	グレースビット
シプロフロキサシン	CPFX	キノロン系	シプロキサ
ジベカシン	DKB	アミノグリコシド系	パニマイシン
ジョサマイシン	JM	マクロライド系	ジョサマイシン、ジョサマレット
ストレプトマイシン	SM	アミノグリコシド系	ストレプトマイシン
スピラマイシン	SPM	マクロライド系	アセチルスピラマイシン
スルタミシリン	SBTPC	ペニシリン系	ユナシン
スルバクタム・アンピシリン	SBT/ABPC	$\beta$ -ラクタマーゼ阻害剤合剤	ユナシンS
スルバクタム・セフォペラゾン	SBT/CPZ	$\beta$ -ラクタマーゼ阻害剤合剤	スルペラゾン
スルファメトキサゾール・トリメトプリム	ST	その他の抗生物質	ウロダウン、オキサプリム、ストパン、セプテリン、バクタ、バクトラミン
セファクロル	CCL	セフェム系	ケフアル
セファゾリン	CEZ	セフェム系	セファゾペン、セファメジン、タイセゾリン、ラセナゾリン
セファトリジン	CFT	セフェム系	セプチコール、プリセフ
セファドロキシル	CDX	セフェム系	サマセフ、セドラル
セファピリン	CEPR	セフェム系	セファトレキシル
セファレキシン	CEX	セフェム系	L-キサル、L-ケフレックス、シングルSR、ラリキシン
セファロチン	CET	セフェム系	ケフリン、シンクロチン、セファオチン
セフィキシム	CFIX	セフェム系	セフспан
セフェタメド・ピボキシル	CEMT-PI	セフェム系	セフィル
セフェピム	CFPM	セフェム系	マキシピーム
セフォゾラン	CZOP	セフェム系	ファーストシン
セフォタキシム	CTX	セフェム系	クラフォラン、セフォタックス
セフォチアム	CTM	セフェム系	ハロスボア、パンスボリン
セフォチアム・ヘキセチル	CTM-HE	セフェム系	パンスボリン
セフォペラゾン	CPZ	セフェム系	セフォビット、セフォペラゾン
セフカペン・ピボキシル	CFPN-PI	セフェム系	フロモックス
セフジトレン・ピボキシル	CDTR-PI	セフェム系	メイアクト
セフジニル	CFDN	セフェム系	セフゾン
セフトジジム	CAZ	セフェム系	モダシン
セフチゾキシム	CZX	セフェム系	エボセリン
セフテゾール	CTZ	セフェム系	タイファロゾール
セフテラム・ピボキシル	CFTM-PI	セフェム系	トミロン
セフトリアキソン	CTR	セフェム系	ロセフィン
セフピロム	CPR	セフェム系	ケイテン、プロアクト
セフボドキシム・プロキセチル	CPDX-PR	セフェム系	パナン
セフミノクス	CMNX	セフェム系	メイセリン
セフメタゾール	CMZ	セフェム系	セフメタゾン
セフメノキシム	CMX	セフェム系	ベストコール、ベストロン

# 微生物学的検査

一般名称	略号	系統	商品名
セフラジン	CED	セフェム系	セフロカプセル、タイセフラン
セフロキシム	CXM	セフェム系	ジナセフ
セフロキシム・アキセチル	CXM-AX	セフェム系	オラセフ
タゾバクタム・ピペラシリン	TAZ/PIPC	$\beta$ -ラクタマーゼ阻害割合剤	タゾシン
タランピシリン	TAPC	ペニシリン系	ヤマシリン
テイクプラニン	TEIC	ポリペプチド系	タゴシッド
テトラサイクリン	TC	テトラサイクリン系	アクロマイシン、コサ・テトラシン、プリサイ-TX
テピペネム	TBPM	カルバペネム系	オラペネム
ドキシサイクリン	DOXY	テトラサイクリン系	ヒドラマイシン、ビブラマイシン
トスフロキサシン	TFLX	キノロン系	オゼックス、トスキサシン
トブラマイシン	TOB	アミノグリコシド系	トブラシン
ドリペネム	DRPM	カルバペネム系	フィニボックス
ナリジキシ酸	NA	キノロン系	ウインソマール、ウイントマイロン、ナイスレート、ポレオン
ノルフロキサシン	NFLX	キノロン系	ノフロ、バクシダール
バカンピシリン	BAPC	ペニシリン系	バカシル、ベングローブ
バシトラシン	BC	その他の抗生物質	バシトラシン
パズフロキサシン	PZFX	キノロン系	バシル、パズクロス
バンコマイシン	VCM	ポリペプチド系	バンコマイシン
ピアペネム	BIPM	カルバペネム系	オメガシン
ピペミド酸	PPA	キノロン系	ドルコール
ピペラシリン	PIPC	ペニシリン系	ペントシリン
ピロミド酸	PA	キノロン系	パナシッド
ファロペネム	FRPM	ペネム系	ファロム
フェノキシメチルペニシリン	PCV	ペニシリン系	ブイカル
ブルリフロキサシン	PUFX	キノロン系	スオード、キスノン
フロモキシセフ	FMOX	セフェム系	フルマリン
ベンジルペニシリン	PCG	ペニシリン系	バイシリン、ペニシリンG
ホスホマイシン	FOM	その他の抗生物質	ホスミシン
ポリミキシン-B	PMXB	ポリペプチド系	ポリミキシン-B
ミノサイクリン	MINO	テトラサイクリン系	ケモサイクリン、パルドクリン、ミノスタシン、ミノマイシン
メチシリン	DMPPC	ペニシリン系	スタフシリン
メロペネム	MEPM	カルバペネム系	メロペン
モキシフロキサシン	MFLX	キノロン系	アペロックス
ラタモキシセフ	LMOX	セフェム系	シオマリン
リファンピシン	RFP	その他	リファジン、リマクタン
リボスタマイシン	RSM	アミノグリコシド系	ピスタマイシン
リネゾリド	LZD	その他の抗生物質	ザイボックス
リンコマイシン	LCM	リンコマイシン系	ペランコシン、リンコシン、リンコメイス、リンタマイシン、ルニアマイシン
レナンピシリン	LAPC	ペニシリン系	タカシリン、パラシリン
ロキシスロマイシン	RXM	マクロライド系	ルリッド
ロキタマイシン	RKM	マクロライド系	リカマイシン
ロメフロキサシン	LFLEX	キノロン系	パレオン、ロメパクト

## ■ 抗結核薬

一般名称	略号	系統	商品名
イソニコチン酸ヒドラジド	INH	抗結核薬	
エタンブトール	EB	抗結核薬	
エチオナミド	TH	抗結核薬	
エンビオマイシン	EVM	抗結核薬	ツベラクチン
カナマイシン	KM	抗結核薬	
サイクロセリン	CS	抗結核薬	サイクロセリン
ストレプトマイシン	SM	抗結核薬	
バラアミノサリチル酸	PAS	抗結核薬	
リファンピシン	RFP	抗結核薬	
レボフロキサシン	LVFX		

# 微生物学的検査

## 感染症法における感染症の分類

感染症 類型	疾 病 名	届出の要否			届出方法			法に基づく入院勧告の可否			就業制限通知の可否		
		患 者	疑似症	無症状病原 体保有者	定 種 別	時 期	内 容	患 者	疑似症	無症状病原 体保有者	患 者	疑似症	無症状病原 体保有者
1	エボラ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	痘そう	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	南米出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	ペスト	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	マールブルグ病	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
2	ラッサ熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	急性灰白髄炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	○	×	×	○	×	○
	結核	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	ジフテリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a	○	×	×	○	×	○
	重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス 属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイル ス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
3	鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	鳥インフルエンザ (H7N9)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	コレラ	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	細菌性赤痢	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	腸チフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
4	パラチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	E型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ウエストナイル熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	A型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	エキノコックス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	黄熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	オウム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	オムスク出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	回帰熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	キャサナル森林病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	Q熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	狂犬病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	コクシジオイデス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	サル痘	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ジカウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイル ス属SFTSウイルスであるものに限る。)	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	腎症候性出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	西部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ダニ媒介脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	炭疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	チクングニア熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	つつが虫病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	デング熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	東部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ (H5N1及 びH7N9)を除く。)	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ニパウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	日本紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	日本脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	Bウイルス病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ブルセラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ベネズエラウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ヘンドラウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	発しんチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ポツリナス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	マラリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	野兔病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ライム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	リッサウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	リフトバレー熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	類鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
レジオネラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×	
レプトスピラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×	
ロッキー山紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×	

# 微生物学的検査

## 感染症法における感染症の分類

感染症 種類	疾病名	届出の要否			届出方法			法に基づく入院勧告の可否			就業制限通知の可否		
		患者	疑似症	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容	患者	疑似症	無症状病原体保有者	患者	疑似症	無症状病原体保有者
5	アメーバ赤痢	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	RSウイルス感染症	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	咽頭結膜熱	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	×	×	1カ所 (※1)	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	感染性胃腸炎	○	×	×	小児科 (※2)	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	急性出血性結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	急性弛緩性麻痺	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	クリプトスポリジウム症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	後天性免疫不全症候群	○	×	○	(全数)	7日以内	b2	×	×	×	×	×	×
	細菌性髄膜炎(侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症及び侵襲性肺炎球菌感染症を除く。)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	ジアルジア症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	侵襲性肺炎球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	水痘	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	水痘(入院例に限る。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	性器クラミジア感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	性器ヘルペスウイルス感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	尖圭コンジローマ	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	先天性風しん症候群	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	手足口病	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	伝染性紅斑	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	突発性発しん	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	梅毒	○	×	○	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	播種性クリプトコックス症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	破傷風	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	百日咳	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	風しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	×	×	×	×	×	×
	ヘルパンギーナ	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	マイコプラズマ肺炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
麻しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×	
無菌性髄膜炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	×	×	×	×	×	×	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×	
薬剤耐性緑膿菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	×	×	×	×	×	×	
流行性角結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×	
流行性耳下腺炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×	
淋菌感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×	
新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されものに限る。))であるものに限る。)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○	

(届出事項) a : 氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、その他、(保護者の住所氏名)  
 b1 : 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診年月日、診断年月日、推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名  
 b2 : 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診年月日、診断年月日、推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、最近数年間の主な居住地、国籍  
 c1 : 年齢、性別  
 c2 : 年齢、性別、原因病原体の名称、検査方法

※1 インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)の基幹定点の届出については、届出対象は入院したもので、届出内容は入院時の対応を加える。

※2 感染性胃腸炎の基幹定点の届出については、届出対象は病原体がロタウイルスであるもので、届出内容は原因病原体の名称及び検査方法を加える。

厚生労働省ホームページ 感染症法に基づく医師の届出のお願い より引用(2021年6月1日時点)

(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000631585.pdf>)



## 検体採取にあたっての注意事項

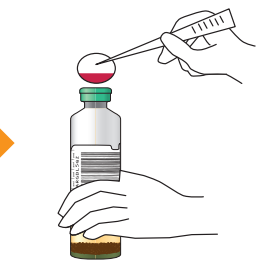
- 原則として抗菌薬投与前に採取して下さい。投与後の採取の場合、24時間以上経過又は次回投与直前に採取して下さい。
- 細菌学検査の場合は特に雑菌の混入を避けるため、採取器具、検体容器とも必ず滅菌されたものをご使用下さい。
- 血液や穿刺液の採取にあたっては採取部位を十分消毒し、常在菌が混入しないようにご配慮下さい。(下記をご参照下さい)
- 材料、検査項目等により所定の容器をご使用下さい。
- 容器・採取後の保存方法の詳細は、140頁の輸送培地・輸送容器一覧をご参照下さい。但し、以下の菌種においては採取容器によって保存条件が異なるのでご注意下さい。
- \* *Neisseria gonorrhoeae* (淋菌)
- \* *Neisseria meningitidis* (髄膜炎菌)
- スワブ類の場合 - 冷蔵保存
- その他の容器の場合 - 保温又は常温保存

## 血液培養のための採血方法

### ①準備

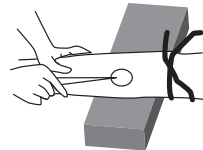
嫌気用 FN Plusボトル      好気用 FA Plusボトル

確実に原因菌を検出するために、血液培養では好気用と嫌気用のボトルを1本ずつ(2本=1セット)を用意します。

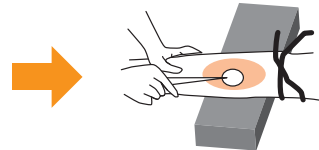


採血の10~20分前から病室のドアを閉め、空調機を止めます。ボトルのゴム栓を10%ポビドンヨード液(イソジン®)または70%エタノールで消毒します。

### ②消毒



70%エタノールで穿刺箇所を30秒ほど消毒します。



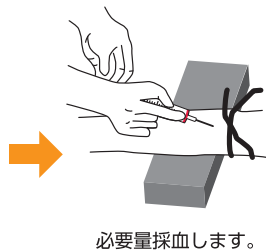
10%ポビドンヨード液(イソジン®)に浸した滅菌綿球で穿刺箇所を中心に、同心円ないし渦巻状に広範囲に塗布し、自然乾燥します。ポビドンヨードに過敏な場合は70%エタノールで消毒します。



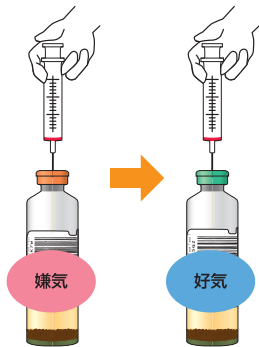
消毒した皮膚には触れないようにします。又、採血施行者は手指を消毒するか、滅菌手袋を着用します。

### ③採血・ボトルへの接種

滅菌ディスポーザブルの注射器を使用します。



血管の穿刺に失敗した場合、注射器ごと新しいものに替えて下さい。**針刺し事故には充分気をつけて下さい。**採血後、ボトルに血液を接種する前に注射針が汚染されないように注意して下さい。



用意した2本のボトルに等量の血液を接種します。**各ボトルに10mL接種します。**(嫌気⇒好気の順)

### ④接種後



採血後のボトルはすぐご提出下さい。

保健科学西日本へ

#### ご注意

- ボトルへの最大接種量は**好気・嫌気ボトルは10mL、小児用ボトルは4mL**です。血液接種量が多い程、検出率が向上するという報告がありますので、最大接種量を接種するよう推奨しています。但し、それを超えると結果に影響を及ぼすことがありますのでご注意下さい。
- ボトルをすぐに提出できない場合は、常温で保存し、なるべく早く提出して下さい。
- CUMITECH 1B blood culture IIIを参考にしています。

# 微生物学的検査

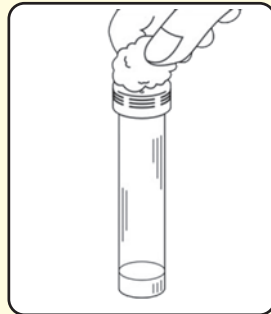
## 嫌気ポーターの使用法

\* 正確に安全に嫌気性菌を輸送・保管するために、検体の採取は下記の手順に従い十分注意して行って下さい。

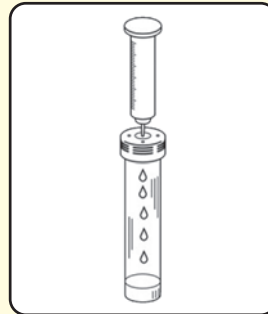
**A**

### ゴム栓を外さない場合

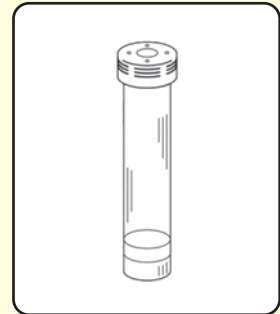
注射器による方法  
(胸水、腹水、尿、  
穿刺液など)



消毒用アルコール綿などを用いてゴム栓の刺通部を消毒して下さい。



注射針を刺通部に刺し検体を注入して下さい。

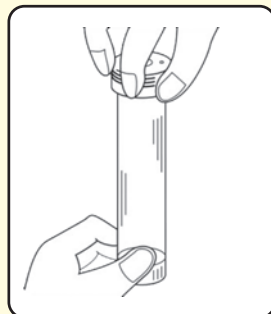


すみやかに輸送するか、冷蔵庫に保管して下さい。

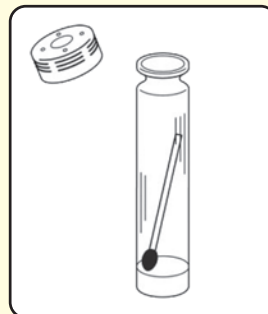
**B**

### ゴム栓を外す場合

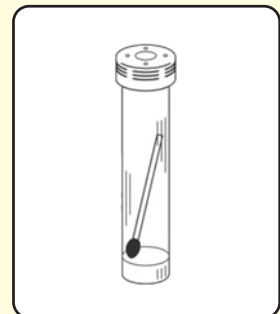
綿棒などによる方法  
(便、膿、組織片  
など)



容器を立てたままの状態できちんと注意深くゴム栓を外して下さい。



ゴム栓を外し、すみやかに検体を入れ、ゴム栓を閉めて下さい。この時、傾けないように注意して下さい。



すみやかに輸送するか、冷蔵庫に保管して下さい。

### 注意事項

- インジケーター付き寒天の表面に通常、凝固水が溜まりますが、菌の輸送・保管には支障ありません。
- 検体採取後数分経過すると、僅かに着色する場合がありますが、使用に差し支えありません。
- ゴム栓を外す時は、ゴム栓に付着した検体が飛散するおそれがあるため、ゆっくり外して下さい。
- 輸送する場合は、極力立てた状態で行って下さい。
- 本品は輸送・保管容器のため、培養には使用できません。

# 病理学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 細胞診検査

9654 7A020	細胞診検査 (婦人科) 7A020-0000-094-433	次頁参照 (湿固定標本 1枚)	次頁参照 常温	パパニコロウ染色		4 ~ 7	150 病理	細胞診検査は確定診断ではありません。組織診検査などを含めた総合的な診断をお勧めします。
0928 7A020	液状細胞診検査 (婦人科) 7A020-8910-076-650		W シアバリアル 常温				150 + 36 病理	
9651 7A010	細胞診検査 (婦人科以外) 7A010-0000-094-433 7A010-0000-094-477 7A010-0000-094-602 7A010-0000-094-650	次頁参照 (湿固定標本 2枚) (乾燥標本)	次頁参照 標本 常温 検体 冷蔵	パパニコロウ染色 (必要に応じてPAS 染色、ギムザ染色)		4 ~ 7	190 病理	

\* / \

### ■ 依頼書及びスライドガラス、スライドケースへの記入方法

#### \* 依頼書

- 細胞診検査をご依頼の際は専用の『細胞診検査依頼書』をご使用下さい。
- 細胞診検査は各種の臨床情報を参考にして行う形態学的検査ですので、依頼書には下記の内容を必ず記載して下さい。細胞診の判定内容を左右する因子ですので、記載もれがないようお願いいたします。
  - 1) 患者名、性別、年齢
  - 2) 検査材料、採取方法
  - 3) 臨床診断、臨床経過など
  - 4) 病変の大きさ、性状
  - 5) 婦人科材料や乳腺材料の場合月経など
  - 6) 前回の登録検査 No
  - 7) ご提出スライド枚数

#### \* スライドガラス

- a) スリガラス部に患者名を必ず記入して下さい。
- b) 乾燥固定の場合は「乾燥」と記入して下さい。

#### \* スライドケース

- a) 患者名、性別、年齢
- b) 標本枚数 (湿固定枚数と乾燥固定枚数)

### ■ 検査結果の報告

- 「細胞検査報告書」に検査結果 (Class 判定または ABC 判定)、所見、細胞成分、細胞検査士名などを記入しご報告いたします。
- Class 判定について、Ⅰ・Ⅱを陰性、Ⅲ・Ⅲa・Ⅲbを疑陽性、Ⅳ・Ⅴを陽性と読み換えることが可能です。

#### 1) Class 判定

- Class Ⅰ : Absence of atypical or abnormal cells  
(異常又は異型細胞を認めない)
- Class Ⅱ : Atypical cytology but no evidence of malignancy  
(異常又は異型細胞を認めるが良性)
- Class Ⅲ : Cytology suggestive of, but not conclusive for malignancy  
(異型性を認めるが悪性基準を完全に満たさない)
- Class Ⅲa : Probably benign atypia
- Class Ⅲb : Probably malignant atypia
- Class Ⅳ : Cytology strongly suggestive of malignancy  
(悪性を強く疑う細胞を認める)
- Class Ⅴ : Cytology conclusive for malignancy  
(悪性細胞を認める)

### 2) ABC 判定 (略痰)

判定区分	細胞所見	指導区分
A	喀痰中に組織球を認めない	材料不適、再検査
B	正常上皮細胞のみ、基底細胞増生、細胞異型軽度の扁平上皮化生、線毛円柱上皮増生	現在異常を認めない 次回定期検査
C	細胞異型中等度の扁平上皮化生、又は核の増大や濃染を伴う円柱上皮増生	程度に応じて6ヶ月以内の再検査と追跡
D	細胞異型高度の扁平上皮化生、又は悪性腫瘍の疑いある細胞を認める	直ちに精密検査
E	悪性腫瘍細胞を認める	

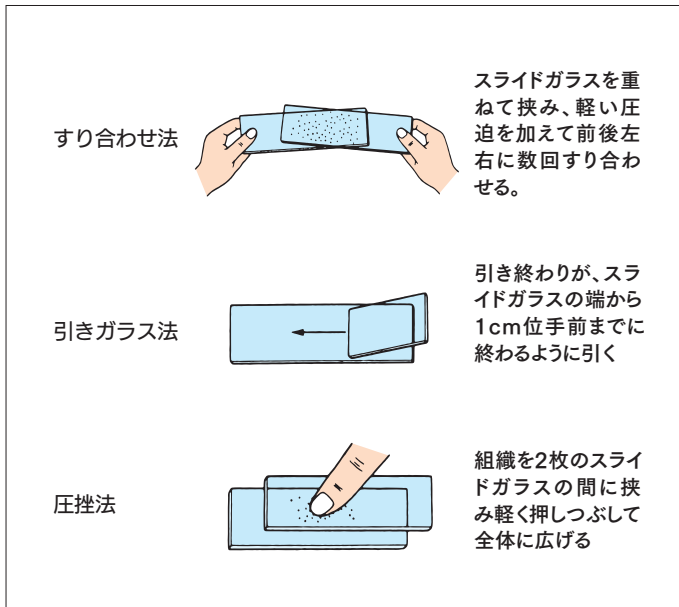
### 3) 医会分類 (ベセスダシステム表記) とクラス判定の対比表 (婦人科)

ベセスダシステム	略語	推定病変	従来のクラス分類
陰性	NILM	非腫瘍性所見、炎症、微生物	Ⅰ・Ⅱ
● 扁平上皮系異常			
意義不明な異型扁平上皮細胞	ASC-US	軽度扁平上皮内病変 疑い	Ⅱ・Ⅲa
HSIL を除外できない異型扁平上皮細胞	ASC-H	高度扁平上皮内病変 疑い	Ⅲa・Ⅲ・ Ⅲb
軽度扁平上皮内病変	LSIL	HPV 感染 軽度異形成	Ⅲa
高度扁平上皮内病変	HSIL	中等度異形成 高度異形成 上皮内癌	Ⅲa Ⅲb Ⅳ
扁平上皮癌	SCC	扁平上皮癌 (微小浸潤癌を含む)	Ⅴ
● 腺系異常			
異型腺細胞	AGC	腺異形成又は腺系病変 (腺癌) の疑い	Ⅲ~Ⅳ
上皮内腺癌	AIS	上皮内腺癌	Ⅳ
腺癌	Adenocarcinoma	腺癌	Ⅴ
● その他			
その他の悪性腫瘍	Other malignancy	その他の悪性腫瘍	Ⅴ

# 病理学的検査

## ■ 検査材料の提出方法

- 原則として、塗抹固定した未染色標本でご提出下さい。パパニコロウ用標本は湿固定をお守り下さい。
- 喀痰集細胞法の場合のみ専用容器で提出して下さい。
- \* 各種材料の塗抹**
- 塗抹の仕方は検査材料の種類、性状などに応じて異なります。下記の要領で塗抹して下さい。



### 1) 喀痰

「小豆」大の喀痰を2枚のスライドガラスの間にはさみ、前後左右に押しつぶすように均一に伸ばして下さい。(すり合わせ法)  
癌細胞は血管部や不透明濁部に多く含まれていますので、その部分を塗抹して下さい。

### 2) 擦過材料 (気管支、消化管、胸膜・腹膜など)

ブラシ、綿棒などにより病巣などを擦過し、スライドガラスに塗抹して下さい。  
擦過物は乾燥しやすいので塗抹固定を迅速に行うことが必要です。

### 3) 液状材料 (尿、胸水、腹水、心嚢液、陰嚢水腫液、各種洗浄液など)

1500rpm、5分間遠心後、沈渣をすり合わせ法または引きガラス法で塗抹して下さい。血性検体の場合は有核細胞成分の多いパフィーコート部分を塗抹して下さい。

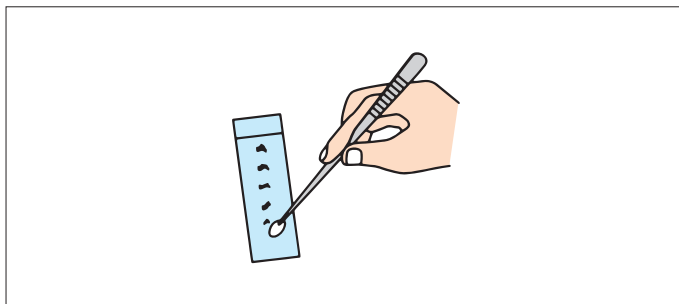
### 4) 針穿刺吸引材料

(乳腺、甲状腺、肺、リンパ節、前立腺、睾丸、軟部腫瘍、肝など)

穿刺針内の材料をスライドガラス中央に静かに吹きだし塗抹します。検体が微量なときはもう1枚のスライドガラスを合わせてからはがし2枚作製して下さい。多めに得られたときや多量の場合は引きガラス法で塗抹して下さい。

### 5) 捺印標本 (各種固形腫瘍、リンパ節など)

組織断面をスライドガラスに軽く捺印して下さい。



### 6) 圧挫標本 (中枢神経腫瘍、甲状腺腫瘍など)

組織の小塊(直径1~2mm)を2枚のスライドガラスの間にはさみ、軽く押しつぶして組織が伸展したらスライドガラスを離し、厚い方を湿固定、薄い方を乾燥固定して下さい。

### 7) 婦人科材料

乾燥しやすいので塗抹後直ちに湿固定して下さい。

### 8) 蓄痰材料

細胞診〔喀痰集細胞〕専用容器に蓄痰し容器ごと提出して下さい。

※注意：検体採取から塗抹固定までの許容時間(室温)

喀痰・胸水・腹水・心嚢液：12時間以内

尿・穿刺液・洗浄液・髄液：1時間以内

胆汁・脾液・十二指腸：氷冷中の容器に採取1時間以内  
擦過材料・捺印材料・圧挫材料：5秒以内

上記時間以内でも細胞変性が著しい場合、及び、出現細胞が少ない場合等、材料不適と判断された時は、再提出をお願いする場合がありますので、予めご了承下さい。

## ◆ 標本の固定

- 固定は細胞の変性・融解などの変化を停止させる作業ですので、塗抹後直ちに固定する必要があります。
- 湿固定はパパニコロウ染色のための固定法で、乾燥固定はPAS染色・ギムザ染色などのための固定法です。
- 固定の良否は採取部位・方法とともに細胞診判定内容を左右する重要な因子の一つです。

### 1) 湿固定 (A)

細胞診固定コーティング剤を、直ちに、ムラが生じないように塗抹全面に十分に噴霧または滴下して下さい。

### 2) 湿固定 (B)

塗抹後、直ちに、95%エチルアルコールにつけ、30分後に標本を取り出し、乾燥させずに固定コーティング剤を使用して下さい。(乾燥防止のために必ずコーティング剤を使用して下さい)

### 3) 乾燥固定

塗抹後、直ちに、塗抹面を扇風機や冷風ドライヤーなどで急速に乾燥させます。自然乾燥は乾燥むらを生じるので不十分です。

## ■ 組織・細胞診検査関連物保管期限

組織診検査関連物	期限	備考
残検体(通常)	2週間	診断内容により検体確認の可能性がある為
残検体(大型臓器)	2年	ブロックでの検索が可能の為
ブロック	10年	医療関連サービスマーク(衛生検査所業務)要求事項による
標本(通常は顧客に返却)	5年	
依頼書兼報告書	10年	社団法人 京都府臨床検査技師会の指示による
記録類	2年	社内規定による

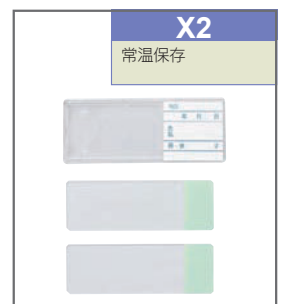
細胞診検査関連物	期限	備考
残検体	2週間	最長2週間保管します(但し検体状態により再採取をお願いする場合があります)
標本(陰性)	5年	医療関連サービスマーク(衛生検査所業務)要求事項による
標本(陽性)	10年	
依頼書	10年	
報告書	10年	社団法人 京都府臨床検査技師会の指示による
記録類	2年	社内規定による

# 病理学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
病理組織検査								
9601 7B010	病理組織顕微鏡検査 7B010-0000-070-432	10～20%ホルマリン固定組織 1×1×1mm以上	次頁参照 常温	ヘマトキシリン・エオジン染色 (H.E染色)		5 ～ 7	1臓器につき 860 病理	* 8
9622	HE 標本作製	未染色標本 (未染色標本スライド2枚以上)	次頁参照 常温	ヘマトキシリン・エオジン染色 (H.E染色)		3 ～ 4		* 8
—	ブロック作製	10～20%ホルマリン固定組織 1×1×1mm以上	次頁参照 常温			3 ～ 4		* 8
—	未染色標本作製	パラフィンブロック	次頁参照 常温			3 ～ 4		* 8
9624	特殊染色	未染色標本 (1染色につき未染色標本スライド2枚以上)	次頁参照 常温			5 ～ 7		* 8 * 1 * t
— 7B020	免疫組織化学染色	パラフィンブロック・未染色標本 (1染色につき未染色標本スライド2枚以上)	次頁参照 常温	酵素抗体法 (IHC法)		5 ～ 7	860 + 400 病理	* 1 * 8 * 1 * t
—		凍結組織	担当営業にご相談下さい。 凍結	蛍光抗体法			860 + 400 病理	* 1
0274 4H010	エストロゲンレセプター (ER) 4H010-0000-070-666	パラフィンブロック・未染色標本 (未染色標本スライド3枚以上)	次頁参照 常温	酵素抗体法 (IHC法)		5 ～ 7	720 病理	* 5 * 8
0275 4H015	プロゲステロンレセプター (PgR) 4H015-0000-070-666	パラフィンブロック・未染色標本 (未染色標本スライド3枚以上)	次頁参照 常温	酵素抗体法 (IHC法)		5 ～ 7	690 病理	* 5 * 8
— 5D596	CCR4蛋白 (IHC) 5D596-0000-099-666 5D596-0000-076-666	未染スライド6枚 又は パラフィンブロック	X2 常温	酵素抗体法		5 ～ 7	10000 病理	ホルマリン固定病理組織も受託可。但し、所要日数は概ね2日程度加算される。 ※2、4 ※3 * 6

- ※1 確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、所定点数に1,600点を加算する。「確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者」とは、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、消化管間質腫瘍 (GIST)、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎又は水疱症 (天疱瘡、類天疱瘡等) が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は、当該加算は算定できない。
- ※2 「ボテリジオ (一般名: モガムリズマブ)」を投与された検体で実施した際には、正しい結果が得られないことがありますので、ご注意ください。本検査結果は、臨床症状や他の検査結果などを考慮して総合的に判断して下さい。
- ※3 CCR4蛋白 (FCM)及び (IHC)を同一の目的でおこなった場合には、原則としていずれか一方のみを算定する。但し、必要があって併せて行った場合には、診療報酬明細書の摘要欄にその理由を記載し、いずれの点数も算定できる。
- ※4 「再発又は難治性の成人T細胞白血病リンパ腫」について、投与等の治療方針を判定するための検査です。つきましては、依頼時に「病理診断書のコピーを添付」又は、「依頼書に診断名を記入」の上、ご依頼下さい。
- ※5 エストロゲンレセプター、プロゲステロンレセプター ご依頼方法

1. 本検査は病理検査により確定診断がなされた症例について治療の方針を判定するための検査ですので病理組織依頼書に病理診断名・組織型をご記入の上、ご依頼下さい。
2. 癌細胞の有無、組織型が不明な場合もありますので、検査依頼時に病理診断書 (コピー) の添付をお願いいたします (但し、弊社で病理検査を実施している場合は不要です)。なお、諸事情により添付できない場合には、病理診断名、組織型の他、臨床情報等可能な範囲で記載をお願いいたします。
3. 検査材料は10%ホルマリン固定液に24～48時間程度の固定を行った組織をパラフィン包埋したブロックです。固定組織、未染色スライド等でのご依頼は、予めご相談下さい。



# 病理学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
<b>癌理組織検査</b>								
0272	HER2/neu (IHC)・乳癌	パラフィンブロック・未染色標本(乳癌材料) (未染色標本 スライド3枚以上)	下段参照 常温	酵素抗体法 (IHC法)		5 ~ 7	690 病理	154 頁参照 * 八
0273	HER2/neu (IHC)・胃癌	パラフィンブロック・未染色標本(乳癌材料) (未染色標本 スライド3枚以上)	下段参照 常温	酵素抗体法 (IHC法)		5 ~ 7	690 病理	154 頁参照 * 八
0828	乳癌HER2 遺伝子 (FISH) 8C053-0000-099-841	未染スライド 5 μm厚 4枚	下段参照 常温	FISH法		6 ~ 14	2700 病理	* 6
0829 8C053	胃癌HER2 遺伝子 (FISH) 8C053-0000-099-841	未染スライド 4枚	X2 常温 下記参照	FISH法		6 ~ 14	2700 病理	* 6
2554 8C053	大腸癌 HER2 遺伝子 (FISH) 8C053-0000-099-841	未染スライド 4枚	X2 常温 下記参照	FISH法		7 ~ 15	2700 病理	* 1、* 2
—	電子顕微鏡検査 7D010-0000-070-671	別紙参照	担当営業に ご相談下さい。 冷蔵	透過電顕法		(1臓につき)	2000 病理	* 4

## ■ 検査に関してのご注意

- ・診断を実施する上でHE染色以外に各種染色が必要となった場合は、追加オーダーさせていただくことがありますのでご了承下さい。
- ・免疫組織化学染色の染色結果につきましてその鑑別判定を必要とされる場合は標本診断も同時に依頼下さい。
- ・ブロック作製をご依頼される際、摘出臓器のままご提出される場合は、その切り出し図と包埋の方向について依頼書に必ずご記入下さい。
- ・未染色標本で染色標本作製をご依頼される場合特に特殊染色は1染色につき2枚以上を提出して下さい。

## ■ 依頼書およびラベルへの記載方法

病理組織検査をご依頼の際は専用の「病理組織検査依頼書」及び容器をご使用下さい。尚、依頼書及びラベルには下記事項を必ずご記入下さい。

### \* 依頼書

- 1) 患者名、性別、年齢
- 2) 切除（採取）日、切除臓器名、切除数
- 3) 臨床診断名、臨床経過、治療・臨床検査諸事項、病変の大きさや性状
- 4) 前回実施の登録標本No
- 5) 婦人科疾患、女性乳腺疾患などの場合は月経、妊娠の状態など

### \* 容器ラベルおよび凍結組織ラベル

- 1) 病院名、患者名、性別、年齢
  - 2) 必ず容器No (1、2、3、…) を記入して下さい。
- また、合わせて臓器名、切除数も記入して下さい。

## ■ 検査結果の報告

### \* 病理組織検査報告

「病理組織検査報告書」に病理組織学的診断および所見を記入しご報告いたします。

## ■ 所要日数

免疫組織化学染色、切り出し処理、脱脂処理、脱灰処理が必要な場合は所要日数が7~12日となります。  
特殊なご依頼の場合、まとまった件数の場合は通常より所要日数が遅れますので、事前に営業員へお問い合わせ下さい。

## 【乳癌・胃癌・大腸癌HER2遺伝子(FISH)のご依頼時の留意事項】

1. ご依頼時に「病理診断書のコピーを添付」又は、「依頼書に診断名を記入」の上、ご依頼下さい。
2. 推奨固定液は10%中性緩衝ホルマリンです。推奨固定時間は乳癌6~72時間（6時間未満の検体は避ける）、胃癌6~72時間（生検検体は大きさに準ずるが6時間以上が望ましい）、大腸癌24~48時間です。
3. 標本はシランなどのコーティングスライドを使用して、37℃恒温槽で乾燥させて下さい。なお、薄切後長時間放置（薄切から6週間以上）された未染標本、浸潤癌が含まれないもの、厚い組織切片などは適しません。
4. 過去の種々の条件で作成された標本でFISH法検査をする場合、必ずしも全ての標本でFISH法が可能とは限りません。

※ 1 抗HER2ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断することを目的として遺伝子増幅標本作製を行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定する。HER2 タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製を併せて行った場合は、3,050点を算定できる。

※ 2 HER2 陽性の進行、再発した切除不能な結腸・直腸癌患者に対して「トラスツマブ（商品名ハーセプチン®）、ペルツマブ（商品名パージェタ®）」の併用療法の適応を判定するためにHER2 タンパクの発現、HER2 遺伝子の増幅を検査します。

## ■ 検査材料ご提出方法

病理組織検査のご提出の際は10~20%ホルマリン固定組織、パラフィンブロック、未染色標本、染色済標本又は凍結組織でお願いいたします。

### 1. 10~20%ホルマリン固定組織作製法

- 1) 摘出した組織を自家融解、乾燥から防ぐため直ちに10~20%ホルマリン入り容器に入れ固定して下さい。
- 2) 固定液は10~20%ホルマリン液を使用し、組織の10倍を目安とし十分量を使用して下さい。
- 3) 胃生検等の微小組織片をご提出の場合は、ろ紙等に貼りつけ10~20%ホルマリン液へ入れて下さい。（なお、複数個ご提出の際は採取部位ごとに容器に入れて下さい。）
- 4) 一容器に一臓器（一種類の臓器）を入れて提出して下さい。なお、大きさが著しく異なる臓器は必ず容器を分けて下さい。

注1. 臓器、組織を10~20%ホルマリン液に入れた日時を必ず依頼書に記入して下さい。

注2. 次の組織を提出される際は、下記の点に注意して下さい。

- ・消化管・胆嚢：薄い板に粘膜面を上にして虫ピンでとめ、約一日固定して下さい。
- ・肺：切り出した面の気管支断端から10~20%ホルマリンを注入し、できるだけ肺胞をふくらませ空気を追い出し、1日以上固定し提出して下さい。
- ・子宮・乳房・腎：これらの大きな臓器では固定が十分でないことが多いので、あらかじめ断面を入れてから固定して下さい。
- ・胃、腸等のパンチ：生検材料の水分をよく取り除き、ろ紙の上に10秒ほど載せた後、固定して下さい。（乾燥させないように十分注意して下さい）

### 2. パラフィンブロック

既に作製済みのパラフィンブロックを、破損しないようガーゼ等で包みビニール袋に入れて提出して下さい。

### 3. 未染色標本

未染色標本より各種染色をご依頼される場合は、スライドガラスにナンバー等を記入の上、切片が傷つかぬ様にして提出して下さい。  
免疫組織化学染色依頼の際には、染色中に切片がはがれたりする場合がありますので、必ずコーティングスライドを使用して下さい。

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

## 腫瘍関連免疫組織検査

— 5D590	HER2/neuタンパク 5D590-8757-070-666	パラフィン ブロック 未染色標本 (スライド3枚以上)	※2	酵素抗体法 (IHC法)	表1・2参照	5 〜 7	690 病理	(0272)乳癌 (0273)胃癌 *1、*
2519 5D590	HER2/neu タンパク (大腸癌) 5D595-0000-070-666	未染スライド 4枚	<b>X2</b> 常温 下記参照	酵素抗体法 (IHC法)	表3参照	8 〜 10	690 病理	*1、*2 *6
— 5D595	EGFRタンパク 5D595-0000-070-666	パラフィン ブロック 未染色標本 (スライド4枚以上)	※3	間接法	表4参照	7 〜 11	690 病理	*1

### 【HER2/neuタンパク ご依頼方法】

1. 検査ご依頼に際しては、必ず所定の「病理検査依頼書」をご使用下さい。
2. 先に病理組織検査をご依頼されている場合は保存ブロックで実施します。報告年月日と検体番号を記入してご依頼下さい。

### ◎HER2/neuタンパク (乳癌の場合)

1. 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された乳癌の原発巣または転移巣の組織です。
  - ①初発乳癌の原発巣ないし、転移巣の切開生検、針生検/手術標本。
  - ②転移性乳癌では過去に手術された原発巣の組織標本ないし転移巣の生検/手術標本。
2. 推奨固定方法
  - ・推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
  - ・推奨固定時間：6〜72時間 (※6時間未満の検体は避ける)
 抗原性保持の点から上記固定方法が推奨されますが、20%で固定する場合や緩衝でなく純水で希釈した10%、20%ホルマリンを用いた場合、わずかに抗原性の低下する可能性があります。なお、薄切後長時間放置 (薄切から6週間以上) された未染標本、浸潤癌が含まれないもの、厚い組織切片などは適しません。
3. 生検体から実施する場合は、先に通常の病理組織検査を実施の上、悪性所見の場合に実施します。

### ◎HER2/neuタンパク (胃癌の場合)

1. 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された胃癌の原発巣又は転移巣の組織です。
2. 推奨固定方法
  - ・推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
  - ・推奨固定時間：切除標本 6〜72時間
 生検検体 検体の大きさに準ずる (6時間以上が望ましい)
3. 生検体から実施する場合は、先に通常の病理組織検査を実施の上、悪性所見 (腺癌) の場合に実施します。

### ◎大腸の場合

1. 推奨固定液は、10%中性緩衝ホルマリンです。推奨固定時間は大腸癌24〜48時間です。
2. 切片は4μmの厚さで薄切し、シランなどのコーティングスライドを使用して、37℃恒温槽で乾燥させて下さい。なお、薄切後長時間放置 (薄切から6週間以上) された未染標本、浸潤癌が含まれないもの、厚い組織切片などは適しません。
3. 過去の種々の条件で作成された標本でFISH法検査をする場合、必ずしも全ての標本でFISH法が可能とは限りません。

表3. HER2/neuタンパク (IHC法) 大腸癌の判定基準

IHC スコア	手術材料	生検材料
3+	>10%の腫瘍細胞について、側方の完全な細胞膜または全周の細胞膜において、強い染色強度で染色陽性像が認められる。判定に細胞基底側の陽性像を求めない。	染色陽性腫瘍細胞の割合に関わらず、側方の完全な細胞膜または全周の細胞膜において、強い染色強度で染色陽性像が認められる。
2+	>10%の腫瘍細胞について、側方の不完全な細胞膜または全周の細胞膜において、弱から中等度の染色強度で染色陽性像が認められる。または≤10%の腫瘍細胞について、側方の完全な細胞膜または全周の細胞膜において、強い染色強度で染色陽性像が認められる。判定に細胞基底側の陽性像を求めない。	染色陽性腫瘍細胞の割合に関わらず、側方の不完全な細胞膜または全周の細胞膜において、弱から中等度の染色強度で染色陽性像が認められる。
1+	>10%の腫瘍細胞について、側方の不完全な細胞膜または全周の細胞膜において、かすかな/かろうじて認識できる染色強度で染色陽性像が認められる。判定に細胞基底側の陽性像を求めない。	染色陽性腫瘍細胞の割合に関わらず、細胞膜において、かすかな/かろうじて認識できる染色強度で染色陽性像が認められる。
0	染色陽性像を認めない。または≤10%の腫瘍細胞について、側方の不完全な細胞膜または全周の細胞膜において、かすかな/かろうじて認識できる染色強度で染色陽性像が認められる。判定に細胞基底側の陽性像を求めない。	細胞膜における陽性像を示す細胞を認めない。

ペンタナ ultraView パスウェー HER2 (4B5) の添付文書 (第9版) より引用

### 【EGFRタンパク ご依頼方法】

1. 検査ご依頼に際しては、必ず所定の「病理検査依頼書」をご使用下さい。
2. 先に病理組織検査をご依頼されている場合は保存ブロックで実施します。報告年月日と検体番号を記入してご依頼下さい。
3. 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された進行・再発の結腸・直腸癌の手術材料です。(生検材料や、転移組織についてのデータは少なく、検査に適した腫瘍細胞数等から明らかデータはありません。)
4. 推奨固定方法
  - ・推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
  - ・推奨固定時間：24〜48時間以内 (手術材料)
 10%中性緩衝ホルマリンの使用が推奨されておりますが、10%又は、20%非緩衝ホルマリン液による固定においても、固定が適切にできれば、検査対象として使用可能です。

表4. EGFRタンパクの判定基準

判定	定義
陰性	全ての腫瘍細胞において細胞膜への染色が認められない。
陽性	染色態度が連続性かまたは不連続性に係らず、腫瘍細胞の細胞膜に染色が認められる。

# その他・研究検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
<b>その他特殊検査</b>								
— 8C896	倫理指針対象 Y染色体微小欠失 (AZF欠失) (7677) 8C896-0000-019-898	全血 5.0	E-1 冷蔵	PCR-rSSO法		4 ~ 10		* 4
—	脳梗塞リスク評価 (A6C) (7994)	血漿 2.0	F-3 ↓ G-1 凍結	※1	脳梗塞リスク値 高 値：0.80~1.0 境界値：0.44~0.79 低 値：0.0 ~0.43	6 ~ 13	※2	* T

※1 アクロレイン：ELISA法、IL-6：ELISA法、CRP：ラテックス凝集比濁法の3項目の結果を組み合わせで算出いたします。

※2 必ず、専用問診票をご提出下さい(性別、年齢必須)。又、検体は採血当日にご提出下さい。

## ○研究検査

通常の検査項目とは異なり、研究を目的とした検査です。基準値や臨床的意義等が必ずしも明確ではない項目もあることをご理解の上、ご利用いただけますようお願いいたします。

### 【倫理指針対象検査について】

○本検査は倫理指針対象の遺伝学的検査となりますので、検査の実施に際しては、医師により被験者に対して検査の目的や方法、限界等について十分説明され、又、必要に応じて遺伝カウンセリングを受けたうえで、被験者の自由意志による同意（インフォームド・コンセント）が得られていることが必要です。

○検査のご依頼にあたっては、「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。検査結果は匿名番号にて、ご担当医師宛てに親展扱いの封書でお届けいたします。

### ○研究検査

通常の検査項目とは異なり、研究を目的とした検査です。基準値や臨床的意義等が必ずしも明確ではない項目もあることをご理解の上、ご利用いただけますようお願いいたします。

### 【Y染色体微小欠失（AZF欠失）のご依頼時と結果報告に関する注意点】

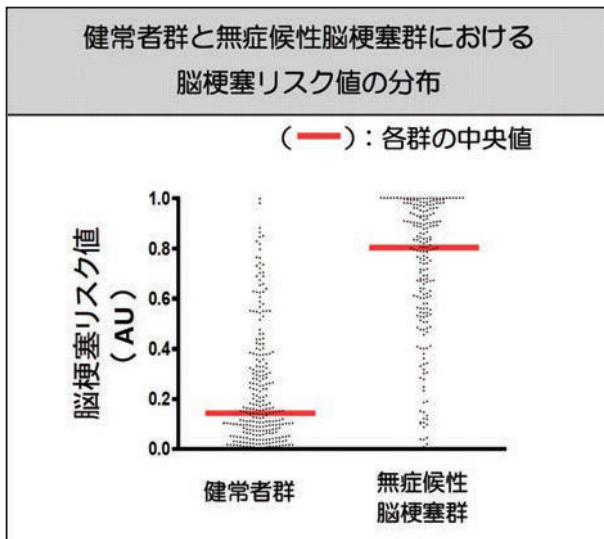
①他項目との重複依頼は避けて下さい。

②本検査はコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取に当たっては取扱いに十分ご注意ください。

③ご依頼時は弊社「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。検査結果は匿名番号にて、ご担当医師宛てに親展扱いの封書でお届けいたします。

④本検査は倫理指針対象の遺伝学的検査となりますので、検査の実施に際しては、医師により被験者に対して検査の目的や方法、限界等について十分説明され、又、必要に応じて遺伝カウンセリングを受けた上で、被験者の自由意志による同意（インフォームド・コンセント）が得られていることが必要です。

## ●脳梗塞リスク評価(A6C)の結果評価



脳梗塞リスク		健常者群 (%)	無症候性脳梗塞群 (%)
高 値	0.80 ~ 1.0	3.0	51.9
境界値	0.44 ~ 0.79	13.5	32.2
低 値	0.0 ~ 0.43	83.5	15.9

### 〔注意事項〕

当検査項目は脳梗塞リスクに関する情報を提供するものであり、脳梗塞を診断するものではありません。

 <p><b>E-1</b> 採血後静かに約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)</p> <p>EDTA-2Na 5mL用</p>	 <p><b>F-3</b> 採血後静かに約10回ほど転倒混和 血漿分離 (必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用</p> <p>ヘパリン5mL用 又は10mL用</p>	 <p><b>G-1</b> 血清分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>
---	---	---

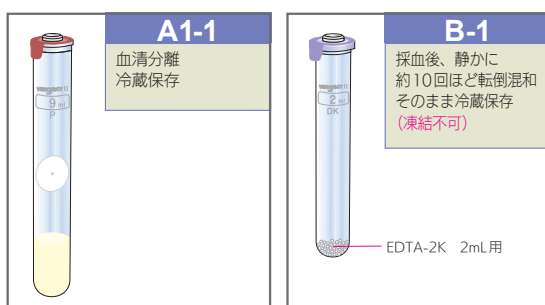


# その他・研究検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## その他特殊検査

3414 3B015	CK-MB〔免疫阻害法〕 3B015-0000-023-272	血清 0.5	<b>A1-1</b> 冷蔵	免疫阻害法	3 ~ 25 U/L	1 2	55 生化I	
1193	酸化LDL	血清 1.0	<b>A1-1</b> 冷蔵	ELISA法	SAA/LDL複合体 40以下 α1AT-LDL複合体 7.8以下 μg/mL	4 6		凍結不可
3252	ヘモグロビンF (HbF、胎児性ヘモグロビン)	全血 2.0	<b>B-1</b> 冷蔵	HPLC法	1.2以下 %	1 2	60 血液	



# その他・研究検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
その他特殊検査								
0006	血清インジウム	血清 1.0	A1-1 冷蔵	誘導結合プラズマ 質量分析法	3.00未満 μg/L	7 ~ 10		* V
2068	尿中メチルイソブチル ケトン (尿中MIBK)	尿 2.0	※1 冷蔵 (凍結厳禁)	GC-MS法	1.7未満 mg/L	8 ~ 9	※2	* V
7688 5F630	ノロウイルスRNA  5F630-1450-015-875	便 1g	イ 凍結	リアルタイムPCR法	(-)	2 ~ 3		

- ※1 容器にはスクリーキャップ付きの試験管を使用してください。  
スクリーキャップ付きの試験管については、担当営業所にお問い合わせください。
- ※2 試験管には、検体からのメチルイソブチルケトンの揮発を防ぐ為に、試験管いっぱい尿を入れ、蓋を確実に閉めて下さい。なお、検体は冷蔵で保管し凍結は避けてください。

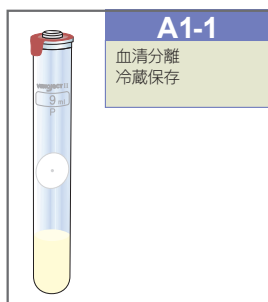


# その他・研究検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 自己抗体

3931 5G335	抗ランゲルハンス島細胞抗体 (ICA) (441) 5G335-0000-023-162	血清 2.0	A1 ↓ G-1 凍結	免疫蛍光抗体間接法	1.25 未満  JDFU	13 ~ 18		JDFU : Juvenile Diabetes Foundation Units  * 8
---------------	---	--------	----------------------	-----------	---------------------	---------------	--	--



# その他・研究検査

## ●抗核抗体染色型と主な自己抗体

染色型	対応抗原	関連疾患	主な自己抗体	コード	測定法
Homogeneous 型 (均質型)	DNA	SLE	抗 DNA 抗体	3603	RIA
			抗 ss-DNA - IgG 抗体	3968	EIA
			抗 ds-DNA-IgG 抗体	3966	EIA
			抗 ss-DNA - IgM 抗体	3969	EIA
			抗 ds-DNA-IgM 抗体	3967	EIA
Peripheral 型 (辺縁型)	DNA	SLE	抗 DNA 抗体	3603	RIA
			抗 ds-DNA-IgG 抗体	3966	EIA
Speckled 型 (斑紋型)	U1RNP	MCTD, SLE	抗 RNP 抗体 (抗 n-RNP 抗体)	— 3946	MO CLEIA
	U1,U2,U4-6RNP	SLE	抗 Sm 抗体	— 3743	MO CLEIA
	RNA polymerase III 転写終結因子	SjS	抗 SS-B/La 抗体	0825 3740	MO CLEIA
	DNA topoisomerase I	SSc	抗 Scl-70 抗体	3627 8394	MO CLEIA
	RNA polymerase III	SSc	抗 RNA ポリメラーゼ III 抗体	0137	ELISA
	70k/80kDa DNA-PK regulatory subunit	PM-SSc, SLE	抗 Ku 抗体	—	未受託
	*****	SLE	抗 Ki 抗体	—	未受託
細胞周期関連型	DNA polymerase δ 補助因子	SLE	抗 PCNA 抗体	—	未受託
	*****	SLE	抗 Na 抗体	—	未受託
Nucleolar 型 (核小体型)	7-2/8-2RNP	SSc	抗 Th/To 抗体	—	未受託
	U3RNP	SSc	抗 U3RNP 抗体	—	未受託
	RNA polymerase III	SSc	抗 RNA ポリメラーゼ III 抗体	0137	ELISA
	核小体蛋白複合体	PM-SSc	抗 PM-Scl 抗体	—	未受託
	Ribosomal P 蛋白	SLE	抗 r-RNP 抗体 (抗リボソーム P 抗体)	—	未受託
セントロメア型 (Discrete-Speckled 型)	CENP-B(80kD)	CREST, PBC	抗セントロメア抗体	3606	CLEIA
Granular 型	Cajal body 結合蛋白	PBC, SjS	抗 p80 coilin 抗体	—	未受託
	multiple nuclear dot(100kD)		抗 Sp-100 抗体	—	未受託
核膜型	Lamina associated polypeptide 2	PBC, AIH	抗核膜ラミン (LAP2) 抗体	—	未受託
	核膜孔複合体 (gp210)		抗 gp210 抗体	—	未受託
	p62 complex		抗 p62 抗体	—	未受託
Cytoplasmic (細胞質抗体)	Ribosomal P 蛋白	SLE	抗 r-RNP 抗体 (抗リボソーム P 抗体)	—	未受託
	ゴルジ体 (golgin-97)	SjS, AIH	抗 golgin-97 抗体 ※	—	未受託
	Y1-Y5 RNP	SjS, SLE	抗 SS-A/Ro 抗体 ※	0824 3737	MO CLEIA
	48kDa tRNA 結合蛋白	SSc	抗 Wa 抗体 ※	—	未受託
	*****	CTD	抗 Tu 抗体 ※	—	未受託
	Signal recognition particle	PM	抗 SRP 抗体 ※	—	未受託
	Histidyl-tRNA synthetase	PM/DM	抗 Jo-1 抗体 ※	— 1272	MO CLEIA
	Threonyl-tRNA synthetase	PM/DM	抗 PL-7 抗体 ※	—	未受託
	Alanyl-tRNA synthetase	PM/DM, IP	抗 PL-12 抗体 ※	—	未受託
	Glycyl-tRNA synthetase	PM/DM, IP	抗 EJ 抗体 ※	—	未受託
	Isoleucyl-tRNA synthetase	PM/DM	抗 OJ 抗体 ※	—	未受託
	Asparaginyl-tRNA synthetase	PM/DM, IP	抗 KS 抗体 ※	—	未受託
M1 ~ M9	PBC	抗ミトコンドリア抗体 抗ミトコンドリア M2 抗体	3604 4527	FA CLEIA	
その他の自己免疫性肝炎 自己抗体	p97/valosin containing protein	PBC	抗 p97/VCP 抗体	—	未受託
	*****	AIH	抗 MM 抗体	—	未受託
	actin	AIH	抗平滑筋抗体	3607	FA
	CYP II D6	AIH	抗 LKM1 抗体	4336 —	EIA 未受託

SLE：全身性エリテマトーデス、DIL：薬剤誘発性ループス、MCTD：混合性結合組織病、SjS：シェーグレン症候群、SSc：強皮症、赤字：研究検査(保険適応外)  
PM：多発性筋炎、DM：皮膚筋炎、CREST：限局性強皮症、PBC：原発性胆汁性肝硬変、CTD：膠原病

IP：間質性肺炎、AIH：自己免疫性肝炎、RA：関節リウマチ

※：対応抗原は細胞質に局在しますが蛍光抗体法での染色性は弱い

〔参考文献〕

1) (株)医学微生物学研究所：自己免疫疾患の診断基準と治療指針，第5版，2009

2) 保健科学グループ：Cefiro 自己免疫疾患-病態と治療-，No.10，2009

3) 宮地清光，他：原発性胆汁性肝硬変と自己抗体，日本臨床免疫学会誌 31：47-55，2008

監修：慶進会 慶宮医院 宮地 清光

# その他・研究検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

## 感染症遺伝子検査

0808	結核菌 Nested PCR	《髄液》 (7551) 6B620-0000-041-852	髄液 1.0 注1	X-5 凍結	Nested PCR法	(-)	4 12	※3
0807		《胸水》 (7552) 6B620-0000-042-852	胸水 1.0 注1	X-5 凍結				

注1 コンタミネーションの影響がより大きい為、検体採取にあたっては取り扱いにご注意下さい。又、他項目との重複依頼は避けて下さい。

※1 検査に必要なウイルス量が十分(3.0Log IU/mL以上)存在することを確認の上、検体をご提出下さい。

※2 ウイルスの遺伝子型(Genotype)が1b型であることをご確認の上、検体をご提出下さい。

※3 M.Bovis BCGの一部の亜株は検出できない可能性があります。判定結果に基づき臨床診断は、臨床症状や他の検査結果等と併せて担当医師が総合的に判断して下さい。

\*イ



▶ 直射日光、高温多湿を避けて下さい。


容 器	記 号	保 存 方 法	検 査 項 目
<b>A1 普通採血管(分離剤入り)</b>  <p>添加剤・内容物</p> <p>採血量</p> <p>貯蔵方法 常温</p> <p>有効期限 分離剤入り試験管 1年</p> <p>備 考 血清を分離して凍結する場合はG試験管を使用して下さい。血球を用いる検査及び薬物検査の場合は分離剤入り試験管は使用しないで下さい。</p>	A1-1	血清分離 冷蔵保存	生化学的検査、他
	A1-2	血清分離 冷蔵保存 (凍結不可)	コレステロール分画、レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)、リポ蛋白分画、アポリポ蛋白、リポ蛋白(a)、乳酸脱水素酵素(LDH)、LDHアイソザイム
	A1-3	採血後血清分離まで (必ず保温) 血清分離 冷蔵保存	寒冷凝集反応、クリオグロブリン
	A1-4	血清分離 常温保存 (凍結不可)	LDアイソザイム
<b>A2 普通採血管(分離剤無し)</b>  <p>添加剤・内容物</p> <p>採血量</p> <p>貯蔵方法 常温</p> <p>有効期限 プレーン試験管 2年</p> <p>備 考 血清分離が必要な場合は、G試験管に移し替えて提出して下さい。</p>	A2-1	血清分離 冷蔵保存	薬物検査、他
	A2-2	そのまま冷蔵保存 (血清分離不可) (凍結不可)	
	A2-3	抗凝固剤を入れずに採血 そのまま冷蔵保存 (血清分離不可)	間接クームス試験、クームス定量試験、不規則性抗体
	A2-4	抗凝固剤を入れずに採血 そのまま (常温に保存) (血清分離不可)	交差適合試験
<b>B EDTA-2K 採血管</b>  <p>添加剤・内容物 EDTA2K</p> <p>採血量 2mL</p> <p>貯蔵方法 常温</p> <p>有効期限 2年</p> <p>備 考</p>	B-1	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	血液形態・機能検査、有核細胞数、巨核細胞数
	B-2	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま (常温に保存)	

▶ 直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容 器	記 号	保 存 方 法	検 査 項 目
<b>B2 血液型検査専用採血管</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>添加剤・内容物 EDTA2K</li> <li>採取量 2mL</li> <li>貯蔵方法 常温</li> <li>有効期限 2年</li> <li>備 考</li> </ul>	B2-1	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	ABO血液型、Rh(D)血液型
	B2-2	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま (常温に保存)	直接クームス試験

C 尿検査用容器	記 号	保 存 方 法	検 査 項 目
 <ul style="list-style-type: none"> <li>添加剤・内容物</li> <li>採取量・容量 10mL 又は 50mL</li> <li>貯蔵方法 常温</li> <li>有効期限 3年</li> <li>備 考 蓄尿の場合は尿量を明記して下さい。</li> </ul>	C-1	冷所に24時間蓄尿、尿量測定 混和、必要量提出 冷蔵保存 (畜尿時は尿量明記)	尿生化学検査、17-ケトステロイド分画 (17-KS分画)、プレグナンジオール(P <sub>2</sub> )、 プレグナントリオール(P <sub>3</sub> )
	C-2	午前第2尿 冷蔵保存 (畜尿時は尿量明記)	デオキシピリジノリン (DPD)、NT <sub>x</sub> (I 型コラーゲン架橋N-テロペプチド)
	C-3	蓄尿又は部分尿 必要量提出 冷蔵保存 (畜尿時は尿量明記)	尿生化学検査、尿水銀(Hg)、他
	C-5	必要量を採取 冷蔵保存 (採尿時間、尿量明記)	クリアランステスト
	C-7	冷蔵保存(凍結不可)	尿沈渣
	C-9	6N塩酸20mL(小児5~10mL)を予め入 れた容器に24時間蓄尿、尿量測定、 混和、必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量明記) (市販の塩酸を水で2倍に希釈する:6N塩酸)	メタネフリン分画、他

▶ 直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容器	記号	保存方法	検査項目
<b>D 凝固検査用採血管</b>  <p><b>添加剤・内容物</b> 3.2%クエン酸ナトリウム 0.2mL</p> <p><b>採血量</b> 1.8mL</p> <p><b>貯蔵方法</b> 常温</p> <p><b>有効期限</b> 1年</p> <p><b>備考</b> 血漿を分離して凍結する場合はG試験管を使用して下さい。</p>	D-1	血液を正確に1.8mL入れ静かに約10回ほど転倒混和 (血漿分離後、必ず凍結保存) ポリ試験管使用	出血・凝固検査、ビタミンK分画、第Ⅷ因子様抗原
	D-3	血液を正確に1.8mL入れ転倒混和後、すみやかに室温にて1,500G以上15分間遠心後、上清の表面よりやや下の部分を1mL採取し、凍結保存にてご提出下さい。 血小板の混入は測定結果に影響しますので注意して下さい。 ※遠心器回転数の計算式 $g = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ (r=ローター半径cm、n=回転数rpm)	ループスアンチコアグラント 遠心力換算一覧表


半径(cm)	1,700G / 回転数(rpm)
6	5,000
8	4,400
10	3,900
11	3,700
12	3,600
13	3,400
14	3,300
15	3,200
16	3,100
19	2,800
20	2,800

容器	記号	保存方法	検査項目
<b>E EDTA-2Na採血管</b>  <p>(E-6)</p> <p><b>添加剤・内容物</b> EDTA-2Na</p> <p><b>採血量</b> 2mL又は5mL</p> <p><b>貯蔵方法</b> 常温</p> <p><b>有効期限</b> 2年</p> <p><b>備考</b></p>	E-1	採血後静かに約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	サイトメガロウイルス抗原(C10、C11) CMV(C10、C11)、PTH-Intact
	E-2	採血後静かに約10回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	EDTA血漿内分泌検査、他
	E-3	採血後静かに約10回ほど転倒混和 そのまま(必ず凍結保存) ガラス管の場合はポリ試験管に移して凍結	
	E-4	採血後静かに約10回ほど転倒混和、血漿分離 冷蔵保存	
	E-5	採血後静かに約10回ほど転倒混和 低温にて180G 20分間遠心 多血小板血漿を分取し(必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	セロトニン(多血小板血漿) 遠心力換算一覧表
	E-6	採血後静かに約10回ほど転倒混和 PCR専用ラベルでキャップに封をし、 そのまま冷蔵保存(開栓不可)	HLA抗原ABC HLA抗原DR

半径(cm)	180G / 回転数(rpm)
6	1,600
8	1,400
10	1,300
11	1,200
12	1,200
13	1,100
14	1,100
15	1,000
16	1,000
19	900
20	900




▶ 直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容 器	記 号	保 存 方 法	検 査 項 目
<b>F ヘパリン採血管</b>  <p><b>添加剤・内容物</b></p> <p><b>採血量</b> 10mL</p> <p><b>貯蔵方法</b> 常温</p> <p><b>有効期限</b> 3年</p> <p><b>備 考</b> PCR法などはPCR専用ラベルでキャップに封をして下さい。</p>	F-1	採血後静かに約10回ほど転倒混和そのまま (必ず凍結保存) (溶血してもよい) ガラス管の場合はポリ試験管に移して凍結	エタノール
	F-2	採血後静かに約10回ほど転倒混和、血漿分離 冷蔵保存	塩酸ピルメノール、アミオダロン
	F-3	採血後静かに約10回ほど転倒混和、血漿分離 (必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	リポ蛋白リパーゼ(LPL)、脂肪酸4分画、血漿遊離ハイドロキシブロン、血漿アミノ酸分画定量
	F-4	採血後静かに約10回ほど転倒混和そのまま常温保存 (必ず無菌採血)(凍結不可) (採血後24時間以内に検査)	細胞性免疫検査
	F-5	採血後静かに約10回ほど転倒混和そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	鉛(Pb)全血、カドミウム(Cd)全血、クロム(Cr)全血、水銀(Hg)全血、マンガン(Mn)全血、ニコチン酸、穿刺液細胞種類、穿刺液細胞数、染色体検査
	F-6	採血後静かに約10回ほど転倒混和、必ず常温保存	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能(T-SPOT.TB)
	F-7	採血後静かに約10回ほど転倒混和し、PCR専用ラベルでキャップに封をして下さい。そのまま冷蔵保存(開栓不可)	

容 器	記 号	保 存 方 法	検 査 項 目
<b>G 汎用容器</b>  <p><b>添加剤・内容物</b></p> <p><b>採取量・容量</b></p> <p><b>貯蔵方法</b> 常温</p> <p><b>有効期限</b> 3年</p> <p><b>備 考</b></p>	G-1	血清(血漿)分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用	血清(血漿)凍結項目
	G-2	血清(血漿)分離 冷蔵保存 (コム性不可) ポリ試験管使用	亜鉛(Zn)血清、マンガン(Mn)血清、ニッケル(Ni)血清
	G-5	冷所に24時間蓄尿 尿量測定、混和、必要量提出(尿量明記) (必ず凍結保存)	尿アミノ酸分析定量、尿アルドステロン
	G-6	蓄尿又は部分尿 必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量記載の必要なし)	尿生化学検査、尿中レジオネラ抗原定性、他
	G-7	トルエン1～2mLを加え 冷所に24時間蓄尿 尿量測定、混和、必要量提出(尿量明記) (必ず凍結保存)	尿サイクリックAMP(c-AMP)

▶ 直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容器	記号	保存方法	検査項目
<b>I 尿検査用遮光容器</b>  <p><b>添加剤・内容物</b></p> <p><b>採取量・容量</b> 10mL</p> <p><b>貯蔵方法</b> 常温</p> <p><b>有効期限</b> 2年</p> <p><b>備考</b> 蓄尿の場合は尿量を明記して下さい。</p>	I-1	蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (遮光保存)	総三塩化物、三塩化(トリクロル)酢酸、マンデル酸、馬尿酸、メチル馬尿酸、N-メチルホルムアミド、2,5-ヘキサンジオン、ウロポルフィリン定量、コプロポルフィリン定量
	I-2	冷所に24時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出 冷蔵保存 (遮光保存) (尿量明記)	デルタアミノレブリン酸定量、ポルフォビリノーゲン定量
	I-3	6N塩酸20mL(小児5~10mL)を予め入れた容器に24時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量明記) (市販の塩酸を水で2倍に希釈する: 6N塩酸)	尿カテコールアミン分画、尿5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)、尿ホモバニリン酸(HVA)、尿パニールマンデル酸(VMA)

<b>X 汎用滅菌容器</b>  <p><b>添加剤・内容物</b></p> <p><b>採取量・容量</b> 10mL</p> <p><b>貯蔵方法</b> 常温</p> <p><b>有効期限</b> 3年</p> <p><b>備考</b> PCR法などはPCR専用ラベルでキャップに封をして下さい。</p>	X-1	必要量採取 冷蔵保存(凍結不可)	穿刺液・採取液検査
	X-2	必要量採取 冷蔵保存	オリゴクローナルバンド、ウイルス抗体検査(髄液)など
	X-3	必要量採取 常温保存(凍結不可)	精液一般検査
	X-4	必要量採取 常温保存	
	X-5	必要量採取 (必ず凍結保存)	髄液カテコールアミン分画、髄液5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)、髄液ホモバニリン酸(HVA)、髄液パニールマンデル酸(VMA)、髄液セロトニン、オリゴクローナルバンド、ミエリンベースック蛋白(MBP)


▶ 直射日光、高温多湿を避けて下さい。

## FG ヘパリン遮光容器



添加剤・内容物	ヘパリン Na
採取量・容量	5mL
貯蔵方法	常温
有効期限	2年
検査項目	コプロポルフィリン 赤血球プロトポルフィリン
備考	

## FL ヘパリンリチウム採血管




添加剤・内容物	ヘパリンリチウム
採取量・容量	6mL
貯蔵方法	冷蔵
有効期限	ラベルに記載
検査項目	結核菌特異的インターフェロン- $\gamma$ 産生能(QFTプラス)
備考	採血後、静かに約10回ほど 転倒混和 そのまま冷蔵保存

## H1 細胞性免疫検査用容器 (骨髓液)



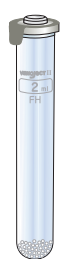
添加剤・内容物	RPMI-1640、FBS、硫酸カナマイシン、 ノボヘパリンNa、炭酸水素Na、HEPES
採取量・容量	5mL
貯蔵方法	凍結
有効期限	色が薄いピンクの状態で使用してください。 (凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります)
検査項目	白血病・リンパ種解析検査 (LLA)CD45 ゲーティング
備考	指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出下さい。

## H2 細胞性免疫検査用容器 (リンパ節)



添加剤・内容物	FBS、PBS、 硫酸カナマイシン
採取量・容量	10mL
貯蔵方法	凍結
有効期限	1年
検査項目	悪性リンパ種解析検査 (MLA) CD45ゲーティング
備考	リンパ節 5 × 5 × 5mm を容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。検体は採集後、当日中にご提出下さい。

## J 血糖・HbA1c 検査専用容器



添加剤・内容物	フッ化ナトリウム
採血量	2mL
貯蔵方法	常温
有効期限	2年
検査項目	血糖、HbA1c
備考	血液2mLを入れ静かに約10回ほど転倒混和 そのまま 4 ~ 6℃ 保存 (凍結不可)

## L 乳酸・ピルビン酸検査専用容器



添加剤・内容物	過塩素酸除蛋白液1.0mL
採取量・容量	1.0 mL
貯蔵方法	冷蔵
有効期限	調整後6ヶ月
検査項目	乳酸・ピルビン酸
備考	血液を正確に1.0mL入れ 激しく振とう混和、すみやかに遠心分離し上清を凍結用ポリ試験管(G)に移し、凍結保存

## M アンモニア検査除蛋白専用採血管




添加剤・内容物	タングステン酸ナトリウム 4mL
採血量	1mL
貯蔵方法	常温 (約15 ~ 25℃)
有効期限	(ラベルに記載)
検査項目	アンモニア
備考	血液を正確に1mL入れ十分に振とう混和すみやかに遠心分離後 (上清を直ちに凍結保存) 保存はポリ試験管 容器に移すとき、沈殿物が混ざらないよう注意して下さい。

## NK NK細胞活性専用採血管



添加剤・内容物	保存液0.7mL
採血量	5mL
貯蔵方法	冷蔵
有効期限	1年 (アルミシート開封後1ヵ月)
検査項目	NK細胞活性
備考	よく混和させ冷蔵保存して下さい。検体は採取後、当日中にご提出下さい。

## P 血沈検査専用採血管



添加剤・内容物	3.8% クエン酸ナトリウム 0.4mL
採血量	1.6mL
貯蔵方法	常温
有効期限	1年
検査項目	血沈
備考	転倒混和後、冷蔵保存

▶ 直射日光、高温多湿を避けて下さい。

## Q 尿中FDP検査専用採取容器

添加剤・内容物

抗プラスミン剤  
アプロチニン、精製ゼラチン、  
デヒドロ酢酸、ナトリウム

採取量・容量

2mL

貯蔵方法

室温

有効期限

製造から2年  
(アルミ包装開封後1週間)

検査項目

尿中FDP

備考

新鮮尿を採取し、左図の容器に注入し、よく混和後、3000rpm5～10分間遠心分離してください。  
上清(部分尿)は必ず凍結保存してください。



## R 血小板第4因子・β-トロンボグロブリン検査専用採血管

添加剤・内容物

抗血小板剤

採血量

2.7mL

貯蔵方法

遮光・冷蔵

有効期限

1年

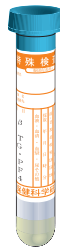
検査項目

血小板第4因子、β-トロンボグロブリン

備考

本文101頁参照

換算表			
半径 (cm)	回転数 (rpm)	半径 (cm)	回転数 (rpm)
10	4,200	22	2,800
12	3,800	24	2,700
14	3,500	26	2,600
16	3,300	28	2,500
18	3,100	30	2,400
20	3,000		



## S EDTA-2K 試験管 凍結用

添加剤・内容物

EDTA-2K

採血量

2.0mL

貯蔵方法

常温

有効期限

1年

検査項目

ビタミンB1(チアミン)、ビタミンB2(リボフラビン)、セロトニン(全血)、シクロスポリン、タクロリムス

備考

採血後静かに約10回ほど転倒混和そのまま(必ず凍結保存)ガラス管の場合は、ポリ試験管に移して凍結。他の検査項目との同時依頼はできません。



## T 無蛍光スライドグラス(1ウェル)

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法

常温

有効期限

2年

検査項目

水痘帯状ヘルペス抗原FA法

備考

93頁参照



## U 無蛍光スライドグラス(2ウェル)

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法

常温

有効期限

2年

検査項目

単純ヘルペスウイルス抗原

備考

93頁参照



## UB ユービット用呼気採取バック

添加剤・内容物

採取量・容量

呼気200～250mL

貯蔵方法

常温

有効期限

検査項目

尿素呼気試験(UBT)  
(ユービット)

備考

61頁参照



## W 保存液入りLBC用容器

添加剤・内容物

固定液

採取量・容量

貯蔵方法

常温

有効期限

2年

検査項目

HPV-DNA簡易ジェノタイプ

備考

- ①綿棒以外の採取器具(ブラシなど)を用いて検体を採取します。
- ②細胞保存液(10mL)の入った容器の蓋を開け、検体を採取した器具のしっかりを保存液の中で強く浸透させ、検体を攪拌させます。
- ③容器の蓋をしっかり閉めて提出して提出して下さい。



## W4 液状検体細胞診(LBC)シンプレップ

添加剤・内容物

メタノール55%含有

採取量・容量

貯蔵方法

常温

有効期限

1年6ヶ月

検査項目

HPV-DNAジェノタイプ(ハイリスク13種)、HPV-DNA型別、HPV-DNA簡易ジェノタイプ

備考

ブラシの先端は容器に残さないで下さい。



## X2 オブジェクトケース

添加剤・内容物

採取量・容量

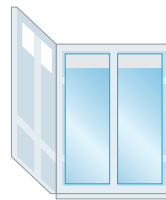
貯蔵方法

常温

有効期限

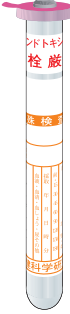
検査項目

備考



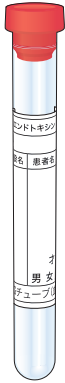
▶ 直射日光、高温多湿を避けて下さい。

## Y (1→3)-β-D-グルカン検査専用採血管




添加剤・内容物	
採血量	3mL
貯蔵方法	常温
有効期限	2年
検査項目	(1→3)-β-D-グルカン
備考	採血部位をよく消毒して採血し、栓を開けずに血液を注入 汚染を避けて冷蔵保存

## Y2 エンドトキシン検査専用採血管



添加剤・内容物	ヘパリン Na
採血量	2mL
貯蔵方法	室温
有効期限	製造後1年
検査項目	エンドトキシン
備考	

## Z ビタミンC検査専用容器



添加剤・内容物	0.8N過塩素酸0.5mL
採取量・容量	0.5mL
貯蔵方法	冷蔵
有効期限	1年
検査項目	ビタミンC
備考	正確に血清0.5mLを専用容器「Z」に加え、混和後、遠心分離し、その上清をポリスピッツ(遮光)にてご提出下さい。

## イ 糞便検査汎用容器



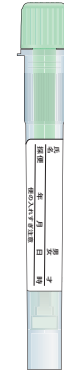
添加剤・内容物	
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	3年
検査項目	糞便一般検査
備考	新鮮糞便を小指頭大容器に取り しっかりとフタを閉める。

## ロ 糞便ヘモグロビン(潜血LA)検査専用容器



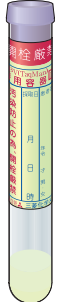
添加剤・内容物	保存液
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	ラベルに記載
検査項目	糞便ヘモグロビン(潜血LA)
備考	1. 専用容器のラベルに必要事項を記入して下さい。 2. キャップを引き抜きキャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり先端のらせん部分の溝が埋まる程度採取して下さい。 3. キャップを容器に差し込みしっかり閉めて下さい。(容器内の液を捨てないで採取して下さい) (冷蔵保存)

## ニ 専用採便容器



添加剤・内容物	
採取量・容量	
貯蔵方法	冷蔵
有効期限	18ヶ月
検査項目	ノロウイルス抗原(BLEIA)
備考	1. 専用容器のラベルに必要事項を記入して下さい。 2. キャップを回転させて抜き取りキャップに付いている採便棒で便の表面を幅広くこするか、5~6ヶ所を突き刺して先端の溝が埋まるように糞便を採取して下さい。 3. キャップをしっかり締め、容器を縦に数回強く振って下さい。

## ホ HIV-1RNA 定量用採血管(血漿)





添加剤・内容物	EDTA-2K
採血量	8mL
貯蔵方法	常温
有効期限	1年
検査項目	HIV-1RNA定量
備考	分離剤入り 指定の採血量(8mL)を採取後、4~5回静かに転倒混和して下さい。 遠心機にて遠心(1,200G ± 400G、20分)したのち冷蔵保存して下さい。(凍結厳禁) 他の項目との重複依頼は受付できません。

## ト ウイルス分離・同定検査用培養細胞試験管



添加剤・内容物	ウイルス専用保存液
採取量・容量	
貯蔵方法	冷蔵
有効期限	6ヶ月
検査項目	ウイルス分離・同定
備考	本文91頁参照

## リ 病理組織検査容器

添加剤・内容物	
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	6ヶ月
検査項目	病理組織・虫体鑑別
備考	提出物の大きさに合う容器を選択し、指定の固定液で固定してご提出して下さい。

▶ 直射日光、高温多湿を避けて下さい。

## 又 滅菌採水容器



添加剤・内容物	
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	容器に表示(製造日より3年)
検査項目	透析液細菌培養
備考	採水方法で影響を受けやすく、不適になる場合があります。容器に記載されている注意事項をよく読んで、正しく採水して下さい。

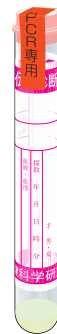


## ワ PCR用滅菌喀痰容器



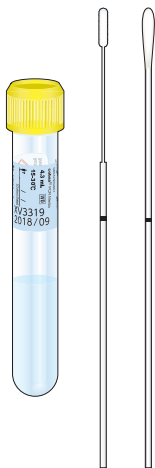
添加剤・内容物	
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	3年
検査項目	ダイレクトTB、結核菌群PCR、MAC PCR
備考	うがいをした後滅菌喀痰容器に痰出し、密栓後、冷蔵保存して下さい。

## カ リアルタイムPCR法専用容器



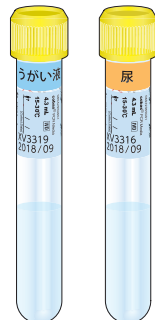
添加剤・内容物	
採血量	8mL
貯蔵方法	常温
有効期限	1年
検査項目	HCV-RNA定量ほか
備考	分離剤入り10mL管 直接採血後4~5回静かに転倒混和し常温にて30~60分放置して下さい。 凝固完了を確認後遠心器にて10~15分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存して下さい。 他の項目との重複依頼は受付できません。

## エ1 淋菌・クラミジア(PCR)擦過細胞専用容器



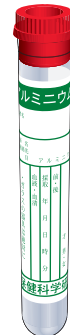
添加剤・内容物	グアニジン塩酸塩
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	1年
検査項目	クラミジア・トラコマチスDNA(PCR)、淋菌/クラミジア・トラコマチスDNA(PCR)、淋菌DNA(PCR)
備考	73頁参照

## エ2 淋菌・クラミジア(PCR)尿/うがい液専用容器



添加剤・内容物	グアニジン塩酸塩
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	1年
検査項目	クラミジア・トラコマチスDNA(PCR)、淋菌/クラミジア・トラコマチスDNA(PCR)、淋菌DNA(PCR)
備考	74頁参照

## ソ アルミニウム専用試験管



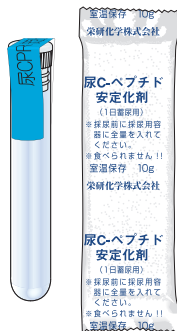
添加剤・内容物	
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	3年
検査項目	アルミニウム
備考	

## ネ アプローチ入りEDTA試験管



添加剤・内容物	EDTA-2Na・トラジロール(アプローチ)
採血量	2mL
貯蔵方法	常温
有効期限	製造後12ヶ月
検査項目	HANP、副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)、他
備考	採血後静かに約10回ほど転倒混和(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)保存はポリ試験管使用

## ナ 尿C-ペプチド専用容器(尿C-ペプチド安定化剤使用)



添加剤・内容物	尿C-ペプチド安定化剤
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	3年
検査項目	C-ペプチド(尿)
備考	予め専用安定化剤を蓄尿容器に一袋全量(10g/袋 最終濃度約0.5%)を入れて24時間蓄尿を行って下さい。 尿量測定、混和後、必要量を提出(尿量明記) ■特長 1. 予めの安定化剤添加により、常温蓄尿が可能 2. 蓄尿サンプルで他項目の検査依頼は不可

## オ 金属分析用容器



添加剤・内容物	
採取量・容量	
貯蔵方法	冷蔵
有効期限	
検査項目	マンガン、ニッケル
備考	

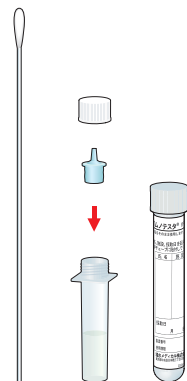
▶ 直射日光、高温多湿を避けて下さい。

## マ2 透析液エンドトキシン採取管(HDチューブ)



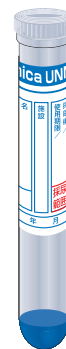
添加剤・内容物	安定化剤
採取量・容量	4mL
貯蔵方法	冷蔵
有効期限	ラベルに記載
検査項目	
備考	

## マ2 癌胎児性フィブロネクチン専用容器



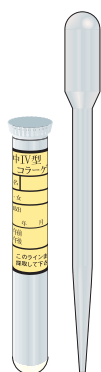
添加剤・内容物	保存液
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	1年
検査項目	癌胎児性フィブロネクチン
備考	119頁参照

## フ 尿中NMP22専用容器



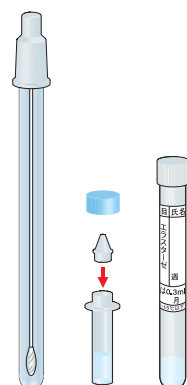
添加剤・内容物	牛血清アルブミン、糖類、抗菌剤、塩類、色素
採取量・容量	
貯蔵方法	遮光・常温
有効期限	2年6ヶ月
検査項目	尿中NMP22
備考	46頁参照

## コ 尿中Ⅳ型コラーゲン専用容器



添加剤・内容物	1.5M Tris-HCl 0.5mL
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	2年
検査項目	尿中Ⅳ型コラーゲン
備考	113頁参照

## テ 顆粒球エラスターゼ専用容器



添加剤・内容物	抽出液(リン酸バッファー)
採取量・容量	
貯蔵方法	冷蔵
有効期限	1年
検査項目	子宮頸管粘液顆粒球エラスターゼ
備考	119頁参照

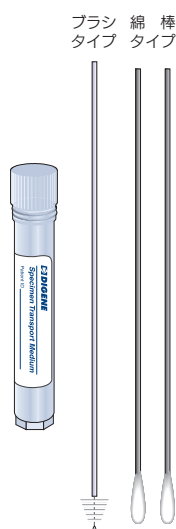
## ア ミオグロビン尿専用容器



添加剤・内容物	安定化剤
採取量・容量	6mL
貯蔵方法	常温
有効期限	1年
検査項目	ミオグロビン定量(尿)
備考	採尿した尿を入れよく混和させ、4~6℃保存

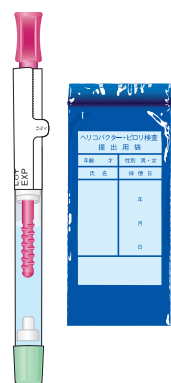
※ 2つのラインの間に入れて下さい。

## キ HPV DNA 低リスク・中~高リスク



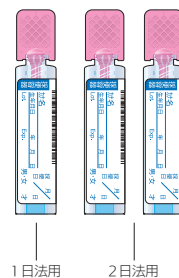
添加剤・内容物	保存液
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	容器に表示
検査項目	HPV DNA中~高リスク
備考	妊婦中の女性には、ブラシタイプを使用せず、綿棒タイプをご使用下さい。

## メ ヘリコバクター・ピロリ抗原専用容器



添加剤・内容物	安定化剤
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	1年
検査項目	ヘリコバクター・ピロリ抗原
備考	

## ヒ 糞便ヘモグロビン・トランスフェリン(潜血金コロイド)専用容器



1日法用 2日法用



添加剤・内容物	
採取量・容量	
貯蔵方法	常温
有効期限	1年
検査項目	糞便ヘモグロビン・トランスフェリン(潜血金コロイド)
備考	1. 採便スティックを回し、容器より抜く。 2. 採便スティックの溝が埋まる程度に便の表面をまんべんなくこすり取る。(取りすぎ、少なすぎは不可) 3. 容器に採便スティックを1回で差し込み、しっかり閉める。

▶ 直射日光、高温多湿を避けて下さい。

## モ 血小板関連IgG (PA-IgG) 専用採血管



### 添加剤・内容物

ACD-A 保存液入り

### 採取量・容量

### 貯蔵方法

常温

### 有効期限

1年  
(アルミシート開封後1ヶ月)

### 検査項目

血小板関連IgG (PA-IgG)

### 備考

血液7.5mLを入れ静かに約10回ほど転倒混和し、そのまま冷蔵保存して下さい。(凍結不可)  
(注) 末梢血の血小板が3万/μL以下の場合は、専用容器を2本使用し必ず10mL以上採血して下さい。

## STDマルチプレックス擦過物専用容器



### 添加剤

TE 緩衝液・他

### 貯蔵方法

常温

### 有効期限

外装に記載

### 検査項目

STDマルチプレックスPCR  
《分泌物》、《咽頭》

### 備考

検体の採取方法は161頁参照



検査項目	期間
------	----

### 生化学的検査

総蛋白 (TP)	凍結 1年間
アルブミン	凍結 1年間
蛋白分画	凍結 1年間
プレアルブミン (トランスサイレチン)	凍結 6週間
フェリチン定量	凍結 2週間
セルロプラスミン (CP)	凍結 1年間
IV型コラーゲン7S	凍結 2週間
$\alpha_1$ -マイクログロブリン	凍結 1年間
$\beta_2$ -マイクログロブリン	凍結 1年間
心筋トロポニンT (TnT)	凍結 3週間
血糖 (グルコース)	凍結 1年間
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール (1,5-AG)	凍結 1週間
HbA1c	凍結 1週間
総コレステロール (T-Cho)	凍結 1年間
LDL-コレステロール (LDL-C)	凍結 1年間
HDL-コレステロール (HDL-C)	凍結 3週間
中性脂肪 (TG)	凍結 1週間
リン脂質 (PL)	凍結 1週間
遊離脂肪酸 (FFA・NEFA)	凍結 6週間
$\beta$ -リポ蛋白	凍結 1年間
総胆汁酸 (TBA)	凍結 6週間
尿素窒素 (UN)	凍結 6週間
クレアチニン	凍結 6週間
シスタチンC	凍結 1週間
クレアチン	凍結 6週間
尿酸 (UA)	凍結 6週間
アンモニア	凍結 1週間
チモール混濁反応 (TTT)	凍結 1週間
硫酸亜鉛混濁反応 (ZTT)	凍結 1週間
総ビリルビン (T-Bil)	凍結 1週間 (遠光)
ハプトグロビン	凍結 4週間
赤血球プロポर्फリン	凍結 1週間 (遠光)
AST (GOT)	凍結 4週間
ALT (GPT)	凍結 1週間
アルカリホスファターゼ (ALP)	凍結 6週間
酸ホスファターゼ (ACP)	凍結 1週間
乳酸脱水素酵素 (LD)	常温 5日間
コリンエステラーゼ (ChE)	凍結 6週間
$\gamma$ -グルタミルトランスペプチダーゼ ( $\gamma$ -GT)	凍結 6週間
ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP)	凍結 3週間
アルドラーゼ (ALD)	凍結 2週間
クレアチンキナーゼ (CK)	凍結 1週間
CK-MB	凍結 4日間
アミラーゼ (AMY)	凍結 1年間
リパーゼ	凍結 6週間
アデノシンデアミナーゼ (ADA)	凍結 1週間
グアナナーゼ (GU)	凍結 10日間
リゾチーム	冷蔵 1週間
アンギオテンシンⅠ転換酵素 (ACE)	凍結 1週間
トリプシン	凍結 6週間
BAP (骨型アルカリホスファターゼ)	凍結 2週間
IntactP INP (インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	凍結 5週間
totalP INP (Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	凍結 6週間
LD アイソザイム	室温 5日間
アミラーゼアイソザイム	凍結 1年間
CKアイソザイム	凍結 6週間
$\gamma$ -GTアイソザイム	凍結 3週間
乳酸	凍結 1週間
ビルビン酸	凍結 1週間
ナトリウム (Na)	凍結 1年間
クロール (Cl)	凍結 1年間
カリウム (K)	凍結 1年間
カルシウム (Ca)	凍結 1年間
マグネシウム (Mg)	凍結 1年間
無機燐 (P)	凍結 1週間
鉄 (Fe)	凍結 6週間
総鉄結合能 (TIBC)	凍結 6週間
不飽和鉄結合能 (UIBC)	凍結 6週間
銅 (Cu)	凍結 6週間
亜鉛 (Zn)	凍結 1年間
総三塩化物 (TTC)	凍結 1週間
三塩化物 (トリクロル) 酢酸 (TCA)	凍結 1週間
マンデル酸 (MA)	凍結 1週間

検査項目	期間
------	----

馬尿酸 (HA)	凍結 1週間
メチル馬尿酸 (MHA)	凍結 1週間
$\delta$ -アミノレブリン酸定量 ( $\delta$ -ALA)	冷蔵 1週間
N-メチルホルムアミド	凍結 1週間
2,5-ヘキサジオン	凍結 1週間
ビタミンA (レチノール)	冷蔵 1週間 (遠光)
レチノール結合蛋白 (RBP)	凍結 1年間
ビタミンB <sub>1</sub> (チアミン)	凍結 10日間 (遠光)
ビタミンB <sub>2</sub> (リボフラビン)	冷蔵 1週間 (遠光)
ビタミンB <sub>6</sub>	冷蔵 1週間 (遠光)
ビタミンB <sub>12</sub>	凍結 3週間
葉酸	凍結 1週間
ビタミンC (アスコルビン酸)	凍結 2週間
アミノ酸分析定量 (尿)	凍結 3週間
クレアチニンクリアランス	凍結 6週間

### 内分泌学的検査

成長ホルモン (GH)	凍結 6週間
甲状腺刺激ホルモン (TSH)	凍結 6週間
黄体形成ホルモン (LH)	凍結 6週間
卵胞刺激ホルモン (FSH)	凍結 6週間
副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	凍結 45日間
プロラクチン (PRL)	凍結 3週間
トリヨードサイロニン (T <sub>3</sub> )	凍結 6週間
遊離トリヨードサイロニン (F-T <sub>3</sub> )	凍結 1週間
サイロキシン (T <sub>4</sub> )	凍結 6週間
遊離サイロキシン (F-T <sub>4</sub> )	凍結 1週間
サイロキシン結合蛋白 (TBG)	凍結 3週間
サイログロブリン (Tg)	凍結 3週間
カルシトニン	凍結 3週間
副甲状腺ホルモン (高感度) (HS-PTH)	凍結 3週間
副甲状腺ホルモン (PTH-Intact)	凍結 6週間
インスリン (IRI)	凍結 6週間
C-ペプチド (CPR)	凍結 3週間
ガストリン	凍結 2週間
カテコールアミン分画 (尿)	冷蔵 1時間 (PH<3)
5-ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA) (尿)	冷蔵 1時間 (PH<3)
ホマニリン酸 (HVA) (尿)	凍結 3週間 (遠光)
パニコマンデル酸 (VMA) (尿)	冷蔵 1時間 (PH<3)
11-ハイドロキシコルチコステロイド (11-OHCS)	凍結 1週間
コルチゾール	凍結 6週間
アルドステロン (血清、血漿)	凍結 1年間
エストラジオール (E <sub>2</sub> ) (血清)	凍結 6週間
progesteron	凍結 1週間
テストステロン (血清)	凍結 2週間
ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量 (血清)	凍結 1年間
ヒト胎盤性ラクトゲン (HPL)	凍結 3週間
セロトニン (全血)	凍結 15日間
アンギオテンシンⅠ	凍結 15日間
アンギオテンシンⅡ	凍結 15日間
レニン活性	凍結 2週間
HANP (ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	凍結 2週間
BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	凍結 2週間
NT-proBNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体 N 端フラグメント)	凍結 1週間
エリスロポエチン	凍結 10日間
低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)	凍結 3週間

### 腫瘍マーカー

$\alpha$ -フェト蛋白 ( $\alpha$ -FP) 定量	凍結 1年間
癌胎児性抗原 (CEA)	凍結 1年間
NCC-ST-439	凍結 1年間
CA19-9	凍結長期間
CA15-3	凍結 2週間
CA125	凍結 1年間
BCA225	凍結 1週間
SLX (シアリルLe <sup>X</sup> -i)	凍結 2週間
CA72-4	凍結 3週間
シフラ (CYFRA21-1) (サイトケラーチン19フラグメント)	凍結 6週間
エラスターゼⅠ	凍結 6週間
前立腺特異抗原 (PSA)	凍結長期間
NSE (神経特異エノラーゼ)	凍結 2年間
$\alpha_1$ -酸性糖蛋白 ( $\alpha_1$ -AGP)	凍結 1週間
NTX (Ⅰ型コラーゲンCテロペプチド) (尿)	凍結 1週間
TRACP-5b定量	凍結 1週間
抗p53抗体	凍結 7日間

検査項目	期間
------	----

### 免疫学的検査

RPR法定量	凍結 1年間
TPHA法定量	凍結 1年間
FTA-ABS法定量	凍結 6週間
抗ストレプトリジンO価	凍結 4週間
マイコプラズマ抗体半定量 (PA)	凍結 6週間
百日咳菌抗体	凍結 1週間
プロカシトニン定量 (PCT)	凍結 3週間
エンドトキシン	凍結 1週間
(1 $\rightarrow$ 3)- $\beta$ -D-グルカン	凍結 1週間
肺炎球菌莢膜抗原定性 (尿)	凍結 2週間
肺炎球菌莢膜抗原定性 (髄液)	凍結 1週間
RF (リウマチ因子) 定量	凍結 4週間
抗CCP抗体定量	凍結 1週間
抗グリアトース欠損IgG抗体	凍結 1年間
MMP-3	凍結 1年間
抗サイログロブリン抗体 (抗Tg抗体)	凍結 1年間
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (抗TPO抗体)	凍結 1週間
TSHレセプター抗体 (第3世代)	凍結 1週間
IgG	凍結 1週間
IgA	凍結 1週間
IgM	凍結 1週間
IgD	凍結 1週間
補体蛋白C <sub>3</sub> ( $\beta_1C$ / $\beta_1A$ グロブリン)	凍結 1週間
補体蛋白C <sub>4</sub> ( $\beta_1E$ グロブリン)	凍結 1週間
C <sub>3q</sub>	凍結 3週間
血清補体価 (CH50)	凍結 2週間
C反応性蛋白定量 (CRP定量)	凍結 4週間
トランスフェリン	凍結 1週間
ヒトTARC	凍結 1週間
HBs抗原	凍結 1年間
HBs抗体	凍結 1年間
HTLV-Ⅰ抗体半定量	凍結 6週間

### 血液学的検査

白血球数 (WBC)	冷蔵 1日間
赤血球数 (RBC)	冷蔵 1日間
血色素 (Hb)	冷蔵 1日間
ヘマトクリット値 (Ht)	冷蔵 1日間
血小板数 (PLT)	冷蔵 1日間
浸透圧	凍結 1週間
血小板第4因子	凍結 1週間
$\beta$ -トロポグロブリン ( $\beta$ -TG)	凍結 1年間

### 薬物検査

フェニバルブテール	凍結 3週間
フェニトイン	凍結 3週間
カルバマゼピン	凍結 3週間
バルプロ酸	凍結 1週間
クロナゼパム	凍結 3週間
ゾニサミド	凍結 3週間
ニトラゼパム	凍結 3週間
ハロペリドール	凍結 2週間
フロムペリドール	凍結 3週間
ジゴキシン	凍結 6週間
塩酸ビルジカイニド	凍結 6週間
メキシレチン	凍結 6週間
パンコマイシン	凍結長期間
シクロスリボン (免疫抑制剤)	凍結長期間
タクロリムス (免疫抑制剤)	凍結 6週間
テオフィリン	凍結 3週間

### 尿・糞便検査

尿浸透圧	凍結 6週間
蛋白定量	凍結 6週間
尿NAG	凍結 1週間
デルタアミノレブリン酸定量	冷蔵 1週間

## BLEIA法：生物化学発光免疫測定法

Bioluminescent Enzyme Immunoassay

生物発光の一種であるホタルルシフェラーゼ発光を検出原理とした、高感度な検査方法。ホタルルシフェラーゼによる生物発光法は、従来のELISA法やイムノクロマト法の化学発光法と比較して感度が数倍から数十倍高く、PCR法と同等の高感度な方法である。

## CF法：補体結合反応

Complement Fixation Test

抗原抗体複合物に結合し、しかも抗体と協同で溶血反応を引き起こすという補体の性質を応用した抗体価の測定法である。補体の存在下で検体中の抗体に抗原を作用させると、抗原抗体複合物ができ補体はそれに結合してしまう(第1相)。続いて抗体の一種である溶血素を結合させたヒツジ赤血球(感作赤血球)を加えても、補体はすでに消費されているため溶血は起こらない(第2相)。検体中に抗体がないときは、抗原と補体を作用させても抗原抗体複合物ができないため補体は消費されず、感作赤血球を加えると溶血が起こることになる。すなわち、補体結合反応では溶血が起これば陰性、起こらなければ陽性である。

## CLEIA法：化学発光酵素免疫測定法

Chemiluminescent Enzyme Immunoassay

抗原抗体反応を利用し、標識物質として酵素を使い、その活性測定に化学発光反応を用いている。原理的にはEIA法と同様であるが、最終段階の酵素反応が呈色反応ではなく化学発光反応である点が異なっている。CLEIA法の代表的な測定手法としては、磁性粒子に結合した抗体と標識抗体で抗原をサンドイッチする方法である。

## CLIA法：化学発光免疫測定法

Chemiluminescent Immunoassay

免疫反応を使用したイムノアッセイで、標識体にアクリジニウムエステルを用いている。アクリジニウムエステルは、酵素標識法で利用されている酵素に比べて分子が非常に小さく、また量子収率が0.12との非常に高いため、このような化学発光物質を標識体として使用することにより、薬物のような低分子からホルモンなどの高分子(タンパク質、核酸、抗体、細胞、ウイルス、ほか)まで測定対象を広げた、より高感度に測定を可能にする方法である。

## ELISPOT法

Enzyme - Linked ImmunoSpot

特定のサイトカインを産生する細胞をスポット(点)として可視化し、サイトカイン産生細胞数を測定する方法。単一細胞レベルで分泌されたサイトカインを検出できる、非常に高感度なイムノアッセイ。

## FA法：蛍光抗体法

Fluorescent Antibody Method

蛍光色素を標識した一次抗体、二次抗体と反応させて、蛍光顕微鏡下で特異的蛍光を観察する方法である。バックグラウンドが暗黒に近いので、検出感度が他の観察法に比べ高く、抗原量と蛍光量との相関も比較的よく定量性に優れている。

## FISH法

Fluorescent In Situ Hybridization

蛍光色素標識のクローン化DNA断片をプローブとし、標本上の染色体DNAとの分子雑種を形成させることにより、プローブと相補性のある染色体上の特定部位を、蛍光シグナルとして検出する方法。

## GC法：ガスクロマトグラフィー法

Gas Chromatography

適当な充填剤をつめた数メートル以上の細管に気体試料または気化した液体試料を不活性な気体とともに通過させると、充填剤に対する吸着性・溶解性の差異によって各成分ガスの通過速度に差が出る。これを利用して試料の成分ガスを分離し、定性と定量とを行う方法。

## HA法：赤血球凝集反応

Hemagglutination Test

赤血球の表面に存在する抗原と検体中の抗体とを反応させ、抗原抗体反応により起こる赤血球の凝集の有無により抗体を検出する。

## HI法：赤血球凝集抑制反応

Hemagglutination Inhibition Test

ウイルス抗体価測定法の一つ、ある種のウイルス(インフルエンザ、アデノ、ムンプス、麻疹、風疹、日本脳炎など)は赤血球凝集能を有しているが、検体中にそれぞれのウイルスに対する抗体があれば凝集反応は特異的に抑制されるということを用いたものである。一般に補体結合反応(CF)より感度は高く、早期診断に有用であるが、赤血球凝集能を有するウイルスしか検査できず、ウイルスごとに使用する赤血球が異なり煩雑な面もある。

## HPLC法：高速液体クロマトグラフィー法

High Performance Liquid Chromatography

疎水基あるいは陽イオン交換基をもった硬質ゲルや親水基をもったシリカゲルを高密度に充填したカラムと、高圧ポンプで液体の移動相を用い、高速、高精度の分離を可能とした液体クロマトグラフィーで、超微量分析に適している。

## IFA法：間接蛍光抗体法

Indirect Fluorescent Antibody Technique

抗原を固定したスライドガラス上に検体を添加し、抗原・抗体反応(一次反応)をさせる。洗浄後、FITC標識抗体を添加して反応(二次反応)させ、抗原・抗体・FITC標識抗体の複合物を形成させる。FITCの蛍光を蛍光顕微鏡で観察する。

## LAMP法：ループ介在等温増幅法

Loop-Mediated Isothermal Amplification

標的遺伝子の6つの領域に対して4種類のプライマーを設定し、鎖置換反応を利用して一定温度で反応させることを特徴とする。サンプルとなる遺伝子、プライマー、鎖置換型DNA合成酵素、基質等を混合し、一定温度(65℃付近)で保温することによって反応が進み、検出までの工程を1ステップで行うことができる。DNAを15分~1時間で $10^9$ ~ $10^{10}$ 倍に増幅することができるため、簡易検出(スクリーニング)に適する。

## LA法：ラテックス凝集比濁法

Latex Agglutination Immunoassay

希薄溶液においてラテックスに抗体(又は抗原)を結合させ、抗原抗体反応を起こさせてその生成物による濁度を吸光度としてとらえ、測定する方法である。現在、白色光を用いる方法(LA法)と近赤外光を用いる方法(LPIA法)が実用化されている。このほか、いわゆる免疫比濁法ではないがラテックス粒子を用いた測定法として粒子凝集法(PA法)や粒子カウンティング法(PAMIA法)や積分球濁度方式による測定法などが開発されている。

## LIA法：ラインプロット法

Line Immunoassay

抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させたあと、酵素で標識した抗体を2次反応させ、抗体の検出を行う方法。反応後に出現するラインの有無および強度により判定する。

## LC-MS/MS法：液体クロマトグラフィータンデム質量分析法

Liquid Chromatography - Tandem Mass Spectrometry

液体クロマトグラフ(LC)により分離した分析対象成分を専用のインターフェース(イオン源)を介してイオン化し、生成するイオンを質量分析計(MS)で分離して特定の質量イオンを解離・フラグメント化させ、それらのイオンを質量分析計で検出する分析方法。

## MO法：二重免疫拡散法

Micro Ouchterlony

ゲル平板内で抗原と検体を拡散させ、抗原抗体反応が起きると沈降線を生じる。沈降線により抗体を検出同定でき、同一抗原に対する2種の抗体の沈降線の形態から、抗体の特異性を知ることが可能。

## NT法：中和反応

Neutrazation Test

ウイルス粒子に抗体が付着すると、そのウイルス粒子の感染性が失われることを利用した抗体の測定法である。既知抗体を用いて分離ウイルスの同定にも利用される。最も特異性が高く、感度もよい血清学的検査法である。多くの場合、培養細胞における細胞変性(CPE)の有無を指標にして抗体の有無を判定するが、CPEの代わりにプラーク形成を指標にすることもあり、又、培養細胞の代わりに実験動物、発育鶏卵を用いることもある。

## PCR法

Polymerase Chain Reaction

DNAの特定の領域を増幅する技術。DNAを加熱して2重鎖から1重鎖に解離させ、これを冷却する過程で2本のDNA鎖のそれぞれ特定の領域に相補的なプライマーを結合させる。これをDNAポリメラーゼの伸長反応でプライマーの下流のDNA配列を合成させる。これを繰り返すことで特定のDNA領域を増幅することができる。

## PHA法：受身赤血球凝集反応

Passive Hemagglutination Test

動物赤血球表面に目的とする抗体に対する抗原を感作させた感作赤血球に試料を加えると、試料中の抗体と抗原抗体反応が起こり、赤血球の凝集が認められる。この凝集の有無で抗体の存在を判定する

## RIA法：放射免疫測定法

Radioimmunoassay

抗原抗体反応を利用し、RI(放射性同位元素)を標識物質として微量物質の濃度を測定する方法である。抗体の一定量に対して、RI標識抗原の一定量と非標識抗原とをインキュベートして競合的に結合させると、標識抗原のうち抗体とくっついた結合型 bound(B)は非標識抗原の量が多くなるほど少なくなり、抗体と結合していない遊離型 free(F)が増える。したがって、予め既知量の非標識抗原を用いて標準曲線(standard curve)を作成しておけば、未知検体を測定したときのB又はFのRIカウントより未知の抗原濃度を知ることができる。又、BとFの分離方法として、固相法(ビーズ法、チューブ法、ディスク法など)、2抗体法、DCC(dextran coated charcoal)法、PEG(polyethyleneglycol)法、DAPS(double antibody precipitin suspension)法などがある。なお、RIAにおける抗体の代わりに、目的

する物質の特異的結合蛋白、たとえば、T4測定時ならTBG(サイロキシン結合グロブリン)を用いる方法をCPBA(competitive protein binding assay)とよび、抗体の代わりにレセプター(受容体)を用いる方法をラジオレセプターアッセイ(radio receptor assay: RRA)とよぶ。

## RPLA法：逆受身ラテックス凝集反応法

Reversed Passive Latex Agglutination Test

検出目的の抗原に対応する抗体をラテックス粒子に吸着させさせたものと試料を反応させると、試料中の抗体と抗原抗体反応が起こり、ラテックスの凝集が認められる。この凝集の有無で抗体の存在を判定する。

## RT-PCR法

Reverse Transcription Polymerase Chain Reaction

RNAはDNAの様に直接PCRによって増幅することができない。一度RNAを逆転写反応によってcDNA(相補的DNA: complementary DNA)に変換し、これをPCRによって増幅する技術。

## SDA法

Strand Displacement Amplification

DNAを鋳型として、DNAポリメラーゼと制限酵素を用いて行う核酸増幅法。これらの酵素が等温条件下で反応し、鎖置換型の核酸増幅産物を生じる。目的増幅産物の検出は、2種類の蛍光物質で修飾したステムループ状のプロープを用いて、増幅と同時に進行。

## TIA法：免疫比濁法

Turbidimetric Immunoassay

被検検体中の目的物質に対する抗原もしくは抗体を加えると抗原抗体反応による混濁が生じる。この濁度を標準物質により作成された検量線により濃度を求める。

## UV法：紫外吸収スペクトル法

Ultraviolet Absorption Spectrophotometry

試料に紫外単色光を照射し、各波長での吸光度より得られた紫外外部吸収スペクトルを用いて、定性や定量を行う方法、通常200~400nmの近紫外線の波長が最もよく用いられる。

## WB法：ウェスタンブロット法

Western Blot Method

電気泳動法により蛋白質混合物を分離し、これらの蛋白質を蛋白質と高い結合能のある膜上に転写する。調べようとする蛋白質に特異抗体(一次抗体)を反応させたのち、二次抗体を作用させ、結合した二次抗体を検出する方法。二次抗体の検出には、酵素を結合させて基質を発色させる方法や<sup>125</sup>I標識プロテインA等が用いられる。DNAを電気泳動後検出するサザンブロット法、mRNAを検出するノーザンブロット法との類似性から蛋白質を検出する方法をウェスタンブロット法と呼ぶ。

## イオン電極法

Ion Electrode Method

目的とするイオンに選択的に反応するイオン選択電極(イオンセンサー)と比較電極とを試料中に挿入して、両電極間に生じる電位差によりイオン濃度を測定する。臨床化学分析では、体液電解質の測定が行われており、これらの測定に用いられている電極は、ナトリウムではガラス電極、カリウムではニュートラルキャリアー含有液膜電極、クロールでは個体膜型電極などである。

## 酵素法

Enzymatic Method

酵素反応を利用して目的とする物質を定量する方法で、終点測定法(end point assay)と初速度測定法(rate assay)とがある。終点測定法は、酵素反応が平衡状態に達した時点、すなわち単位時間当たりの基質の減少または生成物の増加などを測定する方法である。

## 酵素免疫測定法

Enzyme Immunoassay(EIA)

Enzym-linked Immunosorbent Assay(ELISA)

Fluorescence Enzymes Immunoassay(FEIA)

Enzyme Multiplied Immunoassay Technique(EMIT)

抗原抗体反応を利用し、酵素を標識物質として目的とする物質を測定する方法または発蛍性の基質を用いるEIA法(FEIA法)で、酵素によって分解される基質又は生成物より酵素活性を測り、間接的に測定値を求めるものであり、原理的には競合反応を用いる方法と用いない方法とがある。前者では、抗体の一定量に対して酵素標識抗原の一定量と未知検体中の非標識抗原とを競合させた後、抗原抗体結合物の酵素活性を測り、既知濃度の標準抗原を用いて、得られた標準曲線から非標準抗原濃度を求める。後者では固相化抗体に未知検体中の抗原を結合させ、さらに酵素標識抗体を結合させてその酵素活性を測ったり、酵素標識抗体に検体中の抗原を結合させ、余分の標識抗体を除去した後に酵素活性を測る方法などがある。

## 電気泳動法

Electrophoresis

溶液中で荷電したコロイド粒子に直流電圧を加えると、正に荷電した粒子は陰極に、負に荷電した粒子は陽極へ移動するが、この現象を利用して物質の分離精製や均一性の測定を行うのが電気泳動法である。荷電した粒子の移動速度(移動度)は、粒子の荷電の強弱・粒子の大きさや形状・溶媒中の電解質の種類・イオン強度・pH・電圧など多くの因子に左右される。又、電気泳動法は、移動界面電気泳動法(Tiseliusの電気泳動法)と支持体電気泳動法(ゾーン電気泳動法: zone electrophoresis)とに大別される。前者は、U字管内で試料中の荷電粒子が緩衝液中を移動する際の境界面を光学的に分析するものであり、後者は、濾紙・セルロースアセテート・寒天・デンブン・ポリアクリルアミドゲルなどを支持体とし、その上に試料をつけて電圧をかけることにより試料中の物質を移動させ、染色して定量するものである。

## 発色性合成基質法

ヘパリンを加えてAT-III-ヘパリン複合体を形成させ、そのトロンビン不活化能をトロンビンに対する発色性合成基質を用いて測定する方法。

## 比色法

Colorimetry

溶液の色の濃さを標準液の色の濃さと比較して溶液濃度を求める方法で、最も簡単な方法は肉眼で比較する方法である。しかし、通常は、溶液の吸光度はその濃度と液層の幅に比例するというランベルト-ベアの法則(Lambert-Beer law)に基づき、光電光度計を用いて試料溶液の吸光度を測定し、標準液の吸光度と比較することによって測定値を求める。溶液が無色の場合は、発色試薬を加えるか、目にみえない紫外線や赤外線吸収を調べるとよい。

## 比濁法

Turbidimetry

抗原抗体反応溶液に光を入射させ、透過する光の強さを測定する方法を比濁法(turbidimetry)とよび、標準抗原と抗体の反応液の透過光の強さ、又は散乱強度から作成した検量線を用いることにより、未知検体中の抗原の定量が可能となる。

## 比濁法：ネフェロメトリー法

Nephelometry

沈降物によって散乱した光の強さを入射光と直角の方向から測定する方法は比濁法(ネフェロメトリー:nephelometry)とよばれる。これらの方法では、標準抗原と抗体の反応液の透過光の強さ、又は散乱強度から作成した検量線を用いることにより、未知検体中の抗原の定量が可能となる。なお、最近では光の特性の優れた(直進性が良くエネルギーが高い)レーザー光線を光源としたレーザーネフェロメトリーが行われている。

## フローサイトメトリー法

Flow Cytometry

細胞浮遊液を高速度で流し、レーザー光を照射して、前方散乱光と測方散乱光を検出する。前方散乱光の強さは細胞の大きさ、測方散乱光は細胞内構造を反映する。得られた情報をコンピュータで処理し、個々の細胞を解析する。

## リアルタイム PCR

Real Time Polymerase Chain Reaction

PCRの増幅をリアルタイムに測定する方法。TaqMan法では蛍光色素を標識したオリゴヌクレオチドを用いる。このオリゴヌクレオチドは伸長反応の過程で分解され、蛍光強度が増加する性質を持つ。PCRサイクル毎に蛍光強度を測定することでDNAの増幅を測定し、また、特定のDNA配列を特異的に定量することができる。

## 原子吸光法

Atomic Absorption Method

原子の吸光現象を利用した測定法、試料に熱エネルギーを加え、分子間の結合や原子間の結合を切断し、バラバラの遊離原子にすると、ガス状になる。これに可視光線や紫外線を通過させると、基底状態の原子が、その原子固有の波長の光を吸収し励起状態になる。したがって、そのときの吸光度を測定すれば、試料中の目的とする元素の濃度を求めることができる。

## 参考文献

- 河合忠、水島裕：今日の臨床検査、南江堂、1990。
- 臨床検査医学事典編集委員会：臨床検査医学事典、朝倉書店、1987。
- 試薬製造元資料

頁 項 目 文 献 名

1	総蛋白 (TP)	A.G.Gornall, et al. : Biol.Chem., 177 : 751, 1949
1	アルブミン	村本 良三, 他 : 臨床化学 26 : 38-43, 1997
1	蛋白分画	セバックス SP (泳動膜) パンフレット
1	A/G比	浅井 孝道 : 検査と技術 7 : 815, 1979
1	フェリチン定量	田口 隆由, 他 : 医療と検査機器・試薬 26 (4) : 305, 2003
1	プレアルブミン (トランスサイレチン)	古田島伸雄, 他 : JJCLA 32 (1) : 84, 2007
1	セロプラスミン (CP)	飯村 康夫, 他 : 日本臨床 42 (春季増刊号) : 1209, 1984
1	プロコラーゲン-III-ペプチド (P-III-P)	上野 隆登, 他 : 医学と薬学 24 (3) : 675, 1990
1	IV型コラーゲン 7S	長田 篤雄, 他 : 医学と薬学 20 (6) : 1507, 1988
1	IV型コラーゲン	キット添付説明書
2	肝細胞増殖因子 (HGF)	杉原 潤一, 他 : 新薬と臨床 41 (9) : 180, 1992
2	$\alpha_1$ -マイクログロブリン ( $\alpha_1$ -MG) (血清)	和田 守史, 他 : JJCLA 12 : 79, 1987
2	$\alpha_1$ -マイクログロブリン ( $\alpha_1$ -MG) (尿)	和田 守史, 他 : JJCLA 12 : 79, 1987
2	$\beta_2$ -マイクログロブリン ( $\beta_2$ -MG) (血清)	望月 照次, 他 : 臨床検査機器・試薬 8 : 1244, 1985
2	$\beta_2$ -マイクログロブリン ( $\beta_2$ -MG) (尿)	望月 照次, 他 : 臨床検査機器・試薬 8 : 1244, 1985
2	ミオグロビン定量	キット添付説明書
2	ミオグロビン定量 (尿)	吉川 文雄, 他 : 医学と薬学 37 (5) : 1255, 1997
2	H-FABP定量 (ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	藤田 孝, 他 : 機器・試薬 33 (5) : 629, 2010
2	心室筋ミオシン軽鎖 I	宮崎 修一, 他 : 医学と薬学 52 (3) : 443, 2004
2	心筋トロポニン T (TnT)	荒井 信之, 他 : 医療と検査機器・試薬 32 (2) : 269, 2009
3	血糖 (グルコース)	H.U.Bergmeyer, ed : Methods of Enzymatic Analysis, Academic Press, New York and London : 117, 1963
3	グリコアルブミン (GA)	藤田 知代, 他 : 医学と薬学 47 (1) : 141, 2002
3	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール (1,5-AG)	森脇 眞美, 他 : 臨床検査機器・試薬 24 (2) : 139, 2001
3	HbA1c (NGSP)	藤本 一清, 他 : 機器・試薬 36 (4) : 525, 2013
3	総コレステロール (T-Cho)	Allain,C.C., et al. : Clin. Chem. 20 : 470, 1974
3	LDL-コレステロール (LDL-C)	井上 郁夫, 他 : 医学と薬学 69 (1) : 163, 2013
3	HDL-コレステロール (HDL-C)	田中 忍, 他 : 医学検査 58 (5) : 402, 2009
3	コレステロール分画	五十嵐輝男, 他 : 医学検査 41 (11) : 1703, 1992
4	尿中硫酸抱合型胆汁酸 (USBA)	山根 真, 他 : 神大医保健紀要 第13号 : 1, 1997
4	レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C)	滝野 豊, 他 : 医学と薬学 56 (2) : 269, 2006
4	遊離コレステロール (F-Cho)	Allain,C.C., et al. : Clin. Chem. 20 : 470, 1974
4	中性脂肪 (TG)	松宮 和人 : Medical Technology 11 (12) : 1201, 1983
4	総脂質 (TL)	Cheek,C.S., et al. : Clin. Chem. 15 (2) : 102, 1969
4	リン脂質 (PL)	仁科 甫啓 : 検査と技術 15 (4) : 333, 1987
4	遊離脂肪酸 (FFA・NEFA)	金井 正光 : 臨床検査法提要 33 : 470, 2010
4	$\beta$ -リポ蛋白 ( $\beta$ -LP)	柴田 進 : 臨床化学診断法 金芳堂, 1965
4	リポ蛋白分画	大島寿美子, 他 : 臨床検査 19 (9) : 988, 1975
4	リポ蛋白分画 (PAGディスク電気泳動法)	熊坂 一成, 他 : Medical Technology 別冊 1 : 137, 1991
5	アポリポ蛋白 A-I	藤田 誠一, 他 : 臨床検査 29 : 1401, 1985
5	アポリポ蛋白 A-II	藤田 誠一, 他 : 臨床検査 29 : 1401, 1985
5	アポリポ蛋白 B	藤田 誠一, 他 : 臨床検査 29 : 1401, 1985
5	アポリポ蛋白 C-II	藤田 誠一, 他 : 臨床検査 29 : 1401, 1985
5	アポリポ蛋白 C-III	藤田 誠一, 他 : 臨床検査 29 : 1401, 1985
5	アポリポ蛋白 E	藤田 誠一, 他 : 臨床検査 29 : 1401, 1985
5	リポ蛋白 (a) (LP (a))	吉岡 成人, 他 : ホルモンと臨床 41 : 1119, 1993
5	総胆汁酸 (TBA)	吉田 雅明, 他 : 臨床検査機器・試薬 17 (2) : 335, 1994
5	グリココール酸 (CG)	安達 秀樹, 他 : ホルモンと臨床 27 : 185, 1979
6	尿素窒素 (UN) (血清)	太田 拓徳, 他 : 臨床病理 21 (補冊) : 303, 1973
6	尿素窒素 (UN) (蓄尿)	太田 拓徳, 他 : 臨床病理 21 (補冊) : 303, 1973
6	クレアチニン (血清)	大澤 進 : Medical Technology 26 (4) : 389, 1998
6	クレアチニン (蓄尿)	大澤 進 : Medical Technology 26 (4) : 389, 1998
6	シスタチンC	平田 昭彦, 他 : 日本臨床 60増刊号 8 : 519, 2002
6	クレアチン (血清)	今野 稔 : Medical Technology 12 : 270, 1984
6	クレアチン (蓄尿)	今野 稔 : Medical Technology 12 : 270, 1984
6	尿酸 (UA) (血清)	岩田 一郎, 他 : 臨床検査 20 : 941, 1976
6	尿酸 (UA) (蓄尿)	岩田 一郎, 他 : 臨床検査 20 : 941, 1976
7	アンモニア (NH <sub>3</sub> )	美崎 英生 : 検査と技術 27 (8) : 973, 1999
7	総ビリルビン (T-Bil)	徳田 邦明, 他 : 臨床化学 22 : 116, 1993
7	直接ビリルビン (D-Bil)	徳田 邦明, 他 : 臨床化学 22 : 116, 1993
7	ハプトグロビン (型判定含む)	櫻林郁之介, 他 : 臨床病理 53 (特集号) : 71, 1983
7	ハプトグロビン (型判定なし)	加野象次郎, 他 : Medical Technology 7 (13) : 1345, 1979
7	赤血球コプロポルフィリン	M.Salmi : Clin.Chem. 26 (3) : 1832, 1980
8	赤血球遊離プロトポルフィリン	新沼 幸子, 他 : 産業医学 23 : 254, 1981
8	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST) (GOT)	日本臨床化学会 : 臨床化学 18 (4) : 226, 1989
8	アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT) (GPT)	日本臨床化学会 : 臨床化学 18 (4) : 250, 1989
8	アルカリホスファターゼ (ALP)	日本臨床化学会 : 臨床化学 19 (2) : 209, 1990
8	乳酸脱水素酵素 (LD)	日本臨床化学会 : 臨床化学 19 (2) : 228, 1990
8	コリンエステラーゼ (ChE)	高木 康 : 総合臨床 27 : 2392, 1978
8	$\gamma$ -グルタミルトランスペプチダーゼ ( $\gamma$ -GT)	日本臨床化学会 : 臨床化学 24 : 106, 1995
9	ロシニンアミノペプチダーゼ (LAP)	Recommendations of the German Society for Clinical Chemistry : Z.Klin.Chem.Klin.Biochem., 10 : 280, 1972
9	アルドラーゼ (ALD)	三浦 雅一, 他 : 臨床検査機器・試薬 12 (5) : 1005, 1989
9	クレアチンキナーゼ (CK)	日本臨床化学会 : 臨床化学 19 (2) : 184, 1990
9	CK-MB	初山 弘幸, 他 : 医学と薬学 29 (3) : 675, 1993
9	アミラーゼ (AMY) (血清)	白井 秀明 : 医学と薬学 59 (6) : 1093, 2008
9	アミラーゼ (AMY) (尿)	白井 秀明 : 医学と薬学 59 (6) : 1093, 2008
9	膵アミラーゼ (P-AMY)	野村 博, 他 : 臨床検査機器・試薬 19 (1) : 27, 1996
9	リパーゼ	松井 静代, 他 : 医学と薬学 41 (3) : 489, 1999
9	リポ蛋白リパーゼ (LPL)	Kobayashi.H. et al. : Clin.Chim.Acta 216 : 113, 1993
10	アデニンデアミナーゼ (ADA)	江頭 静摩, 他 : 現代の診療 24 (4) : 131, 1982
10	グアナーゼ (GU)	藤井 節郎, 他 : 臨床化学 12 : 208, 1983
10	リゾチーム (血清)	北村 元仕, 他 : 実践臨床化学 医歯薬出版 : 432, 1983
10	リゾチーム (尿)	北村 元仕, 他 : 実践臨床化学 医歯薬出版 : 432, 1983
10	アンギオテンシン I 転換酵素 (ACE)	山下寿美子, 他 : 臨床検査機器・試薬 10 (1) : 71, 1987
10	トリプシン	河野 幹彦, 他 : 医学と薬学 53 (5) : 635, 2005
11	膵ホスホリパーゼ A <sub>2</sub> (PLA <sub>2</sub> )	上田 章, 他 : 臨床病理 37 (5) : 561, 1989
11	ペプシノゲン I・II (PG I・II)	三木 一正 : 医学と薬学 49 (3) : 519, 2003
11	BAP (骨型アルカリホスファターゼ)	倉澤健太郎, 他 : 医学と薬学 55 (2) : 279, 2006
11	total P I NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	日高 好博 : 医学と薬学 70 (2) : 357, 2013
11	LDアイソザイム	キット添付説明書
11	ALPアイソザイム	松下 誠 : 検査と技術 33 (12) : 1359, 2005
11	アミラーゼアイソザイム (AMYアイソザイム)	星野 忠, 他 : JJCLA 35 (4) : 773, 2010
11	CKアイソザイム	Galen RS. : HUMAN PATHOLOGY 6 (2) : 141, 1975
12	ケトン体分画<<静脈血>>	菊野 晃, 他 : 臨床検査 41 : 963, 1997
12	ケトン体分画<<動脈血>>	菊野 晃, 他 : 臨床検査 41 : 963, 1997
12	乳酸	浅沼 和子, 他 : 生物試料分析 8 (3) : 16, 1985
12	ビリルビン酸	浅沼 和子, 他 : 生物試料分析 8 (3) : 16, 1985
12	ヒアルロン酸	島村 朗, 他 : 医学と薬学 44 (6) : 1441, 2000
13	ナトリウム (Na) (血清)	関口 光夫 : 検査と技術 17 (9) : 1167, 1989
13	ナトリウム (Na) (蓄尿)	関口 光夫 : 検査と技術 17 (9) : 1167, 1989

# 検査方法参考文献一覽

頁	項 目	文 献 名
13	クロール (Cl) (血清)	関口 光夫：検査と技術 17 (9)：1167, 1989
13	クロール (Cl) (蓄尿)	関口 光夫：検査と技術 17 (9)：1167, 1989
13	カリウム (K) (血清)	関口 光夫：検査と技術 17 (9)：1167, 1989
13	カリウム (K) (蓄尿)	関口 光夫：検査と技術 17 (9)：1167, 1989
13	カルシウム (Ca) (血清)	第54回 神奈川県医学検査学会 抄録 (2005.11)
13	カルシウム (Ca) (蓄尿)	第54回 神奈川県医学検査学会 抄録 (2005.11)
13	イオン化カルシウム	桑 克彦：検査と技術 19 (2)：119, 1991
14	マグネシウム (Mg) (血清)	北村 元仕，他：実践臨床化学 医歯薬出版：166, 1983
14	マグネシウム (Mg) (蓄尿)	北村 元仕，他：実践臨床化学 医歯薬出版：166, 1983
14	無機リン (IP) (血清)	Daly, J.A. and Ertingshausen, G.: Clin. Chem., 18 : 263, 1972
14	無機リン (IP) (蓄尿)	Daly, J.A. and Ertingshausen, G.: Clin. Chem., 18 : 263, 1972
14	鉄 (Fe) (血清)	徳井 健志，奥田 潤：臨床化学 16 (1)：48, 1987
14	鉄 (Fe) (尿)	Varian Techtron Pty Limited : Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
14	総鉄結合能 (TIBC) [比色法]	斉藤 宏：基礎と臨床 8 (11)：408, 1974
14	不飽和鉄結合能 (UIBC) [比色法]	山田 満廣，他：JJCLA 13 (5)：659, 1988
15	銅 (Cu) (血清)	金井 泉，他：臨床検査法提要 金原出版 31：604, 1998
15	銅 (Cu) (尿)	Varian Techtron Pty Limited : Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	アルミニウム (Al)	Varian Techtron Pty Limited : Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	亜鉛 (Zn) (血清)	松本 和子：臨床検査 (増刊号) 34 (11)：1367, 1990
15	亜鉛 (Zn) (尿)	松本 和子：臨床検査 (増刊号) 34 (11)：1367, 1990
15	鉛 (Pb) (全血)	原田 章，他：鉛健康診断のすすめ方：56, 1990
15	鉛 (Pb) (尿)	原田 章，他：鉛健康診断のすすめ方：56, 1990
15	カドミウム (Cd) (全血)	Varian Techtron Pty Limited : Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	カドミウム (Cd) (尿)	Varian Techtron Pty Limited : Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
16	クロム (Cr) (全血)	松岡 澄：産業医学 13 (6)：27, 1971
16	クロム (Cr) (尿)	松岡 澄：産業医学 13 (6)：27, 1971
16	水銀 (Hg) (全血)	神奈川県公害センター監修：公害関係の分析法と解説 神奈川県弘済会，1972
16	水銀 (Hg) (尿)	神奈川県公害センター監修：公害関係の分析法と解説 神奈川県弘済会，1972
16	マンガン (Mn) (全血)	加地 浩，他：日本災害医学会会誌 37：195, 1989
16	マンガン (Mn) (血清)	加地 浩，他：日本災害医学会会誌 37：195, 1989
16	マンガン (Mn) (尿)	Mikac-Devic, D. et al. : Clin. Chem. 23 : 948, 1977
16	ニッケル (Ni)	Mikac-Devic, D. et al. : Clin. Chem. 23 : 948, 1977
17	総三塩化物 (TTC)	竹内 康浩：臨床検査 28：1402, 1984
17	三塩化 (トリクロル) 酢酸 (TCA)	全国労働衛生団体連合会：有機溶剤健康診断のすすめ方 全衛連，1990
17	マンデル酸 (MA)	Masana Ogata, et al. : Int Arch Occup Environ Health 61 : 131, 1988
17	馬尿酸 (HA)	Masana Ogata, et al. : Int Arch Occup Environ Health 61 : 131, 1988
17	メチル馬尿酸 (MHA)	Masana Ogata, et al. : Int Arch Occup Environ Health 61 : 131, 1988
17	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA)	岡山 明：労働衛生管理 3 (4)：45, 1992
17	N-メチルホルムアミド	全国労働衛生団体連合会：有機溶剤健康診断のすすめ方 全衛連，1990
17	2,5-ヘキサンジオン (2,5-HD)	全国労働衛生団体連合会：有機溶剤健康診断のすすめ方 全衛連，1990
18	エタノール	塚本昭次郎：アルコール研究 5：8, 1970
18	ビタミンA (レチノール)	須原 聡，他：臨床検査 36 (3)：235, 1992
18	レチノール結合蛋白 (RBP)	古田島伸雄，他：日本臨床検査自動化学会誌 32 (1)：84, 2007
18	ビタミンB <sub>1</sub> (チアミン)	安田 和人，他：臨床病理 XXXIX：564, 1981
18	ビタミンB <sub>2</sub> (リボフラビン)	安田 和人，他：臨床病理 XXXIX：564, 1981
18	ビタミンB <sub>6</sub>	吉田 継親，他：薬学雑誌 98：1319, 1978
18	ビタミンB <sub>12</sub>	河口 行雄，他：医学と薬学 41 (1)：145, 1999
18	葉酸	安田 和人，他：医療と検査機器・試薬 25 (5)：441, 2002
18	ビタミンC (アスコルビン酸)	Lykkesfeldt J et al. : Analytical Biochemistry 229 : 329, 1995.
19	25OH ビタミンD (ECLIA)	Blackburn, G. F. et al. : Clin. Chem. 37 (9)：1534, 1991
19	1 α-25-(OH) <sub>2</sub> ビタミンD (1,25-ジヒドロキシビタミンD <sub>3</sub> )	高田 朋玲，他：医学と薬学 37 (5)：1205, 1997
19	25-ヒドロキシビタミンD	D. L. Ersfeld et al. : Clinical Biochemistry 37 : 867, 2004
19	ビタミンE (トコフェロール)	阿部 皓一，他：栄養と食糧 28：277, 1975
19	ビタミンK分画	Langenberg, J.P., et al. : J.Chromatogr. 305 : 61, 1984
19	カルニチン分画	河野 典夫：日本臨床 (増刊号) 53：510, 1995
19	ニコチン酸 (ナイアシン)	宮沢 滋：ビタミン 56 (9・10)：487, 1982
19	脂肪酸4分画	小沢 昭夫，他：分析化学 31：87, 1981
20	結石分析	神 ちひろ，分析化学 53 (7)：735, 2004.
20	全脂質脂肪酸分画	金井 晃，他：ぶんせき 11：774, 1978
20	総ホモステイン	Araki A, Sako Y. : J.Chromatogr. 422 : 43, 1987
20	BTR (総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比)	清水 浩，他：臨床化学 18 (3)：119, 1989
20	M2BPGi (MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	キット説明書
22	KL-6	高松久美子，他：医学と薬学 62 (3)：491-499, 2009
22	SP-A (肺サーファクタントプロテインA)	大木 卓，他：医学と薬学 71 (1)：161, 2014
22	SP-D (肺サーファクタントプロテインD)	村田 誠，他：医学と薬学 71 (12)：2303-2308, 2014
22	クレアチニンクリアランス	大澤 進：Medical Technology 26 (4)：389, 1998
22	クレアチニンクリアランス (24時間内因性)	大澤 進：Medical Technology 26 (4)：389, 1998
22	尿酸クリアランス (Cr <sub>2</sub> 、尿酸cr/Ccrも含む)	藤森 新，他：臨床検査 34 (9)：1121, 1990
22	ICG血中停滞率 (肝機能)	金井 泉，他：臨床検査法提要 金原出版 30：1397, 1993
22	ICG血中消失率	金井 泉，他：臨床検査法提要 金原出版 30：1397, 1993
22	PFD (PABA排出率) (脾機能)	衣笠 勝彦：日本消化器病学会誌 74 (10)：1323, 1977
22	eGFRcreat	CKD診療ガイド2012：日本腎臓病学会編
22	eGFRcys	CKD診療ガイド2012：日本腎臓病学会編
25	成長ホルモン (GH)	岩原 邦宏，他：医学と薬学 52 (2)：255, 2004
25	ソマトメジンC (IGF-1)	勢川 真理，他：核医学 27：1323, 1990
26	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	斎藤一二三，他：ホルモンと臨床 41 (5)：475, 1993
26	黄体形成ホルモン (LH)	結城 明美，他：医学と薬学 29 (1)：225, 1993
26	卵胞刺激ホルモン (FSH)	結城 明美，他：医学と薬学 29 (1)：225, 1993
26	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	阿部 正樹，他：医学と薬学 57 (2)：239, 2007
26	プロラクチン (PRL)	山本 剛史，他：ホルモンと臨床 40 (12)：79, 1992
26	AVP (アルギニンバソプレシン)	大磯コタカ，他：日本内分泌学会誌：62：608, 1986
27	トリヨードサイロニン (T <sub>3</sub> )	上條 桂一，他：医学と薬学 28 (6)：1321, 1992
27	遊離トリヨードサイロニン (F-T <sub>3</sub> )	上條 桂一，他：医学と薬学 33 (2)：507, 1995
27	サイロキシン (T <sub>4</sub> )	井上 健，他：Radioisotope 33：717, 1984
27	遊離サイロキシン (F-T <sub>4</sub> )	井上 健，他：ホルモンと臨床 41：927, 1993
27	サイロキシン結合グロブリン (TBG)	中谷 清美，他：ホルモンと臨床 27：813, 1979
27	サイログロブリン (Tg)	久保 敬補，他：医学と薬学 77 (1)：99-107, 2020
27	カルシトニン	高見 博，他：ホルモンと臨床 37 (2)：151, 1989
27	【副甲状腺ホルモン】PTH-Intact	山岡 美穂，他：医学と薬学 46 (5)：753, 2001
27	【副甲状腺ホルモン】Whole-PTH	古屋 実，他：医学と薬学 67 (5)：757-765, 2012
27	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)	福本 誠二，他：ホルモンと臨床 40 (12)：91, 1992
28	インスリン (IRI)	森山 雅子，他：医学と薬学 53 (4)：477-482, 2005
28	C-ペプチド (CPR) (血清)	武田 真一，他：医学と薬学 51 (1)：143, 2004
28	C-ペプチド (CPR) (蓄尿)	武田 真一，他：医学と薬学 51 (1)：143, 2004
28	ガストリン	佐藤 裕一，他：医学と薬学 10 (3)：1003, 1983
28	カテコールアミン分画 (血漿)	西村 千江，他：臨床検査機器・試薬 16：1169, 1993
28	カテコールアミン分画 (髄液)	西村 千江，他：臨床検査機器・試薬 16：1169, 1993
28	カテコールアミン分画 (蓄尿)	西村 千江，他：臨床検査機器・試薬 16：1169, 1993
29	ドーパミン総	守 和子：産業医学 17：170, 1975

## 頁 目 文 献 名

29 L-ドーパ  
 29 5-ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)  
 29 ホモバニリン酸 (HVA)  
 30 パニールマンデル酸 (VMA)  
 30 メタネフリン・ノルメタネフリン分画  
 31 17-ケトステロイド分画 (17-KS分画)  
 31 11-ハイドロキシコルチコステロイド (11-OHCS)  
 31 コルチゾール  
 31 尿中コルチゾール  
 32 デハイドロエピアンドロステロンサルフェート (DHEA-S)  
 32 アルドステロン (血清、血漿)  
 32 アルドステロン (蓄尿)  
 32 アルドステロン/レニン活性比 (PAC/PRA 比)  
 32 アルドステロン/レニン定量比 (PAC/PRC 比)  
 32 アルドステロン (CLEIA) /レニン活性比  
 32 アルドステロン (CLEIA) /活性型レニン定量 (レニン定量比)  
 33 エストラジオール (E<sub>2</sub>) (血清)  
 33 プログステロン  
 34 プレグナジオール (P<sub>3</sub>)  
 34 プレグナトリオール (P<sub>3</sub>)  
 34 テストステロン (血清)  
 34 遊離テストステロン  
 34 抗ミューラー管ホルモン (AMH)  
 35 ヒト絨毛性コナドトロピン定性 (HCG)  
 35 ヒト絨毛性コナドトロピン定量 (血清) (HCG)  
 35 ヒト絨毛性コナドトロピン定量 (尿)  
 35 ヒト絨毛性コナドトロピン-β-サブユニット (HCG-β) (血清)  
 35 ヒト絨毛性コナドトロピン-β-サブユニット (HCG-β) (尿)  
 36 サイクリック AMP (c-AMP) (血漿)  
 36 サイクリック AMP (c-AMP) (蓄尿)  
 36 セロトニン (全血)  
 36 セロトニン (多血小板血漿)  
 36 アンギオテンシン I  
 36 アンギオテンシン II  
 36 レニン活性 (PRA)  
 36 レニン定量 (PRC)  
 37 エリスロポエチン  
 37 オステオカルシン (BGP)  
 37 低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)  
 38 HANP (ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)  
 38 BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)  
 38 NT-proBNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)  
 41 α-フェトプロテイン (AFP)  
 41 α-フェトプロテインレクチン分画 (AFP-L3%)  
 41 CEA (癌胎児性抗原)  
 41 BFP (塩基性フェトプロテイン)  
 41 NCC-ST-439  
 41 DUPAN-2  
 41 CA19-9  
 41 CA15-3  
 41 CA125  
 42 BCA225  
 42 SLX (シアリル Le<sup>x</sup>-i 抗原)  
 42 CSLEX (シアリル Le<sup>x</sup> 抗原)  
 42 STN (シアリル Tn 抗原)  
 42 CA72-4  
 42 SPan-1  
 43 シフラ (CYFRA21-1) (サイトケラチン 19フラグメント)  
 43 扁平上皮癌関連抗原 (SCC 抗原)  
 43 エラスターゼ 1  
 43 PSA (前立腺特異抗原)  
 43 高感度 PSA タンデム  
 43 PSA-ACT  
 43 高感度 PSA タンデム F/T 比  
 44 γ-Sm (γ-セミノプロテイン)  
 44 Pro GRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)  
 44 NSE (神経特異エノラーゼ)  
 44 α<sub>1</sub>-酸性糖蛋白 (α<sub>1</sub>-AGP)  
 44 TPA (組織ポリペプチド抗原)  
 44 PIVKA II 定量  
 45 ICTP (I 型コラーゲン C テロペプチド)  
 45 TRACP-5b 定量 (溶石酸抵抗性酸ホスファターゼ)  
 45 NtX (I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド) (血清)  
 45 NtX (I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド) (尿)  
 45 デオキシピリジノリン (DPP)  
 46 尿中 NMP22 定量  
 46 抗 p53 抗体  
 46 インターロイキン 2 受容体 (IL-2R)  
 46 ABO 血液型  
 46 Rh (D) 血液型  
 49 Rh-Hr 式血液型  
 49 直接クームス試験  
 49 間接クームス試験  
 49 クームス定量試験  
 49 不規則性抗体  
 49 交差適合試験  
 49 抗血小板抗体  
 50 抗血小板関連 IgG (PA-IgG)  
 50 HIT 抗体 (血小板第 4 因子・ヘパリン複合体抗体)  
 51 梅毒定性・半定量 (RPR 法)  
 51 梅毒定性・半定量 (TPHA)  
 51 梅毒定性・半定量 (FTA-ABS)  
 51 抗ストレプトリジン O 定量 (ASO)  
 51 マイコプラズマ抗体半定量 (PA 法)  
 51 マイコプラズマ抗体半定量 (CF 法)  
 52 寒冷凝集反応  
 52 オウム病クラミジア抗体  
 52 クラミドフィラ (クラミジア)・ニューモニエ IgG 抗体  
 52 クラミドフィラ (クラミジア)・ニューモニエ IgA 抗体  
 守 和子:産業医学 17:170,1975  
 柴戸 光子,他:臨床化学 5(4):385,1977  
 柴戸 光子,他:臨床化学 5(4):385,1977  
 柴戸 光子,他:臨床化学 5(4):385,1977  
 Shoup R.E., et al.:Clin. Chem. 23:1268,1977  
 石田 孝,他:臨床化学 15:13,1986  
 宇田川美佐子,他:臨床化学 5(3):321,1977  
 関口 昌江,他:医学と薬学 69(6):985-991,2013  
 関口 昌江,他:医学と薬学 69(6):985-991,2013  
 堀野 梨恵,他:医学と薬学 56(3):443,2006  
 堀野入 洋,他:医学と薬学 21(2):293,1989  
 堀野入 洋,他:医学と薬学 21(2):293,1989  
 高血圧治療ガイドライン 2009 編集:日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会 P102-P105  
 高血圧治療ガイドライン 2009 編集:日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会 P102-P105  
 日本内分泌学会:日本内分泌学会雑誌 97(Suppl):16~21,2021  
 日本内分泌学会:日本内分泌学会雑誌 97(Suppl):16~21,2021  
 福井 智子,他:医学と薬学 43(4):853,2000  
 岸野 好純,他:ホルモンと臨床 43(11):71,1995  
 平井 利生,他:JJCLA 9:564,1984  
 平井 利生,他:JJCLA 9:564,1984  
 間中友季子,他:医学と薬学 36(6):1409,1996  
 大塚 喜彦,他:医学と薬学 72(1):147-151,2015  
 柳田小百合,他:医学と薬学 72(6):1095-1101,2015  
 山口登希子,他:医学と薬学 38(1):207,1997  
 花川 準司,他:臨床検査機器・試薬 20(4):609,1997  
 花川 準司,他:臨床検査機器・試薬 20(4):609,1997  
 関 克義,他:産科と婦人科 61(3):410,1994  
 関 克義,他:産科と婦人科 61(3):410,1994  
 孫 孝義,他:日内分誌 61:912,1985  
 孫 孝義,他:日内分誌 61:912,1985  
 Picard,M., et al.:J.Chromatogr. 341:445,1985  
 Picard,M., et al.:J.Chromatogr. 341:445,1985  
 岩鼻 美佐,他:医学と薬学 36:297,1996  
 岩鼻 美佐,他:医学と薬学 36:297,1996  
 荻原 俊男,他:医学と薬学 5:589,1981  
 片山 明広,他:医学と薬学 35(2):417,1996  
 増田 詩織,他:医学と薬学 67(2):297,2012  
 川口 浩,他:ホルモンと臨床 38(12):1291,1990  
 西村 順,他:医学と薬学 57(4):523,2007  
 松岡 泰弘,他:機器・試薬 33(4):535,2010  
 船附 賢三,他:臨床病理 67(11):1103-1108,2019  
 Gary F.Blackburn, et al.:Clin. Chem. 37(9):1534-1539,1991  
 石沢 修二,他:医学と薬学 30(2):377,1993  
 C.Kagebayashi et al.:Anal. Biochem. 38:306,2009  
 山田 孝,他:医学と薬学 29(5):1201,1993  
 石井 勝:医学のあゆみ 100:344,1977  
 大倉 久直,他:癌と化学療法 14(6):1901,1987  
 張 正和,他:脾臓 1(1):69,1986  
 花田 孝子,他:医学と薬学 35(6):1283,1996  
 古川 郁子,他:医学と薬学 36(4):87,1996  
 間中友季子,他:医学と薬学 40(3):521,1998  
 杉山 和義,他:日臨外医誌 54(2):13,1983  
 井村 裕夫,他:癌と化学療法 14(5):1315,1987  
 三嶋 芳樹,他:医学と薬学 29(5):1193,1993  
 井村 裕夫,他:癌と化学療法 16(9):3221,1989  
 高居 邦友,他:医学と薬学 78(7):865-871,2021  
 山村 倫子,他:臨床成人病 19(1):115,1989  
 平川寛一郎,他:機器・試薬 21(3):289,1998  
 羽田真理子,他:医学と薬学 52(1):101,2004  
 大出 勝也,他:臨床病理 50(4):376,2002  
 河野 均也,他:臨床検査機器・試薬 24(3):223,2001  
 野村 朋子,他:医学と薬学 51(1):179,2004  
 大野 明美,他:医学と薬学 49(2):325,2003  
 野村 朋子,他:医学と薬学 51(1):179,2004  
 佐藤 達郎,他:医学と薬学 43(1):97,2000  
 吉村 徹,他:医学と薬学 62(4):759,2009  
 花田 浩之,他:医学と薬学 60(4):657,2008  
 櫻林郁之介,他:臨床病理 53(特集号):71,1983  
 遠藤 啓吾,他:核医学 21(1):75,1984  
 草野 正芳,他:医療と検査機器・試薬 35(1):87,2012  
 清原 剛,他:ホルモンと臨床 42:1189,1994  
 西沢 良記,他:医学と薬学 54(5):709,2005  
 Henning W.W., et al.:J.BONE Miner.Res. 14(5):791,1999  
 橋口 佳枝,他:医学と薬学 39(3):609,1998  
 山本 逸雄,他:ホルモンと臨床 44(7):747,1996  
 赤座 英之,他:癌と化学療法 24(7):829,1997  
 梶川 純子,他:医学と薬学 63(3):523,2010  
 鈴木恵美子,他:医療と検査機器・試薬 35(4):587,2012  
 土方 和男:医療器械学 74(9):452,2004. 日本臨床衛生検査技師会:日臨技輸血検査標準法 日本臨床衛生検査技師会:1985  
 土方 和男:医療器械学 74(9):452,2004. 日本臨床衛生検査技師会:日臨技輸血検査標準法 日本臨床衛生検査技師会:1985  
 日本臨床衛生検査技師会:日臨技輸血検査標準法 日本臨床衛生検査技師会:1985  
 浅井 隆善:医学のあゆみ 167:700,1993  
 Reis KJ, et al.:Transfusion 33:639,1993  
 河合 忠:臨床検査技術全書 4 免疫血清検査 医学書院 :319,1973  
 浅井 隆善:医学のあゆみ 167:700,1993  
 日本臨床衛生検査技師会:日臨技輸血検査標準法 日本臨床衛生検査技師会:1985  
 柴田 洋一:輸血学(恵山 博編),中外医学社:457,1978  
 林 悟,他:臨床病理 32:1253,1984  
 阪田 敏幸:医学と薬学 68(3):547,2012  
 大里 和久,他:日本感染症学会誌 13(1):124,2002. 赤坂 希,他:機器・試薬 23(3):191,2000  
 出口 松夫:感染症学雑誌 68(10):1271-1277,1994  
 水岡 慶二:皮膚科の臨床・昭大 11(4):294,1969  
 Rantz,L., et al.:Proc.Exp.Biol.Med., 59:22,1945  
 藤巻 孝一,他:獨協医科大学病院 臨床検査部血清室 (試薬メーカー提供資料)  
 中村 良子,他:JARMAM 1(2):169,1989  
 工藤 肇:日本臨床 26:330,1968  
 徐 慶一郎:日本臨床増刊:146,1985  
 岸本 寿男,他:感染症学雑誌 73(5):457,1999  
 岸本 寿男,他:感染症学雑誌 73(5):457,1999

# 検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
52	クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエ IgM抗体	岸本 寿男, 他: 感染症学雑誌 70 (8): 821, 1996
52	トリコスポロン・アサヒ抗体	三宅 修司, 他: 日本呼吸器学会誌 39 (1): 7, 2001
52	MAC抗体	吉田 春花, 他: 医学検査 62 (5): 587, 2013
53	トキソプラズマ IgG抗体	亀井喜世子, 他: 臨床病理 42 (7): 743, 1994
53	トキソプラズマ IgM抗体	亀井喜世子, 他: 臨床病理 42 (7): 743, 1994
53	百日咳菌抗体	岡田 賢司: 医学と薬学 65 (4): 531, 2011
53	クラミジアトロモチチス IgG・IgA抗体	松本 明, 他: 感染症学雑誌 66 (5): 584, 1992
53	アスペルギルス抗体	Walter, J.S. et al.: Dis. Chest 53 (6): 729, 1968
54	ツツガ虫 Gilliam IgG抗体	山本 正悟: 臨床とウイルス 12 (3): 270, 1984
54	ツツガ虫 Gilliam IgM抗体	山本 正悟: 臨床とウイルス 12 (3): 270, 1984
54	ツツガ虫 Kato IgG抗体	山本 正悟: 臨床とウイルス 12 (3): 270, 1984
54	ツツガ虫 Kato IgM抗体	山本 正悟: 臨床とウイルス 12 (3): 270, 1984
54	ツツガ虫 Karp IgG抗体	山本 正悟: 臨床とウイルス 12 (3): 270, 1984
54	ツツガ虫 Karp IgM抗体	山本 正悟: 臨床とウイルス 12 (3): 270, 1984
55	ヘリコバクター・ピロリ抗体 IgG/国内株	菊地 正悟, 他: 医学と薬学 43 (3): 581, 2000
56	プロカルシトニン定量 (PCT)	齋藤 大輔, 他: 医学と薬学 62 (2): 323, 2009
56	エンドトキシン	小森 敬明, 他: JJCLA 21 (1): 81, 1996
56	(1→3)-β-D-グルカン	T.Mori, et al.: Eur J Clin Chem Clin Biochem. 35: 553, 1997
56	透析液エンドトキシン	生井 梨愛, 他: 腎と透析 別冊: 74, 2003
57	カンジダ・マンナン抗原	相原 守夫, 他: 臨床検査 34 (3): 367, 1990
57	クリプトコッカス抗原定性	二見 修平, 他: Jpn.J.Med.Mycol. 30 (3): 211, 1989
57	アスペルギルス抗原	Stynen,D., et al.: J. Clin. Microbiol. 33 (2): 497, 1995
58	肺炎球菌荚膜抗原定性	小林 隆夫, 他: 感染症学雑誌 76 (12): 995, 2002
58	尿中レジオネラ抗原定性	原 哲郎, 他: 機器・試薬 30 (6): 519, 2007
58	結核菌 DNA (PCR) (TB-PCR)	田口 直子, 他: 医学と薬学 62 (1): 121, 2009
58	MAC DNA (PCR) (マイコバクテリウム・アヒウム及びイントラセリウム核酸抽出)	田口 直子, 他: 医学と薬学 62 (1): 121, 2009
58	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能 (QFT プラス)	キット説明書
58	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能 (T-SPOT.TB)	Meier T. et al.: European Journal of Clinical Microbiology & Infectious Diseases 24: 529-536, 2005
59	クラミジア・トラコマチス DNA (PCR)	熊本 悦明, 他: 医学と薬学 66 (6): 1007, 2011
59	クラミジア・トラコマチス DNA (SDA)	澤田 直登: JARMAN 14 (1): 31, 2003
60	淋菌 DNA (PCR)	熊本 悦明, 他: 医学と薬学 66 (6): 1007, 2011
60	淋菌 DNA (SDA)	澤田 直登: JARMAN 14 (1): 31, 2003
60	淋菌/クラミジア・トラコマチス同時測定 DNA (PCR)	熊本 悦明, 他: 医学と薬学 66 (6): 1007, 2011
60	淋菌/クラミジア・トラコマチス同時測定 DNA (SDA)	澤田 直登: JARMAN 14 (1): 31, 2003
60	腫トモナス/マイコプラズマ/マニチウム同時測定 DNA (病原・産物)	Higuchi, R. et al.: Biotechnology (NY) 10, 413-417, 1992.
61	糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	栄谷 直美, 他: Helicobacter Research 10 (5): 426, 2006
61	尿薬呼吸試験 (UBT) (ニュービット)	吉田 純一, 他: 日本臨床 51 (12): 126, 1993
62	リウマトイド因子 (RF) 定性	李保 成一, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 29 (3): 217, 2004
62	リウマトイド因子 (RF) 定量	李保 成一, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 29 (3): 217, 2004
62	抗CCP抗体定量 (抗トルリン化ペプチド抗体)	山田 泰範, 他: 医学と薬学 61 (2): 253, 2009
62	IgG型リウマトイド因子 (IgG-RF)	中國 清: 医学と薬学 45 (3): 481, 2001
62	抗ラクトース欠損 IgG抗体 (CA・RF)	山田 雄二, 他: 基礎と臨床 31 (1): 81, 1997
62	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	田中 敏典, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 36 (4): 666, 2011
62	C1q結合免疫複合体	上田 章, 他: 医学と薬学 24 (1): 115, 1990
62	モノクローナルRF結合免疫複合体 (mRF-IC)	浜野 明栄, 他: リウマチ科 5 (4): 305, 1991
63	抗サイログロブリン抗体 (抗Tg抗体)	峯尾 真澄, 他: 医学と薬学 68 (6): 1013-1024, 2012
63	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (抗TPO抗体)	峯尾 真澄, 他: 医学と薬学 68 (6): 1013-1024, 2012
63	抗サイログロブリン抗体半定量 (サイロイドテスト)	斎藤一三, 他: ホルモンと臨床 34: 963, 1986
63	抗甲状腺マイクログロブリン抗体半定量 (マイクログロブリンテスト)	斎藤一三, 他: ホルモンと臨床 34: 963, 1986
63	TSHレセプター抗体 (TRAb)	西 功, 他: 医学と薬学 39 (5): 1031, 1998
63	TSHレセプター抗体 (第3世代)	山田 徹, 他: 医学と薬学 78 (5): 615-626, 2021
63	TSAb (TSH刺激性レセプター抗体)	Kei Yamashiro et al.: THYROID 9 (3): 263, 1999
63	TSAb (パイオアッセイ法)	田上 哲也, 他: 糖尿病・内分泌代謝科 53, 479-486, 2021
63	抗核抗体半定量 (ANA)	柴崎 光衛, 他: 医学と薬学 36 (2): 319, 1996
63	抗RNAポリメラーゼIII抗体	桑名 正隆: リウマチ科 40 (3): 239, 2008
64	抗セントロメア抗体 (EIA (ELISA) 法)	宮脇 昌二, 他: 医学と薬学 45 (1): 129, 2001
64	抗DNA抗体定量	鈴木 王洋, 他: 臨床免疫 25 (8): 1096, 1993
64	抗ss-DNA-IgG抗体定量	陣内 記代, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 26 (6): 747, 2001
64	抗ds-DNA-IgG抗体定量	陣内 記代, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 26 (6): 747, 2001
64	抗ss-DNA-IgM抗体	陣内 記代, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 26 (6): 747, 2001
64	抗ds-DNA-IgM抗体	陣内 記代, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 26 (6): 747, 2001
64	抗RNP抗体半定量	宮脇 昌二, 他: 臨床病理 33 (9): 1025, 1985
64	抗RNP抗体定量	西山 進, 他: 医学と薬学 68 (2): 345, 2012
65	抗Sm抗体半定量	安倍 達: リウマチ 27: 203, 1987
65	抗Sm抗体定量	西山 進, 他: 医学と薬学 68 (2): 345, 2012
65	抗SS-A/Ro抗体半定量	安倍 達: リウマチ 27: 203, 1987
65	抗SS-A/Ro抗体定量	西山 進, 他: 医学と薬学 68 (2): 345, 2012
65	抗SS-B/La抗体半定量	安倍 達: リウマチ 27: 203, 1987
65	抗SS-B/La抗体定量	西山 進, 他: 医学と薬学 68 (2): 345, 2012
65	抗Scl-70抗体半定量	安倍 達: リウマチ 27: 203, 1987
65	抗Scl-70抗体定量	小島 和夫, 他: 医学と薬学 69 (4): 677, 2013
65	抗Jo-1抗体半定量	安倍 達: リウマチ 27: 203, 1987
65	抗Jo-1抗体定量	唐澤 実一, 他: 医学と薬学 39 (1): 163, 1998
66	抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗AChR抗体)	太田 光照, 他: ホルモンと臨床 40 (7): 749, 1992
66	抗アクアポリン 4抗体	谷口 崇, 他: 医学と薬学 68 (1): 139-142, 2012
66	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体 (抗MuSK抗体)	本村 政勝, 他: 医学と薬学 70 (2): 421-428, 2013
66	抗カルジオリピン-β 2-グリコプロテイン1複合体抗体 (抗CL-β 2GP 1抗体)	小池 隆夫, 他: 医学と薬学 26 (3): 535, 1991
66	抗カルジオリピン IgG抗体	岡田 純, 他: 医学と薬学 36 (6): 1389, 1996
66	抗カルジオリピン IgM抗体	鎌木 淳一, 大矢 和彦: 医学と薬学 43 (6): 1183, 2000
66	ループスアンチコアグラント (LA) (DRVVT法)	佐藤久美子, 他: 臨床病理 43 (3): 263, 1995
66	ループスアンチコアグラント (LA) (リン脂質中和法)	後藤 守孝, 他: Mod.Physician 15 (12): 1545, 1995
67	PR3-ANCA (C-ANCA, 抗好中球細胞質プロテイナーゼ 3抗体)	松下 雅和, 他: 医学と薬学 66 (5): 823, 2011
67	MPO-ANCA (P-ANCA, 抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	松下 雅和, 他: 医学と薬学 66 (5): 823, 2011
67	抗アスモグレイン 1抗体 (抗Dsg1抗体)	吉田かおり, 他: 医学と薬学 70 (5・6): 989, 2013
67	抗アスモグレイン 3抗体 (抗Dsg3抗体)	吉田かおり, 他: 医学と薬学 70 (5・6): 989, 2013
67	抗BP180抗体 (抗BP180NC16a抗体)	黒田 慶子, 他: 医学と薬学 57 (5): 751, 2007
67	抗皮膚抗体	吉岡 順子: 皮膚 23 (1): 29, 1981
67	抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)	白井 文一, 他: 医学と薬学 68 (4): 697, 2012
67	精子不動化抗体	磯島 晋三, 他: 日本産婦人科学会雑誌 31: 1906, 1979
68	抗LKM1抗体	宮川 浩, 他: 医学と薬学 44 (1): 121, 2000
68	抗ミトコンドリア抗体 (AMA)	長島 秀夫: 日本臨床 43: 222, 1985
68	抗ミトコンドリアM2抗体 (AMA-M2)	丹野 瑞木, 他: 医学と薬学 67 (3): 485, 2012
68	抗平滑筋抗体	長島 秀夫: 日本臨床 40: 935, 1982
68	抗胃壁細胞抗体	長島 秀夫: 日本臨床 40: 937, 1982
68	抗インスリン抗体	村山 寛, 他: 医学と薬学 60 (2): 289, 2008
68	抗GAD抗体 (抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体)	高瀬 清美, 他: ホルモンと臨床 44: 897, 1996
68	抗I-A-2抗体	松浦 信夫, 他: プラクティス 16 (5): 567, 1999
69	IgG	黒澤 弘美, 他: 医療と検査機器・試薬 25 (2): 159, 2002
69	IgG2	川 茂幸, 他: 医学と薬学 74 (4): 463, 2017.



頁 目 文 献 名

69 IgG4  
69 IgA  
69 IgM  
69 C<sub>3</sub> (β<sub>1</sub>C/β<sub>1</sub>Aグロブリン)  
69 C<sub>4</sub> (β<sub>1</sub>Eグロブリン)  
69 C1q  
69 血清補体価 (CH<sub>50</sub>)  
70 C反応性蛋白 (CRP) 定性  
70 C反応性蛋白 (CRP) 定量  
70 血清アミロイドA蛋白 (SAA)  
70 クリオグロブリン定性  
70 トランスフェリン (Tf)  
70 遊離L鎖 κ / λ 比  
71 免疫電気泳動 (抗人全血清)  
71 免疫電気泳動 (特異抗血清)  
71 尿蛋白免疫電気泳動 (B-J蛋白同定)  
71 α<sub>1</sub>-アンチトリプシン  
75 IgE  
75 IgE シングルアレルゲン (ハウスダスト1)  
75 IgE マルチアレルゲン  
75 Viewアレルギー39  
75 アトピー鑑別試験  
75 TARC (Th2ケモカイン)  
76 13アレルゲンセット  
76 10アレルゲンセット  
79 HBs抗原定性  
79 HBs抗体定性  
79 HBs抗原  
79 HBs抗体  
79 HBe抗原  
79 HBe抗体  
79 HBc抗体  
79 HBc-IgM抗体  
80 HBV-DNA定量 (リアルタイムPCR法)  
80 B型肝炎ウイルスコア関連抗原 (HBcrAg)  
80 HBVゲノタイプ (判定)  
80 HA-IgG抗体  
80 HA-IgM抗体  
81 HCV抗体  
81 HCVコア抗原  
81 HCV群別  
81 HCV-RNA定量 (リアルタイムPCR法)  
81 ジェノタイプHCV-RNA-PCR  
82 HTLV-1抗体 (第3世代) (ATLA)  
82 HTLV-1 (ATLV) 抗体 [ラインプロット法・LIA法]  
83 HIV抗原・抗体  
83 HIV-1抗体  
83 HIV-2抗体  
83 HIV-1RNA定量 (リアルタイムPCR法)  
84 単純ヘルペス (HSV) (CF)  
84 水痘・帯状ヘルペス (VZV) (CF)  
84 サイタメガロ (CMV) (CF)  
84 ムンプス (CF)  
84 アデノ (CF)  
84 インフルエンザA型 (CF)  
84 インフルエンザB型 (CF)  
84 RS (CF)  
84 日本脳炎 (CF)  
84 コクサッキーA群9型 (CF)  
84 コクサッキーB群1型 (CF)  
84 コクサッキーB群2型 (CF)  
84 コクサッキーB群3型 (CF)  
84 コクサッキーB群4型 (CF)  
84 コクサッキーB群5型 (CF)  
84 コクサッキーB群6型 (CF)  
85 ムンプス (HI)  
85 麻疹 (HI)  
85 風疹 (HI)  
85 インフルエンザA型 (H<sub>1</sub>N<sub>1</sub>) (H<sub>1</sub>N<sub>2</sub>) (HI)  
85 インフルエンザB型 (山形系統) (ビクトリア系統) (HI)  
85 パラインフルエンザ1型 (HI)  
85 パラインフルエンザ2型 (HI)  
85 パラインフルエンザ3型 (HI)  
85 エコー3型 (HI)  
85 エコー7型 (HI)  
85 エコー11型 (HI)  
85 エコー12型 (HI)  
85 日本脳炎 (JaGAr株) (HI)  
86 単純ヘルペス1型 (HSV) (NT)  
86 単純ヘルペス2型 (HSV) (NT)  
86 ムンプス (NT)  
86 アデノ1型 (NT)  
86 アデノ2型 (NT)  
86 アデノ3型 (NT)  
86 アデノ4型 (NT)  
86 アデノ5型 (NT)  
86 アデノ6型 (NT)  
86 アデノ7型 (NT)  
86 アデノ8型 (NT)  
86 アデノ11型 (NT)  
86 アデノ19型 (NT)  
86 アデノ21型 (NT)  
86 アデノ37型 (NT)  
86 RS (NT)  
86 麻疹 (NT)  
87 コクサッキーA群2型 (NT)  
87 コクサッキーA群3型 (NT)  
87 コクサッキーA群4型 (NT)  
87 コクサッキーA群5型 (NT)  
川 茂幸, 他: 医学と薬学 64 (1): 95, 2010  
黒澤 弘美, 他: 医療と検査機器・試薬 25 (2): 159, 2002  
黒澤 弘美, 他: 医療と検査機器・試薬 25 (2): 159, 2002  
黒澤 弘美, 他: 医療と検査機器・試薬 25 (2): 159, 2002  
黒澤 弘美, 他: 医療と検査機器・試薬 25 (2): 159, 2002  
中村 敏男, 他: 臨床免疫 14: 92, 1982  
小島 健一: 新臨床検査技師講座 12, 免疫血清学 医学書院: 350, 1984  
田中 元彦, 他: 臨床検査機器・試薬 27 (3): 195, 2004  
田中 元彦, 他: 臨床検査機器・試薬 27 (3): 195, 2004  
旭 由香里, 他: 医学と薬学 78 (2): 175-181, 2021  
金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31: 831, 1998  
日高 宏哉, 他: 検査と技術 30 (13): 1377, 2002  
伊藤 早織, 他: 医学と薬学 64 (1): 111, 2010  
櫻林郁之介: Medical Technology 7 (13): 1246, 1979  
櫻林郁之介: Medical Technology 7 (13): 1246, 1979  
櫻林郁之介: Medical Technology 7 (13): 1246, 1979  
山下 順香, 他: 医学と薬学 29 (5): 1239, 1993  
島津伸一郎, 他: アレルギーの領域2 (7): 62, 1995  
我妻 義則, 他: 医学と薬学 23: 83, 1990  
我妻 義則, 他: 医学と薬学 23: 83, 1990  
鈴木 義徳, 他: 医学と薬学 70 (5・6): 975-980, 2013  
奥平 博一, 他: アレルギー 40: 544, 1991  
石田 俊雄, 他: 医学と薬学 23: 83, 1990  
我妻 義則, 他: 医学と薬学 23: 83, 1990  
我妻 義則, 他: 医学と薬学 23: 83, 1990  
岡野 洋子, 他: JJCLA 18 (2): 148, 1993  
吉村英理子, 他: 基礎と臨床 29 (17): 4545, 1995  
関口 仁, 他: 臨床検査機器・試薬 22 (4): 283, 1999  
藤原 拓樹, 他: 医学と薬学 42 (4): 623, 1999  
宮川 正明, 他: 医学と薬学 52 (4): 621, 2004  
宮川 正明, 他: 医学と薬学 52 (4): 621, 2004  
飯田 健一, 他: Prog.Med. 22: 1037, 2002  
中尾瑠美子, 他: 医学と薬学 52 (5): 847, 2004  
佐々木沙耶, 他: 医学と薬学 61 (5): 787, 2009  
田中 靖人: 臨床病理 54 (7): 692, 2006  
田中 靖人, 他: 臨床病理 57 (1): 42, 2009  
田中 英介, 他: 医学と薬学 46 (6): 1017, 2001  
田中 英介, 他: 医学と薬学 46 (6): 1017, 2001  
小柳 博明, 他: 医学と薬学 55 (3): 467, 2006、近平 佳美, 他: 医学と薬学 37 (2): 521, 1997  
八橋 弘, 他: 医学と薬学 68 (1): 157, 2012  
長谷川 瞳, 他: 医学と薬学 70 (3): 633, 2013  
佐々木沙耶, 他: 医学と薬学 70 (3): 669, 2013  
Okamoto H. et al.: J.General Virology 74: 2385, 1993  
有馬 直道, 他: 医学と薬学 65 (5): 651, 2011  
Zrein M. et al.: Clin Diagn Lab Immunol 5 (1): 45, 1998  
新田 幸一, 他: 医学と薬学 57 (2): 231, 2007  
菱田 靖, 他: 医学と薬学 27 (4): 959, 1992  
菱田 靖, 他: 医学と薬学 27 (4): 959, 1992  
福武 勝幸, 他: 医療と検査機器・試薬 34 (2): 189, 2011  
金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会: 31, 1987  
金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会: 31, 1987  
金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会: 31, 1987  
金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会: 31, 1987  
金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会: 31, 1987  
金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会: 31, 1987  
金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会: 31, 1987  
北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂: 880, 1988  
北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂: 880, 1988  
北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂: 880, 1988  
北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂: 880, 1988  
北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂: 880, 1988  
北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂: 880, 1988  
北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂: 880, 1988  
北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂: 880, 1988  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 214, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973  
国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善: 260, 1973

# 検査方法参考文献一覽

頁	項 目	文 献 名
87	コクサッキーA群6型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群7型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群9型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群10型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群16型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーB群1型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーB群2型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーB群3型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーB群4型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーB群5型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーB群6型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	エコー1型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	エコー3型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	エコー4型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	エコー5型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
87	エコー6型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー7型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー9型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー11型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー12型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー13型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー14型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー16型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー17型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー18型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー19型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー21型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー22型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー24型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー25型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エコー30型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エンテロ70型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
88	エンテロ71型 (NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版, 丸善：260, 1973
89	EBウイルス 抗VCA IgG抗体 (FA)	日沼 頼夫, 他：臨床病理 臨時増刊 35：179, 1978
89	EBウイルス 抗VCA IgM抗体 (FA)	日沼 頼夫, 他：臨床病理 臨時増刊 35：179, 1978
89	EBウイルス 抗EA-DR IgG抗体 (FA)	日沼 頼夫, 他：臨床病理 臨時増刊 35：179, 1978
89	EBウイルス 抗EBNA抗体 (FA)	日沼 頼夫, 他：臨床病理 臨時増刊 35：179, 1978
89	EBウイルス 抗VCA IgA抗体 (FA)	日沼 頼夫, 他：臨床病理 臨時増刊 35：179, 1978
89	EBウイルス 抗EA-DR IgA抗体 (FA)	日沼 頼夫, 他：臨床病理 臨時増刊 35：179, 1978
89	EBウイルス 抗EA-DR IgM抗体 (FA)	資料なし (2012.5.15 SRL 確認済み)
89	EBウイルス 抗EA IgG抗体 (EIA (ELISA))	脳口 宏, 他：医学と薬学 58 (2)：363, 2007
89	EBウイルス 抗EBNA IgG抗体 (EIA (ELISA))	脳口 宏, 他：医学と薬学 58 (2)：363, 2007
89	EBウイルス 抗VCA IgG抗体 (EIA (ELISA))	脳口 宏, 他：医学と薬学 58 (2)：363, 2007
89	EBウイルス 抗VCA IgM抗体 (EIA (ELISA))	脳口 宏, 他：医学と薬学 58 (2)：363, 2007
89	ヒトパルボB19 IgG抗体 (EIA)	杉下 知子, 他：医学と薬学 38 (6)：1191, 1997
89	ヒトパルボB19 IgM抗体 (EIA)	杉下 知子, 他：医学と薬学 38 (6)：1191, 1997
90	風疹IgG抗体 (CLEIA)	山本 真也, 他：医療と検査機器・試薬 37 (1)：115, 2014
90	風疹IgM抗体 (EIA)	Champsaur, H., et al. : J.Med.Virol. 5 : 273, 1980
90	麻疹IgM抗体 (EIA)	庵原 俊昭, 他：医学と薬学 69 (6) 969, 2013
90	単純ヘルペス (HSV) IgG抗体 (EIA)	金井 興美, 他：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会：48, 1987
90	単純ヘルペス (HSV) IgM抗体 (EIA)	川名 尚, 他：医学と薬学 69 (3)：517, 2013
90	水痘帯状ヘルペス (VZV) IgG抗体 (EIA)	金井 興美, 他：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会：48, 1987
90	水痘帯状ヘルペス (VZV) IgM抗体 (EIA)	金井 興美, 他：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会：48, 1987
90	サイトメガロ (CMV) IgG抗体 (EIA)	河合 秀紀, 他：臨床と微生物 13 (1)：93, 1986
90	サイトメガロ (CMV) IgM抗体 (EIA)	河合 秀紀, 他：臨床と微生物 13 (1)：93, 1986
90	ムンプスIgG抗体 (EIA)	金井 興美, 他：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会：48, 1987
90	ムンプスIgM抗体 (EIA)	内田 立志, 他：川崎医学雑誌 35 (2)：139, 2009
91	ウイルス分離	Hsiung GD : DIAGNOSTIC VIROLOGY An Illustrated Handbook. New Haven and London, Yale University : 3, 1973
91	ウイルス同定	Hsiung GD : DIAGNOSTIC VIROLOGY An Illustrated Handbook. New Haven and London, Yale University : 3, 1973
92	サイトメガロウイルスpp65抗原定性 (C10,C11) CMV (C10,C11)	浅井 隆善, 他：今日の移植 7 (6)：553, 1994
92	単純ヘルペスウイルス (HSV) 抗原	吉田 晃, 他：臨床とウイルス 13：490, 1985
92	水痘帯状ヘルペス (VZV) 抗原	新村 真人, 他：感染症学雑誌 64：195, 1990
92	ロタウイルス抗原定性	原 三千丸：日本小児科学会雑誌 106 (6)：766, 2002
92	ノロウイルス抗原定性	渡部 雅勝, 他：医学と薬学 71 (10)：1917, 2014
92	ノロウイルス抗原 (BLEIA)	鈴木 渉, 他：感染症学雑誌 89 (2)：230, 2015
93	HPV-DNA 検出 (高リスク)	石 和久, 他：医学と薬学 39 (4)：849, 1998
93	HPV-DNA簡易ジェノタイプ (16型, 18型, その他)ハイリスクグループ)	三浦 俊昭, 他：医学と薬学 69 (1)：157, 2013
93	HPV-DNAジェノタイプ (ハイリスク 13種)	キット添付説明書
93	HPV-DNA型別	二谷 悦子, 他：医学と薬学 64 (1)：105, 2010
95	白血球数 (WBC)	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 31：279, 1998
95	赤血球数 (RBC)	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 31：264, 1998
95	ヘモグロビン (Hb) (血色素量)	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 31：272, 1998
95	ヘマトクリット (Ht)	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 31：270, 1998
95	MCV (平均赤血球容積)	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 31：275, 1998
95	MCH (平均赤血球色素量)	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 31：275, 1998
95	MCHC (平均赤血球色素濃度)	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 31：275, 1998
95	血小板数 (PLT)	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 31：281, 1998
95	白血球像	児玉 明好, 他：JJCLA 16 (6)：690, 1991
95	赤血球像	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 30：286, 1993
96	網赤血球数	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 31：277, 1998
96	好酸球数	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 31：280, 1998
96	全血比重 (GB)	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 29：404, 1983
96	赤血球沈降速度 (ESR)	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 27：VI-120, 1975
96	浸透圧	長浜 大輔：検査と技術 14 (9)：961, 1986
96	チミジンキナーゼ (TK 活性)	鳥住 和民, 他：核医学 25 (6)：561, 1988
96	マラリア原虫	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 30：363, 1993
96	フィラリア原虫	金井 泉, 他：臨床検査法提要 金原出版 30：366, 1993
96	骨髄像	金井 正光, 他：臨床検査法提要 金原出版 33：245, 2010
97	骨髄像特殊染色 アルカリホスファターゼ染色 (ALP 染色)	金井 正光, 他：臨床検査法提要 金原出版 33：220, 2010
97	骨髄像特殊染色 PAS 染色	金井 正光, 他：臨床検査法提要 金原出版 33：223, 2010
97	骨髄像特殊染色 ペルオキシダーゼ染色	金井 正光, 他：臨床検査法提要 金原出版 33：219, 2010
97	骨髄像特殊染色 エステラーゼ染色	金井 正光, 他：臨床検査法提要 金原出版 33：222, 2010
97	骨髄像特殊染色 鉄染色	金井 正光, 他：臨床検査法提要 金原出版 34：289, 2015
97	血液特殊染色 アルカリホスファターゼ染色 (ALP 染色)	金井 正光, 他：臨床検査法提要 金原出版 33：220, 2010
97	血液特殊染色 PAS 染色	金井 正光, 他：臨床検査法提要 金原出版 33：223, 2010
97	血液特殊染色 ペルオキシダーゼ染色	金井 正光, 他：臨床検査法提要 金原出版 33：219, 2010
97	血液特殊染色 エステラーゼ染色	金井 正光, 他：臨床検査法提要 金原出版 33：222, 2010
97	血液特殊染色 鉄染色	金井 正光, 他：臨床検査法提要 金原出版 33：225, 2010
98	プロトロンビン時間 (PT)	湯村 暁, 他：医学検査 57 (12)：1377, 2008

頁	項 目	文 献 名
98	活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	佐藤 祐子, 他: 臨床検査機器・試薬 20: 549, 1997
98	フィブリノゲン定量 (Fib)	佐藤 祐子, 他: 臨床検査機器・試薬 20: 549, 1997
98	PIVKA-II (凝固)	草野 正芳, 他: 機器・試薬 35 (1): 87, 2012
98	第II因子	安達 眞二: Medical Technology 24: 629, 1996
98	第V因子	安達 眞二: Medical Technology 24: 629, 1996
98	第VII因子	安達 眞二: Medical Technology 24: 629, 1996
98	第VIII因子	安達 眞二: Medical Technology 24: 629, 1996
99	第IX因子	安達 眞二: Medical Technology 24: 629, 1996
99	第X因子	安達 眞二: Medical Technology 24: 629, 1996
99	第XI因子	安達 眞二: Medical Technology 24: 629, 1996
99	第XII因子	安達 眞二: Medical Technology 24: 629, 1996
99	第XIII因子	上原 和子, 他: JJCLA 18 (1): 19, 1993
99	フォン・ウィルブラント因子抗原 定量 (v.W因子抗原 定量)	安室 洋子, 他: 臨床検査機器・試薬 8 (6): 1386, 1985
99	フォン・ウィルブラント因子活性 (v.W因子活性) (リストセチンコファクター)	高瀬 俊夫, 他: 診療と新薬 19: 3097, 1982
99	ADAMTS13 活性	Kato S. et al.: Transfusion 46: 1444, 2006
99	ADAMTS13 インヒビター定量	Kato S. et al.: Transfusion 46: 1444, 2006
100	第VIII因子インヒビター (第VIII因子-INH)	Sirridge, M.S., et al.: Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis, 3rd Ed. Lea & Febiger. 196, 1983
100	第IX因子インヒビター (第IX因子-INH)	Sirridge, M.S., et al.: Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis, 3rd Ed. Lea & Febiger. 196, 1983
100	プラスミノーゲン抗原	田中由美子: 臨床検査機器・試薬 7: 1, 1984
100	プラスミノーゲン活性	Friberger P. et al.: Haemostasis 7: 138, 1978
100	アンチプラスミン (プラスミンインヒビター)	Friberger P. et al.: Haemostasis 7: 138, 1978
100	アンチトロンビン活性 (AT-III)	佐藤 祐子, 他: 臨床検査機器・試薬 20: 549, 1997
100	フィブリン・フィブリノーゲン分解産物 (血漿FDP)	井本 清美, 他: 医学と薬学 43 (2): 401, 2000
100	可溶性フィブリンモノマー複合体 (SFMC)	田原千枝子, 他: 血液と脈管 15: 71, 1984
100	Dダイマー	斎藤 恭子, 他: 医療と検査機器・試薬 29 (1): 71, 2006
100	プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 (PIC)	徐 吉夫, 他: 臨床検査機器・試薬 16 (6): 1107, 1993
100	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)	豊川 眞弘, 他: 医学と薬学 23 (5): 959, 1990
101	プロトロンビンフラグメント F1+2 (PTフラグメント F1+2)	高橋 芳右, 他: 血栓止血誌 2 (6): 469, 1991
101	プロテインC活性	Lothar Thomas, M.D., et al.: Clinical Laboratory Diagnostics, 1998
101	プロテインC (抗原量)	筒井 聡明, 他: 検査と技術 12 (7): 581, 1984
101	プロテインS (遊離型抗原量)	阪田 敏幸, 他: 医学と薬学 51 (1): 167, 2004
101	プロテインS (抗原量)	鬼沢 実: 機器・試薬 X III (4): 579, 1990
101	プロテインS活性	鬼沢 実: 機器・試薬 15 (2): 166, 1992
101	プラスミノーゲンアクチベーターインヒビター-1 (PAI-1)	Decleck P.J.: Blood. 71 (1): 220, 1988
101	トロンボモジュリン (TM)	天野 景裕, 他: 臨床病理 39 (9): 967, 1991
101	C1インアクチベーター活性 (C1エステラーゼインヒビター活性)	Dick W. et al.: Immunität 13: 113, 1985
102	血小板第4因子 (PF4)	高橋 芳右, 他: 血液と脈管 18: 326, 1987
102	$\beta$ -トロンボグロブリン ( $\beta$ -TG)	高橋 芳右, 他: 血液と脈管 18: 326, 1987
103	フェノバルビタール	石橋みどり, 他: 医学と薬学 42 (6): 1061, 1999
103	フェニトイン	石橋みどり, 他: 医学と薬学 42 (6): 1061, 1999
103	カルバマゼピン	石橋みどり, 他: 医学と薬学 42 (6): 1061, 1999
103	プリミドン	宮本 侃治: 臨床化学 6 (3): 202, 1978
103	バルプロ酸	石橋みどり, 他: 医学と薬学 42 (6): 1061, 1999
103	エトスクシミド	宮本 侃治: 臨床化学 6 (3): 202, 1978
103	トリメタジオン	Wolfgang, S. and Beelen, C.C.M.: 抗けいれん薬, ドラッグモニタリング (広川書店): 100, 1982
103	クロナゼパム	大田 博子, 他: 医薬ジャーナル 24 (11): 92, 1988
103	アセタゾラミド	Sylvia, M.W., et al.: J.Pharm.Sci. 66: 527, 1977
103	スルチアム	Berry, D.J., et al.: J.Chromatogr. 171: 363, 1979
104	ニトラゼパム	Beharrell, G.P., et al.: J.Chromatogr. 70: 45, 1972
104	ジアゼパム	Brodie RR, et al.: Chromatogr 150: 61, 1978
104	クロバザム	Pawel K Kunicki: Journal of Chromatography B 750: 41, 2001
104	ラモトリギン	小峯 幸弘: 沖縄医報 45 (9): 51, 2009
104	ガバペンチン	Forrest G. et al.: Journal of Chromatography B 681: 421, 1996
104	トピラマート	小峯 幸弘: 沖縄医報 45 (9): 51, 2009
104	レベチラセタム	赤松 直樹, 他: Epilepsy 4 (2): 129, 2010
104	炭酸リチウム	高橋 修: 臨床検査 34 (11): 1468, 1990
104	ハロペリドール	Furukori N. Y. et al.: Ther Drug Monit. 26 (3): 336, 2004
104	プロムペリドール	Furukori N. Y. et al.: Ther Drug Monit. 26 (3): 336, 2004
105	サリチル酸	木村 英樹, 他: JJCLA 33 (5): 860, 2008
105	ジギキシン	末森 一恵: Medical Technology 37 (9): 1005, 2009
105	プロパフェノン	Haefeli, E.W., et al.: Clin. Pharmacol. Ther. 48 (3): 245, 1990
105	塩酸ピルジカイニド	上野 和行: Pharma Medica 11 (4): 97, 1993
105	シベンソリン	寺川 雅人, 他: 薬物動態 3: 761, 1988
105	プロカイナムイド	Pincus, M.R. et al.: Clinical Diagnosis and Management by Laboratory Methods, 18: 349, 1991
106	プロプラノロール	Ahnoff, M., et al.: J.Chromatogr 340: 73, 1985
106	キニジン	木村 英樹, 他: JJCLA 33 (5): 860, 2008
106	リドカイン	宮本 侃治: 臨床化学 6 (3): 202, 1978
106	ジソピラミド	西川 隆, 他: 医学と薬学 9 (4): 1213, 1983
106	アプリンジン	高田 充隆, 他: 病院薬学 14 (4): 256, 1988
106	メキシレチン	坂本 伸哉, 他: TDM研究 3 (2): 126, 1986
106	フレカイニド	加藤 林也, 他: 臨床薬理 20 (3): 505, 1989
106	ピルメノール	市川 林, 他: 臨床薬学 11 (4): 903, 1995
106	アミオダロン	Kress, et al.: J Chromatography 417: 456, 1987
106	ペブリジル	山崎 泰志, 他: 臨床薬学 14 (1): 139, 1988
107	アセトアミノフェン	木村 英樹, 他: JJCLA 33 (5): 860, 2008
107	メトトレキサート	宮崎 弘和, 他: Therapeutic Reserch 2: 113, 1985
107	イマチニブ	Picard S. et al.: Blood 109 (8): 3496, 2007
107	ゲンタマイシン	Jolley, M.E., et al.: Clin. Chem. 27: 1190, 1981
107	トブラマイシン	木村 英樹, 他: JJCLA 33 (5): 860, 2008
107	アミカシン	木村 英樹, 他: JJCLA 33 (5): 860, 2008
107	アルベカシン	久保 博明, 他: 医学と薬学 19 (6): 1454, 1988
108	バンコマイシン	キッド添付説明書
108	テイコブラニン	諸岡 美里, 他: JJCLA 38 (1): 79, 2013
108	シクロスボリン	向井田麻由, 他: 医学と薬学 62 (4): 767, 2009
108	タクロリムス	向井田麻由, 他: 医学と薬学 60 (1): 133, 2008
108	エベロリムス	深見 春恵, 他: 医学と薬学 70 (2): 317-321, 2013
108	ミコフェノール酸	細坪 秀夫, 他: 今日の移植 14 (4): 485 ~ 491, 2001
108	テオフィリン (気管支拡張剤)	石橋みどり, 他: 医学と薬学 42 (6): 1061, 1999
111	比重	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26 (3): 217, 2003
111	PH (尿)	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26 (3): 217, 2003
111	蛋白定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26 (3): 217, 2003
111	糖定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26 (3): 217, 2003
111	ウロビリノーゲン定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26 (3): 217, 2003
111	ビリルビン定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26 (3): 217, 2003
111	ケトン体 (アセトン体) 定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26 (3): 217, 2003
111	潜血反応	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26 (3): 217, 2003
111	白血球定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26 (3): 217, 2003
111	亜硝酸塩	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26 (3): 217, 2003
111	蛋白定量	安原 正善, 他: 臨床検査機器・試薬 8 (5): 1175, 1985

# 検査方法参考文献一覽

頁	項目	文献名
111	VMA定性	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:175,1998
111	ペンスジョーンズ蛋白定性	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:158,1998
111	コロボルフィリン定性	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:178,1998
112	糖定量	松岡 健平:臨床検査MOOK 18:1,1984
112	浸透圧	長浜 大輔:検査と技術 14(9):961,1986
112	NAG	渡辺 信子,他:JJCLA 20(2):134,1995
112	線維素分解産物(尿中FDP)	堀内 伸純,他:臨床検査機器・試薬 14:267,1991
112	$\delta$ -アミノレブリン酸( $\delta$ -ALA)	岡山 明:労働衛生管理 3(4):45,1992
112	ポルフィリン系色素定量	Mauzerall,D., et al.:Biol.Chem. 219:435,1956
112	ウロポルフィリン定量	近藤 雅雄:日本臨床 53(6):65,1995
112	コロボルフィリン定量	近藤 雅雄:日本臨床 53(6):65,1995
112	尿中アルブミン定量	長原三輝雄,他:JJCLA 17:70,1992
113	尿中IV型コラーゲン	小幡 賢一,他:臨床検査機器・試薬 18(3):439,1995
113	尿中トランスフェリン	今野 稔:医学と薬学 32(3):555,1994
113	L-FABP(L型脂質結合蛋白)	KAMUJO A et al.:J LAB CLIN MED 143(1):23,2004
113	尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)	久野 豊,他:医学検査 48(7):1116,1999
113	尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)(染色した場合)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 32:210,2005
113	虫卵検査 虫卵(塗抹)	吉田 幸雄:図説人体寄生虫学 南山堂 第8版 284,2011
113	虫卵検査 虫卵(集卵)(浮遊法)	吉田 幸雄:図説人体寄生虫学 南山堂 第8版 284,2011
113	虫卵検査 虫卵(集卵)(沈殿法)	吉田 幸雄:図説人体寄生虫学 南山堂 第8版 284,2011
114	ヘモグロビン(潜血LA)定性・定量	竹下 俊隆,他:大腸肛門誌 38:780,1985
114	ヘモグロビン(潜血金コロイド)定性・定量	山懸 文夫,他:医療と検査機器・試薬 29(2):121,2006
114	ヘモグロビン・トランスフェリン(Hb・Tf)定性・定量	山懸 文夫,他:医療と検査機器・試薬 29(2):121,2006
115	精液一般検査	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 29:656,1983
115	オリゴクローナルバンド〔等電点電気泳動法〕	藤井 英治,他:生物物理化学 28(4):261,1984
115	ミエリンバイシク蛋白(MBP)	Ohta M. et al.:Clin Chem 46(9):1326,2000
116	比重(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 32:254,2005
116	pH(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 32:662,2005
116	ノンネアペルト反応(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:251,1998
116	パンディ反応(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:252,1998
116	細胞数(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:245,1998
116	トリプトファン反応(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:256,1998
116	細胞種類(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:247,1998
116	蛋白定量(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:249,1998
116	糖定量(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 32:260,2005
116	ナトリウム(Na)(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 30:228,1993
116	クロール(Cl)(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:255,1998
116	カリウム(K)(髄液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 30:228,1993
117	ムチン塊形成試験(関節液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:235,1998
117	ルンバグ反応(穿刺液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:228,1998
117	リバルタ反応(穿刺液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:227,1998
117	比重(穿刺液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 32:239,2005
117	pH(穿刺液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 32:662,2005
117	沈渣(穿刺液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:191,1998
117	細胞種類(穿刺液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:229,1998
117	細胞数(穿刺液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:245,1998
118	蛋白定量(穿刺液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:228,1998
118	糖定量(穿刺液)	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:228,1998
118	関節液結晶	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:235,1998
118	有核細胞数	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:293,1998
118	巨核細胞数	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 31:293,1998
118	鼻汁中好酸球	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 30:209,1993
118	喀痰中好酸球	金井 泉,他:臨床検査法提要 金原出版 30:209,1993
119	癌胎児性フィブロネクチン定性(頭蓋腔分泌液)	一條 元彦,他:産婦人科治療 67(2):212,1993
119	顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)	北村 光,他:臨床検査機器・試薬 21(4):357,1998
121	G-band法(先天性疾患)	島田 裕充:臨床病理 特集80:76,1989
121	Prader-Willi症候群(15番染色体 SNRPN)	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90,1997
121	Angelman症候群(15番染色体 D15S10)	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90,1997
121	22q11.2欠失症候群(22番染色体 TUPLE1)	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90,1997
122	G-band法(血液疾患)(骨髓液)	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):39,1997
122	G-band法(血液疾患)(全血)	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):39,1997
122	G-band法(血液疾患)(その他)	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):39,1997
122	BCR-ABL1 t(9;22)転座(フィラデルフィア染色体)	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90,1997
122	PML-RARA t(15;17)転座	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90,1997
122	RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8) t(8;21)転座	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90,1997
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgG	中川 俊郎:Medical Technology 10:771,1982
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgA	中川 俊郎:Medical Technology 10:771,1982
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgM	中川 俊郎:Medical Technology 10:771,1982
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgD	中川 俊郎:Medical Technology 10:771,1982
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) K(カッパー)	中川 俊郎:Medical Technology 10:771,1982
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) L(ラムダ)	中川 俊郎:Medical Technology 10:771,1982
123	T細胞・B細胞百分率(CD3,CD19)	倉持 恒雄:移植 16:8,1981
123	T細胞・B細胞百分率(子項目:T細胞百分率)	倉持 恒雄:移植 16:8,1981
123	T細胞・B細胞百分率(子項目:B細胞百分率)	倉持 恒雄:移植 16:8,1981
123	T細胞サブセット(CD4,CD8)	馬場 眞澄:Medical Technology 21(7):550,1993
123	T細胞サブセット(子項目:CD4)	馬場 眞澄:Medical Technology 21(7):550,1993
123	T細胞サブセット(子項目:CD8)	馬場 眞澄:Medical Technology 21(7):550,1993
123	T細胞サブセット(子項目:CD4/CD8)	馬場 眞澄:Medical Technology 21(7):550,1993
124	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	馬場 眞澄:Medical Technology 21(7):550,1993
125	Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	馬場 眞澄:Medical Technology 21(7):550,1993
126	CCR4タンパク[FCM]	Ishida T, et al.:Clin Cancer Research 9:3625,2003
126	造血器悪性腫瘍細胞検査 7抗体セット	湊 啓輔:臨床免疫 18:163,1986
126	造血器悪性腫瘍細胞検査 白血球・リンパ球解析検査(LLA) CD45ゲートング	Browits MJ, et al.:Am J Clin Pathol 100:534,1993
126	造血器悪性腫瘍細胞検査 悪性リンパ球解析検査(MLA) CD45ゲートング	Browits MJ, et al.:Am J Clin Pathol 100:534,1993
127	MLC(リンパ球混合培養試験)	Brain,B., et al.:Blood 23:108,1964
127	HLA-ABCローカス(血清対応型タイプング)	十字 猛夫:日本臨床 42:328,1984
127	HLA-DRローカス(血清対応型タイプング)	佐田 正晴,他:今日の移植 7 Suppl:71,1994
127	HLA-A(DNAタイプング)	石川 善英:MHC 5(2):96,1998
127	HLA-B(DNAタイプング)	石川 善英:MHC 5(2):96,1998
127	HLA-C(DNAタイプング)	石川 善英:MHC 5(2):96,1998
127	HLA-DPB1(DNAタイプング)	成瀬 妙子,他:MHC 5(2):101,1998
127	HLA-DRB1(DNAタイプング)	成瀬 妙子,他:MHC 5(2):101,1998
127	HLA-DQB1(DNAタイプング)	成瀬 妙子,他:MHC 5(2):101,1998
128	リンパ球幼若化試験(PHA)	福島啓太郎,他:Medical Technology 21(7):558,1993
128	リンパ球幼若化試験(Con-A)	福島啓太郎,他:Medical Technology 21(7):558,1993
128	薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	中島 一格:Medical Technology 21(7):722,1993
128	NK細胞活性	康 浩一,他:Medical Technology 21(7) 574,1993
129	EGFR遺伝子変異解析(血漿)	Weber B, et al. BMC Cancer 14:294,2014
130	EGFR遺伝子変異解析(リアルタイムPCR法)	林 海美子,他:検査と技術 42(5):504,2014

頁	項目	文献名
130	RAS/BRAF 変異解析	T.Yoshino et al. / EBioMedicine2 (2015) 317 - 323
131	マイクロサテライト不安定性検査 (HNPCC・リンチ症候群)	Buhard O, et al. : J Clin Oncol 24 : 241, 2006
131	マイクロサテライト不安定性 (MSI) 検査 (CDX)	Buhard O, et al. : J Clin Oncol 24 : 241, 2006
132	UGT1A1 遺伝子多型解析	Shun-ichi Suzuki, et al. : Sensors 2012, 12, 16614 - 16627
133	細菌顕微鏡検査 一般細菌	永田 邦昭: 感染症診断に役立つグラム染色 日水製薬株式会社 2006
133	細菌顕微鏡検査 クリプトコッカス	永田 邦昭: 感染症診断に役立つグラム染色 日水製薬株式会社 2006
133	細菌顕微鏡検査 真菌	永田 邦昭: 感染症診断に役立つグラム染色 日水製薬株式会社 2006
133	細菌顕微鏡検査 疥癬虫	永田 邦昭: 感染症診断に役立つグラム染色 日水製薬株式会社 2006
133	嫌気培養	小栗 豊子: 臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
134	MRSA培養	小栗 豊子: 臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
135	ヘリコバクター・ピロリ培養	小栗 豊子: 臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
136	大腸菌血清型別	小栗 豊子: 臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
136	大腸菌ベロトキシン [RPLA]	小栗 豊子: 臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
136	大腸菌ベロトキシン [ELISA]	小栗 豊子: 臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
136	クロストリジオイデス・デフィシル抗原 (トキシンA・B)	小栗 豊子: 臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
138	抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色 (集菌塗抹法)	日本結核・非結核性抗酸菌症学会: 抗酸菌検査ガイド 2020 南江堂 2020
138	抗酸菌分離培養検査 2	日本結核・非結核性抗酸菌症学会: 抗酸菌検査ガイド 2020 南江堂 2020
138	抗酸菌分離培養検査 1	日本結核・非結核性抗酸菌症学会: 抗酸菌検査ガイド 2020 南江堂 2020
139	結核菌群抗原定性	日本結核・非結核性抗酸菌症学会: 抗酸菌検査ガイド 2020 南江堂 2020
139	抗酸菌核酸同定 (質量分析法)	日本結核・非結核性抗酸菌症学会: 抗酸菌検査ガイド 2020 南江堂 2020
139	抗酸菌薬剤感受性検査	日本結核・非結核性抗酸菌症学会: 抗酸菌検査ガイド 2020 南江堂 2020
152	婦人科材料細胞診	井上 良夫: 細胞診とその技術 医歯薬出版, 1981
152	その他一般材料細胞診	井上 良夫: 細胞診とその技術 医歯薬出版, 1981
152	病理組織顕微鏡検査	佐野 豊: 細胞学検査法 南山堂, 1976
154	エストロゲンレセプター	野村 雍夫: ホルモンと臨床 31 : 1191, 1983
154	プログステロンレセプター	中尾 誠, 他: ホルモンと臨床 36 : 189, 1988
155	HER2/neuタンパク	谷 洋一: Pharma Medica 18 (8) : 87, 2000
155	EGFRタンパク	キット説明書
156	胃癌・大腸癌HER2遺伝子 (FISH)	D. L. Persons, et al. : Ann Clin Lab Sci 30 (1) : 41~48, 2000.
157	脳梗塞リスク評価 (A6C)	Madoka Yoshida, et al. : Atherosclerosis 203 : 557, 2009
160	抗ランゲルハンス島細胞抗体 (ICA)	桜美 武彦: 免疫と疾患 4 : 21, 1982
162	結核菌 Nested PCR	T. Takahashi NEUROLOGY 64 May (2of 2) 2005 1789









# 取得認定類

## 医療関連サービスマーク



認定有効期限—平成 年 月

検体検査

財医療関連サービス振興会

当社は平成7年2月1日に財団法人医療関連サービス振興会の衛生検査所業務に係る医療関連サービスマーク認定書を取得いたしました。



当社保健科学グループ西日本ラボは2005年9月5日に臨床検査室の国際標準規格「ISO15189」を国内で初めて認定取得いたしました。(旧社名での認定証)

医療関連サービスマーク認定  
ISO 15189 認定  
ISO 27001 認証  
プライバシーマーク使用許諾

認定番号 E(14)-2110260209  
認定番号 RML00050  
登録証番号 JQA-IM1345  
登録番号 第14300014(09)号

## 登録衛生検査所一覧

### 保健科学研究所

衛生検査所名称	業務内容	所在地	連絡先	登録番号	医療関連サービスマーク認定
保健科学 総合研究所	(清・血・寄・生)	〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町 106 番地	045-333-1661	神奈川県第 7 号	E(12)-1802140111
保健科学 第 2 ラボラトリー	(微・清)	〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町 56	045-333-1661	神奈川県第 62 号	E(12)-1810140343
保健科学 第 3 ラボラトリー	(微・清・血・病・生)	〒240-0003 横浜市保土ヶ谷区天王町 2-44-42	045-337-1748	神奈川県第 75 号	
保健科学 北見ラボラトリー	(清・血・生)	〒090-0817 北見市常盤町 3-4-15	0157-69-3881	北海道第 113 号	
保健科学 札幌ラボラトリー	(清・血・生)	〒065-0022 札幌市東区北 22 条東 7-1-25	011-704-3131	札幌医第 4 号	
保健科学 釧路ラボラトリー	(清・血・生)	〒085-0821 釧路市鶴ヶ岱 2 丁目 2 番 10 号 メディカルモール シロアム 2F	0154-43-1191	北海道第 121 号	
保健科学 酒田ラボラトリー	(清・血・生)	〒998-0841 酒田市松原南 6 番 5	0234-24-2961	山形県第 2 号	
保健科学 湯沢ラボラトリー	(清・血・生)	〒012-0804 湯沢市杉沢字森道下 89-11	0183-78-0183	秋田県第 30 号	
保健科学 仙台ラボラトリー	(微・清・血・寄・生)	〒983-0034 仙台市宮城野区扇町 1 丁目 1 番 6 号	022-236-9345	宮城県第 26 号	E(12)-1802040046
保健科学 新潟ラボラトリー	(微・清・血・寄・生)	〒950-0054 新潟市東区秋葉 1 丁目 6 番 31 号	025-275-0161	新市衛第 17 号	
保健科学 長岡ラボラトリー	(清・血・生)	〒940-2105 長岡市緑町 1 丁目 38-1	0258-27-5633	新潟県第 73 号	
保健科学 松戸ラボラトリー	(清・血・生)	〒270-0034 松戸市新松戸 2-8 石井ビル 3F	047-374-5770	千葉県第 55 号	
保健科学 東日本総合ラボラトリー	(清・血・生・微・寄・病)	〒365-8585 鴻巣市天神 3-673	048-543-4000	第 86 号	
保健科学 千葉ラボラトリー	(清・血・生)	〒266-0011 千葉市緑区鎌取町 2813-13	043-263-3311	千保第 14 号	
保健科学 栃木ラボラトリー	(清・血・生)	〒320-0851 宇都宮市鶴田町 1476-1	028-647-1781	宇 7	
保健科学 東京ラボラトリー	(清・血・生)	〒160-0001 新宿区片町 3 番 3 号	03-3357-3611	東京都第 58 号	E(13)-1902130089
保健科学 県央ラボラトリー	(清・血・生)	〒252-0004 座間市東原 2-14-3	046-298-5544	神奈川県第 91 号	
保健科学 三島ラボラトリー	(清・血・生)	〒411-0917 駿東郡清水町徳倉 999-1	055-932-8007	東保登録第 16 号	
保健科学 静岡ラボラトリー	(清・血・病・生)	〒422-8021 静岡市駿河区小鹿 2-39-15	054-281-5011	第 23-2 号	
保健科学 富山ラボラトリー	(清・血・生)	〒939-8211 富山市二口町 4-3-1 日本健康倶楽部北陸支部 1F	076-491-7611	富第 1 号	
保健科学 浜松ラボラトリー	(清分)	〒430-0806 浜松市中区木戸町 6-17-1F	053-411-1861 053-464-3325	浜松市指令健第 4-12 号	
保健科学 名古屋ラボラトリー	(清・血・病・生)	〒451-0051 名古屋市中区則武新町 2-20-17	052-582-3201	愛知県第 87 号	
保健科学 大阪ラボラトリー	(清・血・病・生)	〒561-0807 豊中市原田中 1 丁目 2-3	06-6843-5622	大阪府第 150 号	
保健科学 西日本総合ラボラトリー	(微・清・血・寄・生)	〒612-8486 京都市伏見区羽束師古川町 328 番地	075-933-6060	第 1044 号	E(14)-2110260209
保健科学 京都ラボラトリー	(清・血・生)	〒600-8216 京都市下京区木津聖橋通新町西入東堀小路町 606-3-2 三旺京都駅前ビル2階	075-353-1761	第 1028 号	
保健科学 京都市南ラボラトリー	(清・血・生)	〒601-1434 京都市伏見区石田森東町 25-1	075-575-2102	第 1032 号	
保健科学 大阪南ラボラトリー	(清・血・生)	〒541-0011 大阪府平野区長吉出戸 8-12-24	06-6790-9770	第 22 号	
保健科学 神戸ラボラトリー	(清・血・生)	〒650-0022 神戸市中央区元町通り 2 丁目 8-14 オルトンシアビル 5F	078-391-9980	第 4-4 号	
保健科学 和田山ラボラトリー	(清・血・生)	〒669-5202 朝来市和田山町東谷 385	079-672-5331	但馬(朝健)第 1539 号	
保健科学 広島ラボラトリー	(清・血・生)	〒730-0805 広島市中区十日市町 2 丁目 2-34 アーバンライフ高田 2F	082-233-9321	広島県第 30343 号	
保健科学 北九州ラボラトリー	(清分)	〒800-0228 北九州市小倉南区長野 1-7-3 鶴田建設ビル 4F	093-472-3521	北九第 19 号	
保健科学 沖縄ラボラトリー	(清・血・生)	〒901-0241 豊見城市豊見城 466-3	098-856-6451	沖縄県第 34 号	

[注] (微:微生物学的検査 清:血清学的検査 血:血液学的検査 病:病理学的検査 寄:寄生虫学的検査 生:生化学的検査 清分:血清分離)



# 保健科学西日本

検査に関するお問合せは、045-333-1661（大代表）までご連絡ください。  
月～土曜日 9：00～18：00（祝日を除く）

## 保健科学グループ

- 保健科学研究所 〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町 106 番地 TEL.045-333-1661（大代表）
- 保健科学東日本 〒365-8585 埼玉県鴻巣市天神 3-673 TEL.048-543-4000
- 保健科学西日本 〒612-8486 京都府京都市伏見区羽束師古川町 328 TEL.075-933-6060

## 集配センター

札幌集配センター 〒065-0022 北海道札幌市東区北22条東7-1-25	011-704-3131	新宿集配センター 〒160-0001 東京都新宿区片町3-3	03-3357-3611
旭川集配センター 〒078-8231 北海道旭川市豊岡一条2-1-16 桜井ビル3F	0166-31-6231	城北集配センター 〒175-0092 東京都板橋区赤塚3-18-1-101	03-5997-1221
函館集配センター 〒041-0841 北海道函館市日吉町1-19-6	0138-30-6800	三鷹集配センター 〒182-0011 東京都調布市深大寺北町7-40-4 ルミエール深大寺1F	0424-29-3071
苫小牧集配センター 〒053-0854 北海道苫小牧市啓北町2-11-9	0144-71-4211	北千住集配センター 〒120-0036 東京都足立区千住仲町40-12	03-3881-9201
帯広集配センター 〒080-0011 北海道帯広市西一条南11-1ケアビル1F	0155-28-6681	錦糸町集配センター 〒135-0001 東京都江東区毛利1-21-2 フォディアビル3階	03-5638-7580
釧路集配センター 〒085-0821 北海道釧路市鶴ヶ岱2-2-10 メディカルモルシピアム2F	0154-43-1191	八王子集配センター 〒192-0075 東京都八王子市南新町25 内田ビル1F	042-626-2203
北見集配センター 〒090-0817 北海道北見市常盤町3-4-15	0157-69-3881	甲府集配センター 〒400-0053 山梨県甲府市大里町2829-4 コーナソ第1ハイツ2F	055-241-7750
青森集配センター 〒030-0965 青森県青森市松森2-11-15 2F	017-743-3095	横浜集配センター 〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町47-4	045-337-2001
八戸集配センター 〒031-0812 青森県八戸市大字湊町字縄張32-2	0178-38-5850	横浜港北集配センター 〒224-0042 神奈川県横浜市都筑区大鰐町883-1	045-945-7113
盛岡集配センター 〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-2-76 盛岡グニツクモルセンタービル2号館2F	019-635-9971	横浜港南集配センター 〒233-0002 神奈川県横浜市港南区上大岡西1-3-25 第7オーガルビル4階	045-337-2001
釜石集配センター 〒026-0034 岩手県釜石市中妻町1-18-3 2F	0193-25-2104	座間集配センター 〒252-0004 神奈川県座間市東原2-14-3	046-298-5544
一関集配センター 〒021-0884 岩手県一関市大手町3-19	0191-21-2675	湘南集配センター 〒251-0042 神奈川県藤沢市辻堂新町1-1-15 山上第2ビル5F	0466-33-6171
秋田集配センター 〒011-0901 秋田県秋田市寺内イサノ125-1 1階	018-883-1877	三島集配センター 〒411-0917 静岡県駿東郡清水町徳倉999-1 1F	055-932-8007
湯沢集配センター 〒012-0804 秋田県湯沢市杉沢字森道下89-11	0183-78-0183	下田集配センター 〒415-0036 静岡県下田市西本郷2-6-3	0558-23-2138
酒田集配センター 〒998-0841 山形県酒田市松原南6-5	0234-24-2961	富士集配センター 〒416-0931 静岡県富士市蓼原85-3 ソフィアビル2F	0545-66-3770
山形集配センター 〒990-2433 山形県山形市鳥居ケ丘27-2 2F	023-642-8471	静岡集配センター 〒422-8021 静岡県静岡市駿河区小鹿2-39-15	054-281-5011
古川集配センター 〒989-6117 宮城県大崎市古川旭5-3-3 STビルB棟2F南	0229-23-0611	浜松集配センター 〒430-0806 静岡県浜松市中区木戸町6-17	053-411-1861
仙台集配センター 〒983-0034 宮城県仙台市宮城野区扇町1-1-6	022-236-9345	豊橋集配センター 〒441-8013 愛知県豊橋市花田一番町170 和興オフィスビル2F	0532-31-4571
郡山集配センター 〒963-8021 福島県郡山市桜木2-2-1 イムーブルSAKURAGI 2F	024-923-2351	名古屋集配センター 〒451-0051 愛知県名古屋西区則武新町2-20-17 3F	052-582-3201
いわき集配センター 〒970-1152 福島県いわき市好間町中好間字鍛冶内16 高橋テナトビル2F-東号	0246-47-0175	京都集配センター 〒604-8852 京都府京都市中京区壬生東大竹町38番地	075-822-4123
東北集配センター 〒365-8585 埼玉県鴻巣市天神3-673	048-543-2111	京都南集配センター 〒612-8486 京都府京都市伏見区羽束師古川町328番地	075-921-6969
大宮集配センター 〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町2-109-3 リラ第5ビル2F	048-662-6116	舞鶴集配センター 〒624-0841 京都府舞鶴市引土234番地 坂根ビル2F	0773-76-7466
所沢集配センター 〒359-1102 埼玉県所沢市岩岡町281-58	04-2923-7272	滋賀集配センター 〒520-2144 滋賀県大津市大萱1-3-13 アメニティー瀬田2F	077-547-3491
小山集配センター 〒323-0034 栃木県小山市神鳥谷4-9-49 協和マンション2F	0285-22-8891	奈良集配センター 〒634-0008 奈良県橿原市十市町846-2	0744-24-6105
宇都宮集配センター 〒320-0851 栃木県宇都宮市鶴岡町1476-1	028-647-1781	大阪集配センター 〒561-0807 大阪府豊中市原田中1-2-3	06-4865-3381
前橋集配センター 〒371-0013 群馬県前橋市西片貝町4-22-9	027-223-7467	大阪南集配センター 〒547-0011 大阪府大阪市平野区長吉出戸8-12-24	06-6790-9770
水戸集配センター 〒310-0851 茨城県水戸市千波町455-1 市毛ビル2F	029-241-7123	神戸集配センター 〒653-0037 兵庫県神戸市長田区大橋町4-4-17 ヒュースアビル3F	078-691-7511
土浦集配センター 〒300-0832 茨城県土浦市桜ヶ丘町11-3	029-823-8739	姫路集配センター 〒672-8048 兵庫県姫路市飾磨区三宅3-27 第二圭秀舎ビル302	079-243-2022
新潟集配センター 〒950-0054 新潟県新潟市東区秋葉1-6-31	025-275-0161	西脇集配センター 〒677-0052 兵庫県西脇市和田町円遠688-89	0795-22-1984
長岡集配センター 〒940-2105 新潟県長岡市緑町1-38-1	0258-27-5633	和田山集配センター 〒669-5202 兵庫県朝来市和田山町東谷385	079-672-5331
六日町集配センター 〒949-7115 新潟県南魚沼市泉新田199-2	025-775-2108	鳥取集配センター 〒680-0062 鳥取県鳥取市吉方町1-120 1F	0857-21-0381
上越集配センター 〒942-0004 新潟県上越市西本町3-3-5 土田第二ビル103号室	026-239-7511	徳島集配センター 〒770-0855 徳島県徳島市新蔵町1-10 藤井ビル2F	088-655-3801
長野集配センター 〒381-0034 長野県長野市高田中村458-15 伊藤ビル2F	026-239-7511	広島集配センター 〒730-0805 広島県広島市中区十日市町2-2-34 アーバンライフ高田2F	082-233-9321
松本集配センター 〒390-0851 長野県松本市島内3505 インパリアルプラザ松島203	0263-40-7920	山口集配センター 〒755-0241 山口県宇部市東岐波1051-1 コーポたまもと101	0836-59-1201
諏訪集配センター 〒392-0015 長野県諏訪市市中洲中金子3015-1	0266-52-5102	松山集配センター 〒791-8016 愛媛県松山市久万ノ台111 忽那ビル2F	089-926-7900
飯田集配センター 〒395-0807 長野県飯田市鼎切石3990-1	0265-24-9510	北九州集配センター 〒800-0228 福岡県北九州市小倉南区長野1-7-3 鶴田建設ビル4F	093-472-3521
富山集配センター 〒939-8211 富山県富山市二口町4-3-1 2F	076-491-7611	福岡集配センター 〒812-0015 福岡県福岡市博多区山王2-14-34	092-452-0851
金沢集配センター 〒920-0368 石川県金沢市神野1-40 神野アイワビル203	076-269-2525	熊本集配センター 〒862-0920 熊本県熊本市東区月出1-4-69	096-386-5351
千葉集配センター 〒266-0011 千葉県千葉市緑区鎌取町2813-13	043-263-3311	大分集配センター 〒870-0952 大分県大分市下郡北3-12-6 ライフ山一101	097-554-8272
松戸集配センター 〒270-0034 千葉県松戸市新松戸2-8 石井ビル3F	047-374-5770	宮崎集配センター 〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納乙137-2 ゆとり94 101	0985-64-3172
世田谷集配センター 〒154-0015 東京都世田谷区桜新町2-10-17 日平会館201	03-5451-3831	沖縄集配センター 〒901-0241 沖縄県豊見城市豊見城466-3	098-856-6451

## 2023-2024 総合検査案内

2023 年度版 第 1 刷  
第 1 刷の内容は、2023 年 4 月 1 日現在の内容です。

最新情報につきましては、当社、ホームページをご覧ください。  
<http://www.hk-wj.co.jp/>